

戰車障礙物
 最小限ニ止メ且特ニ意ヲ用ヒテ遮蔽スルヲ要ス
 第二百九十一 戰車ニ對シテハ勉メテ天然ノ障礙ヲ利用シ要スレハ人工ニ依リ
 其強度ヲ增加スヘシ水流、地盤堅固ナラサル濕地及巨木ヨリ成ル森林等ハ最
 モ有効ナリ又急斜面ヨリ成ル起伏地及多數ノ彈痕アル土地ハ其行動ヲ遲緩セ
 シムルコトヲ得ヘシ
 小流ニハ氾濫ヲ設ケ窪地ハ之ヲ掘擴シ爲シ得レハ之ニ水ヲ導キ障礙ノ度ヲ増
 加スルヲ可トス
戰車障礙設置要領
 第二百九十一 障礙物ニ依リ戰車ヲ絕對ニ阻止スルニハ著大ノ作業力ヲ要シ
 且却テ敵ニ利用セラルル虞少シトセス故ニ通常戰車ノ行動ヲ制限又ハ遲緩セ
 シメ此機ニ乘シ射撃ニ依リ又ハ爆藥ヲ投シテ之ヲ破壞シ或ハ特殊ノ障礙物ヲ
 設ケテ戰車ト之ニ續行スル歩兵トヲ分離セシムルヲ利アリトス之カ爲陷穿、
 地雷及壕内ニ設ケル障礙物等ヲ用ヒ時トシテ壕ヲ掘開スルコトアリ
 戰車ヲ阻止スル爲地雷ヲ用フルトキハ通常觸發裝置ヨリ成ル數箇ノ地雷群ヲ
 梯次ニ配置シ各地雷ノ間隔ハ戰車ヲシテ之ヲ濾過シ得サシムル如ク定ムルヲ
 要ス
地雷地域
 第二百九十二 地雷ヲ埋沒セル地域ハ我方軍隊及斥候等ノ通過ニ際シ危險ナ
 カラシムル爲敵ニ察知セラレサル如ク標示シ且軍隊ニ告知シ置クヲ要ス
障礙物設置順序
 第二百九十三 障礙物設置ノ順序ハ狀況ニ依リ異ナリト雖通常重要ナル部分
 ヨリ逐次他ニ及ス如クシ特ニ陣地前ノモノハ先ツ主要ナル側防火ニ應スルモ
 ノヲ構築スルヲ要ス然レトモ時間ニ餘裕アルトキハ作業ノ便否ヲ顧慮シ適宜

障礙物補習
 第二百九十四 障礙物ハ敵ノ破壞ニ對シ直ニ之ヲ補修センカ爲移動性障礙物
 等所要ノ材料ヲ豫メ準備シ置クヲ要ス
掩蔽ノ必要
 第二百九十五 陣地ニハ待機間戰鬪力ヲ保持シ得ルノミナラス戰鬪間ニ於テ
 モ人員及器材ヲ掩護スル爲掩蔽ノ設備ヲ必要トス優勢ナル砲兵ニ對セサルヘ
 カラサル場合ニ在リテ特ニ然リトス
掩蔽ノ方
 第二百九十六 掩蔽ノ爲ニハ常ニ位置ノ選定ニ注意シ且掩體ヲ設ケ或ハ掩蔽
 部ヲ構築スルモノトス
法
 第二百九十七 各種火器ノ射撃位置ニ掩蓋ヲ構築スル場合之ニ十分ナル抗力
 ナシトスルコト能ハサルトキハ寧ロ砲彈ノ彈子、破片ニ杭シ得ル輕易ナル掩蓋
 ナシトスルコト能ハサルトス
輕易ナル掩蓋
 第二百九十八 掩蔽部ハ爲シ得レハ守兵ノ全員及兵器、彈藥ヲ收容シ得ル如
 ク構築スルヲ可トス
掩蔽部ノ構造
 第二百九十九 掩蔽部ノ構造ハ其目的、位置、構築時間ノ多少竝材料ノ種類
 及多寡等ニ依リ之ヲ決定スルモノニシテ特ニ重要ナルモノハ其構築ヲ強固ナ
 ラシムヘシト雖其他ハ一般ニ少數ニシテ強固ナルモノヲ構築スルヨリモ寧ロ
 多數ノ簡易ナルモノヲ構築シ敵彈ノ危害ヲ制限スルヲ可トス

掩蔽部ノ大サ
 第三百 掩蔽部ノ配置及大サハ軍隊ノ配備ニ適應セシメ且掩蔽及構築ノ難易ヲ願慮シテ決定スルモノニシテ敵火ノ損害ヲ制限セシムルカ爲成ルヘク之ヲ分置スルヲ可トシ已ムヲ得サル場合ニ在リテモ少クモ一砲彈ノ爲二箇以上ノ掩蔽部ヲ同時ニ破壊セラレサル如ク離隔セシムルヲ要ス又其大サハ數人用ヨリ一分隊乃至一小隊用ニ及フモノニシテ通常第一線ニ近キ部分ニハ小ナルモノヲ用ヒ後方ニ至ルニ從ヒ比較的大ナルモノヲ構築シ得ルモノトス

第三百一 掩蔽部内ニ在ル人員ハ必要ニ際シ迅速ニ戦闘位置ニ就キ得サルヘカラス故ニ掩蔽部ハ戰鬥位置ノ近傍ニ設ケ且警報ノ傳達ヲ迅速、確實ナラシムヘキ處置ヲ講スルコト緊要ナリ之カ爲第一線ニ近キ部分ニ在リテハ淺キ掩蔽部ヲ實用シ漸次後方ニ至ルニ從ヒ深キ掩蔽部ヲ構築スルヲ得ヘシト雖深ク且大ナル掩蔽部ニ在リテハ特ニ進出ノ設備ヲ十分ナラシメサルヘカラス

第三百二 掩蔽部ハ其所在ヲ敵ニ識別セラレサルコト緊要ナリ之カ爲特ニ位置ノ選定ニ注意シ且其設備ヲ之ニ適應セシムルヲ要ス地稜、斷崖及堤防等ノ後方ニハ掩蔽部構築ノ爲適當ナル位置ヲ發見スルコト多シ

第三百三 掩蔽部ハ其入口ヲ閉塞セラレコトアルヲ願慮シ之カ除去ノ爲土工及木工器具、土囊並照明器材等ヲ準備スルモノトス

第三百四 掩蔽部ニハ敵ノ近接ヲ防止スル爲自衛ノ處置ヲ要スルコトアリ之カ爲ニハ其附近ニ戰鬥位置ヲ準備シ且爲シ得レハ障碍物ヲ設置スルモノトス

偽裝ノ程 第三百五 陣地ハ其全部ヲ秘匿スルコト殆ト不可能ナルモノナリ故ニ普遍ニ

度
 偽裝、遮
 時機
 假裝、遮
 假裝、遮
 部隊
 個々假裝
 數個一體
 假裝、遮
 蔽ノ不適
 切ナル害
 偽工事

之ヲ偽裝セントシテ到ル處不十分ナルヨリモ寧ろ陣地ノ要部及之ニ關聯スル部分ヲ完全ニ偽裝スルニ勉ムルヲ可トス縱ヒ空中偵察ニ對シ十分ナル偽裝ヲ施シ得サル場合ニ在リテモ地上偵察ニ對スル偽裝ハ常ニ之ヲ行フヲ要ス

第三百六 假裝及遮蔽ハ工事完成ニ際シテ爲スノミナラス作業實施中ヨリ常ニ意ヲ用フルヲ要ス

敵ノ空中偵察ニ對シ絶對ニ秘匿スヘキ工事ハ先ツ其位置ニ秘匿ノ處置ヲ施シ次テ其下方ニ於テ作業ヲ實施スルモノトス

第三百七 假裝及遮蔽ハ工事ニ任スル部隊自ラ之ヲ行フヲ通則トス然レトモ重要ナルモノ又ハ困難ナルモノハ特ニ編成セル作業部隊ヲシテ之ニ任セシムルコトアリ

第三百八 陣地ノ各設備ハ之ヲ箇々ニ假裝スヘキヤ或ハ數個ノ設備ヲ一體トシテ假裝スヘキヤハ設備ノ種類、周圍ノ景況及材料ノ狀態等ニ依リ定ムルモノトス

第三百九 假裝及遮蔽ハ其方法適切ナラサルトキハ却テ敵ノ注意ヲ喚起シ敵火ヲ誘致スルノ害アリ故ニ常ニ身ヲ敵ノ位置ニ置キテ考察シ戰術上ノ判斷、觀測者ノ視覺及空中寫眞ニ關スル諸件ヲ基礎トシ其實施ヲ適切ナラシムルコト緊要ナリ之カ爲爲シ得レハ友軍飛行機ト協同スルヲ可トス

第三百十 偽工事ハ敵ヲ欺シテ眞ノ工事ト誤認セシメ得ヘキ位置ヲ選ヒ且之ト眞ノ工事トハ勉メテ敵砲彈ノ同一散飛界内ニ在ラシメサルヲ可トス

偽工事ハ敵手ニ陥リタル場合ニ於テモ我ニ不利ナル影響ヲ及サシメサルコト

ニ注意スヘシ
砲兵及歩兵砲等ニシテ陣地ヲ變換シタル場合ニ在リテハ爲シ得レハ舊陣地ヲ
偽陣地トシテ利用スルヲ可トス

**第二章 山地、森林及住民地ニ於ケル防禦陣地ノ
編成、設備**

山地
山地ニ於ケル陣地ノ編成及設備ハ其廣袤、高低及斜面ノ狀態等
ニ依リ差異アリ

第三百十一 山地ニ於ケル陣地ノ編成及設備ハ其廣袤、高低及斜面ノ狀態等
ニ依リ差異アリ

第三百十二 高地ノ巔頂狹ク斜面急峻ナルトキハ通常縱深アル陣地ヲ設クル
コト困難ナルモ局部ニ於テハ巔頂、山腹或ハ山麓ト相俟ツテ重層射撃ノ設備
ヲ施シ得ルコト多シ

第三百十三 高キ位置ニ射撃或ハ視察設備ヲ設クルトキハ敵ヲ瞰制シ其志氣
ヲ挫折スルニ利アリ然レトモ敵ニ發見セラレ彈巢トナリ易キ虞アルヲ以テ位
置ノ選定ニ注意シ特ニ偽裝ニ意ヲ用ヒ勉メテ敵ノ認識ヲ避クル如ク設備スヘ
シ

第三百十四 山地ニ在リテハ季節ニ依リ霧、靄ヲ生シ我カ視察及射撃ヲ妨害
スルコト少カラス故ニ特ニ視察設備ノ配置、火器標定及障礙ノ設備ニ注意ス
ルヲ要ス

第三百十五 高地ハ死角ヲ生シ易キヲ以テ特ニ側防ノ設備ニ注意スヘシ谷地
又ハ敵方ニ反對ナル斜面等ニ於テハ前方稜線ニ掩蔽セラレテ比隣陣地ノ前方

**山地ノ交
通**
斜面ヲ有数ニ射撃シ得ル位置ヲ發見スルコト多シ
第三百十六 山地ニ於テハ交通設備ヲ要スルコト多シ然レトモ之カ設備ニ方
リ敵方ニ反對ナル斜面、谷地等ヲ利用スルトキハ其遮蔽比較的容易ナルモノ
トス

敵方ニ面スル高地ノ斜面ニ設クル交通壕ハ遮蔽困難ナルヲ以テ特ニ重要ナル
モノハ之ニ偽裝ヲ施シ爲シ得レハ暗路ト爲スヲ可トス

山地ニ在リテハ交通、連絡ノ爲索道ヲ用フルコトアリ

**森林ノ設
備**
第三百十七 森林ニ於ケル陣地ノ編成及設備ハ其疎密、形狀及大小等ニ依リ
差異アリ

第三百十八 森林ハ一般ニ毒瓦斯ヲ滯留セシムル特性ヲ有ス故ニ之ヲ利用ス
ルニ方リテハ遮蔽ヲ害セサルヲ度トシ下枝、雜草等ヲ刈除シ通風ヲ良好ナラ
シムル等ノ手段ヲ講スルヲ必要トス

第三百十九 林縁ノ形狀ハ敵ニ陣地ノ編成ヲ判斷スル資料ヲ與ヘ局部ニ於テ
ハ自ラ敵ノ側射ヲ被ルコトアルヲ以テ森林ノ縁端ニ防禦主線ヲ設クル場合ニ
在リテハ徒ラニ林縁ノミニ固著スルコトナキニ注意スヘシ

第三百二十 森林内ハ交通不便ナルヲ常トス故ニ勉メテ交通路ヲ補修又ハ新
設スヘシ然レトモ不要道路ハ却テ之ヲ閉塞スルヲ要スルコトアリ

第三百二十一 林縁及森林内ニ諸設備ヲ行フニ方リ良好ナル遮蔽ヲ得ル場合
ニ在リテモ單ニ之ノミニ依頼シ掩護ノ設備ヲ忽セニスルカ如キコトナキヲ要

林外ニ陣地ヲ設ケル場合ニ在リテハ森林ニ對スル敵ノ砲撃等ノ影響ヲ蒙ラサル如ク離隔スルヲ要ス
 第三百二十三 陣地帯内ニ散在スル小ナル森林ハ遮蔽ニ利用スルヲ得ヘシト雖往々敵ノ砲撃及爆撃ノ目標トナルヲ以テ此處ニ主要ナル戰鬥機關ヲ配置スルコトハ成ルヘク避クルヲ可トス
 第三百二十四 大サ適度ナル森林ハ支撐點トシテ編成スルニ適ス此場合ニ在リテハ畜ニ前方ニ對スルノミナラス側方及後方ニ對シテモ亦所要ノ設備ヲ施シ以テ比隣地域ヨリ侵入ヲ防遏シ又内部ニ於テモ林空、道路、水流等ヲ利用シ韌軟ナル抵抗ヲ持續シ得ル如ク編成スルモノトス
 第三百二十五 兵力ニ比シ大ナル森林ヲ占領スル場合ニ在リテハ重要ナル地點ノミヲ占領シ其他ハ障礙物ニテ閉塞シ以テ第一線ノ兵力ヲ節約スヘシ此際樹幹鹿砦ハ間隙閉塞ノ爲屢々使用セラル
 第三百二十六 森林ヲ横斷シテ陣地ヲ編成スル場合ニ在リテハ道路、水流又ハ林空等ヲ利用シ成ルヘク在來ノ形態ヲ變セサル如ク其位置ヲ選定スルモノトス而シテ此場合ニ在リテハ通常射界短小ナルヲ以テ特ニ側射及之ニ伴フ障礙物ノ設置ヲ必要トス

住民地
 第三百二十七 住民地ニ於ケル陣地ノ編成及設備ハ其家屋並圍壁ノ構造及住民地ノ大小、形狀等ニ依リ差異アリ

住民地ノ設備要領
 第三百二十八 家屋及圍壁ノ構造堅固ニシテ且位置適當ナルトキハ其周縁ニ火線ヲ選定スルコトヲ得ヘシ此場合ニ在リテハ周邊ノ構築物ヲ利用シ戰鬥機關ヲ分置シテ相互ノ側防ニ便ナル如クシ其間隔ハ障礙物ヲ以テ閉塞スヘシ家屋及圍壁ノ構造堅固ナラサルモノハ單ニ後方部隊ノ遮蔽ニ利用スルニ止メ火線ハ適宜其前方ニ離隔シテ設ケルヲ可トス
 第三百二十九 圍壁ハ其種類及強度ニ依リ遮蔽、障礙又ハ掩體トシテ利用シ得ヘシ
 第三百三十 住民地ニ在リテハ在來ノ道路ヲ補修シ或ハ之ヲ新設シ以テ各地區相互ノ交通及後方部隊ノ行動ヲ容易ナラシムルコト緊要ナリ但此等ノ道路ニハ敵ノ侵入ヲ防止スル爲其出入口ニ阻絶ヲ設ケ或ハ必要ニ際シ之ヲ阻絶スヘキ準備ヲ整ヘ置クヲ要ス
 第三百三十一 住民地ニ在ル地下室ハ其位置及構造適當ナルトキハ掩蔽設備トシテ利用シ得ルコトアリ
 第三百三十二 住民地内ノ適當ナル位置ニ堅固ナル建物アルトキハ複郭トシテ之ヲ利用スルヲ得ヘシ複郭ノ内部ノ交通ヲ容易ニシ又各室ハ必要ニ應シ獨立シテ防戦シ得ル如ク設備スルモノトス
 第三百三十三 大サ適度ナル住民地ハ支撐點トシテ編成スルニ適ス又兵力ニ比シ大ナル住民地ヲ占領スル場合ニ在リテハ重要ナル地點ノミヲ占領シ其間

住民地ノ砲撃及爆撃ニ對スル準備
隔ハ障礙物ヲ以テ閉塞シ敵ノ潛入ヲ妨グル如クスヘシ
第三百三十四 住民地ハ砲撃又ハ爆撃等ノ爲火災ヲ起シ易キヲ以テ引火ノ虞アルモノハ之ヲ他ニ搬出シ或ハ之ヲ埋没シ又水槽ヲ設クル等防火及消火ノ設備ヲ十分ナラシムヘシ

第二篇 攻撃ニ於ケル築城

通則

攻撃築城ノ目的
第三百三十五 攻撃ニ在リテハ占領セル地區ヲ確保シ或ハ突撃ヲ實施シ且陣地内部ノ攻略ヲ行フ爲築城ヲ利用スルコト少カラス特ニ堅固ナル陣地ニ對シ逐次攻撃陣地ヲ構成シテ敵ニ近迫セサルヘカラサル場合ニ於テ然リトス
築城實施ノ要旨
第三百三十六 攻撃ニ於テ一旦築城ヲ應用セサルヘカラサルニ至レハ必要ナル作業ハ躊躇スルコトナク之ヲ實施シ我カ戰鬪力ヲ保持シテ爾後ノ前進ヲ準備シ以テ攻撃ノ進捗ヲ有利ナラシメサルヘカラス然レトモ之カ爲攻撃ノ氣勢ヲ損シ或ハ既設ノ工事ニ固著シ爲ニ機ヲ失スルカ如キコトアルヘカラス
攻撃築城ト我企圖ノ困難
第三百三十七 攻撃ニ於ケル築城ハ我カ企圖ヲ敵ニ察知セシムルノ機會ヲ與フルコト多シ故ニ之カ作業ニハ最モ周到ナル注意ヲ拂ハサルヘカラス
困難ナル土質ニ出會スル等種々ノ障礙ニ遭遇スルヲ常トス故ニ計畫及準備ノ周密ナルハ勿論不撓不屈ノ精神ヲ以テ之ヲ敢行スルコト極メテ緊要ナリ
第三百三十九 攻撃ニ於ケル築城ハ其實施ヲ圓滑ナラシムル爲要スレハ之カ

豫習ノ技術的作業ノ必要
豫習ヲ行フヲ可トス
第三百四十 最モ堅固ナル陣地ニ對スル攻撃築城ハ敵陣地ノ性質上特種ノ技術ヲ有スル部隊及特種ノ器材ヲ使用シ廣範圍ニ互リテ技術的作業ヲ實施セサルヘカラサルモノトス
企圖秘匿
此種攻撃ニ於ケル企圖ノ秘匿ハ最モ緊要ニシテ攻者ハ作業ヲ秘匿スルコト運動戰ニ於ケルヨリモ一層大ナリ而シテ防者ハ細部ノ地形ト雖既ニ之ヲ詳知シアルヲ以テ攻者ノ築城設備及其實施ニハ特ニ深甚ノ注意ヲ拂ハサルヘカラス
第三百四十一 本篇ニ於テハ主トシテ堅固ナル陣地ニ對シ逐次攻撃陣地ヲ構成シテ敵ニ近迫セサルヘカラサル場合ノ築城ノ方式ヲ記述ス而シテ其主ナル作業ハ敵陣地ニ對スル近迫、突撃ノ準備及實施、占領地區ノ確保竝此等ニ應スル通信連絡及補給ヲ容易ナラシムヘキ設備トス又時トシテ坑道ヲモ利用セサルヘカラサルコトアリ(坑道教範參照)

第一章 近迫作業

近迫作業ノ經過
第三百四十二 近迫作業ノ經過ハ敵情特ニ敵陣地ノ狀態、我カ攻撃威力ノ大小及地形ニ依リ差異アリト雖先ツ攻撃陣地ヲ構成シ次テ逐次之ヲ推進シ遂ニ突撃陣地ヲ構成スルニ至ルモトス
第三百四十三 近迫作業ノ當初攻撃陣地ヲ敵陣地前幾何ノ距離ニ設クヘキヤ最初ノ攻

攻撃陣地ノ編成設備 第三百四十八 攻撃陣地ノ編成設備ハ一般ニ防禦ニ於ケル築城ノ方式ヲ準用スルモノトス然レトモ常ニ爾後ノ前進ヲ容易ナラシムル如ク著意スルコト緊要ナリ

工事ノ程 第三百四十九 攻撃陣地ニ於ケル設備ハ攻撃ノ進捗ヲ迅速ナラシムル爲多クノ場合先ツ最小限ノ工事ニ止メ爾後必要ニ應シ逐次之ヲ補足スルモノトス此等ノ設備ハ敵ニ秘匿スルヲ要スト雖時トシテ敵ノ認識ヲ避クルヨリモ寧ク掩護ヲ得ルヲ急務トスルコトアリ

攻撃陣地ノ交通 第三百五十 攻撃陣地ニハ比隣陣地相互竝後方トノ間ニ完全ナル交通、連絡ノ設備ヲ要ス然レトモ此等ノ作業ノ爲攻撃ヲ遅緩セシムルコト少カラサルヲ以テ地形、地物、既設工事及彈痕等ヲ利用スルコト特ニ緊要ナリ

推進作業ノ計畫 第三百五十一 攻撃陣地ノ推進作業ヲ計畫スルニハ空中及地上ヨリスル偵察竝諜報等諸種ノ手段ヲ盡シテ敵情及地形ヲ明ニシ其結果ニ基キ陣地推進ノ方法及時機、器材ノ配當、作業進捗ノ豫定竝比隣部隊トノ連繫ニ關スル事項等ヲ定ムルモノトス

推進作業ノ爲部隊ノ用語 第三百五十二 攻撃陣地ヲ推進スルニハ第一線歩兵大隊ハ通常其第一線中隊ニ地區ヲ配當シ其中隊ヲシテ配當地區内ノ推進作業ニ任セシメ豫備隊ヲシテ後方ノ作業又ハ材料ノ運搬等ヲ行ハシメ時トシテ第一線中隊ノ作業ヲ援助セシムルモノトス

攻撃陣地ノ推進 第三百四十四 攻撃陣地ヨリ突撃陣地ヘ如何ニシテ前進スヘキヤハ敵情及地形ニ關スルモノトス此際停止シテ工事ヲ施スコト多キニ從ヒ益、攻撃ノ進捗ヲ遅緩スルコト大ナルニ注意セサルヘカラス

突撃陣地ノ位置 第三百四十五 突撃陣地ヲ敵陣地前幾何ノ距離ニ設クヘキヤハ敵情特ニ敵陣地ノ状態及地形竝我力攻撃法ニ依リ差異アリト雖成ルヘク敵陣地ニ近接シテ設クルヲ有利トス特ニ敵陣地前ノ障礙物ヲ歩、工兵ノ作業ニ依リ破壊セントスル場合ニ於テ然リトス然レトモ我力砲撃ノ爲危害ヲ被ラサルコトヲモ亦顧慮スルヲ要ス

近迫作業ノ經過ノ迅速 第三百四十六 近迫作業ノ實施ニ多クノ時日ヲ要スルトキハ此間敵ヲシテ其防禦ヲ益、堅カラシムルノ不利アルヲ以テ地形ヲ利用シテ工事ヲ節約スルハ勿論天候、夜暗、煙幕等ヲ利用シ勉メテ其經過ヲ迅速ナラシムルコト緊要ナリ

攻撃陣地ノ推進ノ作業ハ連日實施セサルヘカラサルコト多シ此際其作業ハ敵情、地形及作業ノ種類等ニ應シ或ハ晝夜連續實施シ或ハ夜間ニ實施スルモノトス

突撃陣地ノ位置 第三百四十五 突撃陣地ヲ敵陣地前幾何ノ距離ニ設クヘキヤハ敵情特ニ敵陣地ノ状態及地形竝我力攻撃法ニ依リ差異アリト雖成ルヘク敵陣地ニ近接シテ設クルヲ有利トス特ニ敵陣地前ノ障礙物ヲ歩、工兵ノ作業ニ依リ破壊セントスル場合ニ於テ然リトス然レトモ我力砲撃ノ爲危害ヲ被ラサルコトヲモ亦顧慮スルヲ要ス

近迫作業ノ經過ノ迅速 第三百四十六 近迫作業ノ實施ニ多クノ時日ヲ要スルトキハ此間敵ヲシテ其防禦ヲ益、堅カラシムルノ不利アルヲ以テ地形ヲ利用シテ工事ヲ節約スルハ勿論天候、夜暗、煙幕等ヲ利用シ勉メテ其經過ヲ迅速ナラシムルコト緊要ナリ

攻撃陣地ノ推進ノ作業ハ連日實施セサルヘカラサルコト多シ此際其作業ハ敵情、地形及作業ノ種類等ニ應シ或ハ晝夜連續實施シ或ハ夜間ニ實施スルモノトス

突撃陣地ノ位置 第三百四十五 突撃陣地ヲ敵陣地前幾何ノ距離ニ設クヘキヤハ敵情特ニ敵陣地ノ状態及地形竝我力攻撃法ニ依リ差異アリト雖成ルヘク敵陣地ニ近接シテ設クルヲ有利トス特ニ敵陣地前ノ障礙物ヲ歩、工兵ノ作業ニ依リ破壊セントスル場合ニ於テ然リトス然レトモ我力砲撃ノ爲危害ヲ被ラサルコトヲモ亦顧慮スルヲ要ス

近迫作業ノ經過ノ迅速 第三百四十六 近迫作業ノ實施ニ多クノ時日ヲ要スルトキハ此間敵ヲシテ其防禦ヲ益、堅カラシムルノ不利アルヲ以テ地形ヲ利用シテ工事ヲ節約スルハ勿論天候、夜暗、煙幕等ヲ利用シ勉メテ其經過ヲ迅速ナラシムルコト緊要ナリ

攻撃陣地ノ推進ノ作業ハ連日實施セサルヘカラサルコト多シ此際其作業ハ敵情、地形及作業ノ種類等ニ應シ或ハ晝夜連續實施シ或ハ夜間ニ實施スルモノトス

第一線中隊長ハ大隊長ノ部署ニ基キ敵情、地形及明暗ノ度等ヲ顧慮シテ陣地
 推進ノ計畫ヲ定ム之カ爲通常其第一線小隊ヲシテ前方ノ作業ニ任セシメ豫備
 隊ハ配當地區内ニ於ケル交通設備及材料ノ運搬等ニ使用スルモノトス而シテ
 狀況之ヲ許セハ一舉ニ攻撃陣地ヲ推進シ得ヘシト雖敵ニ近迫シ其警戒嚴ナル
 ニ從ヒ逐次小部隊毎ニ躍進シ工事ヲ行ヒツツ陣地ヲ推進スルノ已ムヲ得サル
 ニ至ルモノトス

分隊躍進
 第三百五十三分隊毎ニ逐次躍進シ工事ヲ爲シツツ攻撃陣地ヲ推進スル場合
 ニ在リテハ分隊相互ニ其前進ヲ支援シ得ル如ク行フヲ要ス而シテ其推進距離
 ハ敵情、地形及明暗ノ度等ニ依リ差異アルモ作業ノ進捗ヲ迅速ナラシムル爲
 成ルヘク大ナラシムルヲ可トス然レトモ後方トノ交通ノ便否モ亦顧慮セサル
 ヘカラス

分隊工事
 第三百五十四分隊ノ工事ハ全身ヲ遮蔽シ得ルヲ度トシ成ルヘク輕易ナル程
 度ニ止メ爾後ノ推進ヲ迅速ナラシムルコトヲ圖ルヘシ之カ爲地形、地物、敵
 ノ遺棄セル工事及彈痕其他我カ警戒兵ノ掘設セル工事等苟モ作業ノ進捗ヲ迅
 速ナラシメ得ヘキモノハ細大漏サス之ヲ利用シテ剩ス所ナキヲ要ス

分隊ノ工
 第三百五十五分隊ノ工事ヲ推進セシムルニハ豫メ偵察ニ依リ工事ノ位置ヲ
 概定シテ之ヲ分隊ニ明示シ且夜間又ハ煙幕下ニ於テモ過誤ナク其豫定スル位
 置ニ到達シ得シムルカ如ク準備ヲ爲スモノトス

領事推進要
 各分隊ハ發進ノ機到レハ隱密ニ所命ノ位置ニ前進シ第四十二示ス要領ニ依リ
 作業ヲ行フ

濃霧等ヲ利用シテ分隊ノ工事ヲ推進セシムル場合ニ在リテモ亦概テ前項ノ要
 領ニ準スヘシト雖通常豫メ準備ヲ十分ナラシムルコト能ハサルヲ以テ特ニ各
 分隊ノ連繫ニ注意スルヲ要ス

躍進推進
 第三百五十六敵ニ近接シ第三百五十五ノ要領ニ依ルコト困難ナルニ至ルカ
 或ハ晝間好機ニ乘シテ分隊ノ工事ヲ推進セントスル場合ニ在リテハ通常分隊
 ハ一人又ハ數人ツツ奇襲的ニ躍進シ直ニ工事ヲ行フヲ可トス

端末作業
 第三百五十七分隊ノ工事ヲ推進スルニ方リ暴露シテ作業スルヲ許ササルニ
 至レハ端末作業法ニ依リ前進ヲ續行スルモノトス此方法ハ既ニ構築セル分隊
 ノ工事ヲ連接スル場合ニ於テモ亦屢々應用セラレルコトアリ

進ニ依ル推
 端末作業法ヲ行フ場合ニ在リテハ成ルヘク作業頭ヲ多カラシメ且苟モ機會ヲ
 發見セハ之ヲ捕捉シ又煙幕ヲ構成スル等手段ヲ盡シテ一齊作業ヲ行ヒ以テ作
 業ノ進捗ヲ圖ルヘシ

交通設備
 第三百五十八攻撃陣地ノ内部及其後方ニ於テ交通設備ヲ施スニハ點在セル
 既設工事及之ニ關聯スル交通壕ヲ適宜連接スルモノトス

警戒
 第三百五十九攻撃陣地ノ推進ニ方リテハ通常小部隊毎ニ自ラ警戒セシメ特
 別ノ警戒部隊ヲ配置スルコトナシ然レトモ狀況ニ應シ危險ナル側方ニ特ニ警
 戒部隊ヲ配置スルコトアリ

照明、敵射
 第三百六十作業ニ任スル部隊敵ニ照明セララルトキハ各兵ハ直ニ地上ニ伏
 シ顔ヲ地ニ接シ照明中ハ毫モ身體ヲ動スヘカラス

シ顔ヲ地ニ接シ照明中ハ毫モ身體ヲ動スヘカラス
 作業間敵ノ射撃ヲ受クルモ爲シ得ル限リ作業ヲ續行シ迅速ニ完成スルコトヲ

突撃部隊 突撃部隊ハ其位置ニ在リテ抗戦シ若ハ豫メ命セラレタル所ニ從ヒ動作スルモノトス

突撃隊 突撃隊ハ突撃ヲ準備シ且之ヲ實行スル爲ニ設ケル陣地ニシテ敵火ノ制壓、突撃隊ノ準備及實施ニ便ナル位置ニ選定スルモノトス

突撃隊ノ編成 突撃隊ハ突撃隊ノ編成ニ適合シ且突撃部隊ヲシテ所要ノ態勢ヲ以テ發進シ得レ如ク縱深ニ編成スヘシ又此陣地ハ著シク敵ニ近接セルヲ以テ特ニ敵ノ側射ノ斜射ニ對スル處置ヲ完全ナラシムルヲ要ス

突撃隊ノ準備 突撃隊ノ準備ハ突撃隊ノ準備及實施ニ便ナル位置ニ選定スルモノトス

突撃隊ノ實施 突撃隊ノ實施ハ突撃隊ノ準備及實施ニ便ナル位置ニ選定スルモノトス

突撃隊ノ待機 突撃隊ノ待機ハ突撃隊ノ準備及實施ニ便ナル位置ニ選定スルモノトス

突撃隊ノ突撃 突撃隊ノ突撃ハ突撃隊ノ準備及實施ニ便ナル位置ニ選定スルモノトス

準備 壕及交通壕ヨリ壕外ニ出テ或ハ逐次最前線ノ散兵壕マテ壕内ヲ前進シ之ヨリ發進スルモノトス之カ爲突撃陣地ニハ進出及超過ノ設備ヲ十分ニシ或ハ交通壕ヲ増設スルヲ要ス

砲兵ノ爲 砲兵ノ爲ニ於テ實施スルモノトス

砲兵ノ設置 砲兵ノ設置ハ突撃隊ノ準備及實施ニ便ナル位置ニ選定スルモノトス

砲兵ノ彈藥 砲兵ノ彈藥ハ突撃隊ノ準備及實施ニ便ナル位置ニ選定スルモノトス

砲兵ノ障礙物 砲兵ノ障礙物ハ突撃隊ノ準備及實施ニ便ナル位置ニ選定スルモノトス

砲兵ノ據點 砲兵ノ據點ハ突撃隊ノ準備及實施ニ便ナル位置ニ選定スルモノトス

突撃隊ノ準備 突撃隊ノ準備ハ突撃隊ノ準備及實施ニ便ナル位置ニ選定スルモノトス

突撃隊ノ實施 突撃隊ノ實施ハ突撃隊ノ準備及實施ニ便ナル位置ニ選定スルモノトス

突撃隊ノ待機 突撃隊ノ待機ハ突撃隊ノ準備及實施ニ便ナル位置ニ選定スルモノトス

突撃隊ノ突撃 突撃隊ノ突撃ハ突撃隊ノ準備及實施ニ便ナル位置ニ選定スルモノトス

突撃隊ノ協同 突撃隊ノ協同ハ突撃隊ノ準備及實施ニ便ナル位置ニ選定スルモノトス

突撃隊ノ協同 突撃隊ノ協同ハ突撃隊ノ準備及實施ニ便ナル位置ニ選定スルモノトス

突撃隊ノ協同 突撃隊ノ協同ハ突撃隊ノ準備及實施ニ便ナル位置ニ選定スルモノトス

第二章 突撃作業及陣地内部ノ攻略作業

要則 堅固ナル陣地ヲ攻撃スルニ當リ實施スヘキ突撃作業及陣地内部ノ攻略作業ノ主ナルモノハ突撃路ノ開設、側防機能ノ破壊又ハ制壓、陣地ノ通過設備及掃蕩作業トス

突撃路ノ開設 突撃路ノ開設ハ突撃路ノ開設ニ便ナル位置ニ選定スルモノトス

側防機能ノ破壊 側防機能ノ破壊ハ側防機能ノ破壊ニ便ナル位置ニ選定スルモノトス

制壓 制壓ハ突撃隊ノ準備及實施ニ便ナル位置ニ選定スルモノトス

突撃路ノ掃蕩 突撃路ノ掃蕩ハ突撃路ノ掃蕩ニ便ナル位置ニ選定スルモノトス

突撃作業 第三百七十 突撃作業成功ノ要訣ハ一ニ周密ナル準備ト剛膽、機敏ナル實施トニ存ス苟モ之カ缺陷ニ起因シ突撃ヲシテ悲惨ナル結果ニ終ラシムルカ如キコトアルヘカラス

突撃路ノ開設、側防機能ノ破壊又ハ制壓

第三百七十一 突撃路ヲ開設スルニハ先ツ障礙物及側防設備等ヲ偵察シテ其現況ヲ明ニシ敵情、我カ企圖及明暗ノ度等ヲ顧慮シテ之ニ適スル如ク開設スヘキ突撃路ノ數、場所、時機及方法ヲ決定シテ作業隊ヲ部署シ器材ヲ整備スル等ノ諸準備ヲ完了シ時機來ラハ直ニ實施ニ著手スルモノトス

第三百七十二 突撃路開設ノ爲ノ偵察ハ突撃作業ノ實施直前ノミナラス近迫作業ノ經過中ヨリ既ニ各種ノ手段ヲ盡シテ間斷ナク實施スヘシ

第三百七十三 突撃路ハ突撃部隊ノ部署ニ應セシメ且成ルヘク廣キ正面ヲ以テ通過シ得シムル爲其幅狭キモ寧ロ其數多キヲ可トス

第三百七十四 突撃路開設ノ位置ハ戰術上ノ要求ニ反セサル限り我カ砲彈ノ爲若干破壊セラレタル力或ハ構造比較的脆弱ナル部分若ハ近接容易ナル位置等作業容易ナル部分ニ選定スルヲ可トス

第三百七十五 突撃路開設ノ時機ハ突撃實施ニ支障ナカラシムル爲突撃前ニ於テスルヲ可トス然レトモ狀況之ヲ許ササルトキハ突撃ト同時ニ之ヲ行フノ已ムヲ得サルコトアリ

突撃路ノ開設ハ夜暗、濃霧等ヲ利用シ敵ノ不意ニ乘シ隱密ニ實施スルヲ可トス然レトモ狀況之ヲ許ササル場合ニ在リテハ我カ掩護射撃ノ

突撃路開設 第三百七十七 敵陣地前ニ在ル障礙物ニ突撃路ヲ開設スル爲ノ部署ハ通常一此等ノ作業ヲ行フニ方リ煙幕ヲ使用スルヲ有利トスルコトアリ

突撃路ノ爲一破壊班ヲ編成ス然レトモ狀況ニ依リテハ障礙物ノ各帶毎ニ各別ノ破壊班ヲ設クルヲ可トス

敵陣地内部ニ在ル障礙物ニ對シテハ通常別ニ破壊班ヲ設クルヲ可トス

第三百七十八 破壊班ノ人員及器材ハ障礙物ノ種類、構造、強度及破壊ノ方法並程度等ニ依リテ決定シ常ニ班毎ニ若干ノ豫備ヲ設クルヲ要ス

各班ノ人員ハ敵ノ視聽ヲ避クル爲成ルヘク之ヲ少數ニスヘシ而シテ該方面ノ偵察ハ爲シ得レハ此人員ヲ以テ充ツルヲ可トス

第三百七十九 突撃路開設ノ時機來レハ突撃部隊ノ指揮官又ハ作業隊長ハ破壊班ニ前進ヲ命シ作業ヲ開始セシム

數帶ノ障礙物ニ對シ各帶毎ニ各別ノ破壊班ヲ設ケタルトキハ作業ノ混雜ト滯トチ來ササル如ク逐次破壊班ヲ前進セシムルモノトス

第三百八十 隱密ニ突撃路ヲ開設セントスルニ方リ敵ニ發覺セラレ其妨害ヲ受クルニ至レハ適時強行作業ヲ實施スヘシ

第三百八十一 破壊班ハ其任務ヲ達成セハ逐次之ヲ後退セシムルカ或ハ尙其位置ニ止リ突撃部隊ト共ニ前進セシムルモノトス而シテ此等ノ事項ハ出發前ニ於テ豫メ指示シ置クヲ要ス

下ニ之ヲ強行セサルヘカラス

此等ノ作業ヲ行フニ方リ煙幕ヲ使用スルヲ有利トスルコトアリ

第三百七十七 敵陣地前ニ在ル障礙物ニ突撃路ヲ開設スル爲ノ部署ハ通常一

突撃路ノ監視
 第三百八十二 突撃路開設ノ後直ニ突撃ヲ實行セサル場合ニ在リテハ之ヲ監視シ敵ノ補修作業ヲ妨害スヘシ又夜間突撃ヲ實施セントスルトキハ敵ニ認識セラレサル如ク突撃路ニ到ル徑路及突撃路ノ位置ヲ標示スルヲ可トス

突撃ト同
 第三百八十三 突撃ト同時ニ突撃路ヲ開設スルヲ要スルトキハ破壊班ハ突撃部隊ニ先タチテ前進シ掩護射撃ノ下ニ前述ノ要領ニ準シ作業ヲ強行スルモノトス此際煙幕ヲ以テ掩フヲ得ハ有利ナリ

突撃部隊
 第三百八十四 既ニ突撃路ヲ開設セル場合ニ在リテモ突撃部隊ノ先頭ニハ通常若干ノ作業ヲ配置スルモノトス此作業手ハ敵ノ補修又ハ急設セル障碍物ヲ排除シ又ハ開設作業ノ十分ナラサル部分ヲ補足スルモノトス

水中障礙
 第三百八十五 水中ニ設ケタル障碍物ノ破壊ハ概ネ前諸條ニ示ス方法ヲ準用スルモノトス

側防機能ノ破壞及ハ制壓ニ關シテハ第三百七十五及第三百九十二乃至第三百九十五ニ示ス要領ヲ準用スルモノトス

陣地帯ノ通過設備
 第三百八十七 攻撃ノ進歩ニ伴ヒ砲兵及迫撃砲ノ前進ヲ容易ニシ彈藥及器材ノ補給ヲ敏活ニシ且後方トノ交通ヲ便利ナラシムル爲奪取シタル敵陣地内ニ於ケル交通路ヲ迅速ニ整備スルコト極メテ緊要ナリ

此作業ハ我カ陣地前ハ勿論陣地内ニ於テモ亦之ヲ必要トスルコトアリ

第三百八十八 陣地帯ノ通過設備ハ豫メ綿密ニ之ヲ必要トスル作業ヲ計畫シ所要ノ器材ヲ準備シ且爲シ得レハ作業隊ヲ部署シ置クモノトス

交通路段及注意
 第三百八十九 交通路ヲ整備スルニ方リテハ成ルヘク敵ノ遺棄セシ工事ヲ利用シ要スレハ之ヲ補修シ或ハ之ヲ新設ス而シテ壕及彈痕等ニ通過設備ヲ設クルニハ或ハ之ヲ埋没シ或ハ之ニ短橋ヲ架設スル等ノ手段ヲ施スモノトス

敵陣地内ノ要點ニハ往々此處ニ火力ヲ集中シ得ル如ク準備シ或ハ地雷ヲ埋設シアルヲ以テ特ニ注意スルヲ要ス

第三百九十 交通ノ設備ハ少數ノモノヲ完全ナラシムルヨリモ寧口稍、不完全ナルモ多數ヲ設備シ且成ルヘク速ニ交通ヲ規正スルヲ可トス

第三百九十一 陣地帯ノ通過ニ方リテハ交通設備ノ外各級指揮官ノ爲速ニ視察及通信連絡ノ設備ヲ爲スヲ要ス

掃蕩作業
 第三百九十二 陣地内ノ攻略ニ方リ頑強ナル敵ハ我カ第一線ノ後方ニ殘存シ尙抵抗ヲ持續スルヲ以テ速ニ之ヲ掃蕩スルヲ要ス而シテ堅固ナル構築物ニ據レル敵ハ單ニ火力及白兵ヲ以テ掃蕩シ得サルコトアルヲ以テ爆藥、煙、火焔等ヲ使用シテ之ヲ撲滅シ又ハ制壓セサルヘカラス之カ爲掃蕩隊ハ突撃實施前ニ於テ諸準備ヲ完了スルモノトス

第三百九十三 掃蕩作業ニ任スル部隊ハ目標ノ數ニ應シテ作業班ヲ編成又其作業法ニ應シ之ニ所要ノ器材ヲ配當スルモノトス而シテ作業ニ任スル部隊及其作業班ニハ特ニ人員、器材ノ豫備ヲ有スルコト必要ナリ

第三百九十四 各作業班ニハ掃蕩スヘキ目標、作業法、出發ノ際ニ於ケル他部隊トノ關係位置及任務達成後ノ行動等ヲ指示スルモノトス

作業班作

有利ニ進

進歩ノ工

第三百九十五 作業班ハ掃蕩ス キ目標ニ接近スルニ最モ便ナル突撃部隊ノ中間又ハ後方ニ在リテ前進シ好機ニ乗シ奮然目標ニ向ヒ猛進シ或ハ交通壕等ヲ利用シテ肉迫シ作業ヲ實施スルモノトス

第三章 占領地區ノ工事

第三百九十六 戰況有利ニ進歩シ豫定ノ線ニ進出シ工事ヲ行フ場合ニ在リテモ各部隊ハ豫メ概示セラレタル所ニ基キ直ニ作業ヲ開始スルモノトス此際各級指揮官ハ要スレハ之ヲ修正、補足スルモノトス

第三百九十七 敵陣地突入後百方手段ヲ盡スモ攻撃ノ進歩意ノ如クナラス停止スルノ已ムナキニ至リタルトキハ各部隊ノ其位置ニ工事ヲ行フモノトス此際上級指揮官ハ能ク戰況ヲ洞察シ速ニ所要ノ指示ヲ爲シ作業ヲ統一スルコトヲ勉ムヘシ此際敵ノ逆襲ヲ受クル虞アル方面ニ火力ヲ集中シ得ル如ク特ニ注意スルヲ要ス

爾後ノ狀況尙長ク停止セサルヘカラサルニ至ルトキハ陣地ノ各部ヲ整理シ逐次之ヲ強固ナラシムルモノトス

第三篇 作業ノ指揮及器具、材料

第一章 作業ノ指揮

作業迅速

偵察、計

偵察要領

計畫事項

第三百九十八 作業ヲ迅速ニ竣工スヘキ要訣ハ其部署ヲ適當ニシ指揮宜シキヲ得ルト作業ノ軍紀嚴肅ナルトニ在リ

第三百九十九 作業ハ爲シ得ル限り適切ナル計畫ノ下ニ十分ニ準備シタル後之カ實施ニ著手スルモノト然レトモ狀況ニ依リテハ準備ノ完了ヲ待ツコトナク作業實施ニ著手セシムルヲ要スルコトアリ

第四百 作業ノ實施ニ方リテハ萬難ヲ排シ計畫ヲ遂行スルヲ要ス是計畫一部ノ變更ト雖廣範圍ニ影響ヲ及スコト多ク又徒勞ヲ生ジ作業ノ進歩ヲ遅緩スルヲ以テナリ然レトモ狀況ノ變化ニ際シテハ速ニ之ニ應スルカ如ク要所ノ變更ヲ行フニ躊躇スヘカラス

準備

第四百一 築城ヲ行フニハ要所ノ偵察ヲ行ヒ之ニ基キ作業ノ計畫ヲ定メ之ニ應シ所要ノ器材ヲ整備セサルヘカラス

第四百二 偵察實施ノ方法及其精粗ハ目的ニ應シ且時機ニ適應セシムルヲ緊要トス

偵察ニ際シテハ必ス身ヲ敵ノ地位ニ置キテ判斷シ爲シ得レハ敵方ヨリ偵察スルヲ可トス

第四百三 各級指揮官ハ偵察ノ結果ニ基キ作業ノ計畫ヲ立案ス該計畫ニハ實施スヘキ作業ノ種類ヲ定メ使用シ得ヘキ人員、器材及時間ニ應シテ作業ノ程度、方法、著手ノ順序竝人員、器材ノ配當ヲ決定シ要スレハ尙警戒、通信連絡、給養及衛生ニ關スル事項ヲモ計畫スルモノトス

築城ト占領軍隊
 第四百四 築城ハ地區毎ニ之ヲ占領スル軍隊ヲシテ自ラ行ハシムルヲ通常トス然レトモ必要ニ應シ他部隊ヲシテ之ヲ援助セシムルコトアリ
 陣地ノ構成ト之カ占領トチ區分シテ行フ場合ニ在リテモ勉メテ此趣旨ニ依リ部署スルヲ可トス
 第四百五 軍隊ハ指揮及作業力ノ發揚ヲ容易ナラシムル爲成ルヘク同一作業毎ニ逐次完成スル如ク部署スルヲ可トス然レトモ作業ノ種類及緩急並器材ノ制限等ニ依リ各部隊各異ノ作業ヲ行ハサルヘカラサルコト少カラス之カ爲通
 常前者ニ在リテハ擔任區域ヲ分チ後者ニ在リテハ作業ノ種類毎ニ軍隊ヲ部署スルモノトス
 時間ニ餘裕少ク不十分ナル準備ヲ以テ作業ノ實施ニ著手セサルヘカラサル場合ニ在リテハ臨時發生スル用途ニ充ツル爲豫備ノ作業隊ヲ設クルヲ要ス
 第四百六 作業ハ晝間ニ行フヲ便トス然レトモ狀況ニ依リ主トシテ夜間ニ於テ或ハ晝夜連續シテ實施スルヲ要スルコトアリ此場合ニ在リテモ爲シ得レハ
 經始ハ晝間特ニ拂曉又ハ薄暮ヲ利用スルヲ可トス
 長時日同一ノ作業ヲ連續實施スル場合ニ在リテハ主トシテ作業力ヲ保持スル
 コトヲ願慮シ交代シテ作業ヲ實施スル如ク部署スルヲ可トス
 第四百七 器材ノ配當ハ作業部隊ノ人員、作業ノ種類及土質等ニ應シ決定ス
 ルモノトス
 作業ノ種類ニ應スル器具ノ選擇及各種構築物ニ要スル材料ニ關シテハ第一部
 及附表第二、第三ヲ參照スヘシ

實 施
 第四百八 作業ノ計畫終レハ所要ノ命令ヲ下シ作業ニ著手セシム而シテ命令
 第四百九 作業ノ種類及器材ノ配當ヲ明示シ要スルハ完成時刻ヲ示スモノトス
 蔽セル位置ニ於テ器材ノ卸下、分配等必要ナル準備ヲ行フ而シテ狀況之ヲ許
 セハ裝具及武器ヲ脱シテ作業ニ從事スルモノトス
 第四百十 作業ノ準備終リタル後作業ニ任スル部隊ヲ作業ノ位置ニ就カシメ
 又ハ作業ヲ開始セシムルニハ狀況ニ應シ全隊同時ニ或ハ區分シテ逐次ニ行フ
 モノトス
 第四百十一 作業ニ任スル部隊敵飛行機ノ飛來ニ方リテハ所在ノ地物ヲ利用
 スヘキヤ又ハ豫メ準備セル材料ニ依リ遮蔽スヘキヤ或ハ依然作業ヲ續行スヘ
 キヤハ一ニ狀況ニ依ルモノトス
 第四百十二 各級指揮官ハ適時作業進捗ノ景況ヲ上級指揮官ニ報告スルト共
 ニ關係アル部隊長ニ通報スヘシ
 第四百十三 一作業ヲ完了シ他ノ作業ニ移ラントスルトキハ豫メ之カ諸準備
 ヲ整ヘ死節時ヲ生スルコトナク新作業ニ著手シ得ルヲ要ス故ニ上級指揮官ハ
 常ニ部下各隊ノ作業進捗ノ程度ヲ詳細シ適時新任務ヲ課シ又下級指揮官ハ作
 業完了前上級指揮官ニ所要ノ報告ヲ爲シ且爾後ノ作業ニ關シ指示ヲ仰クモノ
 トス
 第四百十四 作業隊ヲ交代スル場合ニ在リテハ上番ノ指揮官ハ所要ノ幹部ヲ

代法	長時間ノ作業	作業各級指揮官	作業ノ心得	器具、材料ニ對スル觀念ノ使用	器具修理
率中部隊ニ先行シテ下番ノ指揮官ヨリ敵情、作業ノ景況等ニ關シ所要ノ通報ヲ受ケ作業隊到着セハ直ニ作業ニ著手シ得ル如ク準備スルモノトス	第四百十五 長時間ニ互リ作業ヲ續行スル場合ニ在リテハ狀況之ヲ許セハ適時作業ヲ中止シ之ニ適當ノ休憩ト給養トヲ與ヘ又志氣ノ緊張ヲ圖リ以テ作業力ノ維持ニ努ムルヲ要ス	第四百十六 作業ニ任スル各級指揮官ハ命令ニ基キ迅速、確實ニ作業ヲ完成スルコトヲ努ムヘシ又分隊長ハ特ニ必要ト認ムルトキハ自ら作業ヲ行フモノトス	第四百十七 作業ハ危險又ハ困難ナル狀況ノ下ニ行ハサルヘカラサルコト多シ此場合ニ在リテモ幹部ハ部下ノ士氣ヲ鼓舞シ兵卒ハ自信ト忍耐トニ富ミ從容トシテ作業ヲ遂行スルコトニ全力ヲ盡ササルヘカラス	第二章 器具、材料 第四百十八 器具ノ性能ヲ熟知シ且之ヲ常ニ良好ノ狀態ニ保持スルト材料ノ配給ヲ適切ナラシムルトハ共ニ作業ヲ迅速確實ナラシムル素因ナリ	第四百十九 作業ハ通常各隊ノ携行器具ヲ以テ之ヲ實施ス之方爲時トシテ各隊ノ器具ヲ彼此融通スルヲ要スルコトアリ又狀況之ヲ許セハ徵集ニ依リ各部隊ノ器具ヲ補足スルコトヲ圖ルヘシ時宜ニ依リテハ野戰工廠ノ器具ヲ使用スルコトアリ

器材使用原則	所在物料使用要領	材料及運搬積
修理所ハ各部隊毎ニ又ハ統一シテ之ヲ設ク此際地方ノ工場ヲ利用スルヲ得ハ有利ナリ	第四百二十一 作業ニ要スル材料ハ通常所在ノ物料ヲ使用ス然レトモ爲シ得レハ他方而ヨリ蒐集シ又ハ後方ヨリ追送スルモノヲ使用ス而シテ材料ノ徵集及追送ハ通常多クノ時間ヲ要スルヲ以テ將來ノ必要ヲ顧慮シ豫メ之方準備ナシテ可トス	第四百二十三 材料ノ整備ニ方リテハ通常先ツ之ヲ一地或ハ數地ニ集積シ必要ノ加工ヲ行ヒ次テ之ヲ使用部隊ニ分配、補給スルモノトス時トシテ蒐集地ヨリ直接各部隊ニ運搬スルコトアリ集積地ヨリ各部隊ヘノ運搬ハ通常受領部隊之ヲ擔任スルモノトス

野戰築城教範終

被覆ノ目
被覆ノ支
敵火ノ破
被覆使用
材料

野戰築城教範附錄

第一 被覆

第一 積土ニ自然傾斜ヨリモ急峻ナル斜面ヲ附與スルヲ要スルトキハ通常之ヲ被覆スルモノトス
除土部ニ在リテモ土質軟弱ナルカ、使用頻繁ナルカ或ハ長時日ノ使用ニ供スルモノハ被覆スルモノトス
被覆ハ通常積土作業ト同時ニ行フ
第二 被覆ハ土壓ニ對シ堅固ニ支撐セサルヘカラス之カ爲基脚ヲ堅固ナラシメ所要ニ應ジ之ニ「控」(第一圖、第二圖參照)ヲ施シ或ハ之ヲ支駐(第四圖、第五圖參照)スヘシ高キ被覆ニ於テ特ニ然リトス
第三 敵火ノ爲破壞セラレ易キ位置ノ被覆ハ其破壞ヲ局限スル爲適宜ニ分割シテ設ケルヲ可トス
第四 被覆ニハ勉メテ板、丸太、樹枝、高粱、糾草、土俵等所在ノ物料ヲ應用ス狀況ニ依リ被覆ニ適スル如ク豫メ準備シタル土囊、編束物(束柴、編條、堡籃)等ヲ用ヒ其他時トシテ煉瓦、「コンクリート」等ヲ用フルコトアリ而シテ此等ノ材料ハ被覆ノ場所、目的、使用日時ノ長短及斜面ノ狀態等ヲ顧慮シテ適宜選擇スルモノトス
被覆材料ノ腐朽ヲ防キ保存ヲ良好ナラシムル爲ニハ土囊ハ丹礬(硫酸銅)ノ溶

板(丸太)被覆

樹枝被覆

液ニ浸シ木材ハ成ルヘク樹液ノ乾燥セルモノヲ選ヒ且之ニ防腐劑ヲ塗布又ハ注入スルヲ可トス時トシテ表面ヲ焦焼スルコトアリ
第五 板(丸太)被覆ヲ行フニハ杭ヲ斜面ノ傾斜ニ準シ斜面脚ニ打入シ次テ板(丸太)ヲ杭ト土體トノ間ニ挿入シ其内側ニ土砂ヲ填實シ能ク搗固ス而シテ各杭ノ間隔ハ板(丸太)及杭ノ抗力ニ依リ之ヲ定ム
被覆ノ高サ大ナルトキ、杭ノ抗力土壓ニ耐ヘサルトキ若ハ深ク杭ヲ打チ込ムコト能ハサルトキハ被覆ニ「控」ヲ施スヘシ即チ被覆カ斜面ノ高サノ約三分ノ二ニ達シタルトキ一或ハ二杭ヲ隔ツル毎ニ鐵線、綱、繩等ノ一端ヲ杭ニ結著シ他端ヲ積土下ニ打入セル「控」又ハ積土内ニ横ヘタル丸太或ハ束柴等ニ固定スヘシ(第一圖、第二圖、第三圖參照)又ハ柴ヲ「控」ニ使用スルニハ豫メ振リ挫キタルモノヲ約一米ヲ間シ地上ニ打チ込ミタル杭ニ懸ケ綯リ合セテ第三圖ノ如クシ其一端ニ被覆ノ杭ヲ、他端ニ「控」ヲ貫キテ緊張ス
堅固ニ被覆ヲ要スル場合ニ在リテハ各杭ヲ橫材ニテ連結スルヲ可トス
除土部ノ被覆ニシテ「控」ヲ施スコト困難ナル場合或ハ然ラサルモ狀況之ヲ要スルトキハ外方ヨリ斜柱又ハ橫材ヲ以テ之ヲ支撐スルモノトス(第四圖、第五圖)此場合ニ在リテハ支撐材ノ上端ハ堅固ニ被覆ノ杭ニ連結スルヲ要ス
板ノ被覆ニ在リテハ時トシテ板ヲ垂直ニ使用スルコトアリ此場合ニ在リテハ板ノ下端ヲ斜截シテ之ヲ地中ニ打入シ其上端ハ杭ニ連結セル橫材ニ依トスルモノトス(第六圖)
第六 樹枝被覆ハ板被覆ニ於ケルカ如ク斜面脚ニ適當ノ間隔ヲ以テ杭ヲ打込

糾草被覆

其内側ニ樹枝ヲ層積シテ土ノ漏出ヲ防クモノトス此場合ニ於ケル「控」ハ
其一端ヲ杭ノ上部ニ結著スル貫板若ハ丸太ニ纏結シ被覆ノ長サ一米五〇乃至
二米毎ニ設クルヲ可トス(第七圖)若鉤枝ヲ有スル適當ナル柴アルキトハ「控
ヘ」ニ代用スルコトヲ得(第八圖)

除土部ノ被覆ハ板被覆ニ準ス

第七 糾草被覆ヲ行フニハ長サ幅共ニ約三〇糎、厚サ約一〇糎ニ截リ取リタ
ル糾草ノ草面ヲ下方ニシ其上面ヲ平ニシ各層ノ接合部ヲ交叉スル如ク重疊シ
其内側ニ土砂ヲ填實スルモノトス但最上層ノ糾草ハ草面ヲ上方ニ在ラシム
若所々ニ長キ糾草ヲ置キ深ク之ヲ積土中ニ挿入スルトキハ一層強固ナリト
ス

稍、高キ斜面ヲ被覆スル場合ニ在リテハ每糾草ニ二層ヲ貫通シテ串ヲ打人シ
以テ上下各層ノ維持ヲ強固ナラシムルモノトス

土囊被覆

第八 土囊被覆ヲ行フニハ交互ニ土囊ノ長側ト短側或ハ短側ノミヲ斜面ニ向
ク其接合ヲ交叉シテ之ヲ重疊ス高キ斜面ノ被覆ヲ爲ストキハ糾草被覆ノ要領
ニ依ルモノトス

土囊ハ使用ニ便ナル爲幅三三糎、長サ六五糎ナル麻布製ノ囊ヲ用フ此土囊ニ
土ヲ填實シ水平ニ置クトキハ幅二五糎、長サ五〇糎、厚サ一五糎ニ變ス其一
個ノ容積ハ〇立方米〇一七ニシテ重量二〇珎ナリ

土俵、箱、樽、土塊、石及煉瓦等ニ依ル被覆ハ土囊被覆ノ要領ニ準ス

同要領物

第九 編條被覆ニハ既製ノ編條ヲ以テ行フ方法ト現地ニ於テ編組シツツ行フ

編條被覆

既製ノ編條ヲ以テ行フニハ各編條ヲ端々相接シテ斜面脚ニ併列シ其杭ノ尖端
ヲ打チ込ミ之ニ「控」ヲ施シ又ハ長キ鉤杭ヲ以テ固定スハシ又樹枝ノ被覆ニ
準シテ行フコトアリ(第九圖)

方法(信地編條)トノ二種アリ
信地編條ヲ行フニハ先ツ斜面ノ傾斜ニ準ヒ三〇乃至五〇糎ノ間隔ヲ以テ杭ヲ
斜面脚ニ打込ミ要スレハ其上端ニ貫板等ヲ施シテ假ニ各杭ヲ連結シ然ル後附
録第十七ノ要領ニ準シ之ニ樹枝ヲ編ミ込ムモノトス

「控」ヲ施ス方法ハ板ノ被覆ト異ナルコトナシ

第十 東柴被覆ハ階段ニ應用スルニ適ス(第十圖、第十一圖)第十二圖ハ稍、
高キ斜面ヲ被覆セル例ナリ

第十一 堡籃被覆ヲ行フニハ斜面ノ傾度ニ準ヒ堡籃ヲ變形シテ配置シ其内部
ニ土ヲ填實シ要スレハ杭ヲ堡籃内ニ打チ入レ或ハ「控」ヲ施スヘシ

第十二 高粱、蓆等ノ被覆ハ所在ノ物料ニ依ル簡單ナル被覆ニシテ高粱ハ之
ヲ東柴ノ如ク束ネ或ハ籬ノ如ク編組シテ使用シ或ハ樹枝被覆ノ要領ニ依リ之
ヲ行フ蓆ノ類ヲ以テ被覆ヲ爲スニハ之ヲ以テ若干厚サノ土ヲ包ミ厚サ一〇乃
至二〇糎ノ土ヲ間シテ重疊シ比隣蓆ノ接際部ハ相交錯スル如ク爲スヲ可トス

第十三 編束物ハ柴(稚樹、樹枝)、竹(割竹、細竹)等ヲ以テ製作セル東柴、
編條及堡籃トス其大サハ製作及使用ノ便否ヲ顧慮シテ定ム

東柴ハ柴、竹等ヲ圓柱狀ニ結束シタルモノニシテ通常長サ四米中徑二五糎以

編束物ノ種類

東柴ハ柴、竹等ヲ圓柱狀ニ結束シタルモノニシテ通常長サ四米中徑二五糎以

編束物材

結束材料

東柴製作

下トス(第十三圖)
 編條ハ木或ハ竹ノ杭ヲ緯トシ之ニ柴或ハ竹ヲ編ミ著ケタル席狀ノモノニシテ
 其編組部ノ幅員ハ長サ約二米、高サ一米以下トス(第十四圖)
 堡籃ハ編條ノ要領ニ準シ圓筒狀ニ作りタルモノニシテ其外徑チ約六〇糎、編
 組ノ高サチ約八〇糎トス(第十五圖)
 第十四 編束物材作ルニハ概ネ左ノ材料ヲ用フ
 東柴ニハ眞直ナル枝ヲ有シ下端ノ中徑四糎以下ナルモノヲ用フ
 編條及堡籃ノ編條ニハ眞直且細長ニシテ小枝ナク下端ノ中徑約二糎以下ナル
 柴若ハ幅約二糎以下ナル割竹ヲ用フ又其杭ニハ中徑約三糎、長サハ編組ノ高
 サヨリ約二〇糎長キ柴又ハ竹ヲ用フ結束部ニ用フル蔓及柴ハ長サ約二米、下
 端ノ中徑約二糎ニシテ戻回シ易キモノヲ選フヘシ
 第十五 東柴ヲ結束シ又編條、堡籃ノ編組チ杭ニ固定スル爲ニハ鐵線 十二
 番乃至十六番)ヲ用フルチ可トス蔓、軟キ柴又ハ篠、割竹、綱及繩等モ亦之
 ニ代用スルコトヲ得ヘシ
 柴又ハ蔓ノ彈性乏シク戻回シ難キモノハ之ヲ槌打シテ其纖維ヲ弛解スルカ又
 ハ樹肉ヲ損セサル程度ニ燒キ其一端ヲ固定シテ戻回シ且其下端ヲ尖ラスヘシ
 第十六 東柴ハ通常三名ノ兵卒ヲ以テ第十六圖ノ如キ東柴架上ニ於テ之ヲ製
 作ス時トシテ第十七圖ノ如キ急造架ヲ用フルコトアリ而シテ之ニ用フル器具
 ハ大槌、小槌、鉈、鋸、鐵條鉄各一、約棒、約繩一組トス(約繩ハ鐵線、
 蔓等ヲ以テ急造スルコトヲ得ヘシ但其長サハ東柴中徑ノ約四倍半トス)

編條製作

東柴ヲ作ルニハ柴ノ下端ト梢端トヲ交錯シ其眞直ニシテ長キモノヲ外周ニ置
 キ屈曲シタルモノ及小枝ハ内部ニ在ラシムル如ク之ヲ架上ニ横ヘ約繩、約棒
 チ以テ緊約シ結束材料ヲ以テ緊束スヘシ
 結束ハ三〇乃至五〇糎ヲ隔テテ施スモノトス之ニ鐵線ヲ用フルトキハ豫メ東
 柴ノ周圍ヨリ長キコト約一〇糎(鐵線細キトキハ二回周トス)ノ長サニ截リ
 之ヲ以テ東柴ヲ繞ラシ其兩端ヲ綯リ合セ其端末ヲ東柴ノ内部ニ壓入スヘシ若
 蔓ヲ用フルトキハ其下端ヲ以テ上方ヨリ下方ニ東柴ノ中央ヲ貫キ其尖端約一
 五糎ヲ東柴外ニ突出セシメ次ニ蔓ヲ東柴ニ繞ラシ之ヲ緊約シ其端末ヲ綯リ合
 スヘシ(第十八圖)但各結束點ハ同一母線上ニ在ラシムルチ可トス
 第十七 編條ハ通常二名ノ兵卒ヲ以テ製作シ之ニ要スル器具ハ鉈、小槌、錐、
 鐵條鉄若ハ絞紐鉄各一トス
 編條チ作ルニハ約二五糎ヲ間シ一列ニ杭チ地上ニ植立(約一五糎打込ム)シテ
 假ニ其上端ヲ連結シ(第十圖)次ニ編條チ交互ニ杭ノ内外側ニ誘導シ屢
 之ヲ下方ニ壓迫シツツ編組チ行フヘシ第二十圖ハ其編組ノ初期ヲ示スモノナ
 リ
 總テ編條ノ端末ハ編條ノ同一面ニ在ラシメ成ルヘク其一端ト雖端末杭ノ位置
 ニ在ラシメサル如ク編組スヘシ而シテ端末杭ヲ繞ラスニハ少シク編條チ戻回
 スルチ要ス若編條チ強固ナラシメントセハ編組ノ一部ヲ綯リ合スヘシ
 編組所望ノ高サニ達セハ結束材料ヲ以テ之ヲ杭ニ固定ス其方法ハ杭ノ一半ノ
 上部ト他ノ一半ノ下部トニ就キ一ハ編組ノ外縁ニ接シ一ハ之ヨリ約一五糎チ

105 表 附

釘	鍍	防 水 板	扉		掩 蓋 材	枕 材	區 分	長 (米) サ	(厚 中 徑) (米) サ	幅 (米)	員 數	重 (吨) 量	摘 要
			繫 材	板									
五寸	六寸	一・八〇	一・八〇	一・〇〇	三・〇〇	一・八〇					二		
		〇・〇三	〇・〇五	〇・〇五	〇・〇五	〇・一五					七		
		〇・一五	〇・一〇	〇・二〇	〇・二五						九		
三六	二	一	二	九	七	二						〇・三一〇	
													掩蓋材ニハ丸太ヲ用フルコトアリ

附表第二 掩蔽部所要材料表

其一 第五十九圖掩蔽部

表 附 104

區 分	野 砲	野 戰 榴 彈 砲	其三 散飛界(榴彈ノ曳火射撃)		破片ノ最大散飛界 (半徑)
			殺傷 力 散 飛 界	破片 ノ 效 力	
彈丸跳飛シ第二彈道ニ於テ破裂スル場合モ概ネ右ニ同シ					
	八―一五	五	一五	七〇	二〇〇―五〇〇
					一五〇
					二・〇―三・〇
					二・五―三・五
					二・七―三・〇
					三・八―四・〇

附表第一 各種彈丸ノ效力

(單位米)

四冊 四

表 附 106

考 備
一 土質ニ依リ内部ヲ被覆ス其所要材料ハ第六十圖ニ就キ示セルモノニ概ネ
二 同シ
三 掩蓋材ヲ纏結スル爲鐵線若干ヲ要ス 木材ノ重量ハ生木(比重0.7)ノ場合ニ依ル(以下同シ)

其二 第六十圖掩蔽部

枕	支	掩	直	區	分	長	厚	幅	員	重	摘
		蓋	柱			(米)	(中徑)	(米)	數	(庇)	要
一・四〇	一・二〇	二・二〇	一・五〇						四		
〇・一五	〇・一〇	〇・一五	〇・一五						九		
									二		
									二		掩蓋材ニハ 丸太ヲ用フ ルコトアリ

107 表 附

斜	被	扉	防	鏡	釘	考 備
水	覆		水			
材	用	板	板			
	板	材				
一・六〇	一・四〇	一・〇〇	一・五〇	六寸	五寸	掩蓋材ヲ纏結スル爲鐵線約五米ヲ要ス
〇・一〇	〇・〇三	〇・〇五	〇・〇三			
	〇・二〇	〇・二〇	〇・一五			
	一・五	七	一	六	二八	
	〇・五五〇					

附表第二 掩蔽部所要材料表

其三 第六十一圖掩蔽部

113 表 附

ト「リ」 「ク」 「コ」			料 材 用 口 入						頂
ト「セ」 「メ」 「ン」	砂	砂	頂	側	繫	頂	直	礎	頂
	利	板	板	材	材	柱	材	板	板
			〇二 六四 〇〇	〇二二 六〇四 〇〇〇	〇一 六三 〇〇	一 三三 〇	一 八〇 〇	一 三〇 〇	三 一五 〇
			〇〇 〇〇 四四	〇〇〇 〇〇〇 三三三	〇〇 〇〇 四四	〇 二〇 〇	〇 一五 〇	〇 一〇 四	〇 〇 四
			〇〇 三三 〇〇	〇〇〇 三三三 〇〇〇	〇〇 一一 〇〇	〇 一五 〇	〇 一五 〇	〇 一五 〇	〇 三〇 〇
二 一〇 樽	立 方四 米八	立 方九 米六	〇〇	四四四 四四四 四四四	四八	〇	二 〇	一 〇	一 四
三 九・三 〇〇	七 二・〇 〇〇	一 四二・〇 〇〇							三 ・五 七〇

表 附 112

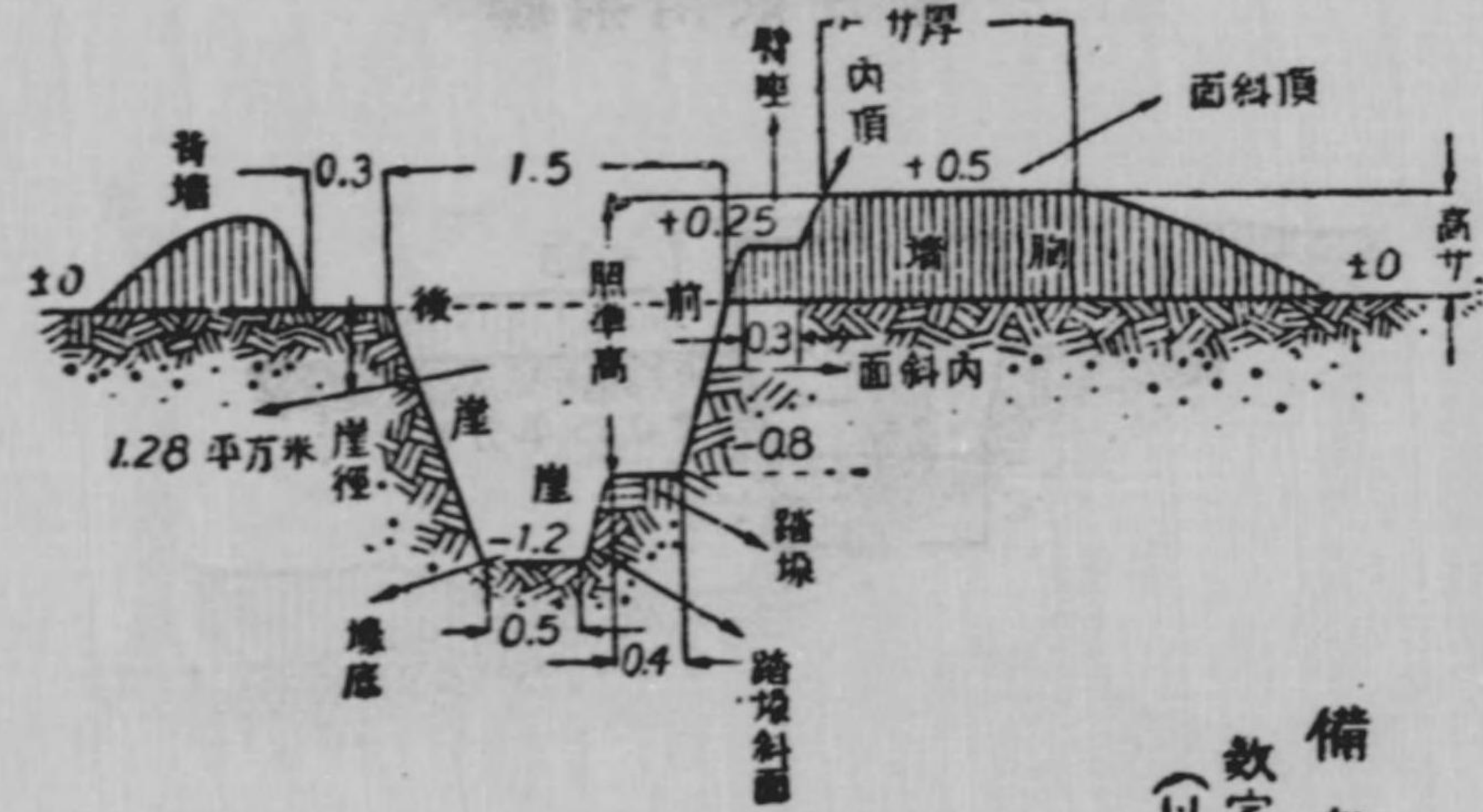
附表第二 掩蔽部所要材料表						考備
其六 第六十七圖掩蔽部						
側	繫	頂	直	礎	區	摘要
板	材	材	柱	材	分	
						長
						(米)
						厚
						(米)
						幅
						(米)
						員
						數
						重
						(吨)
〇三 六一 〇五	四一 一一 五五	一 一 〇	一 一 〇	一 一 〇	長 (米)	軌條ノ枕材ヲ要スル外其他ノ材料ハ第六十三圖ニ準ス
〇〇 〇〇 三三	〇〇 〇〇 三三	〇 〇 四	〇 〇 二〇	〇 〇 一五	厚 (米)	
〇〇 三三 〇〇	〇〇 三三 〇〇	〇 〇 一五	〇 〇 一五	〇 〇 一五	幅 (米)	
一 二	一 七	一 四	一 七	一 七	員 數	
					重 (吨)	
					摘要	

「セメント」
樽ハ大樽ト
ス

刺 鐵 疊 折 五十サ長)	網條鐵疊折形腹蛇 (筒一ノ米十二サ長)		形 筒 圓 網條鐵疊折 (筒一ノ米三サ長)	
	乙	甲		
鐵 串	鐵 線		鐵 線	
六番鐵線(網線)	細 有 線 刺 八番(六番)	細 有 線 刺 八番(六番)	細 有 線 刺 八番(六番)	細 有 線 刺 八番(六番)
五九	三一		三〇	二〇 三五
一〇	一・六 二・五 三・二(五・一)	二・四 二八(四五)	〇・五 一・〇 一・九	三・六(五・七五) 一・八

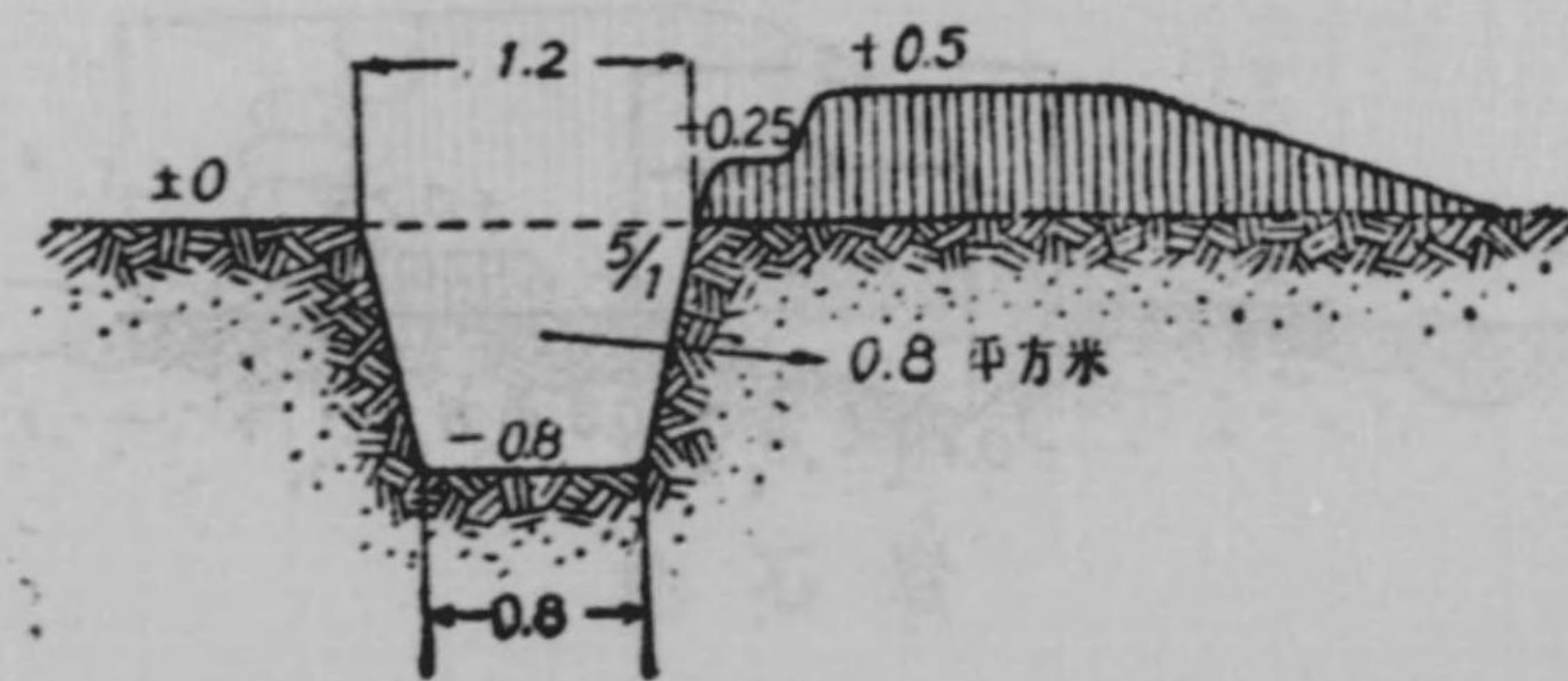
網條鐵形網 (米方平百)		網條鐵形根屋 (米方平百)		名 稱	材 料 ノ 種 類	員 數 長筒 サ(米)	重 量 庇)
鐵 線	杭	鐵 線	杭				
細 八番 線(六番)	長(二米八—二米五)	細 有 線 刺 八番(六番)	短 長 (一米) (一米八—二米五)	附表第三 各種障 碍物所 要材料 表	土質ニ 依リ外 柵及基 礎用材 料ヲ要 ス		
	(杭ノ 間隔二 米)						
	二五		二〇				
一一三(一八〇)	七〇〇—七八〇	〇・三	二五〇				
二五	五〇〇—七〇〇	一五(二四)	二三〇—三二〇				

圖 一 第
壕兵散擴掘用射立



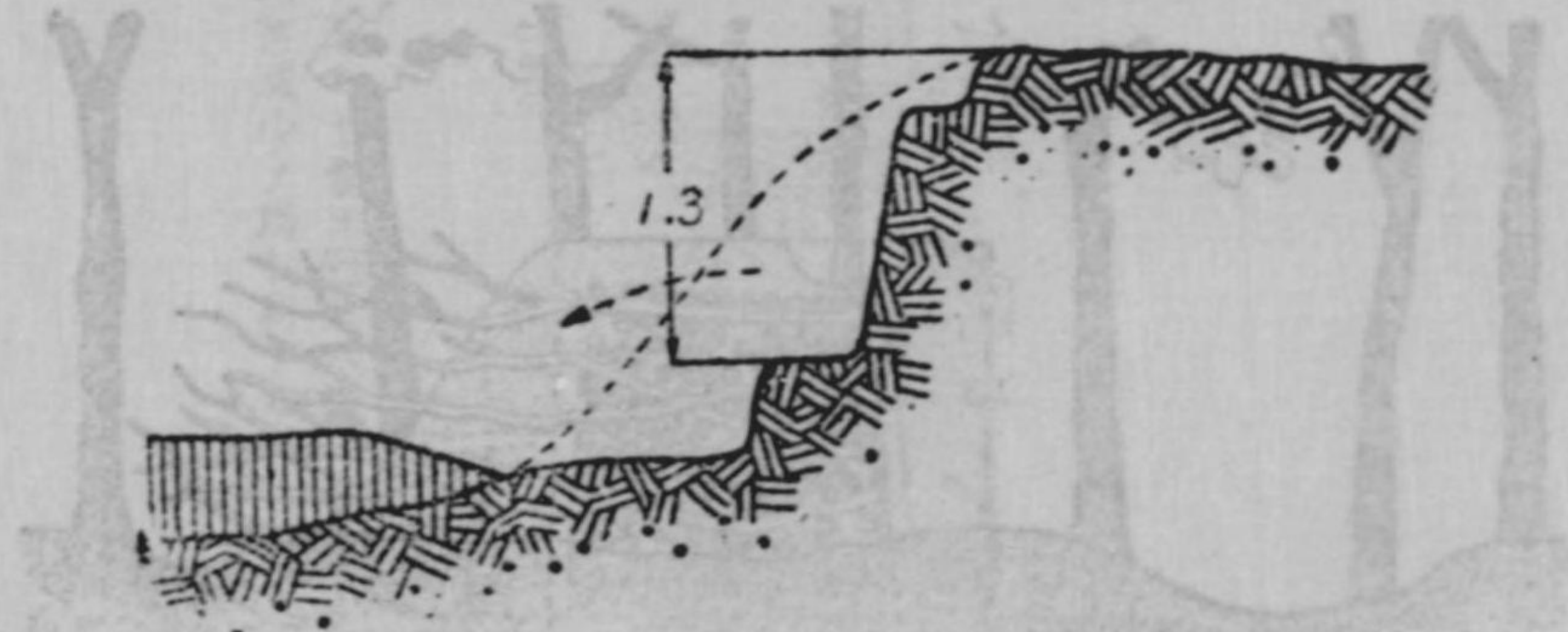
備考
数字ノ單位ハ米トス
(以下同シ)

圖 二 第
壕兵散用射立



考備	馬 拒		形
	鐵線	木桿	網 條 (箇一ノ米)
○有刺鐵線ハ十四番ニ子捻合セニシテ刺ノ間隔約一〇糎ノモノニ就キ示ス(一〇米ニ付八・七疋)	細線	有刺(八番)	有刺(十二番)
	若干	短(一米七〇) 長(三米五〇)	細線
	五〇	四 一	一 七 〇 五
	四・四(五・二)	四〇 二〇	六・五(三・六) 〇・二

圖五第
壕兵散ノ面斷墻胸無



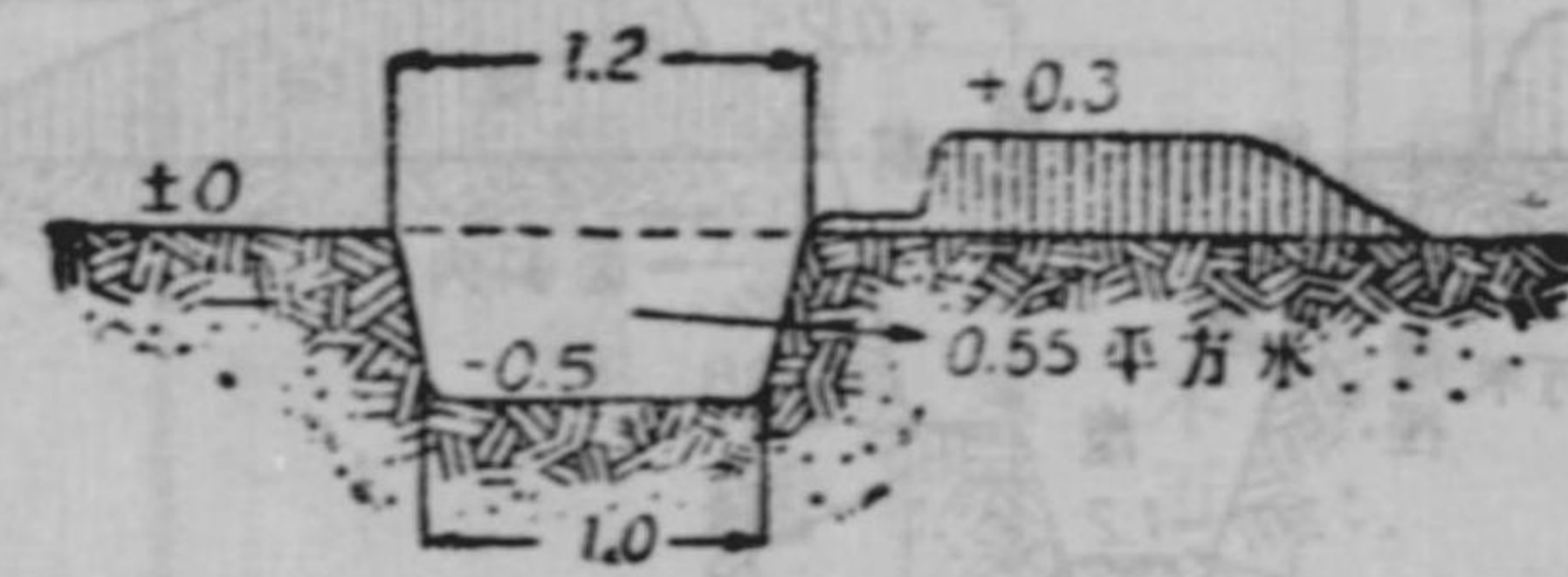
圖六第

壕兵散ルタヒ用ヲ墻胸キ高爲ルナ難困開掘地土

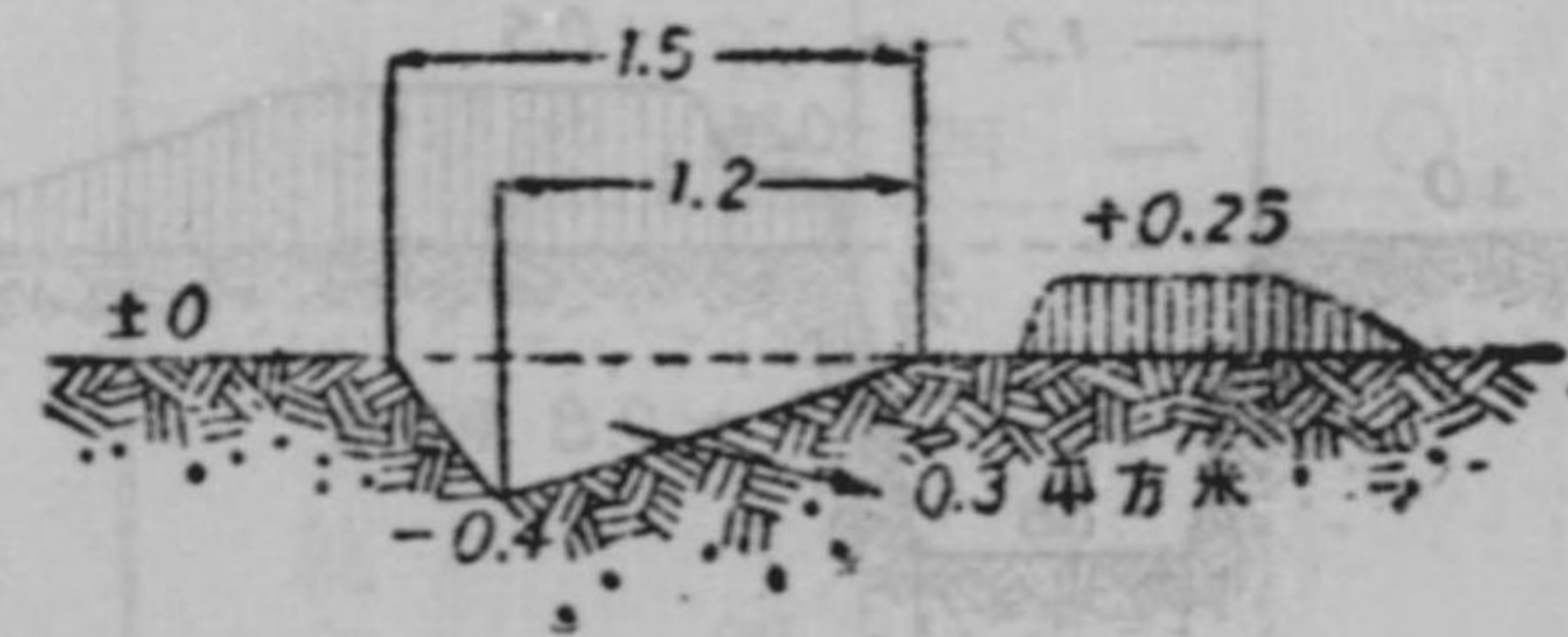


地石岩

圖三第
壕兵散用射膝



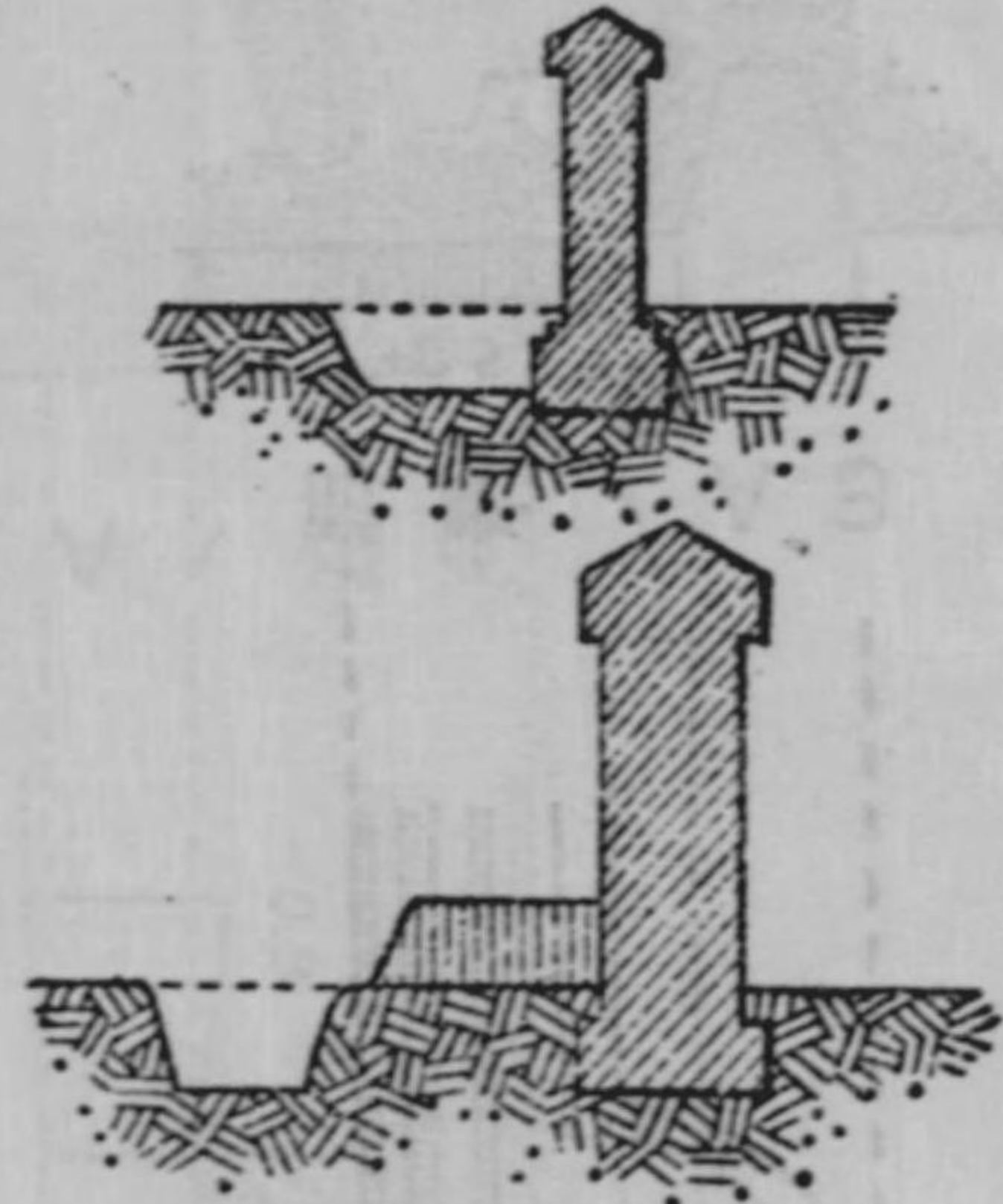
圖四第
壕兵散用射伏



圖九第

例ルセ施ヲ備設撃射シ用利ヲ壁

壁ノ頂ニ土膏ヲ冠セハ銃ノ依托
及損害減少ノ爲有利ナリ



圖十第

壕兵散ルセ用利ヲ籬生

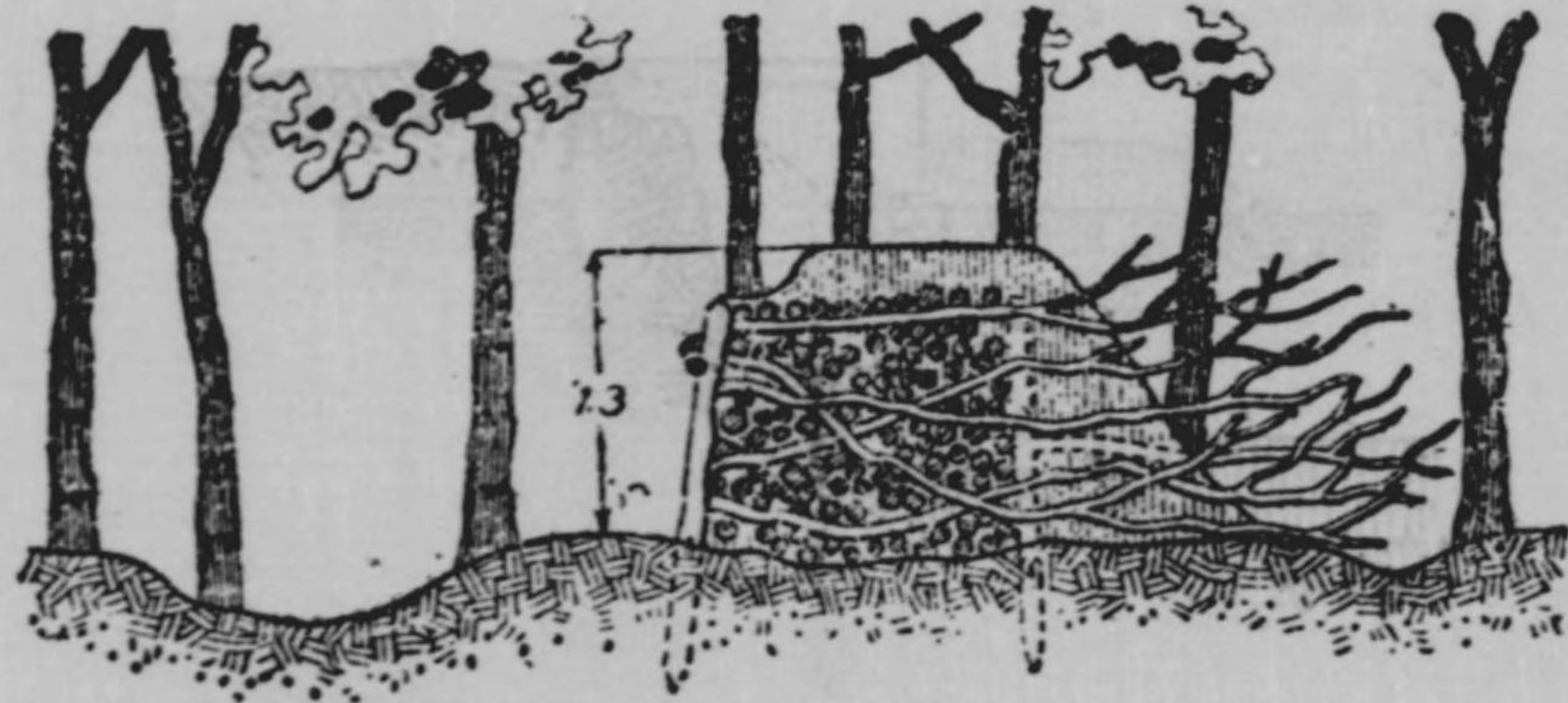
射撃ヲ妨害
スル下枝ヲ
伐除ス

下枝ヲ伐除シ
入手ノ頭部ヲ
入ルルニ便ニス



圖七第

壕兵散ノ合場ルナ難困開掘爲ノ根樹



圖八第

例ルセ施ヲ備設撃射ニ痕彈

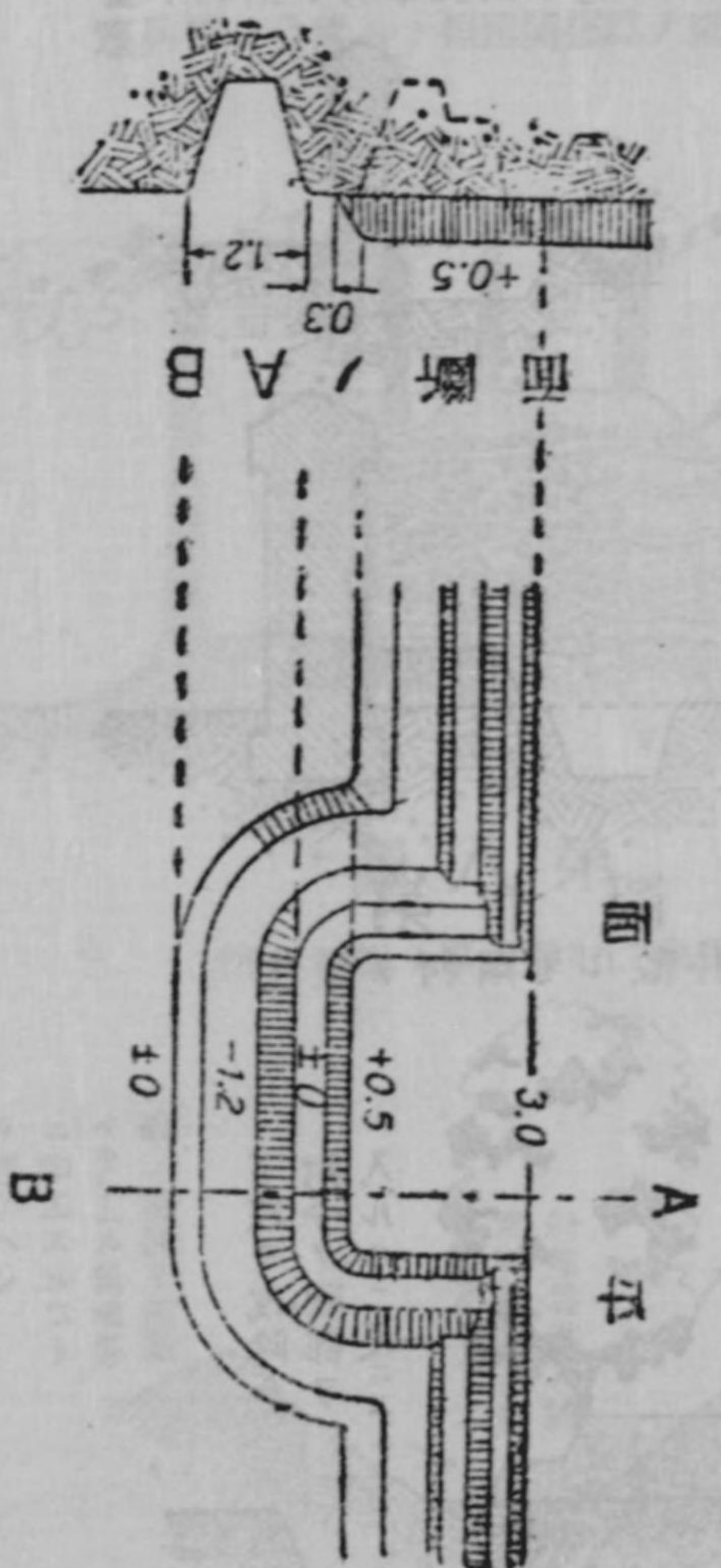
敵ノ認識ヲ困難
ナラシムル爲噴唇
ニ加工スルコト
ヲ避クヘシ

射撃設備ハ遠
常戦闘ノ直前
ニ行フモトス

噴唇

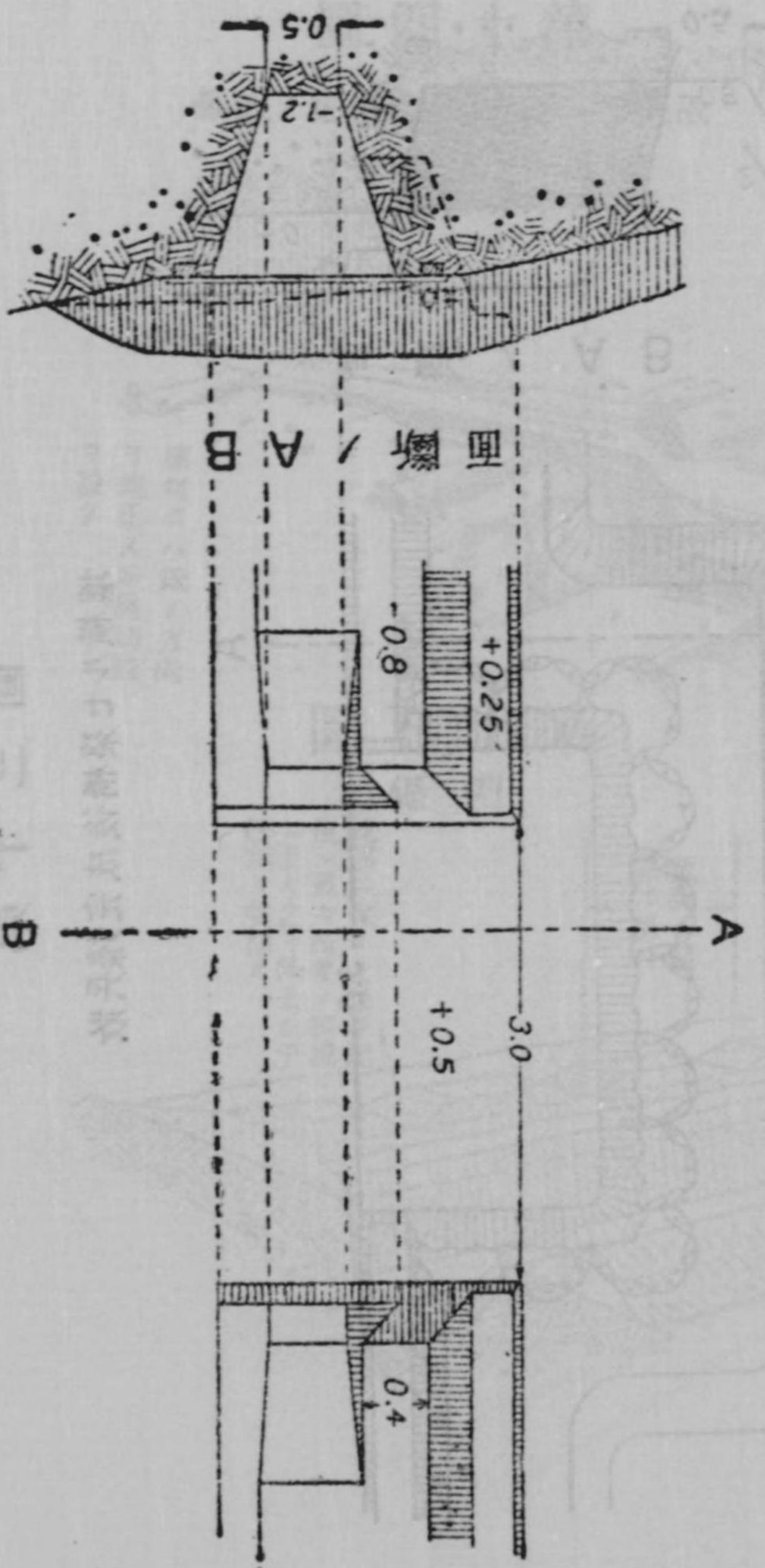


圖一十第
 壩 橫 面



圖二十第

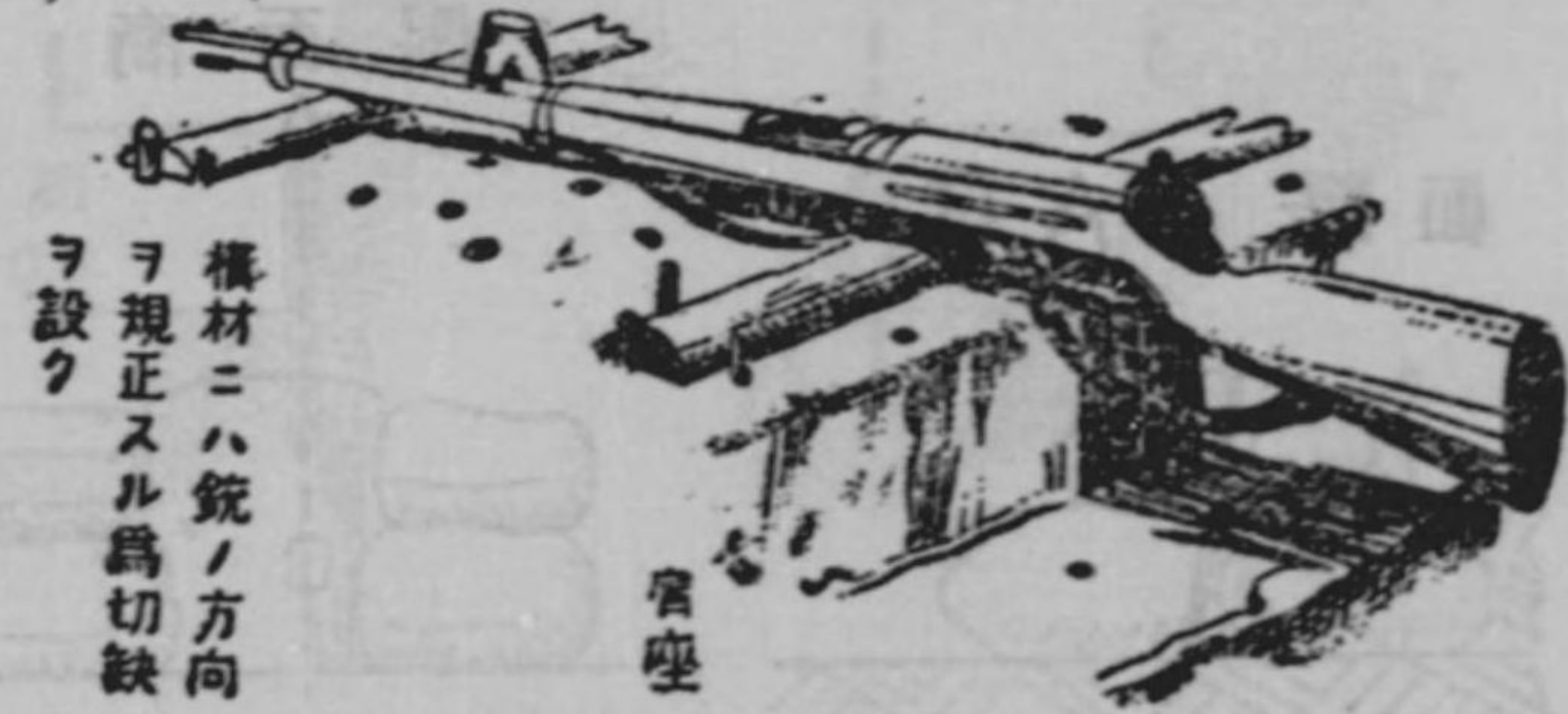
地 横 几 々 於 二 地 上 几 几 下 降 二 方 敵



圖四十第

備設ノ定標銃小ルケ於ニ壕兵散

ヲ銃射
防ノ擊ノ
抗ク抗起際

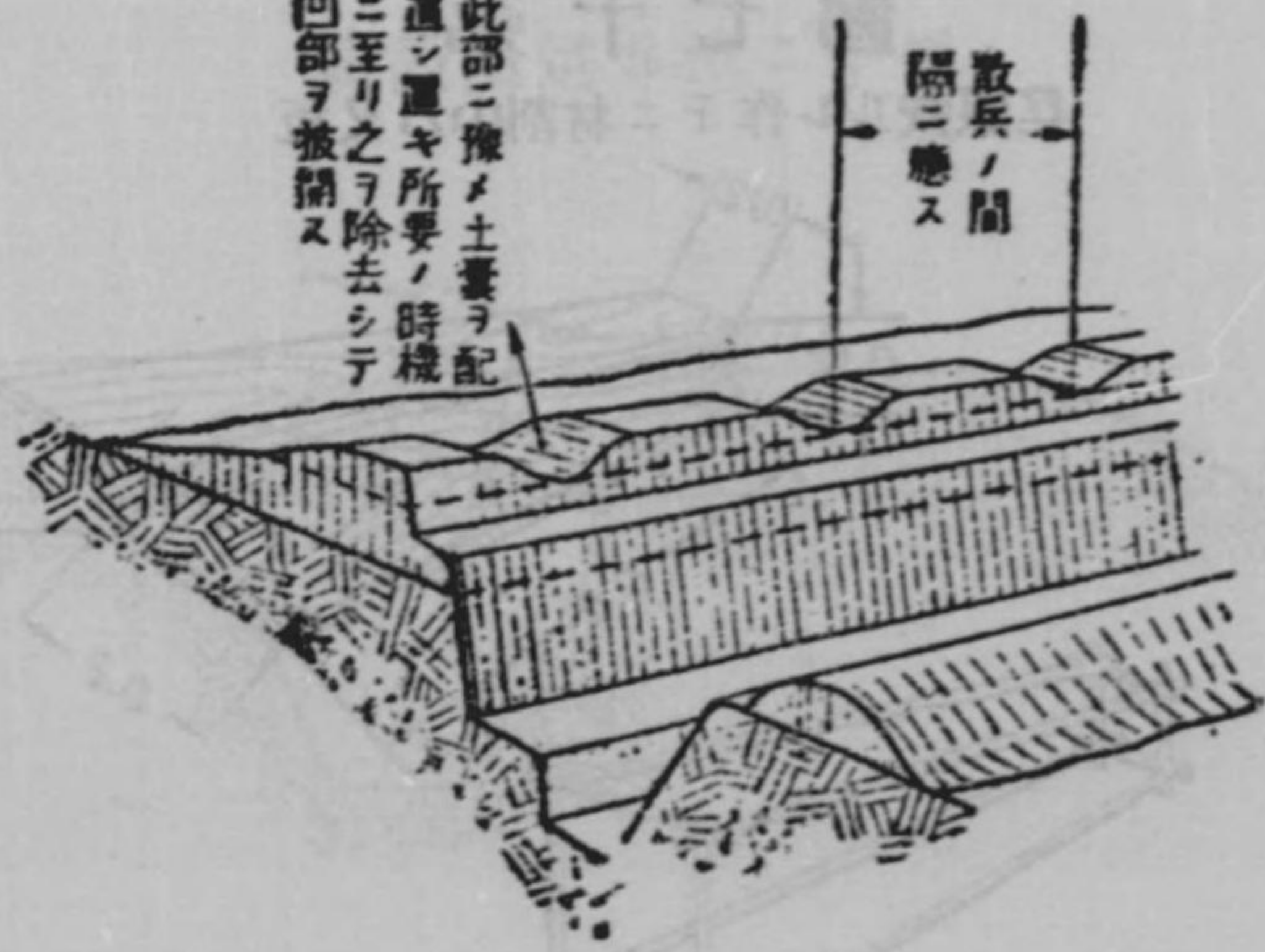


構材ニハ銃ノ方向
ヲ修正スル爲切缺
ヲ設ク

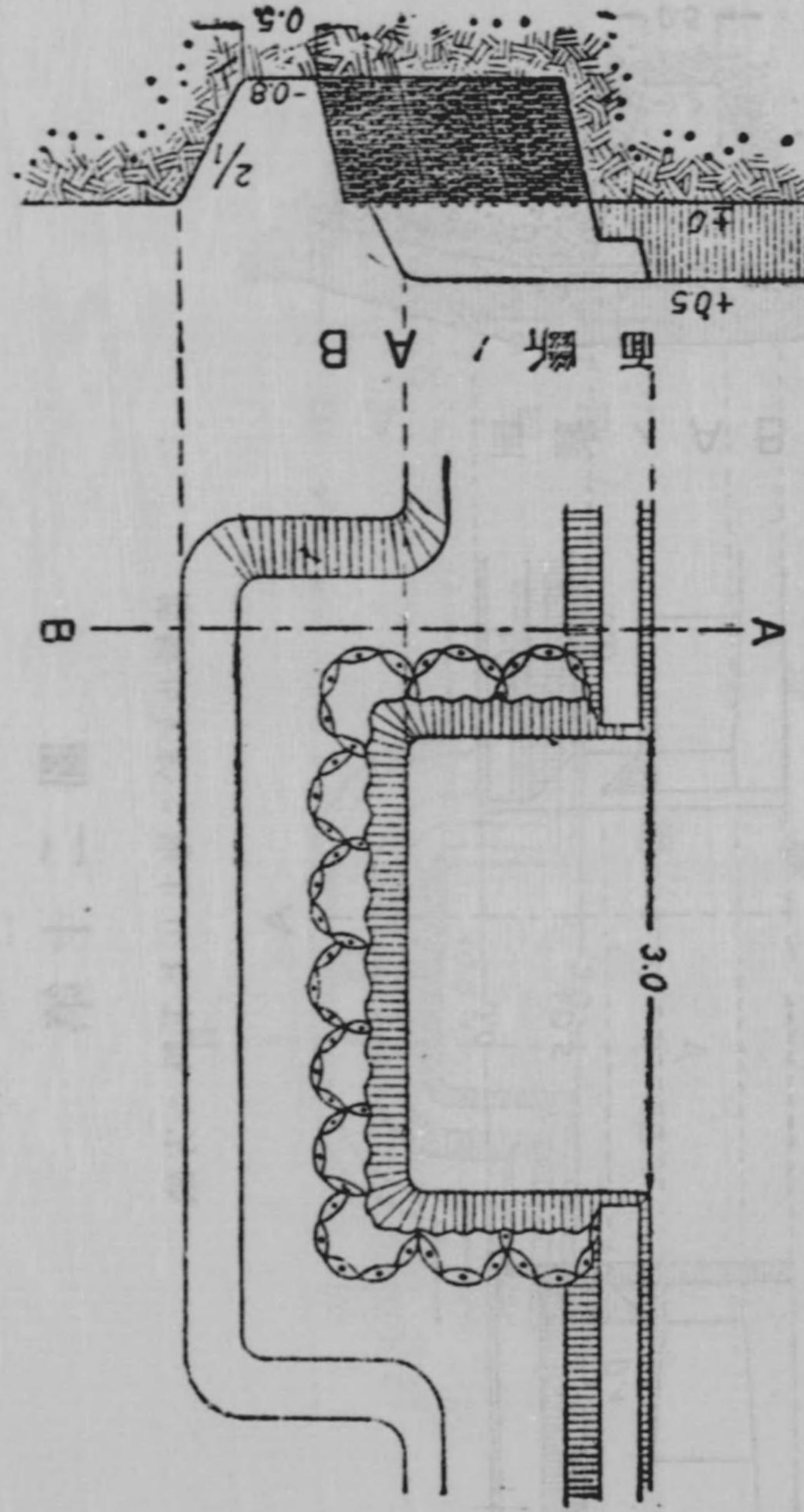
砲座

圖五十第
堡帽

此部ニ壕ノ土蓋ヲ配
置シ運キ所要ノ時機
ニ至リ之ヲ除去シテ
凹部ヲ披開ス

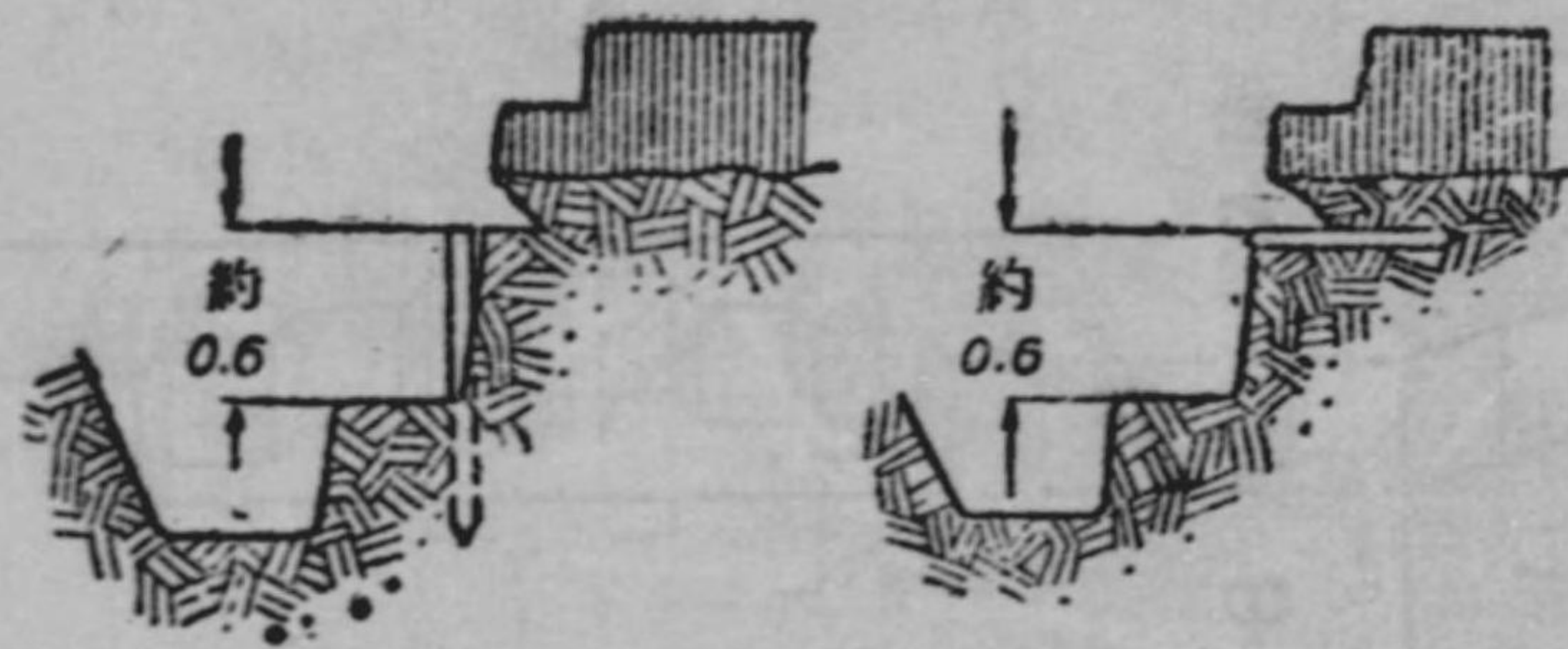


散兵ノ間
隔ニ應ス



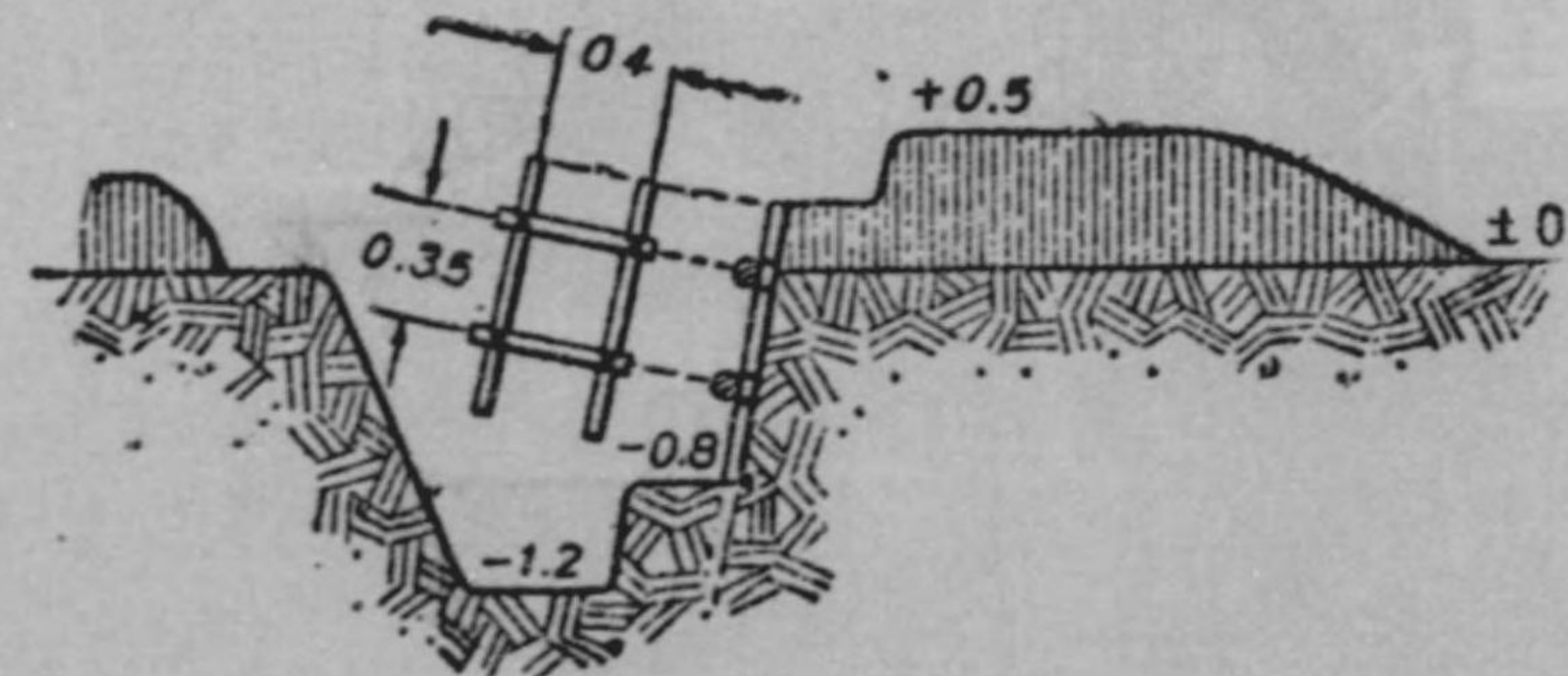
圖三十第
壕横ルセ築構後成完壕兵散

圖八十第
リ掛足



管座ノ前縁ニ小杭ヲ挿立シ進出ノ際
保持シ得ル如クセハ更ニ便利ナリ

圖九十第
備設出進ル依ニ子梯

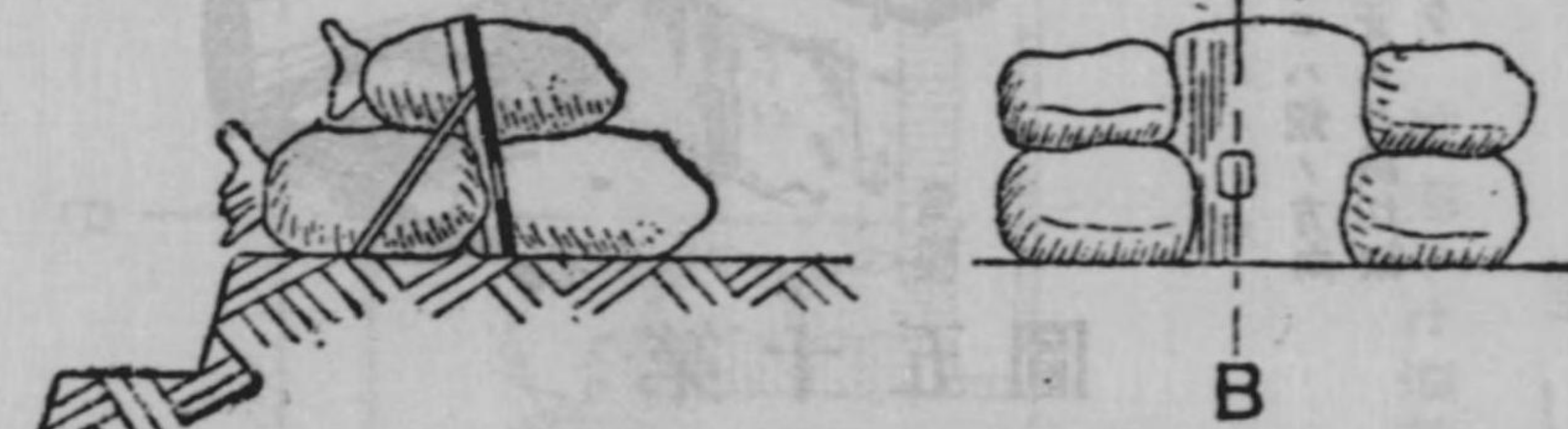


圖六十第

眼鏡ルセ用係ヲ橋防帶携

ルタ見リヨ方敵
圖面高

面斷ノAB



圖七十第

匡眼鏡ルレ作テニ材割小ハ又板

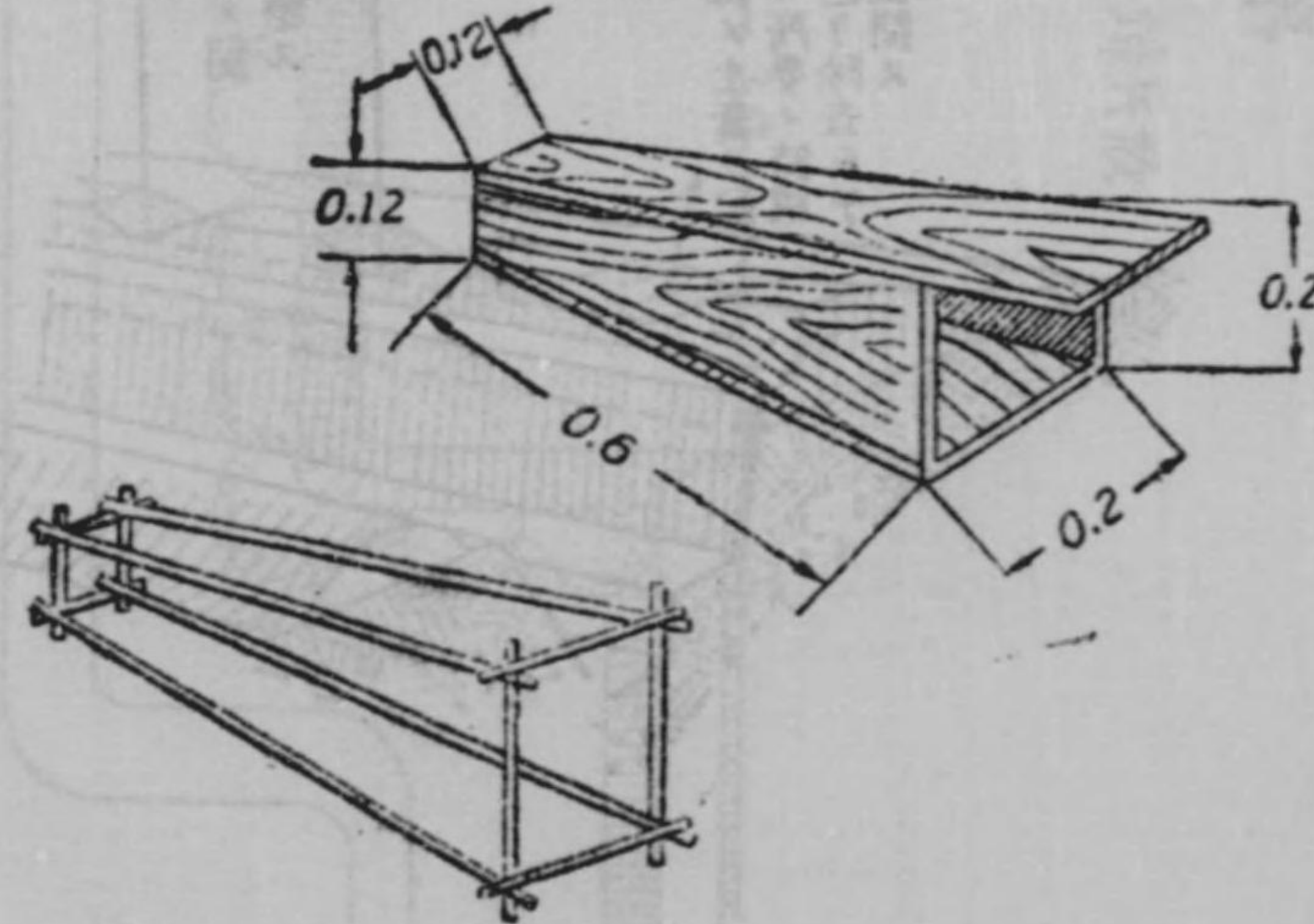


圖 二 十 二 第

築構ノ壕兵散ルケ於ニ下ノ火敵



圖 十 二 第

段階ルタケ設ニ面斜ノ壕

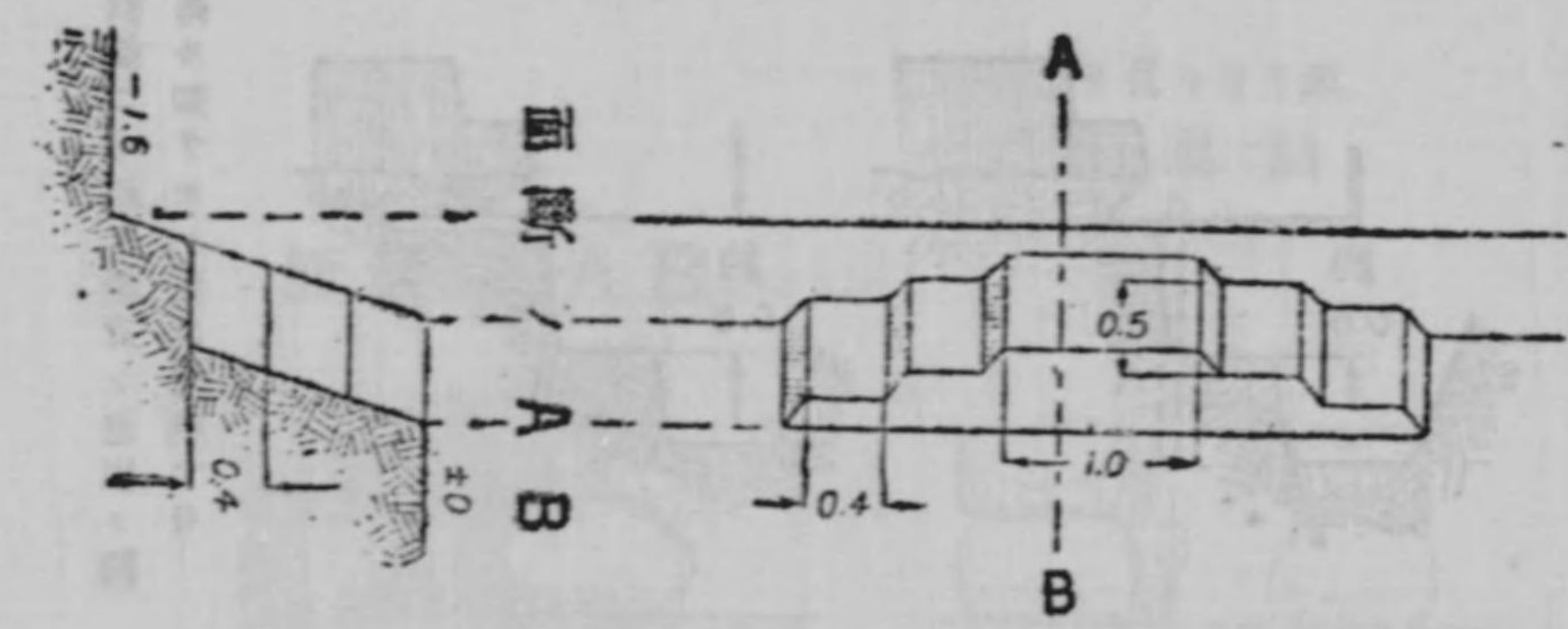
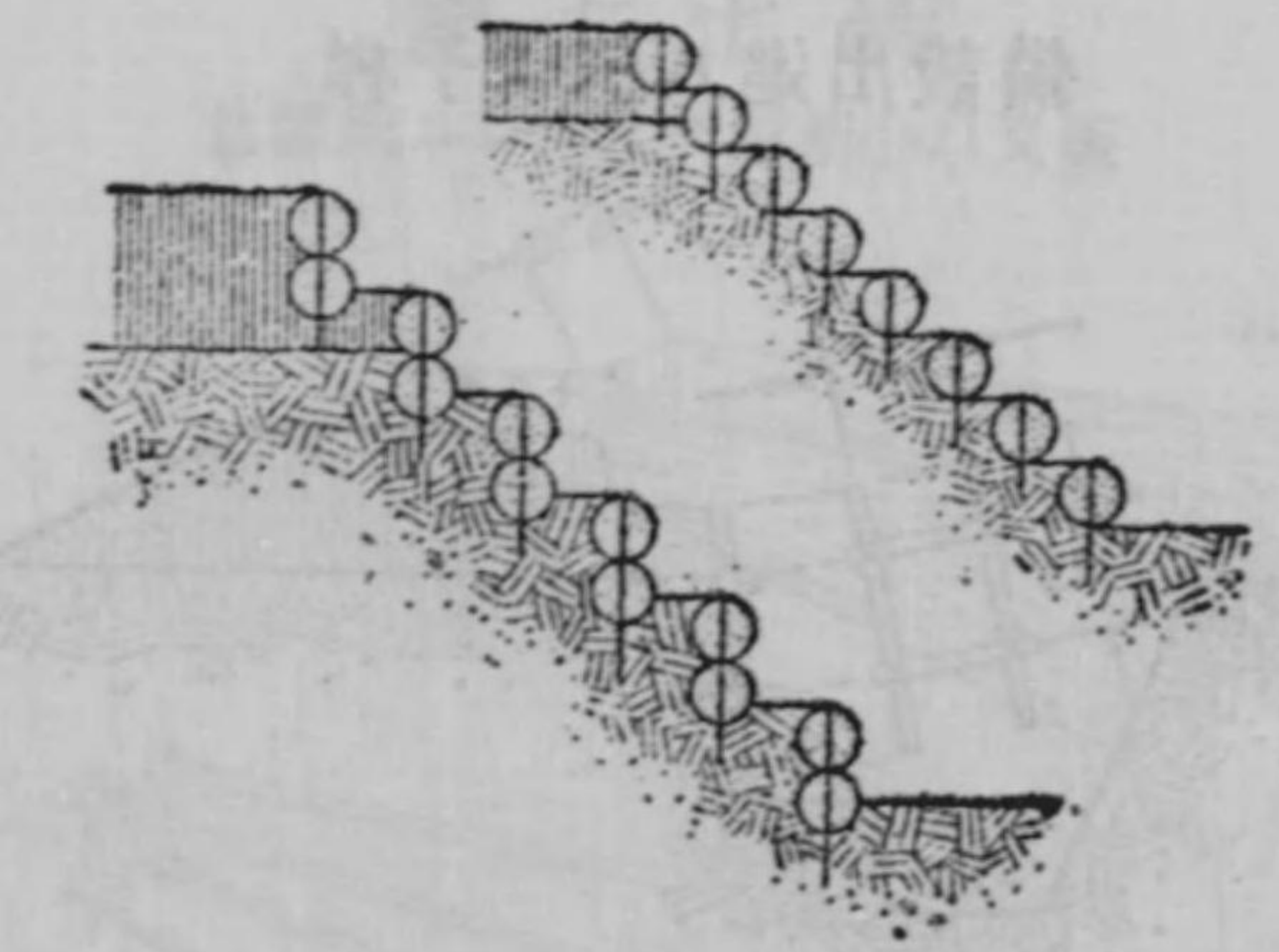
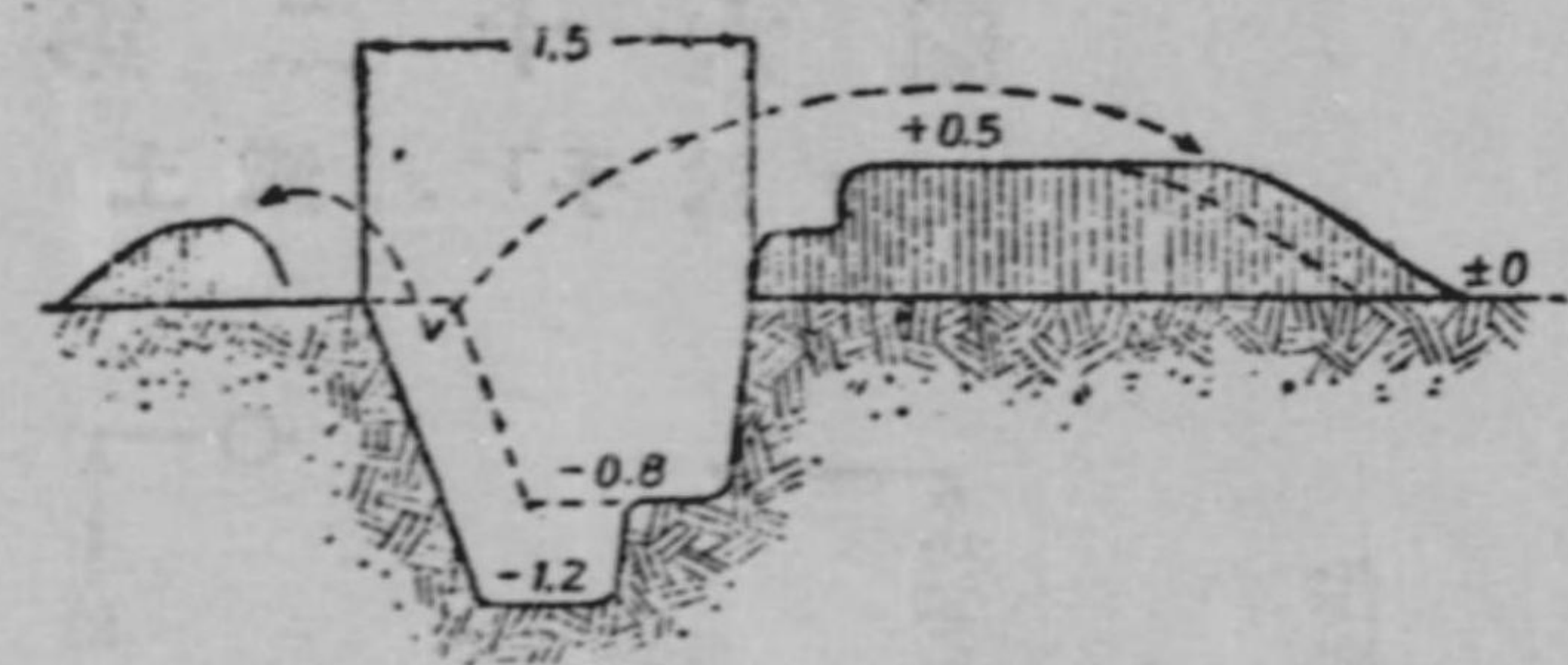


圖 一 十 二 第

段階ルレ作テニ柴束

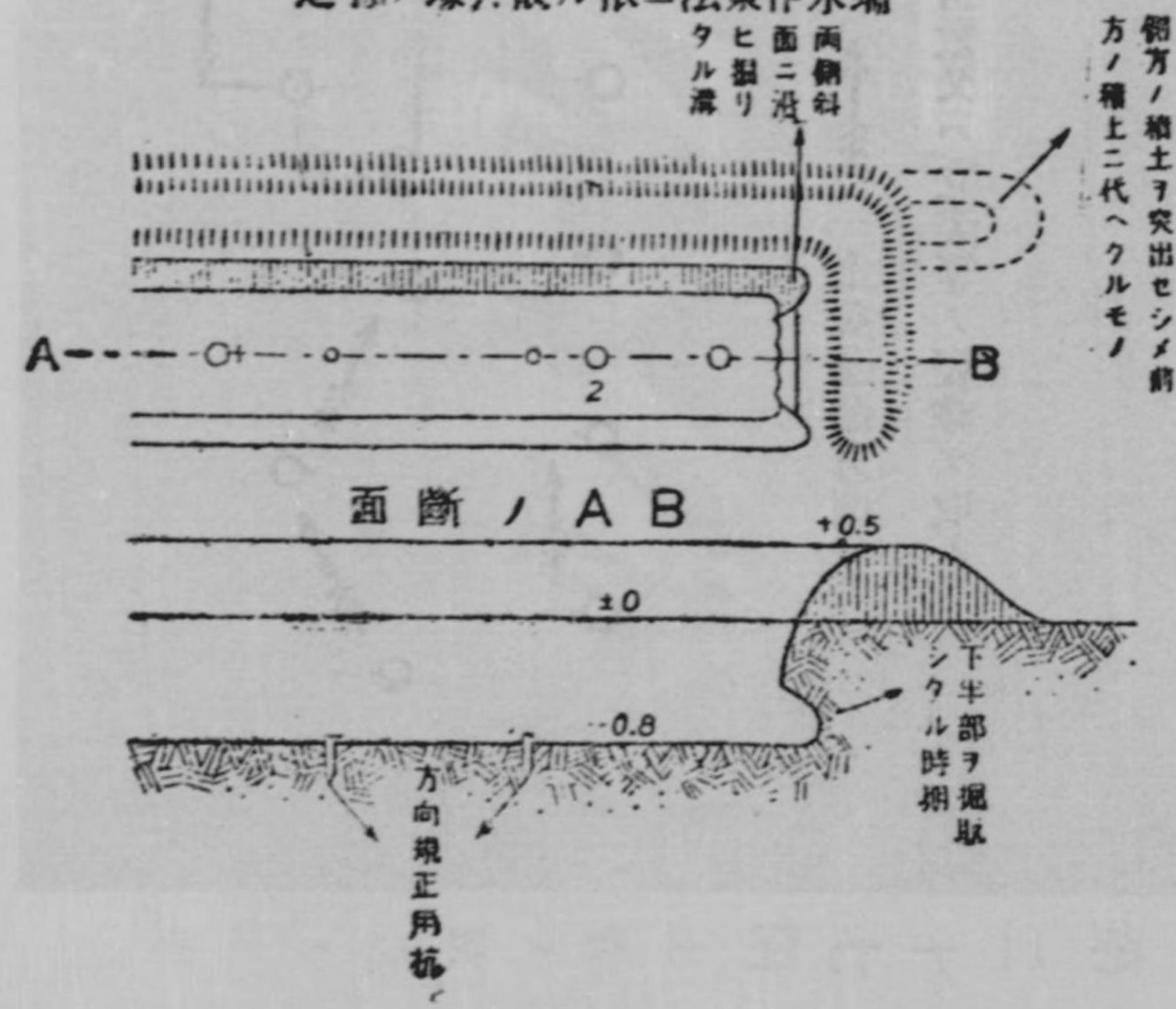


圖四十二第
 掘掘ノ壕兵散ルケ於ニ前敵



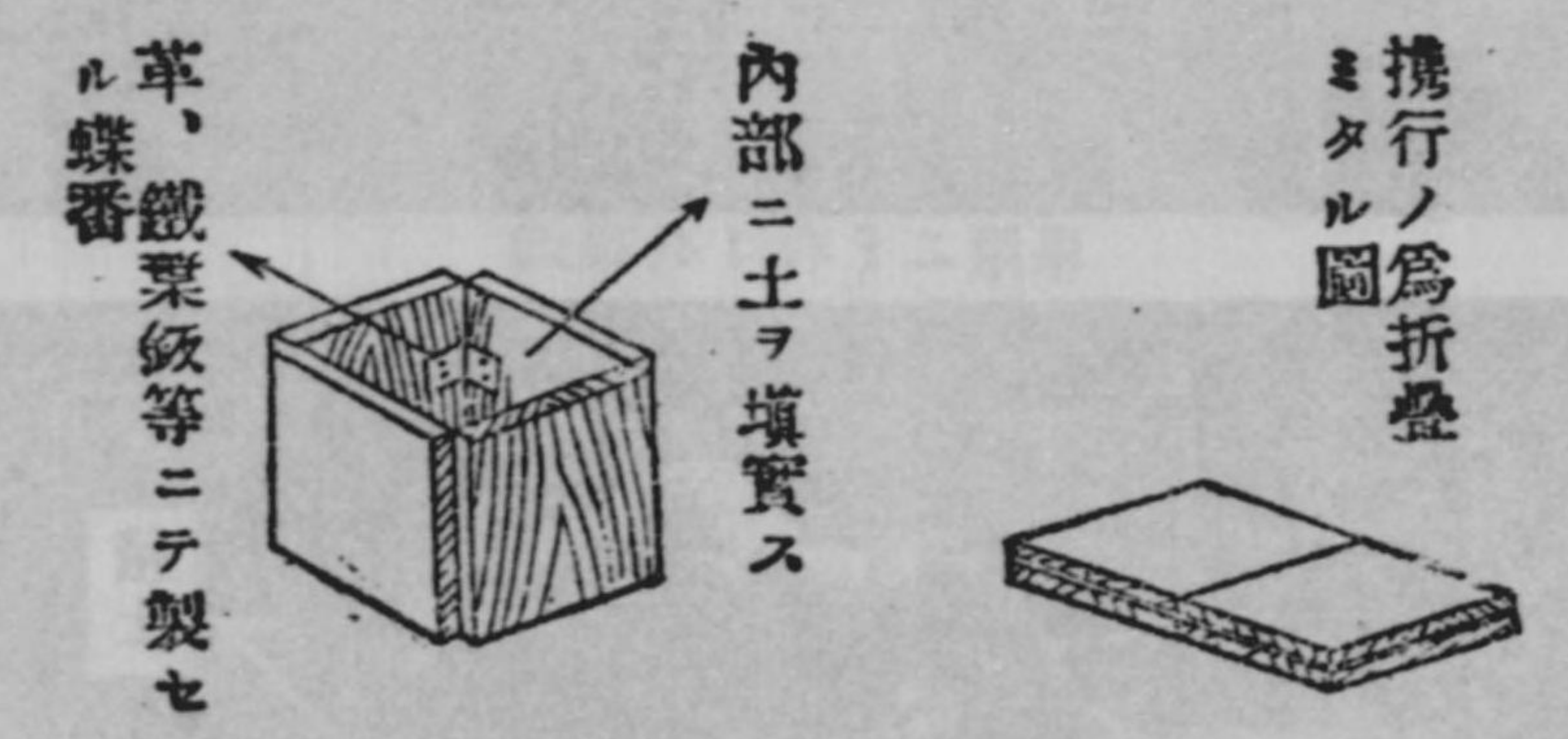
圖五十二第

進掘ノ壕兵散ル依ニ法業作末端



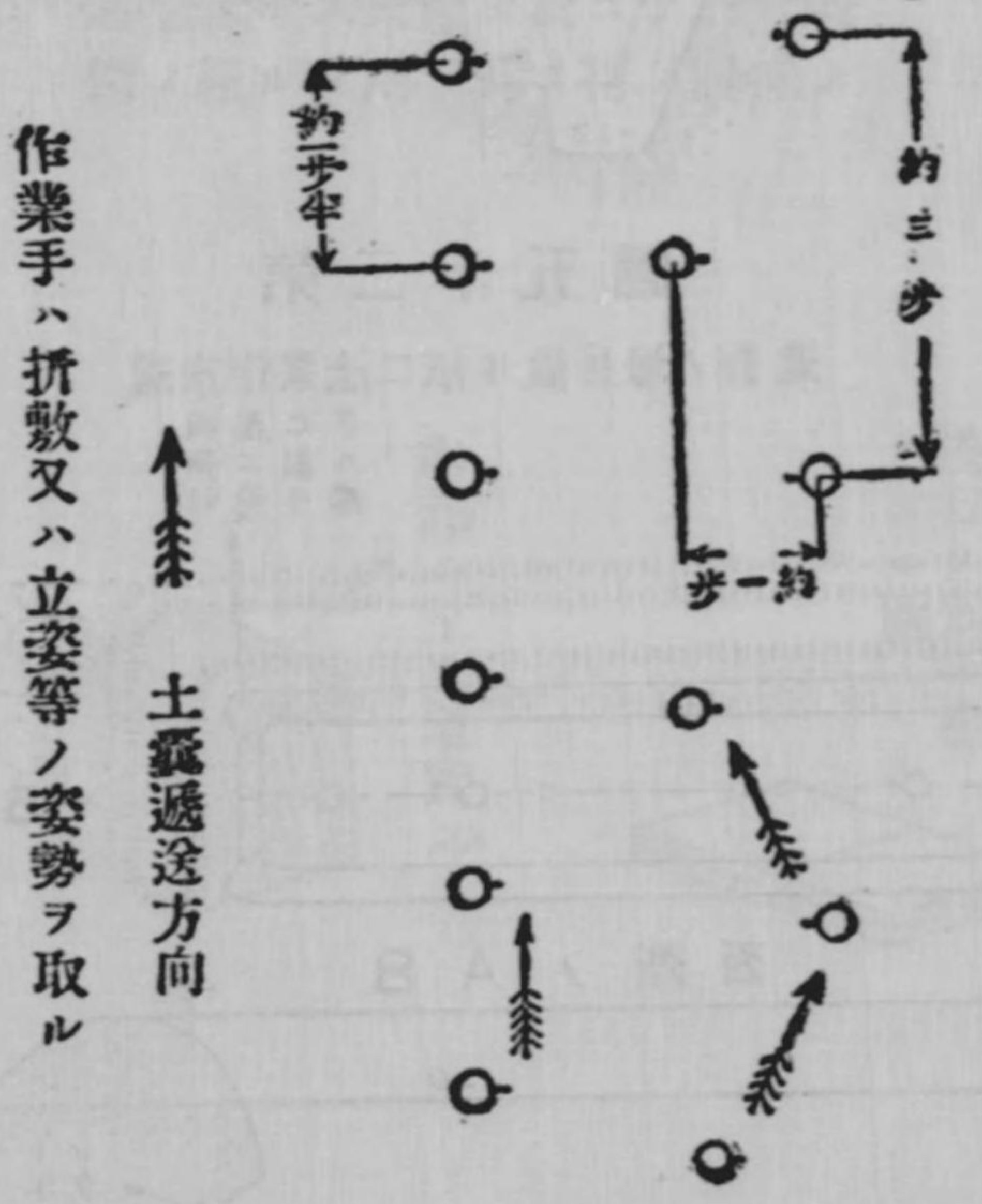
圖三十二第

急應際ルス業作ヲ於ニ下ノ火敵
 例ノ箱ルヲ用ニ爲ル得ヲ護掩ノ

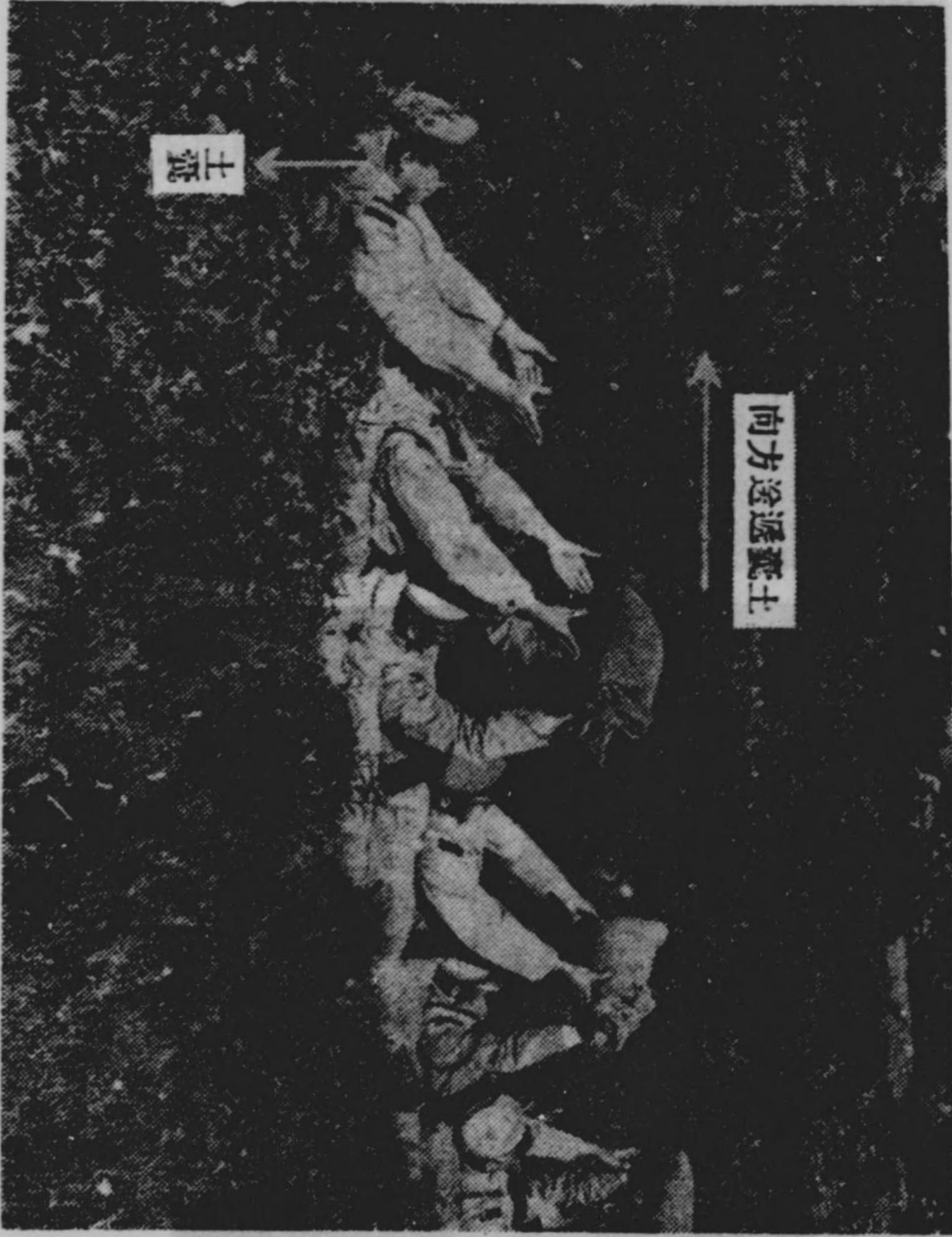


第二十四圖
 第二十六圖
圖六十二第

土囊ノ送手



作業手ハ折敷又ハ立姿等ノ姿勢ヲ取ル

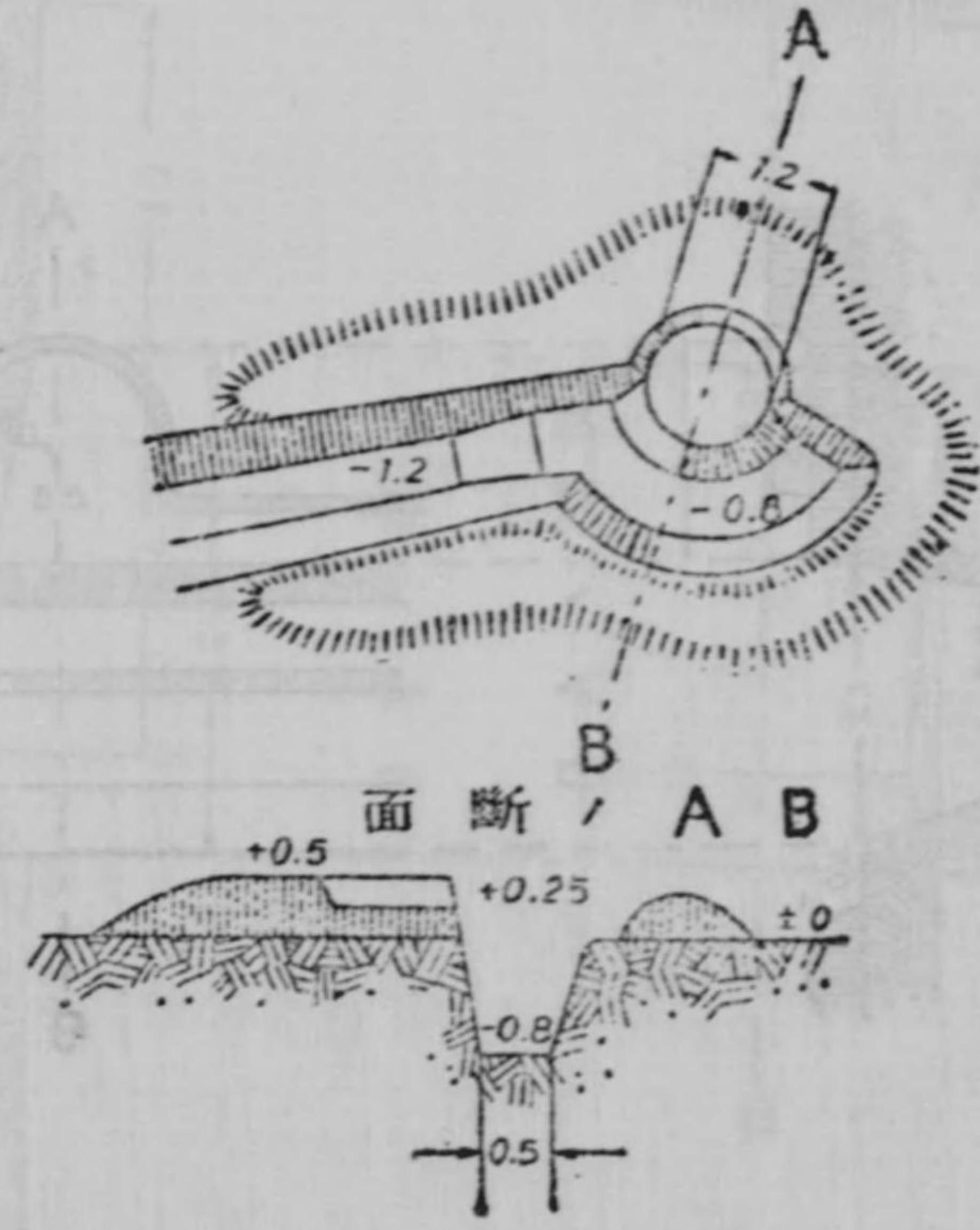


第二十七圖 土囊ノ臥送

圖九十二第

體掩用射立ノ銃關機輕ルタケ設テシ立獨

交通壕ト共ニ全部ヲ祕匿スルカ又ハ單ナル交通壕ノ如ク假裝ス



土カクハセ積堆



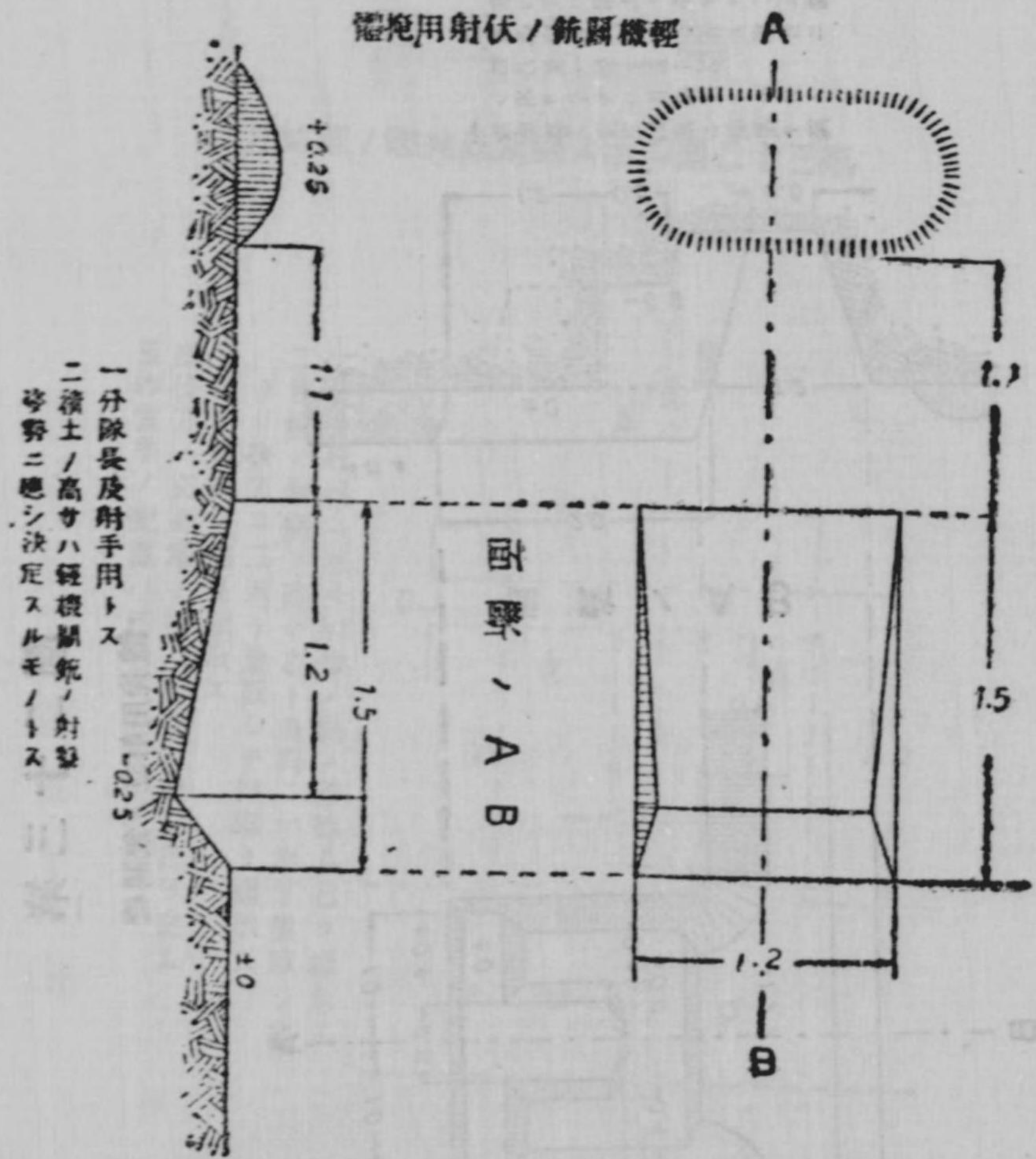
圖八十二第

作動ノ班積堆土



圖一十三第

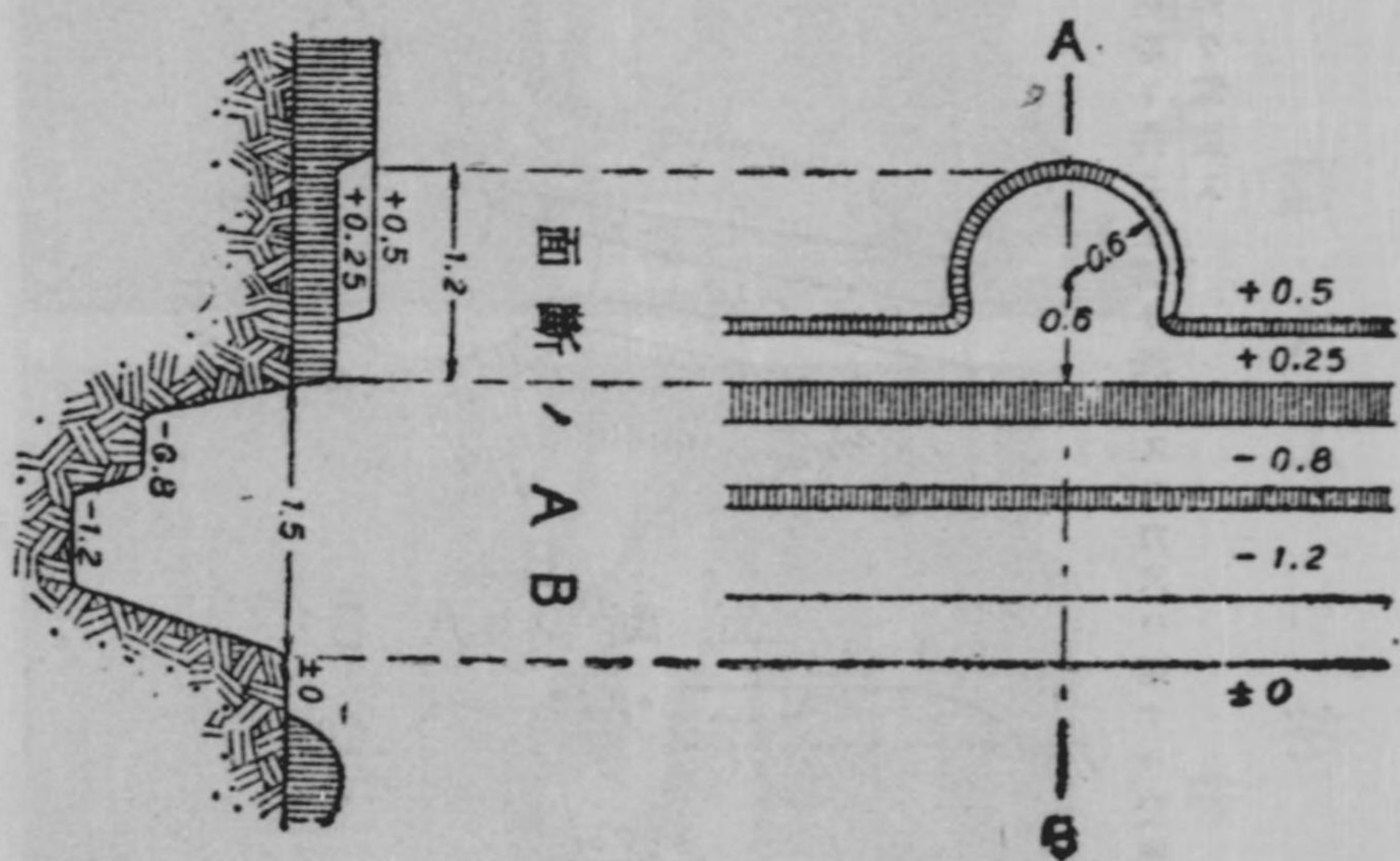
輕機銃用射伏體



一分隊長及射手用トス
 二積土ノ高さハ輕機銃ノ射撃
 姿勢ニ應シ決定スルモノトス

圖十三第

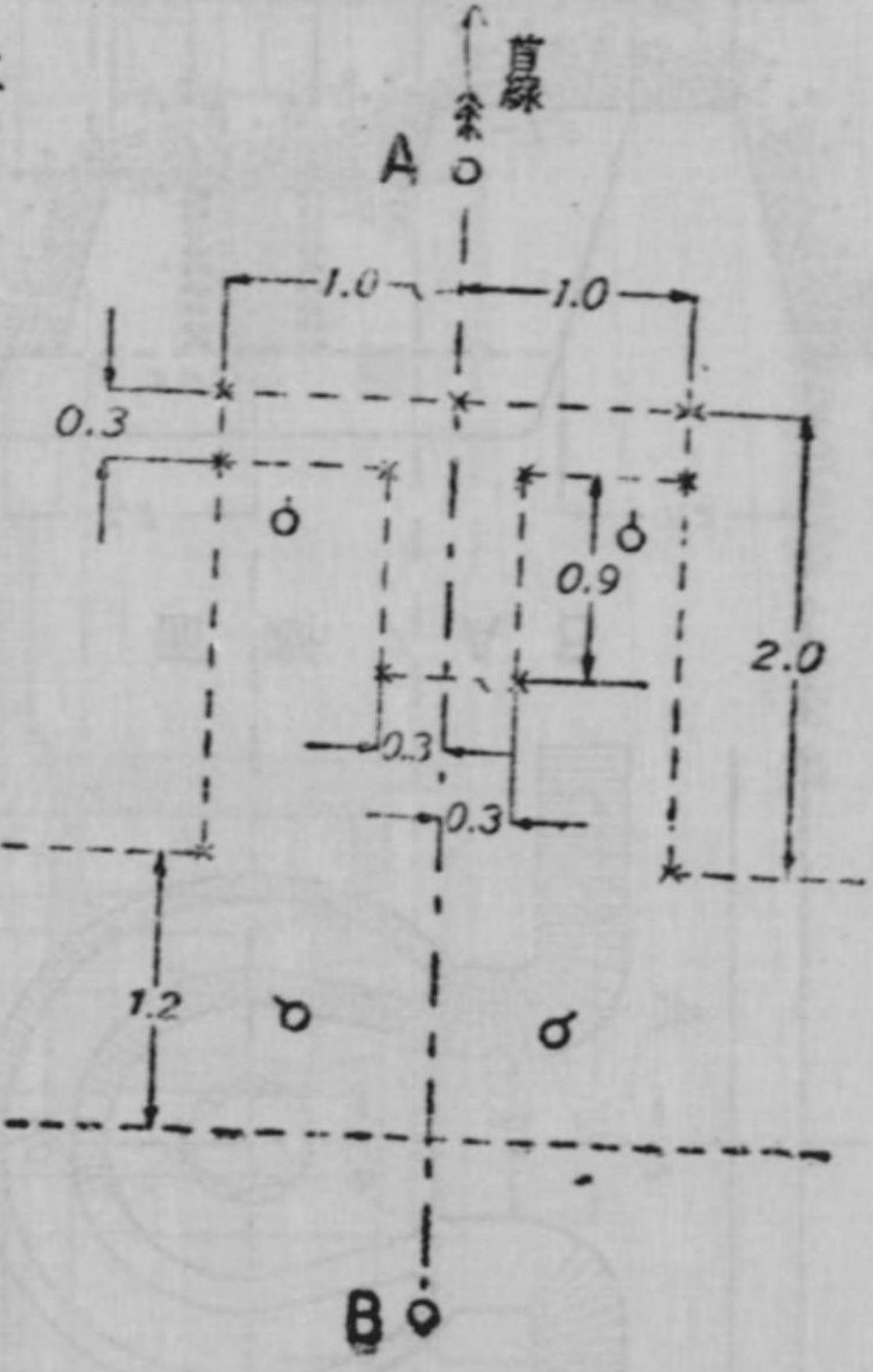
散兵壕ニ設ケル輕機銃用射立體



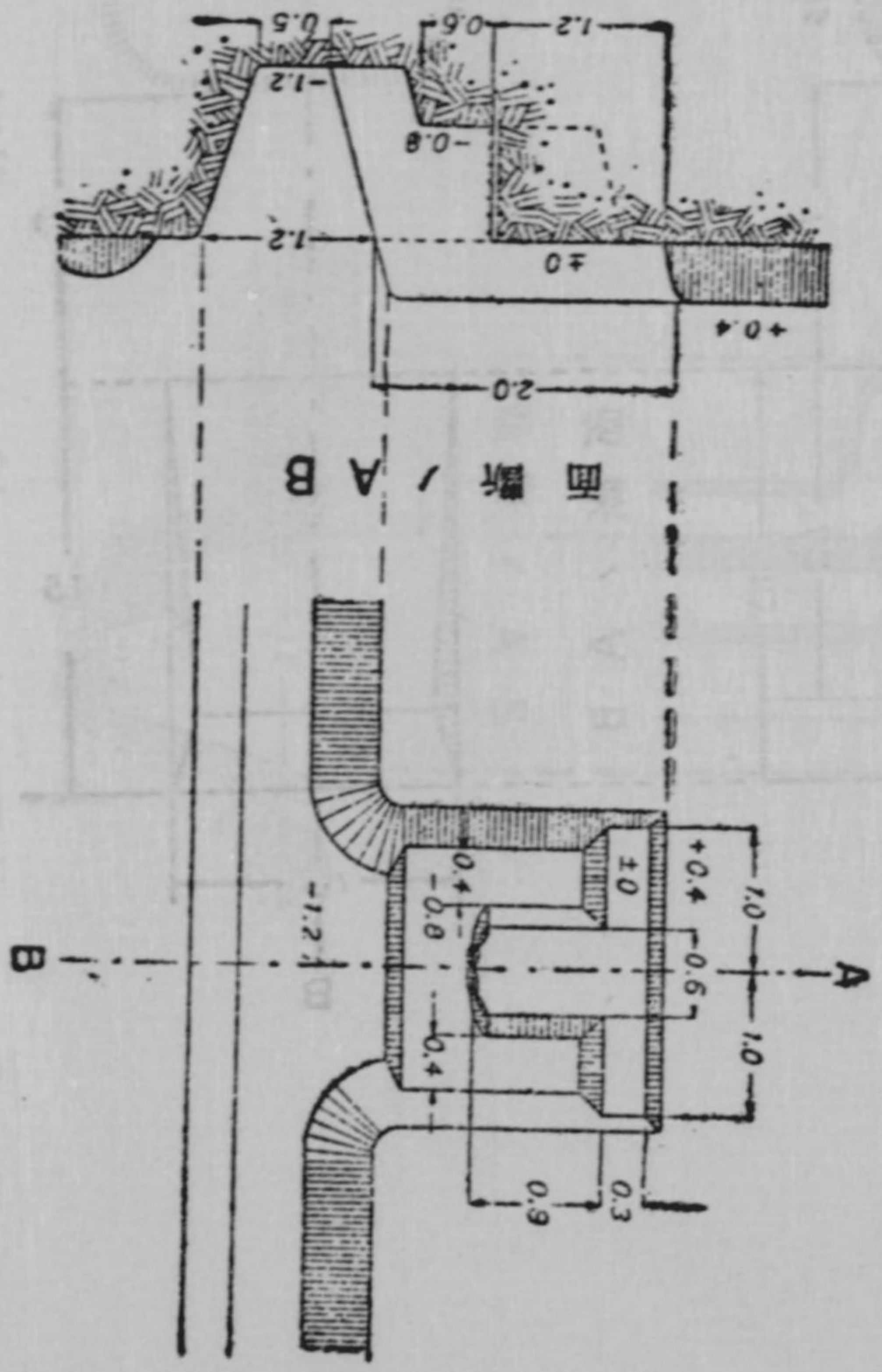
圖三十三第

法始經 / 體掩銃關機ス示ニ圖二十三第

- 一 先ツ任務ニ基キ射撃ノ爲ノ首線A Bヲ標示ス
- 二 首線ノ兩側ニ於テ之ト直角ニ一米ヲ量取シ之ヨリ後方ニ二米ヲ量取シテ外廊ヲ標示ス
- 三 次ニ銃床ノ部ヲ標示ス
- 四 後方ノ交通壕ノ幅ハ所要ニ應シ之ヲ定ム
- 五 作業手ノ配置ハ四名ノ場合ヲ示ス



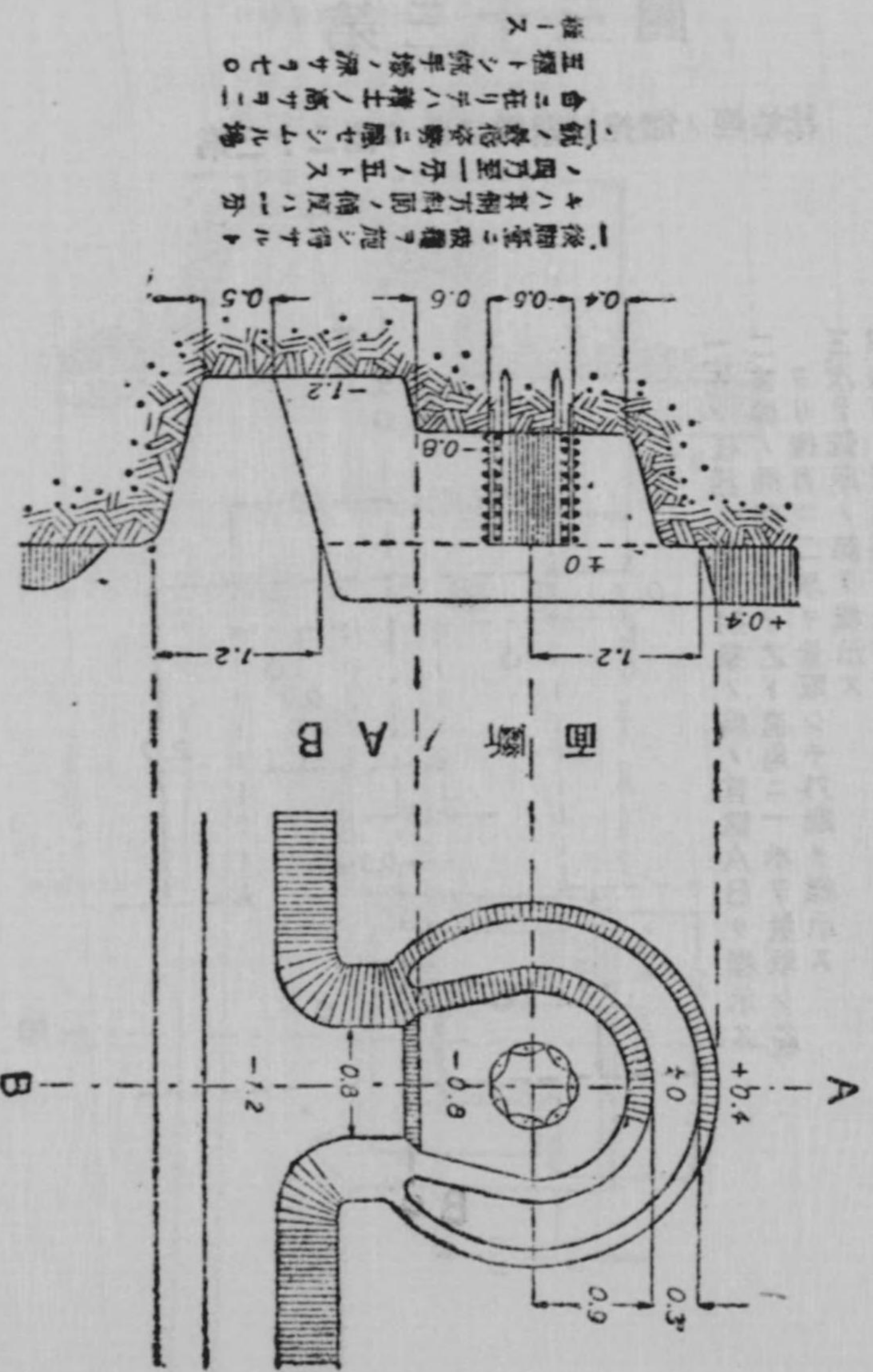
1 後方壕ノ深方斜面ニ銃眼ヲ施シ
 2 前方壕ノ深方斜面ニ銃眼ヲ施シ
 3 前方壕ノ深方斜面ニ銃眼ヲ施シ
 4 前方壕ノ深方斜面ニ銃眼ヲ施シ
 5 前方壕ノ深方斜面ニ銃眼ヲ施シ



圖二十三第
 體掩銃用射立ノ銃關機

圖四十三第

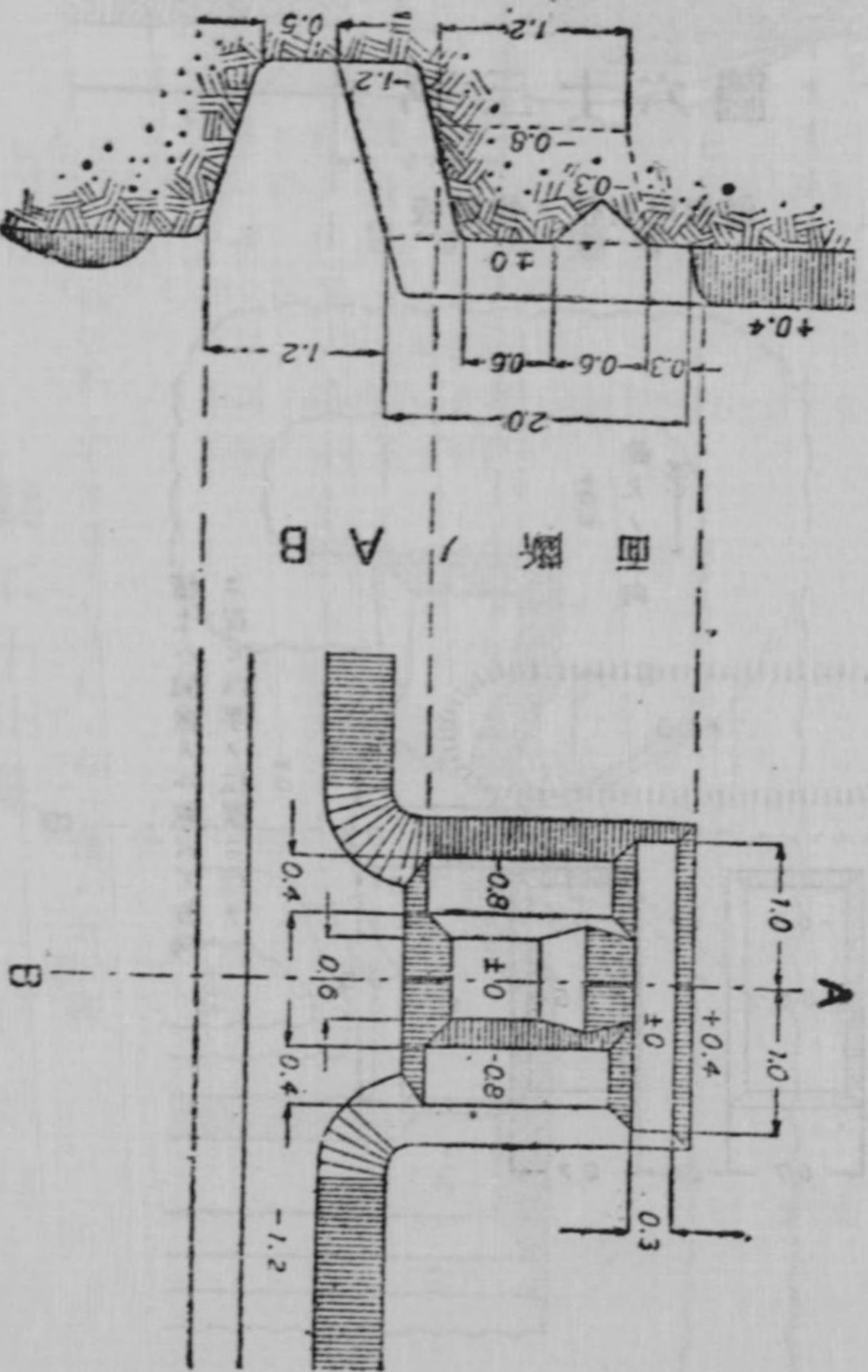
體施用射立ノ銃購機ル又右ヲ界射キ廣

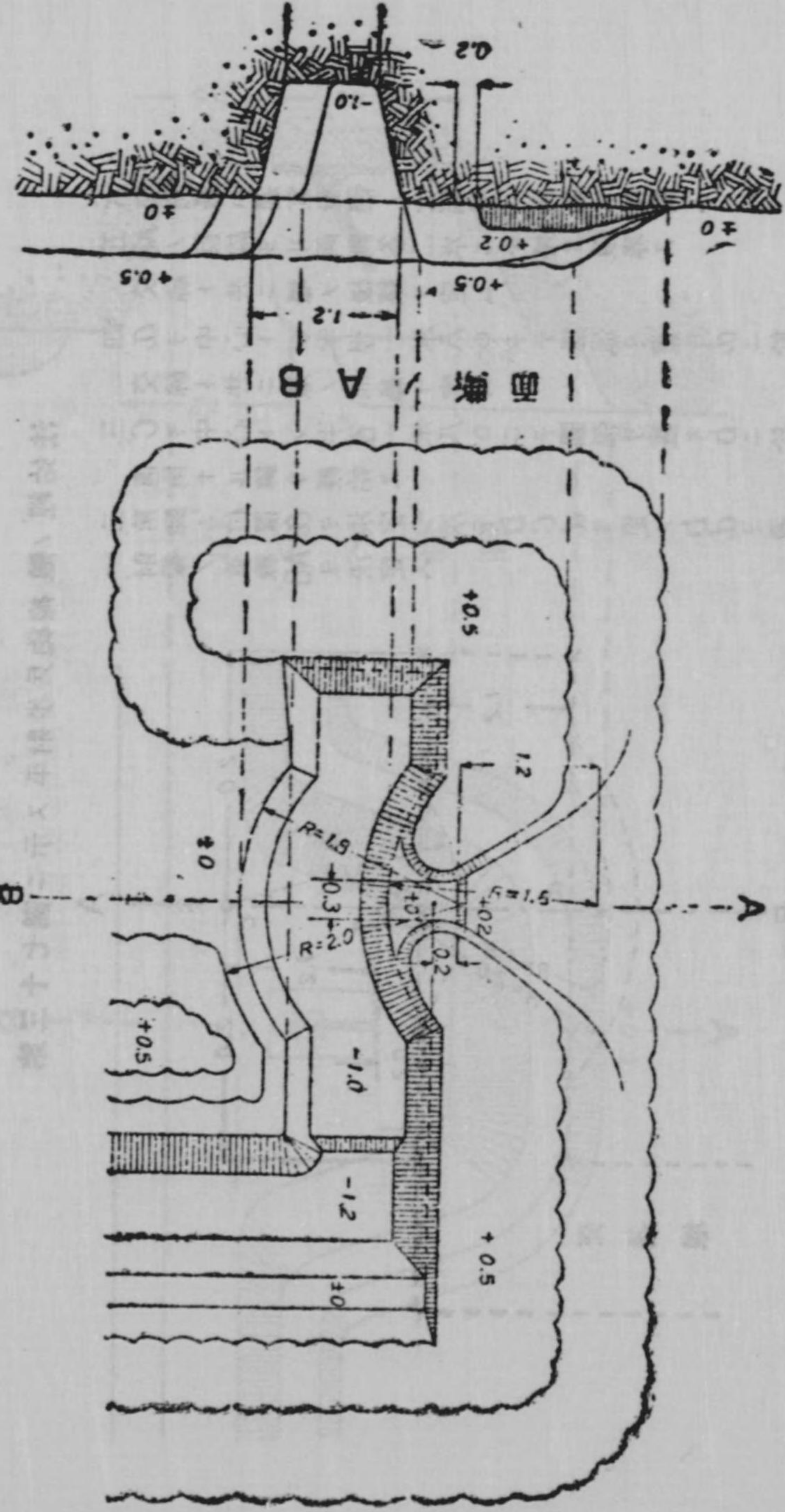


1 後照器ニ取替テ施シ得サル
 * 八其側方前面ノ傾度ハ一カ
 ノ四乃至一五ト又
 1 銃ノ發射管ニ應ジシムル場
 合ニ在リテハ積土ノ高ヲヨ
 五種トシテ先手檢ノ深サヲ七〇
 度トス

圖五十三第

體施用射立ノ銃購機

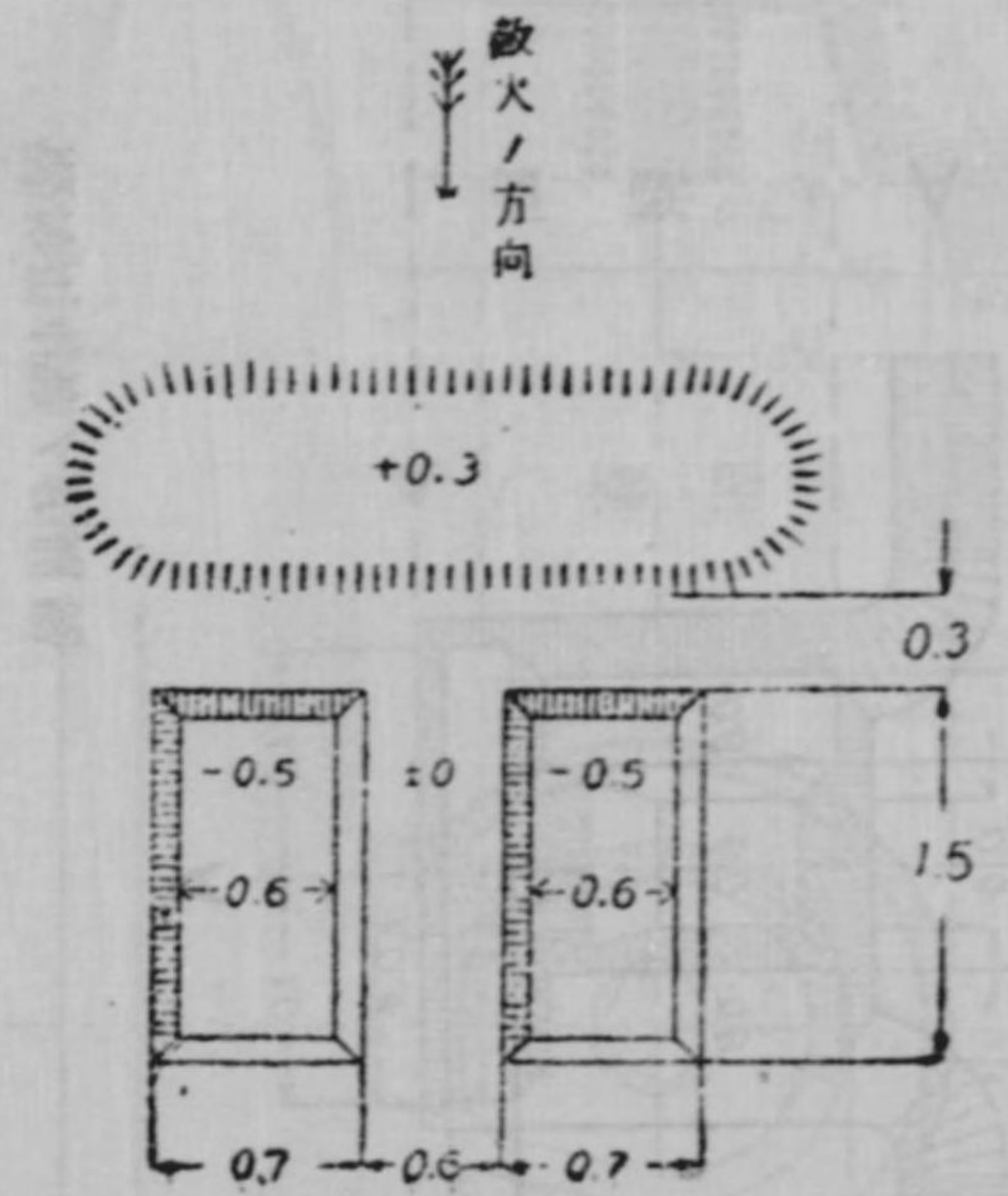




圖七十三第
機槍用射立ノ砲兵歩射平

圖六十三第

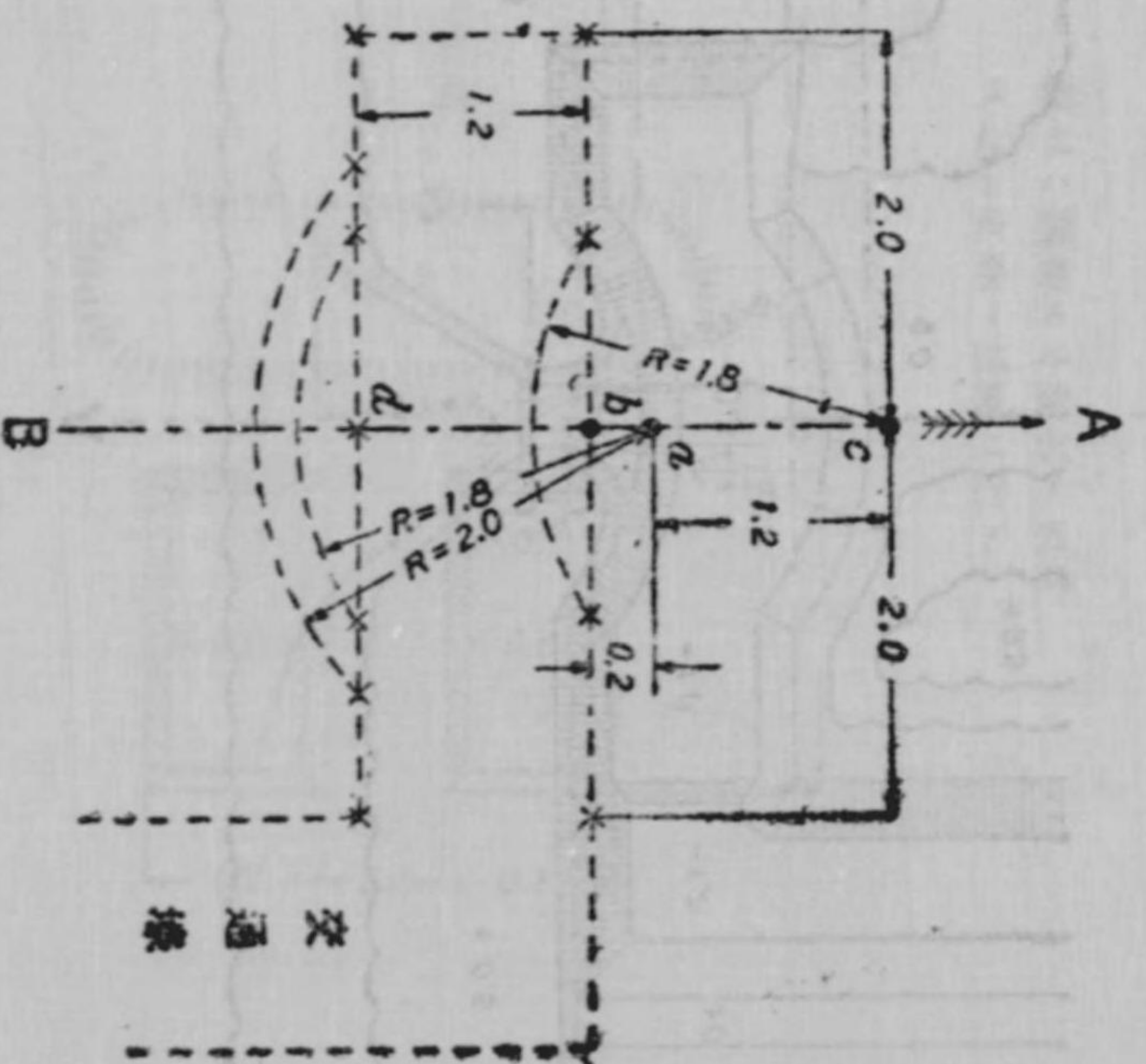
機槍用射伏ノ銃關機



積土ハ願應スル敵火ノ方向
ニ從ヒ所要ノ位置ニ行フ

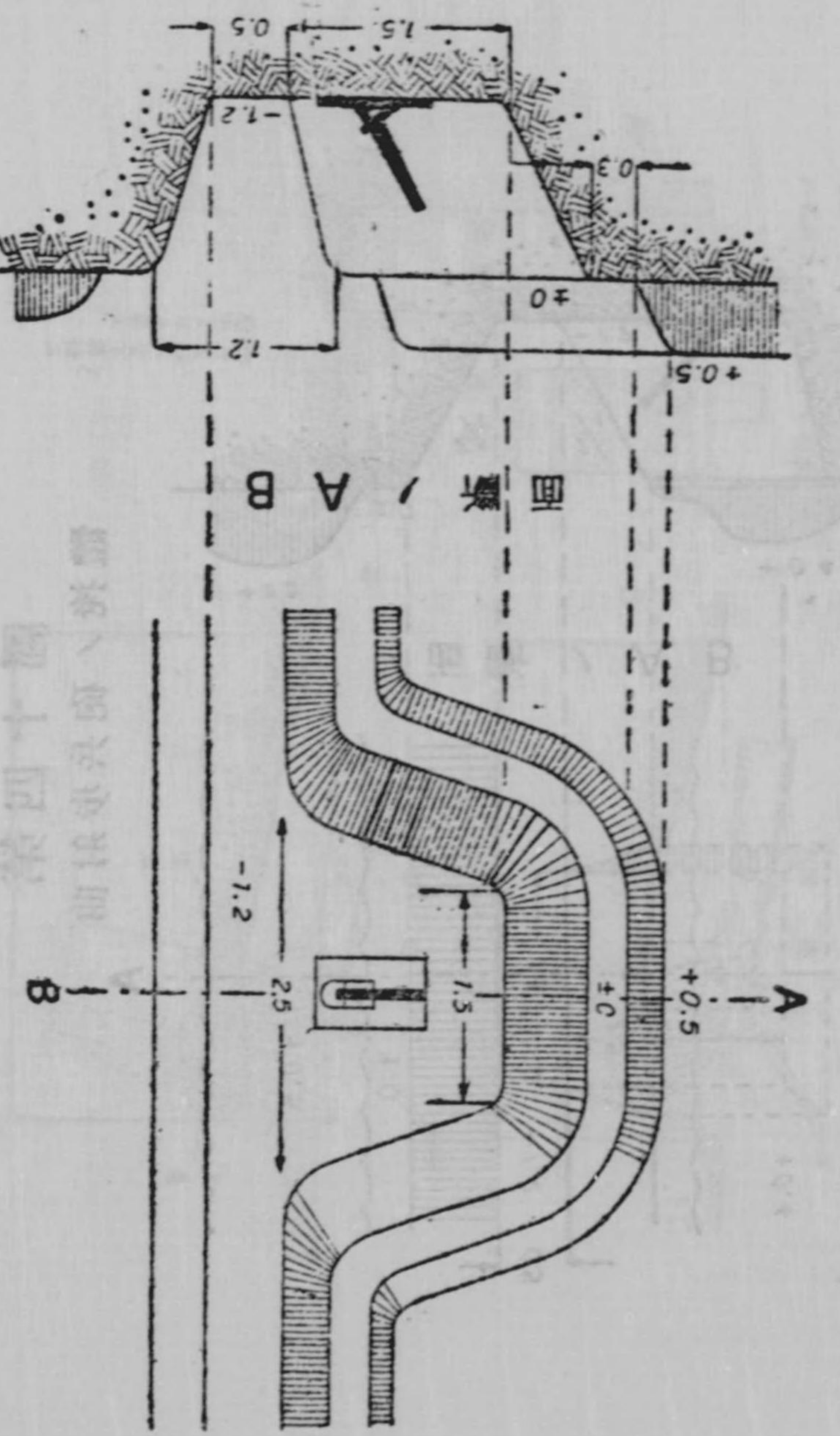
圖八十三第

法始經 / 體掩砲兵步射平又示二圖七十三第

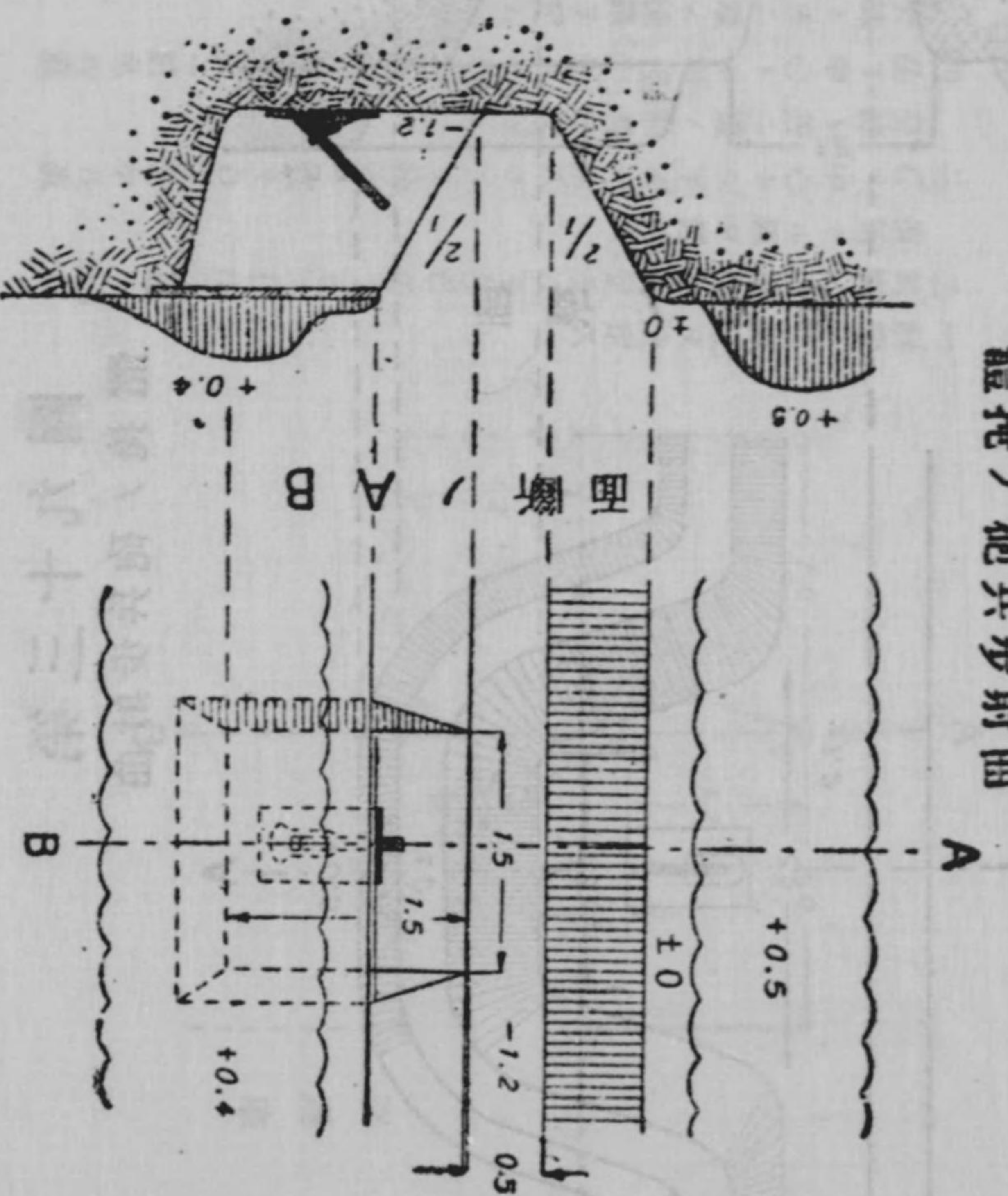


- 一 射撃ノ首線ABヲ決定ス
- 二 前脚ノ位置Qヲ決定シ次ニbCdヲ定メbdヲ通シABニ直角ナル線ヲ經始ス
- 三 Cヲ中心トシ半径一米八〇ニテ圓弧ヲ畫キDニ於ケル處交線ト共ニ線ノ前線ヲ定ム
- 四 Qヲ中心トシ半径一米八〇ニテ圓弧ヲ畫キDニ於ケル處交線ト共ニ線ノ後線ヲ定ム
- 五 ABノ首線ヨリ兩側各二米ニテ掩ヲ限界ス
- 六 交通壕ハ適宜掩體ノ一端或ハ兩端ニ接續ス

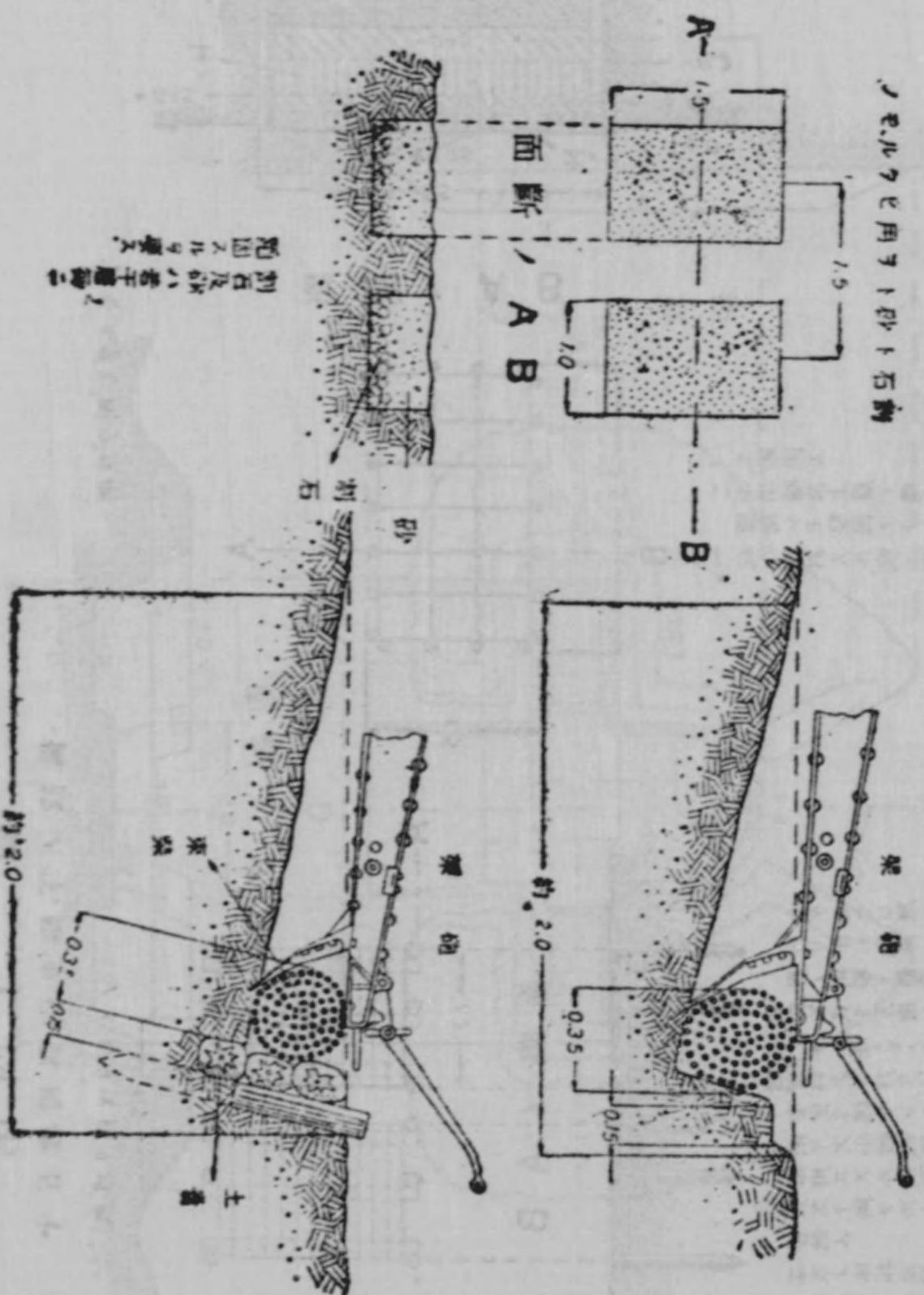
圖九十三第 體掩ノ砲兵步射曲

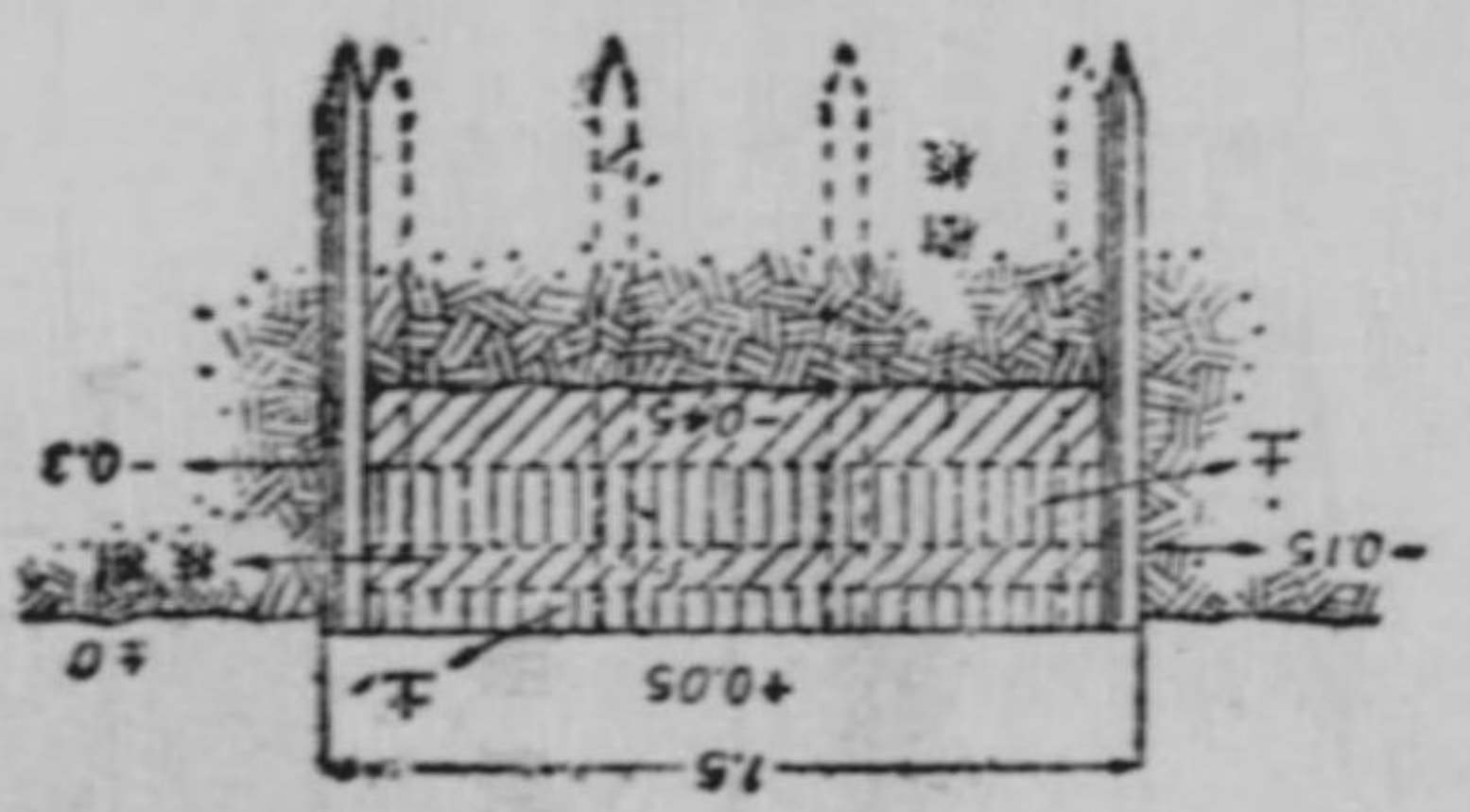


第十四圖
曲射步兵砲掩體



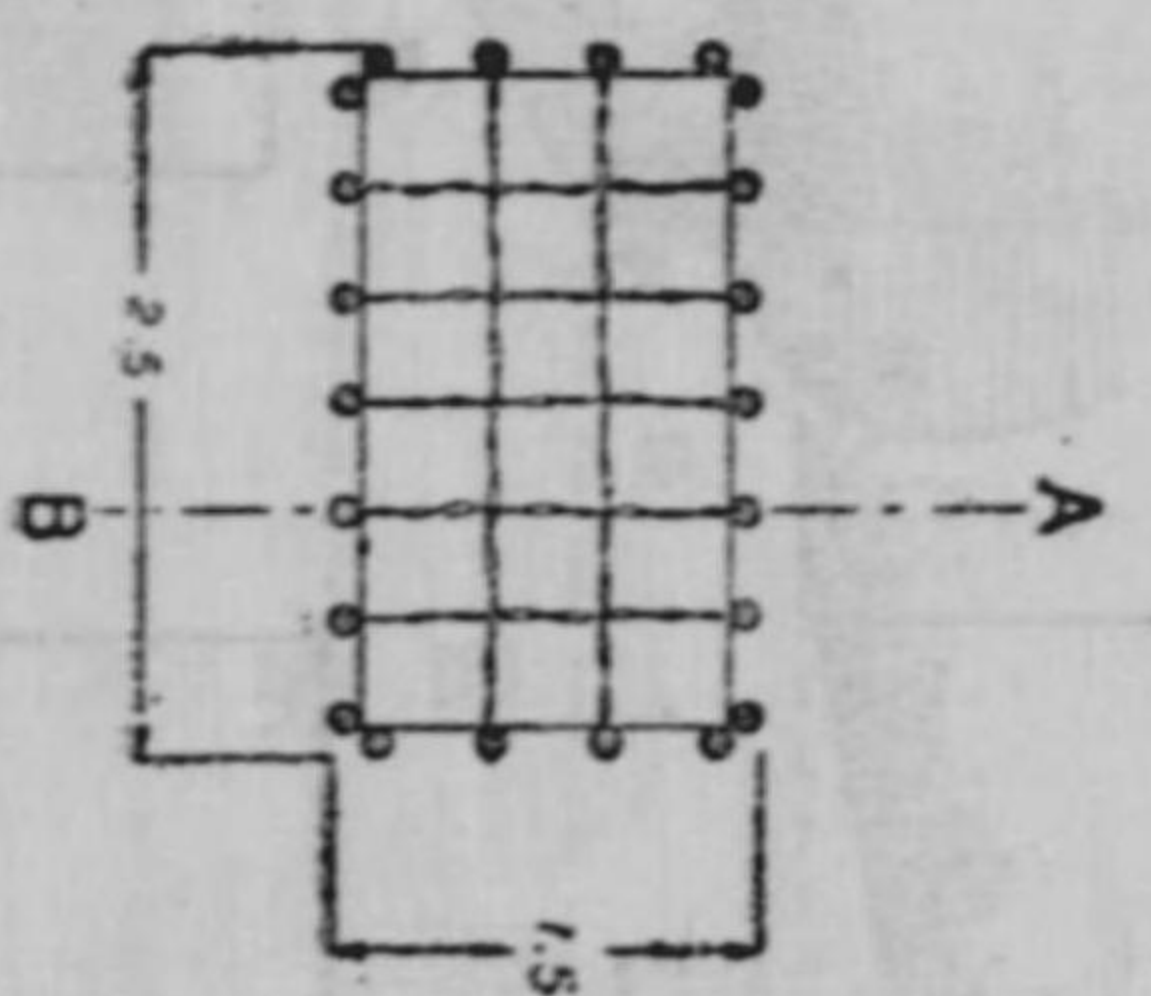
第十四圖
五十厘米彈筒架位置之設置





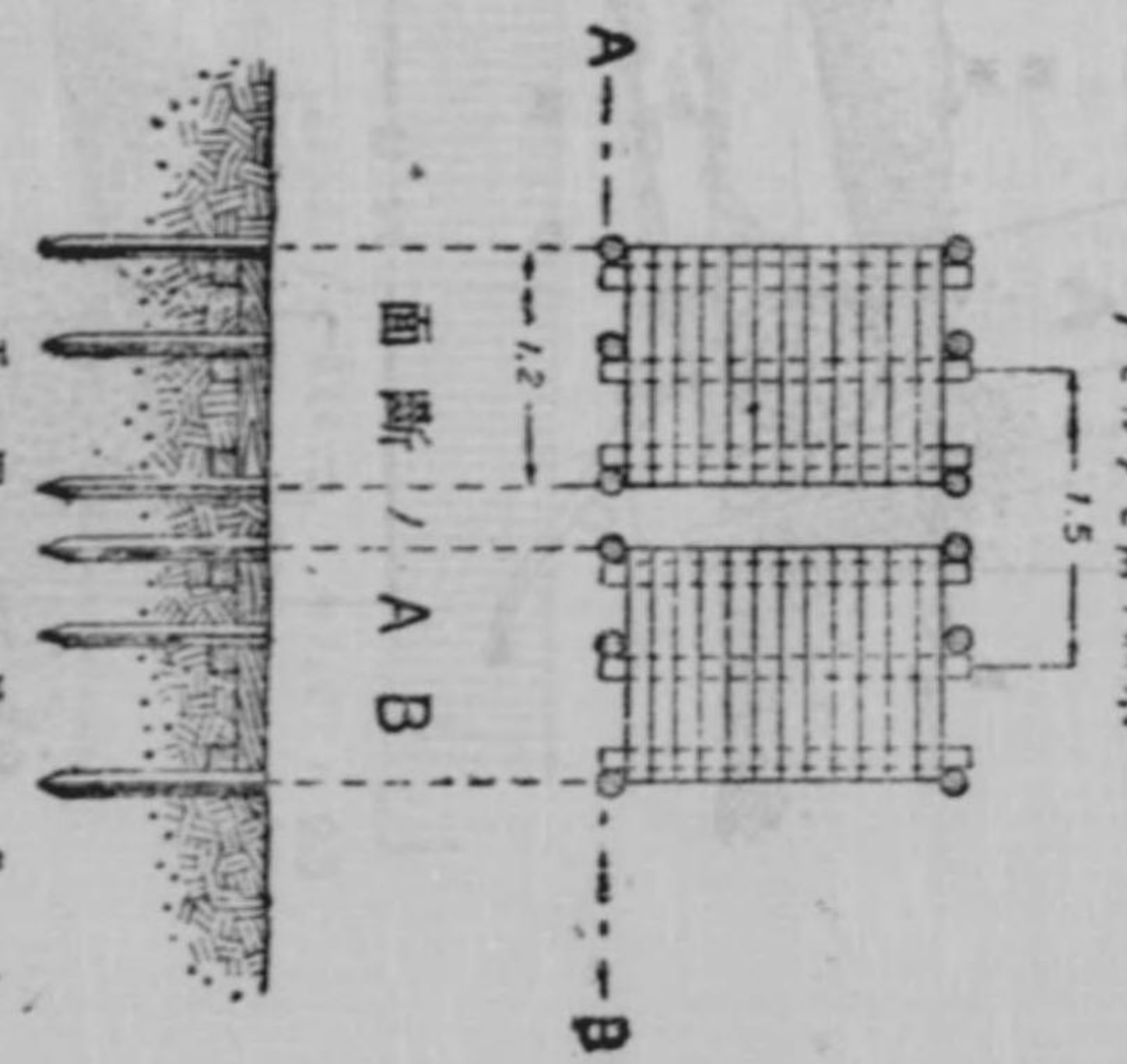
断面 / A B

ノモルヲ七用ヲ表新



一、凡、粗筋ヲハ縦、横ニシテ
 連続シテ堅固ナラシム
 二、引掛及上層ノ鋼土ハ寸
 二筋固ク

圖二十四第 鋼筋ノ下輪車砲彈相載五十

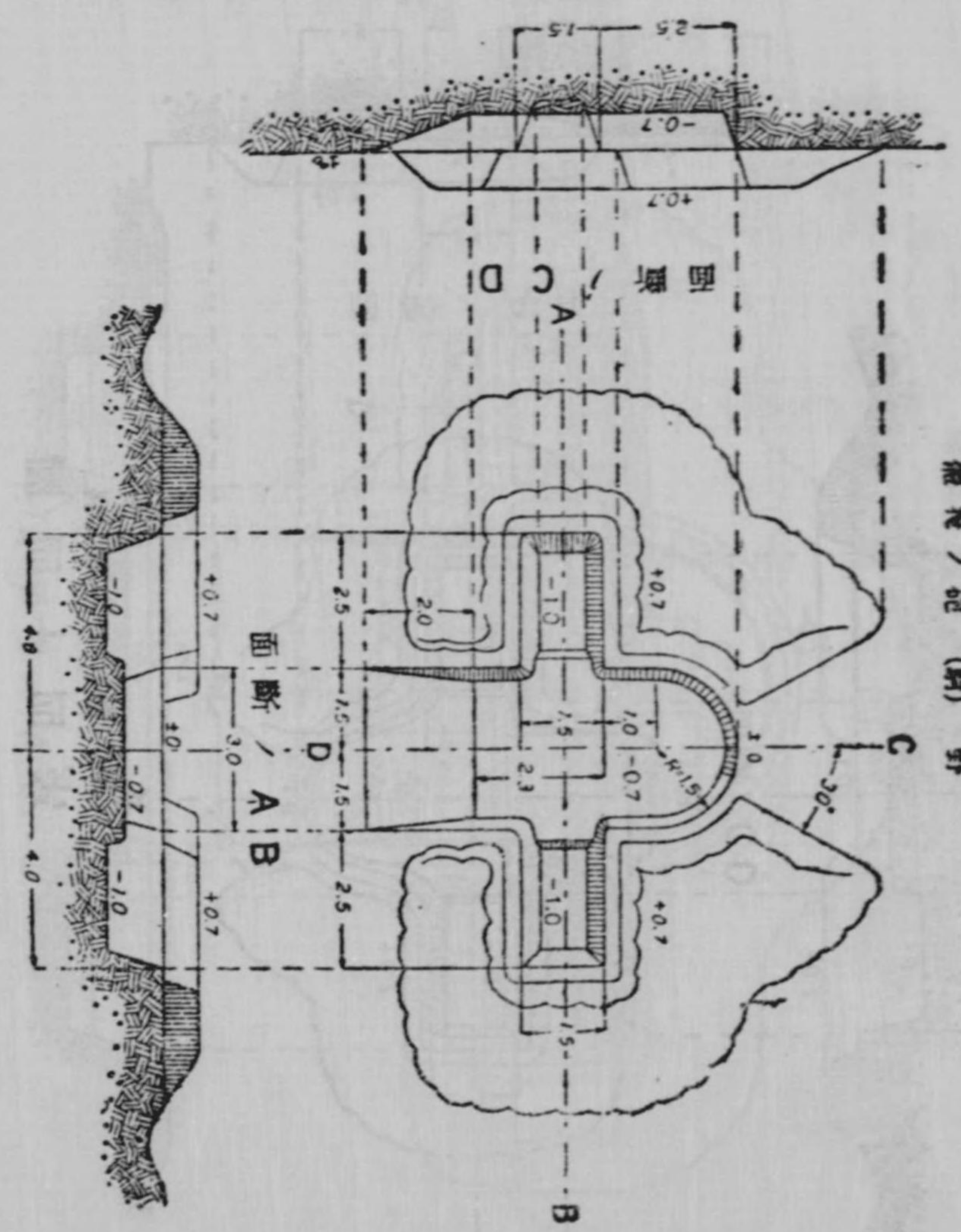


断面 / A B

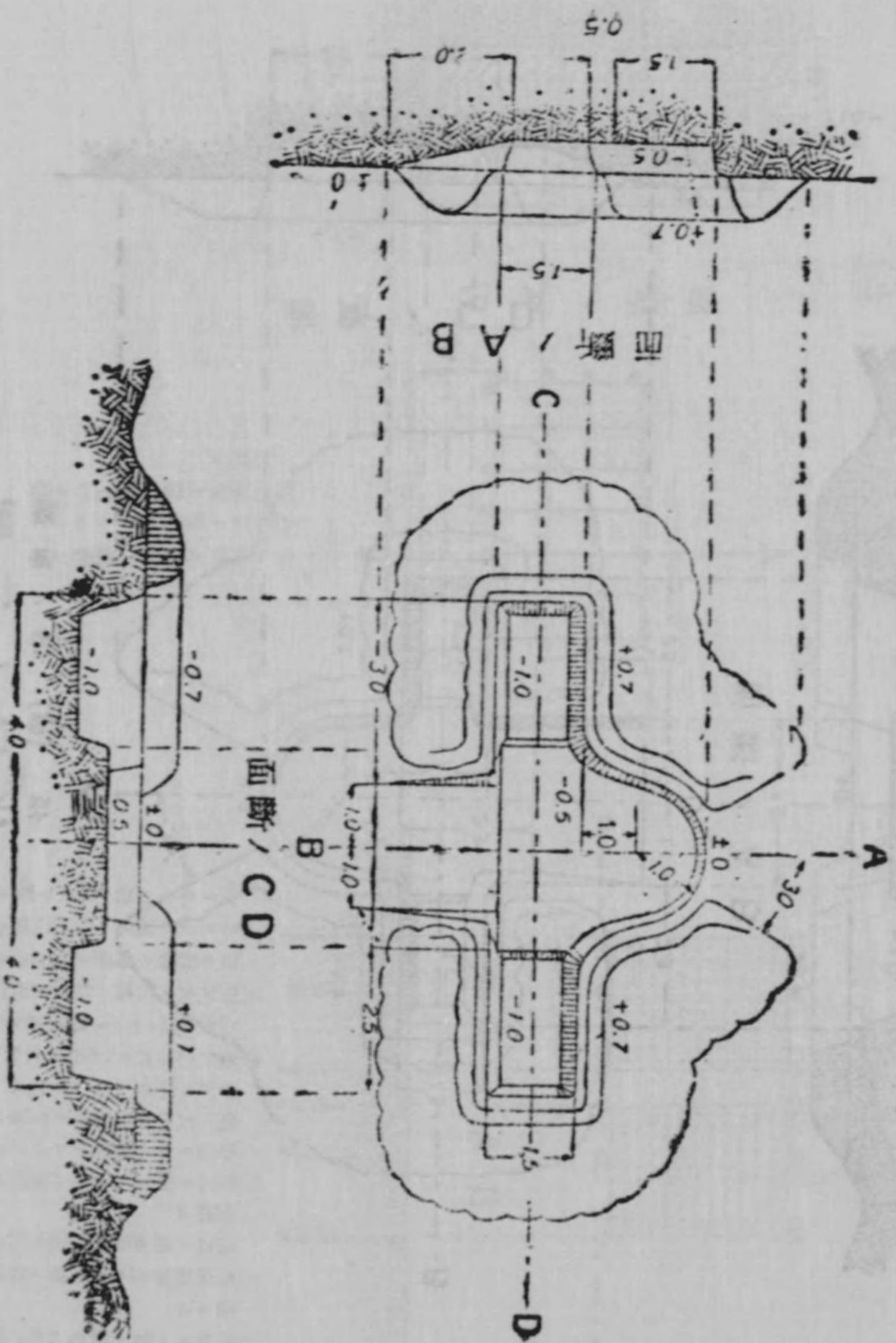
ノモルヲ七用ヲ表新

一角材ノ邊ニ長サハ約二五
 節ノ人
 二、各底層相互間隔下來ニ精確
 深キノ床板及板ハ縦ヲ以テ
 差錯ス
 三、凡、角材ノ間ヲルキハ板面ヲ
 堅固ニ止メ置キスレバ之ヲ
 剛引大小板板間下來ノ
 安定ヲ保ツシムカキス
 四、材料之ヲ荷ハ左右ノ床板ハ
 之ヲ一連シテモノ為テ角材ハ
 五、四角式十五種ニ在リテ角材
 厚ノ射撃ニ耐スルハ幾合ニ
 在リテハ板床空固固剛キ
 少クモ七〇重量ノ要ス

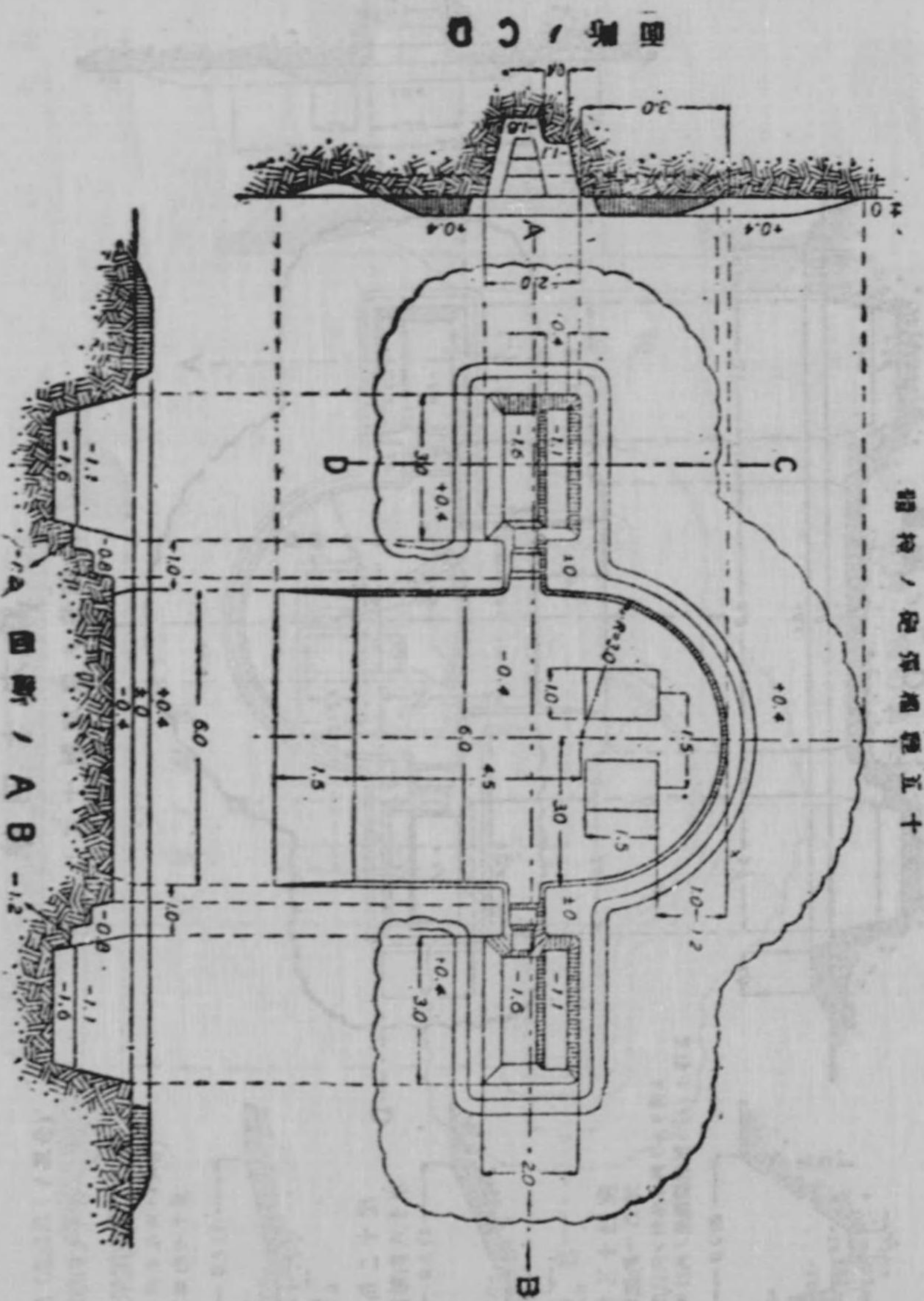
圖三十四第 砲機ノ砲野

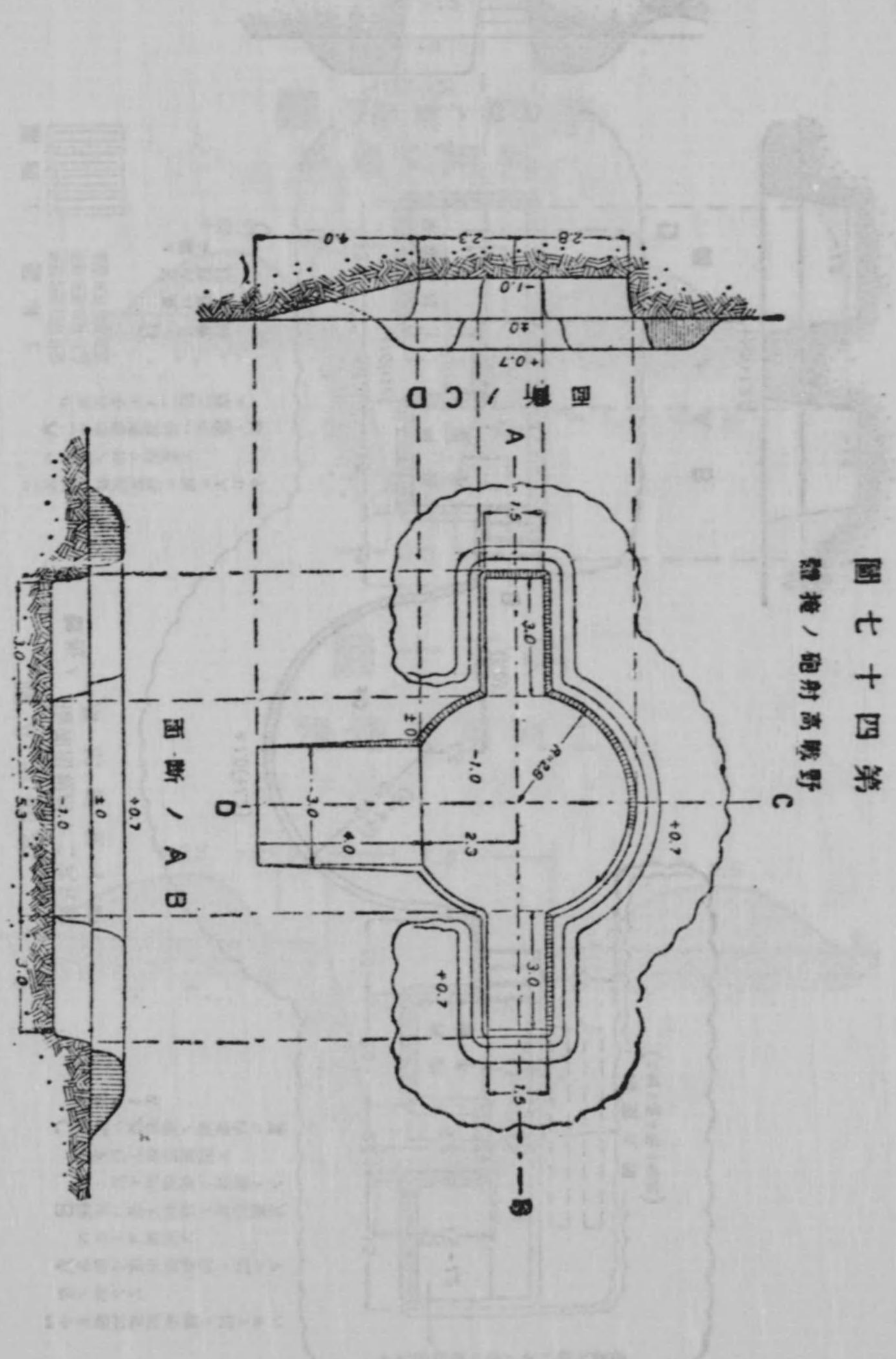
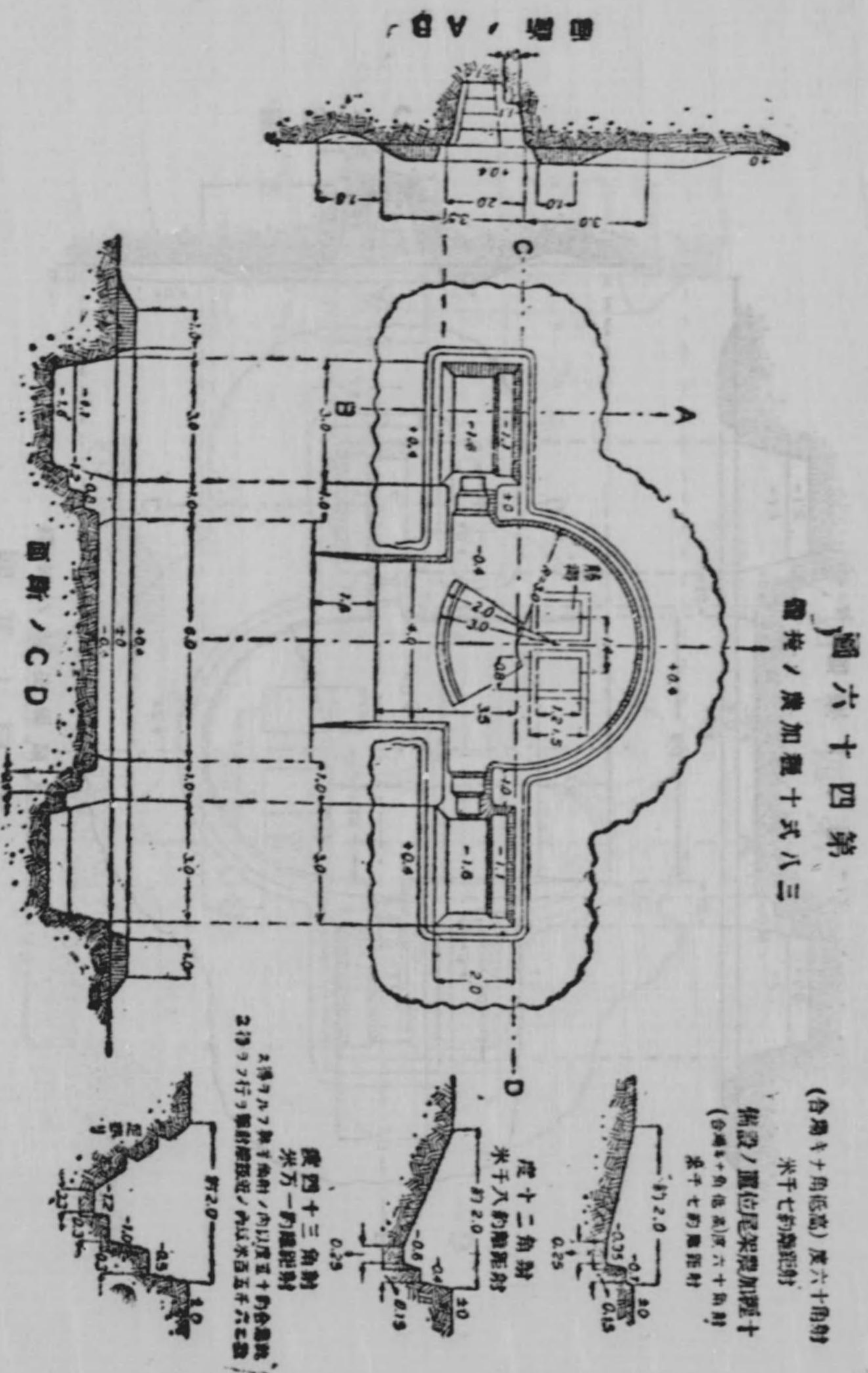


圖四十四 山體掩體

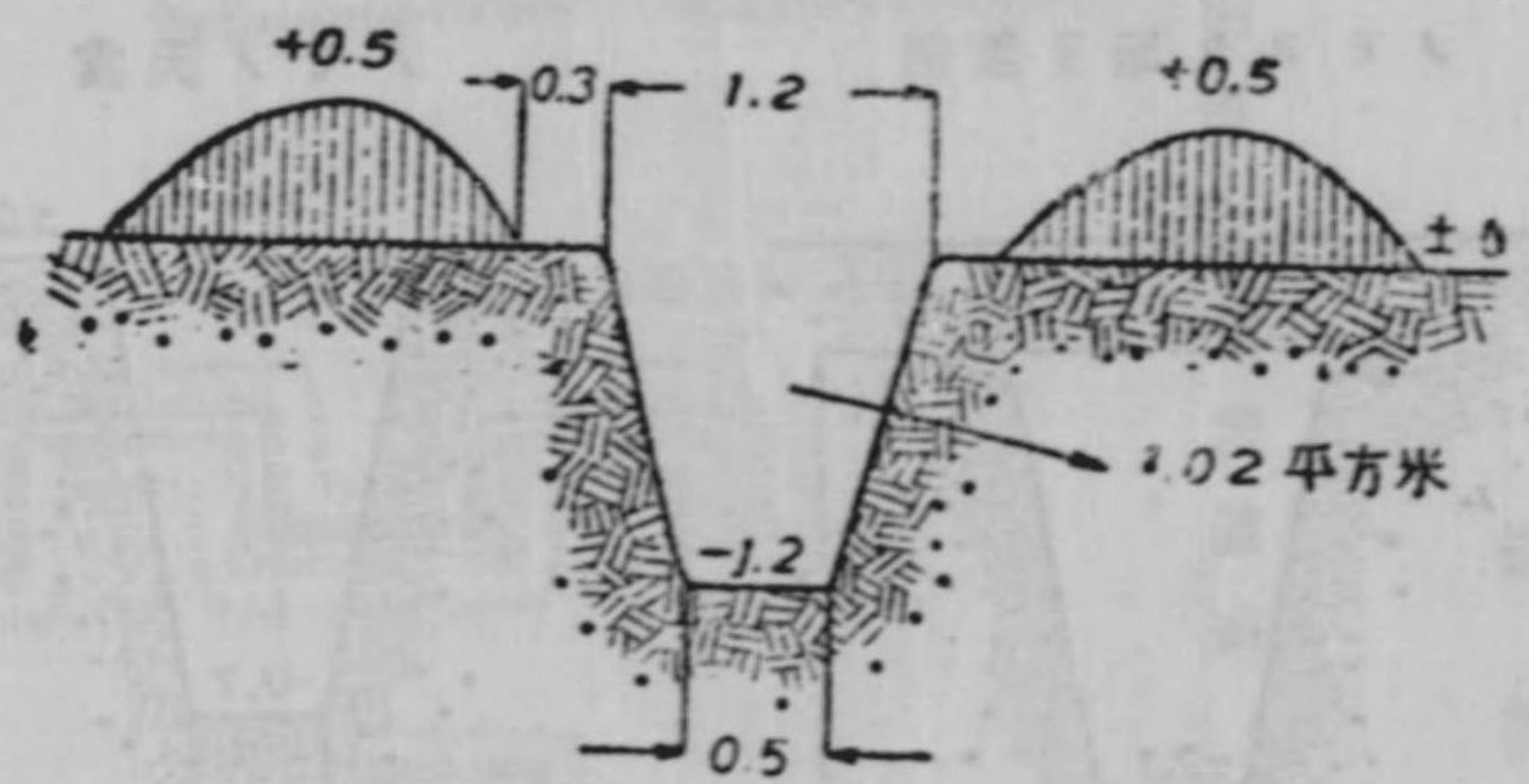


圖五十四 第十種掩體





圖九十四第
壕通交用列一



圖十五第
壕通交用列二

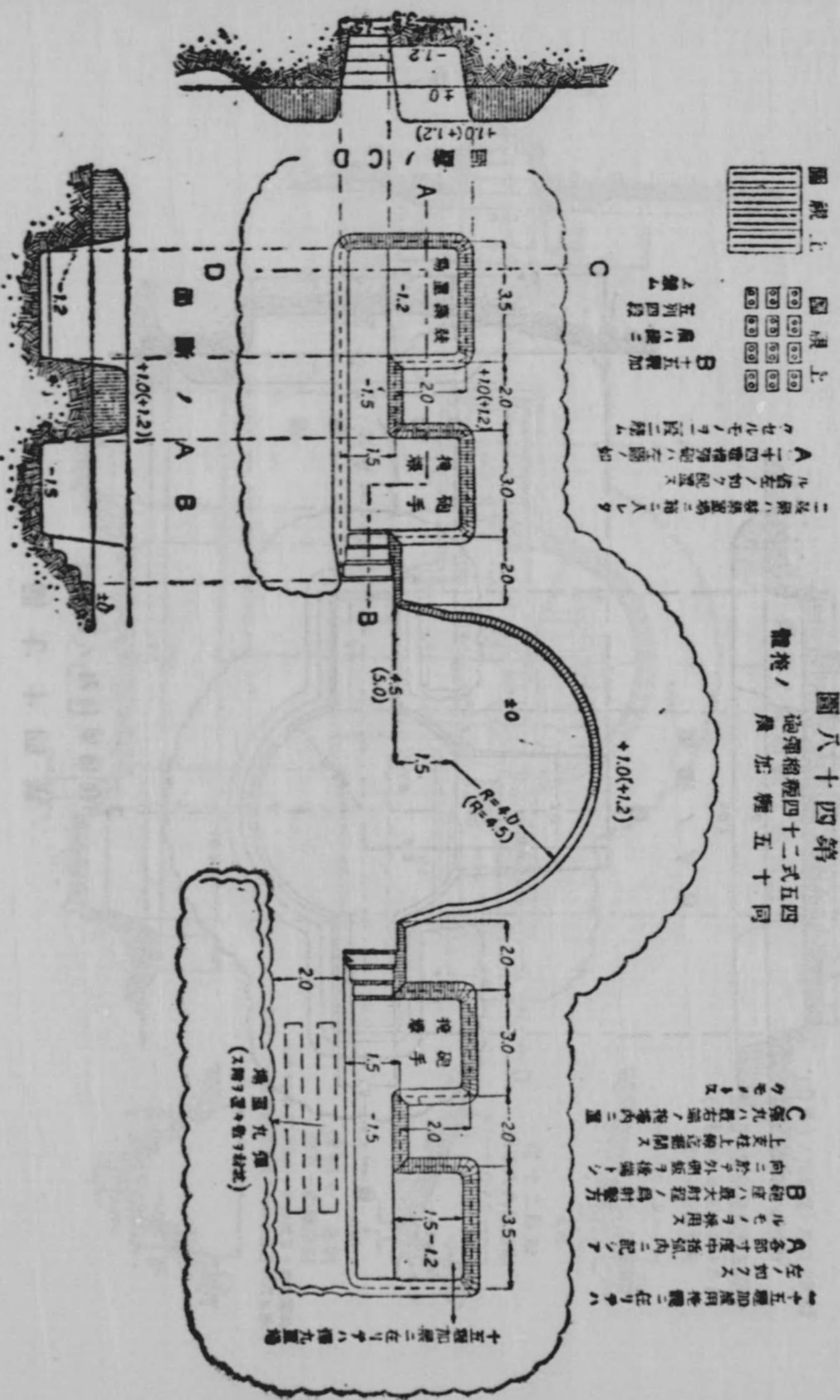
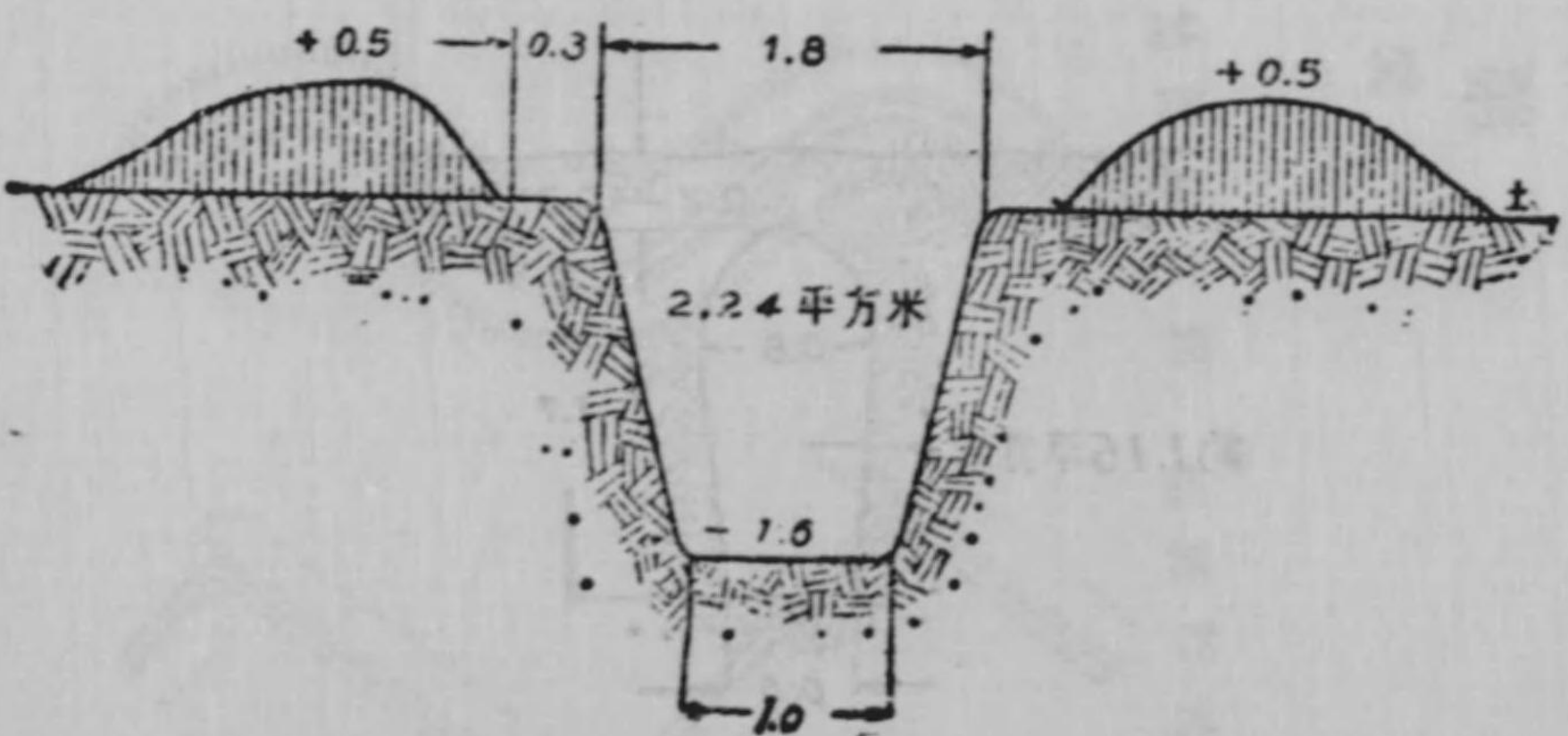
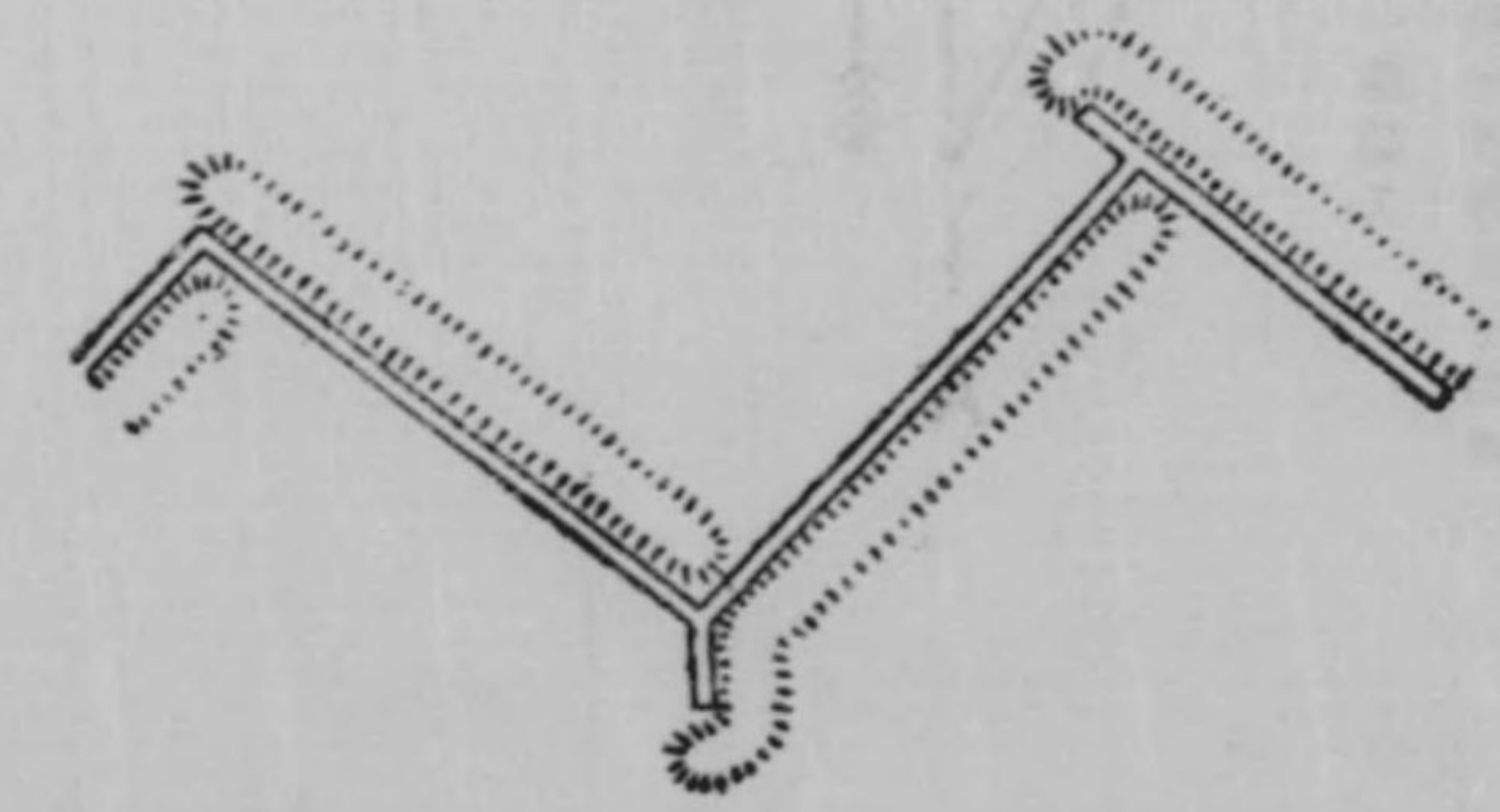
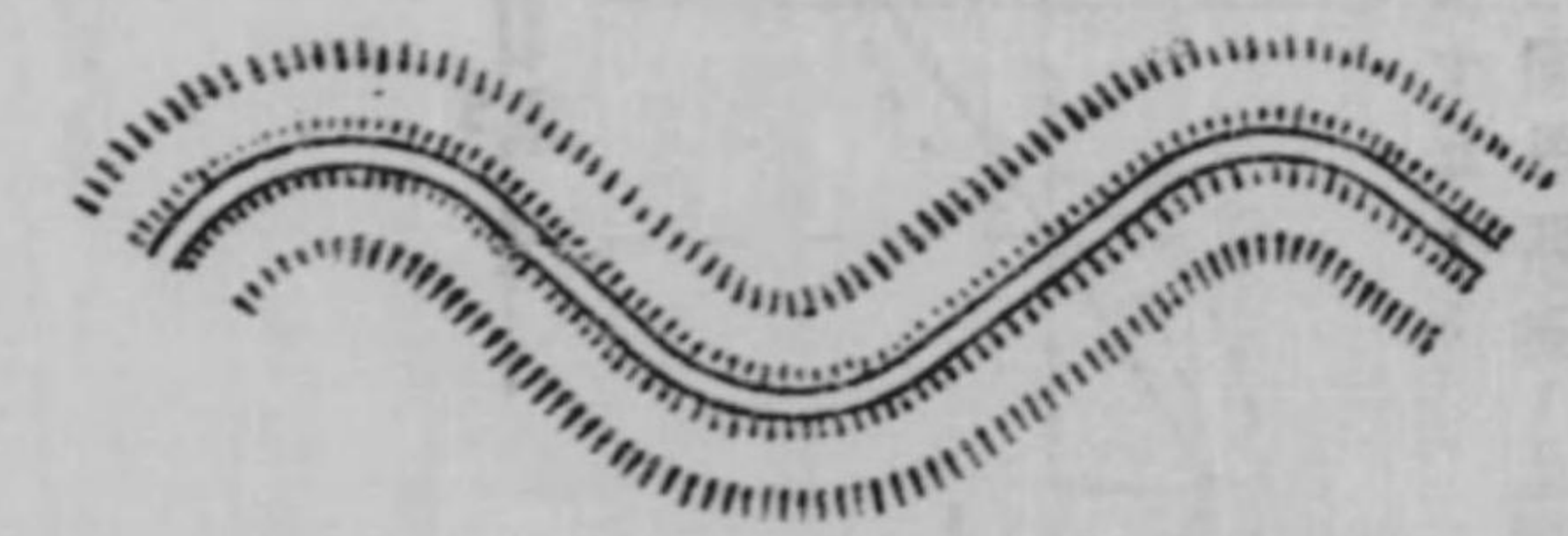
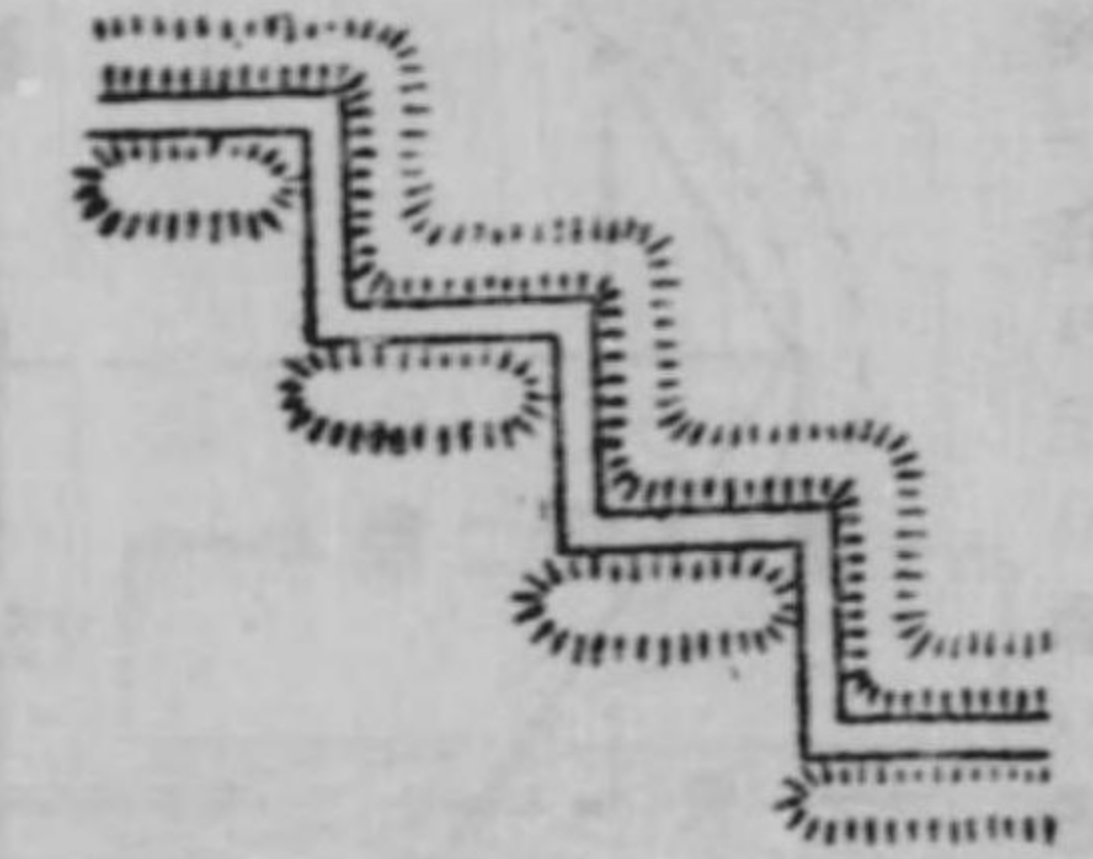
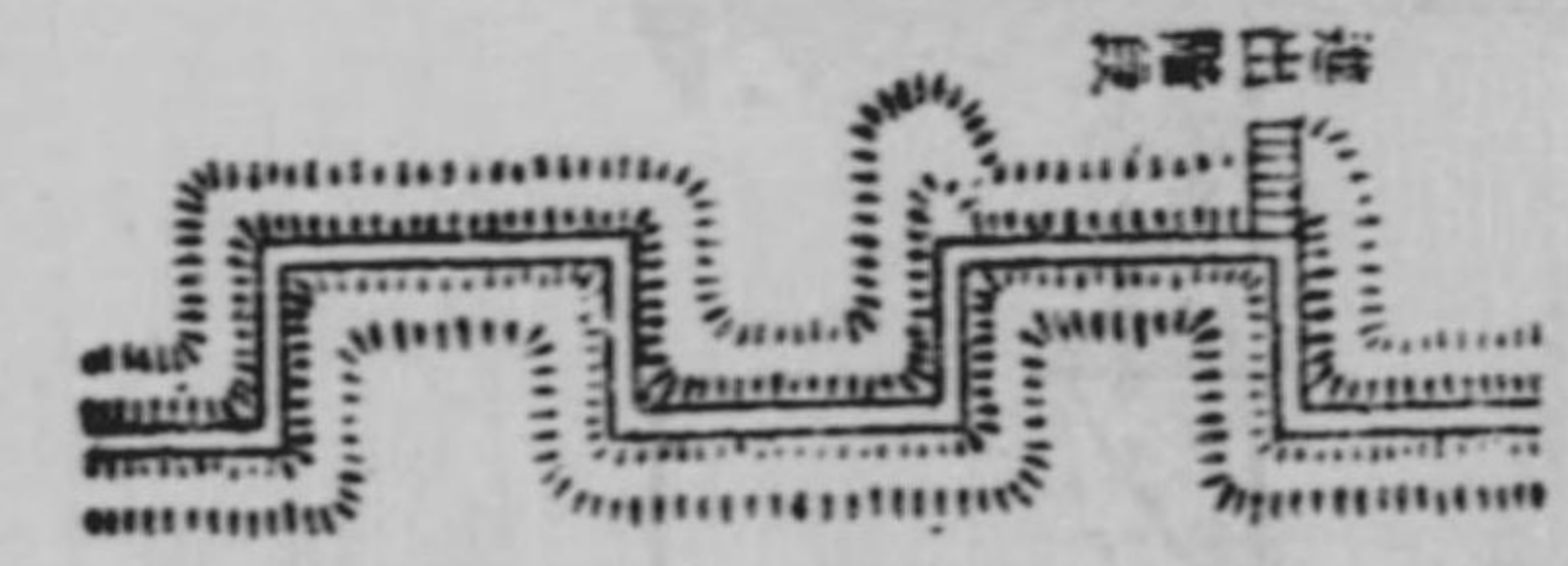
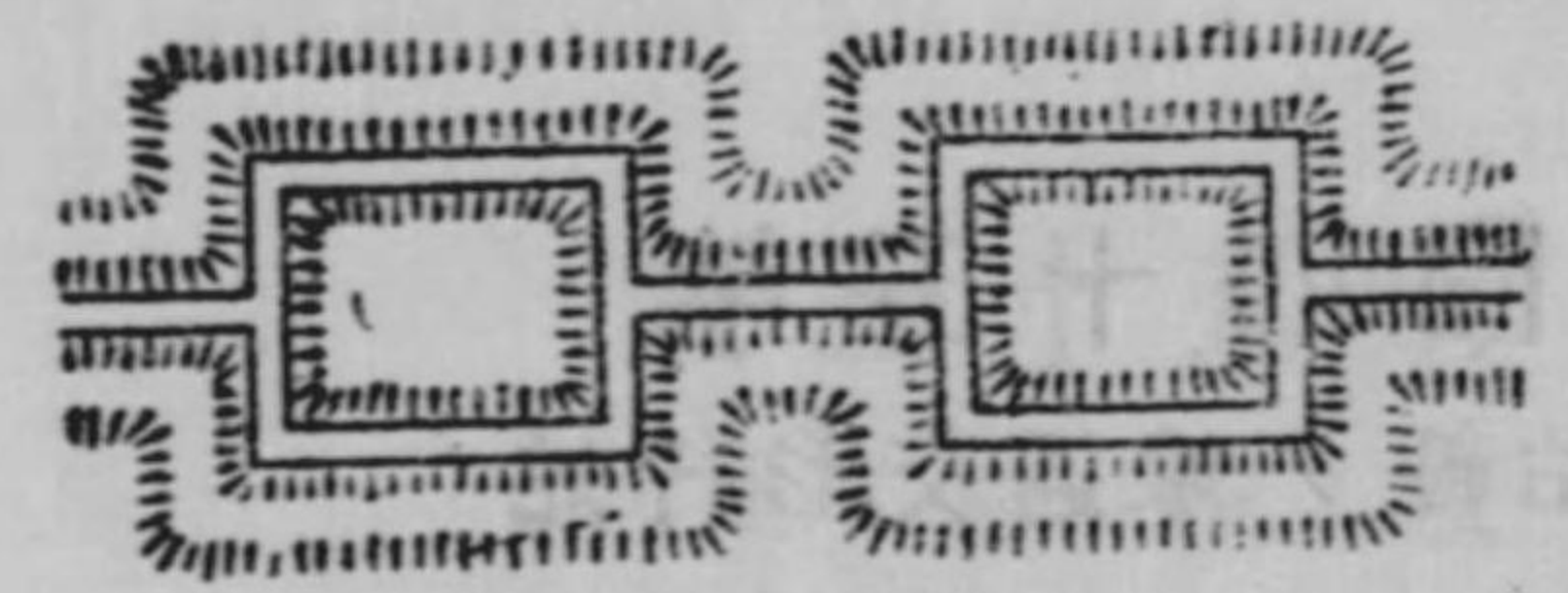


圖 線 上
圖 線 上
B 十五號加
A 十四號物
C 十五號加
D 十五號加

圖八十四第
壕通交用列二
式五四同

十五號加...
左ノ如ク
A 全部...
B 切...
C 切...
D 切...



船體形牆橫回旋始
 始經形牆橫始
 始經形牆始
 始經形行蛇始
 始經形光

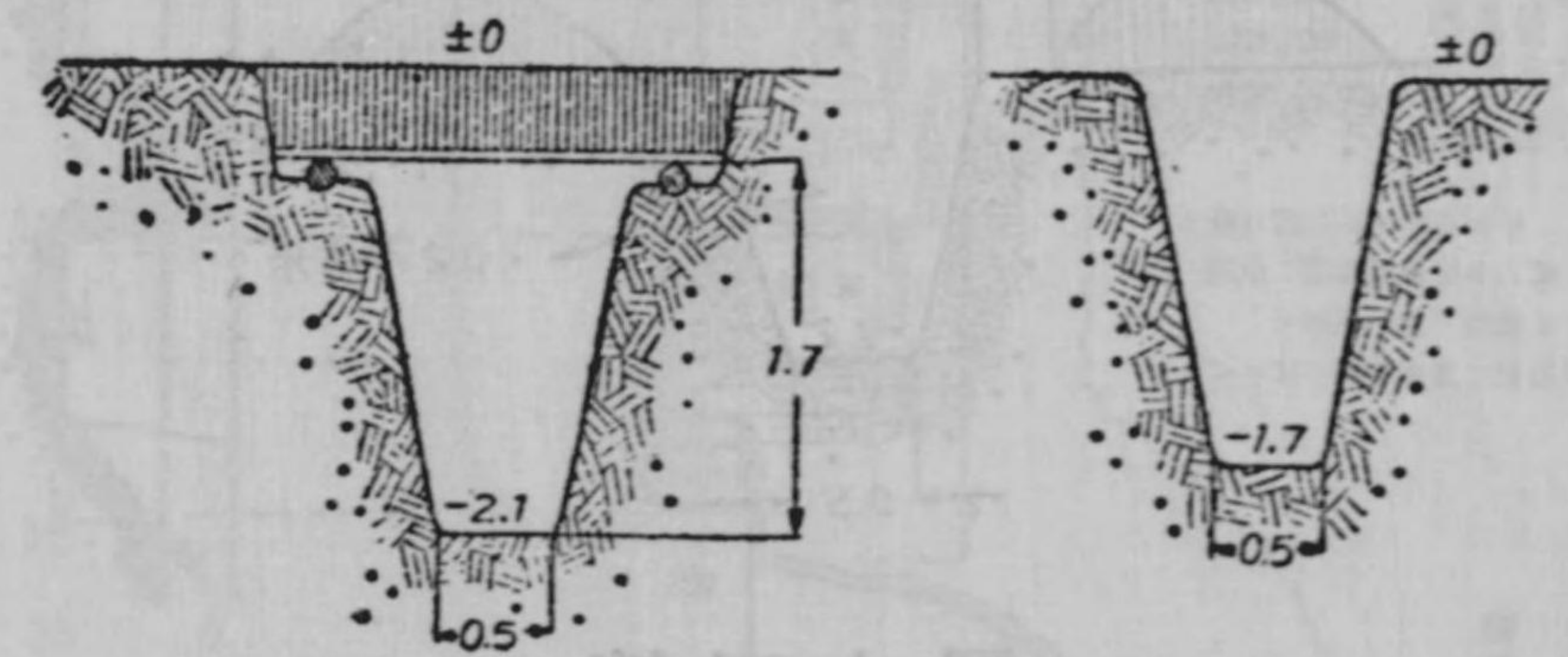
圖三十五
 第一
 五
 十
 經
 下
 交

圖一十五第

壕通交ノ面斷土積無

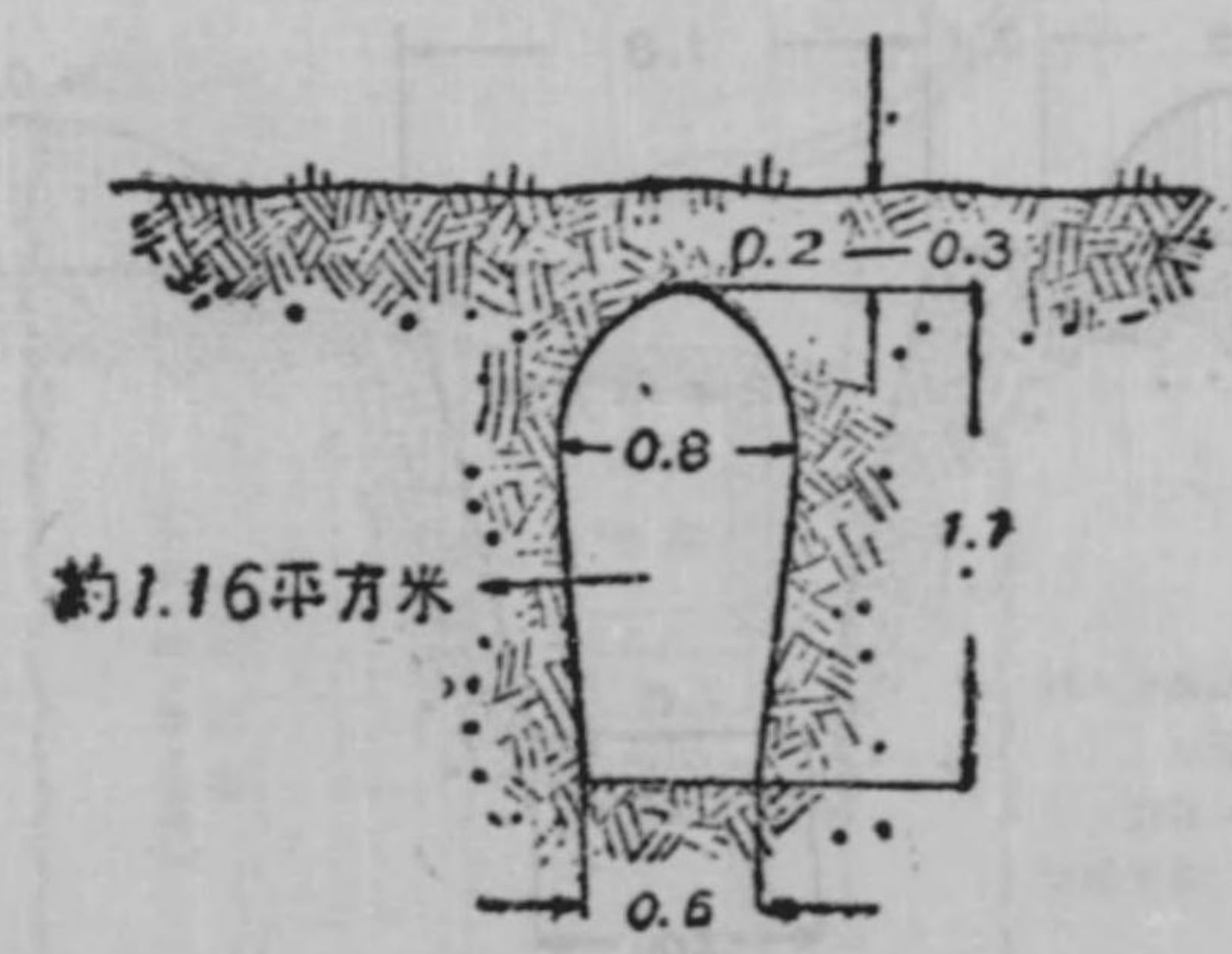
ノモルセ施ヲ蓋掩

ノモノ天露



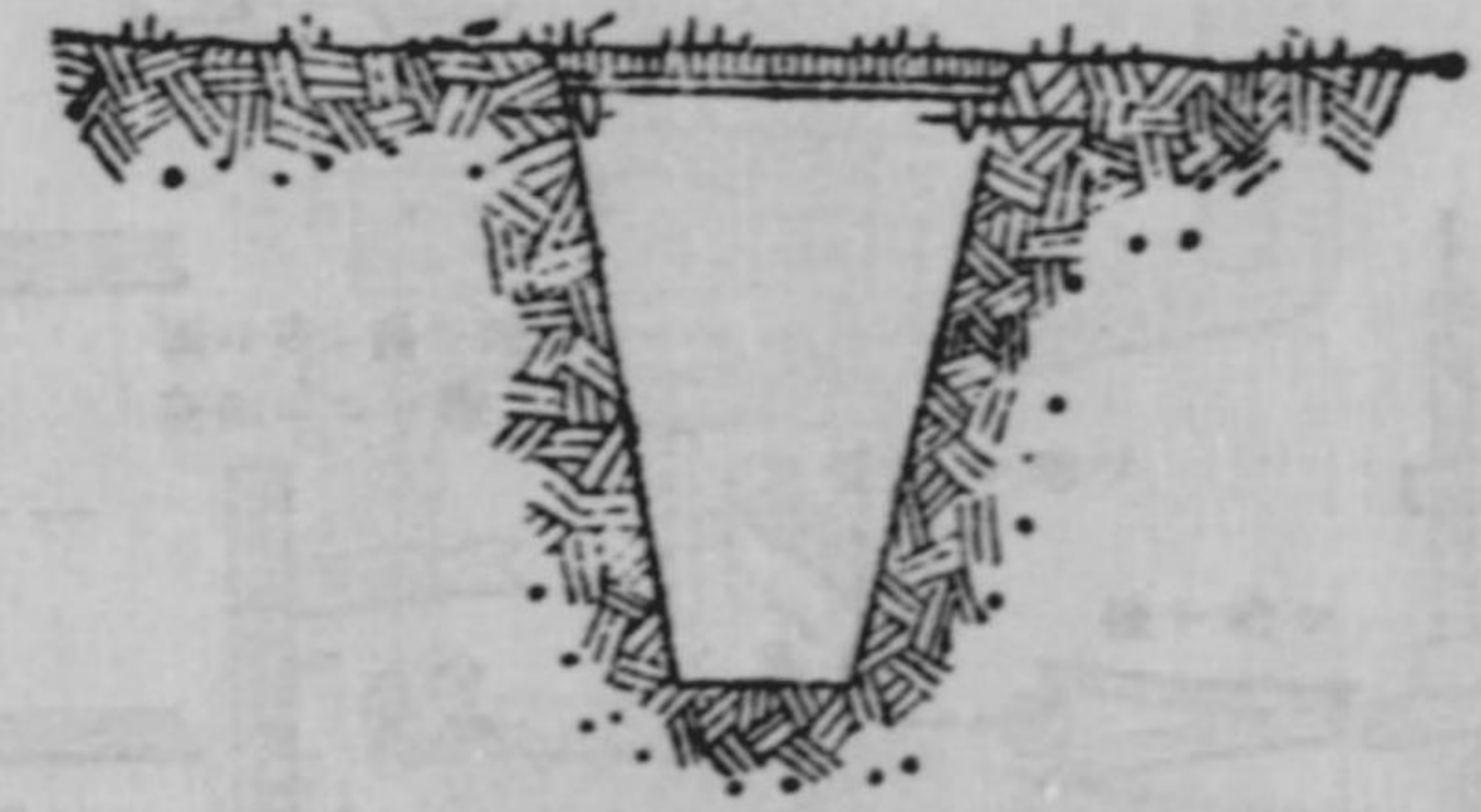
圖二十五第

壕通交ノ面斷隆穹



圖五十五第

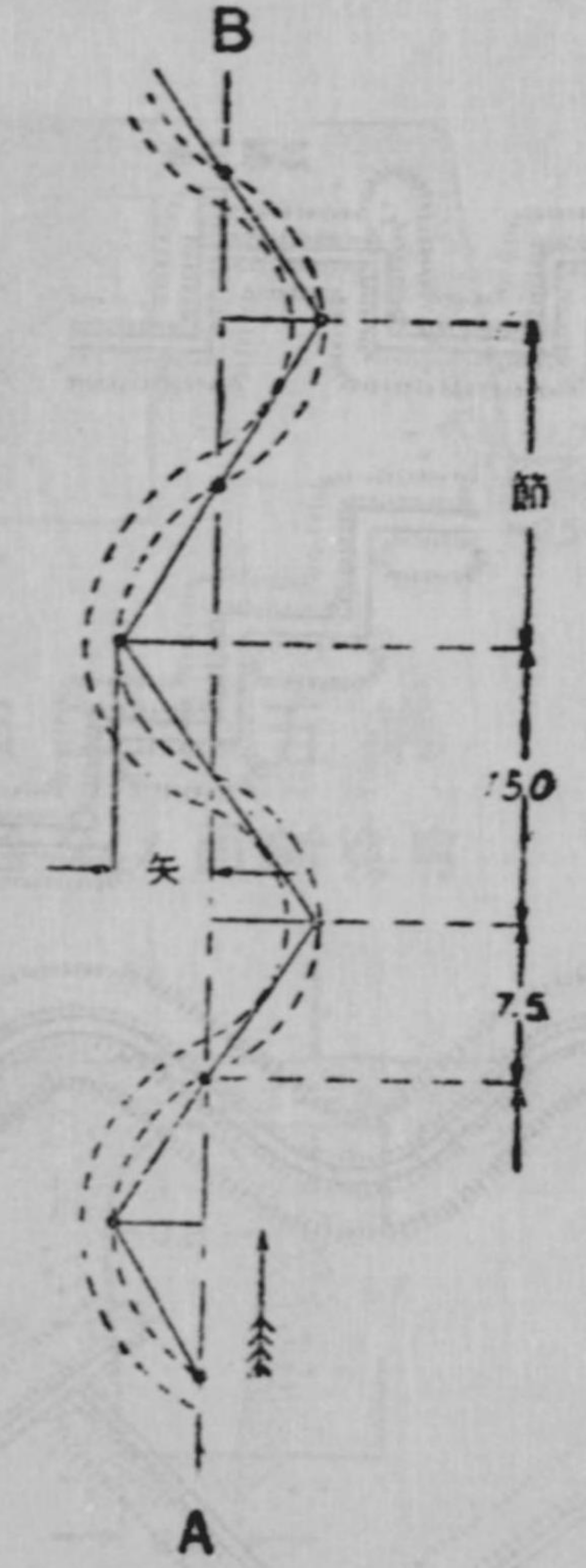
蔽遮ノ壕ル依ニ板



一 串ハ鐵片鐵線木竹等ニテ作ル
二 頂板ノ上面ハ偽裝ス

圖四十五第

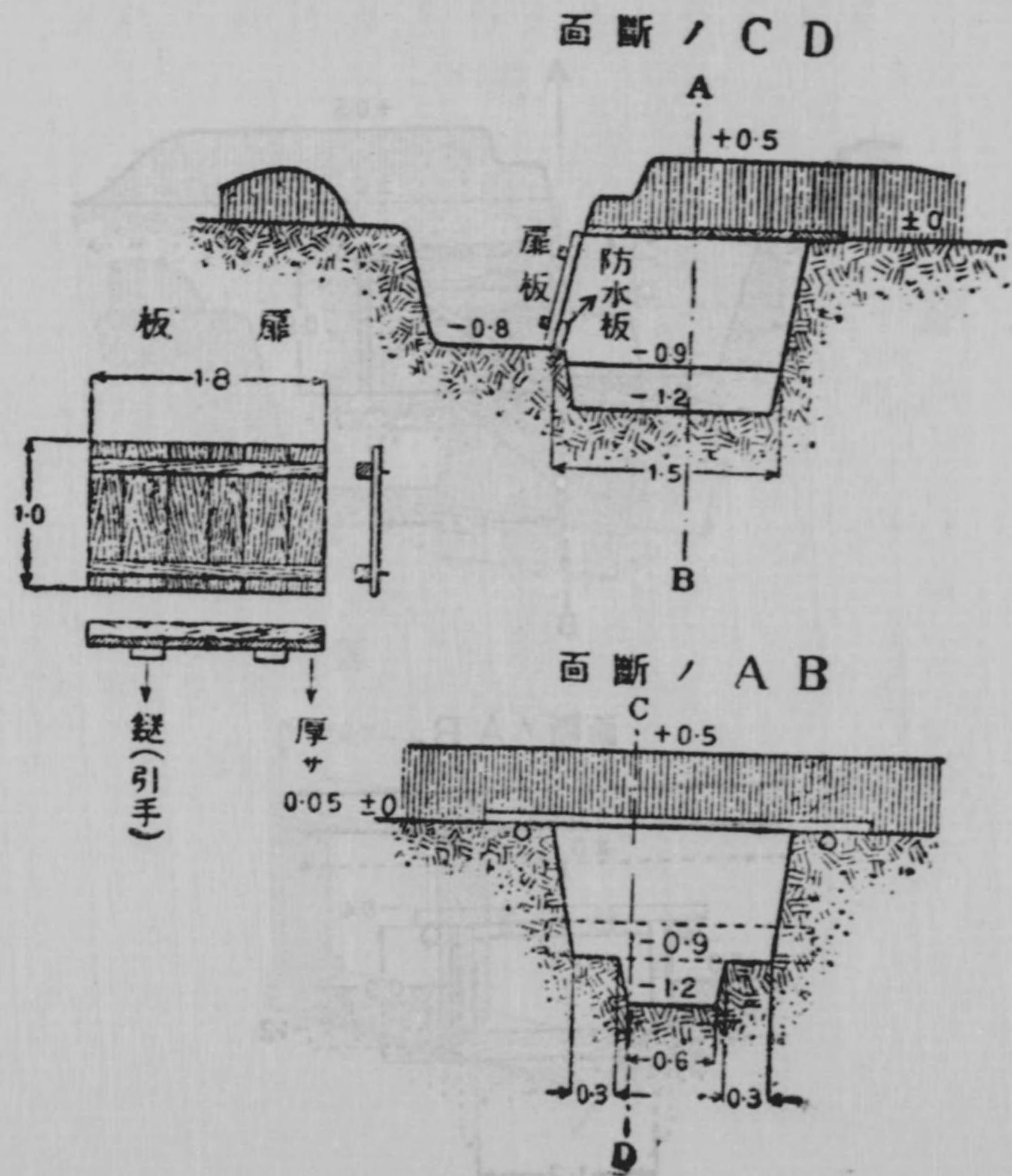
法始經ノ壕通交形行蛇



平坦地ニ在リテハ節ハ通常十五米ト
シ矢ハ壕ノ両側積土頂ノ内側距離ニ
約一米ヲ加ヘタル長サヲ以テ標準トス

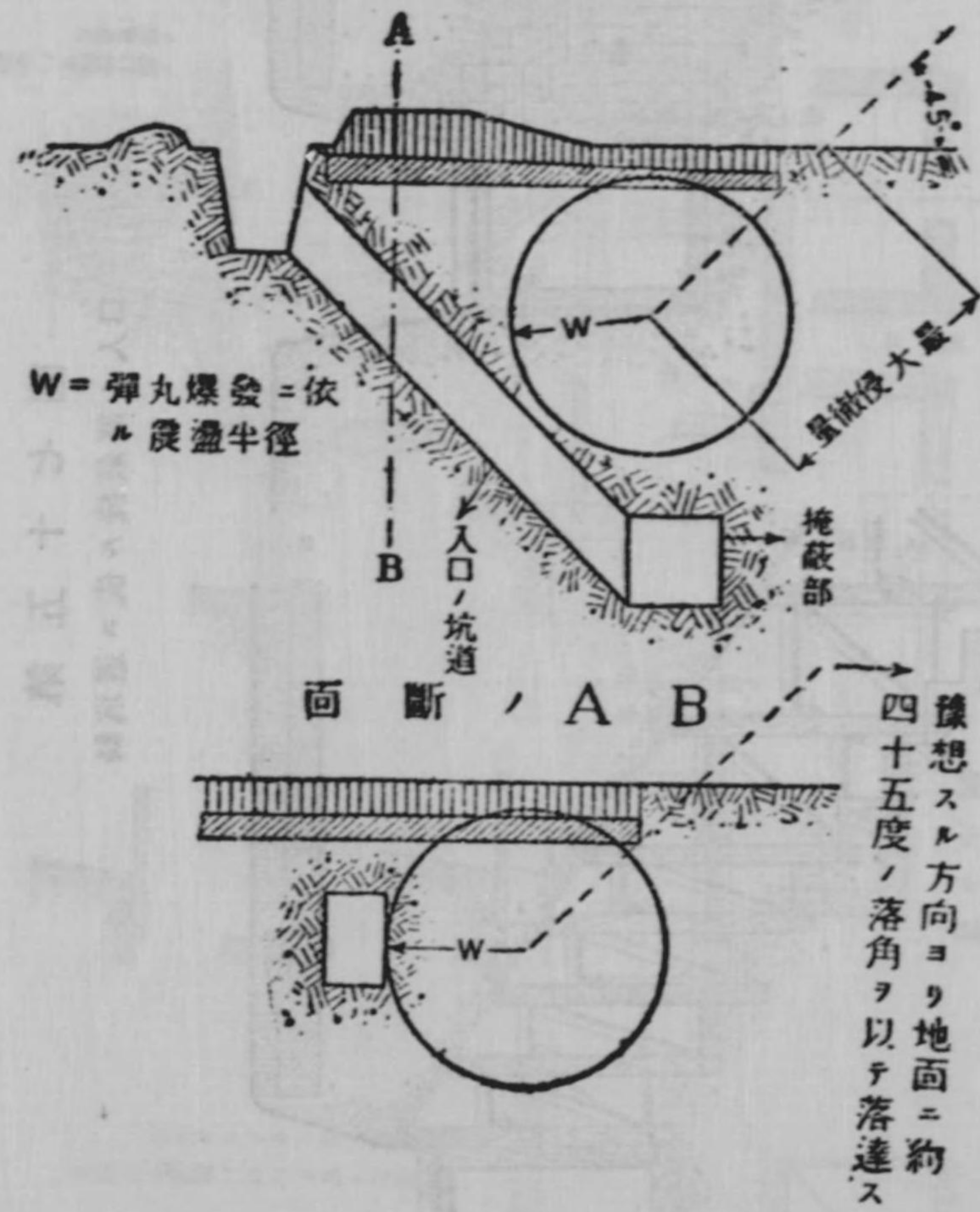
圖九十五第

部蔽掩輕ルス抗ニ片破及子彈



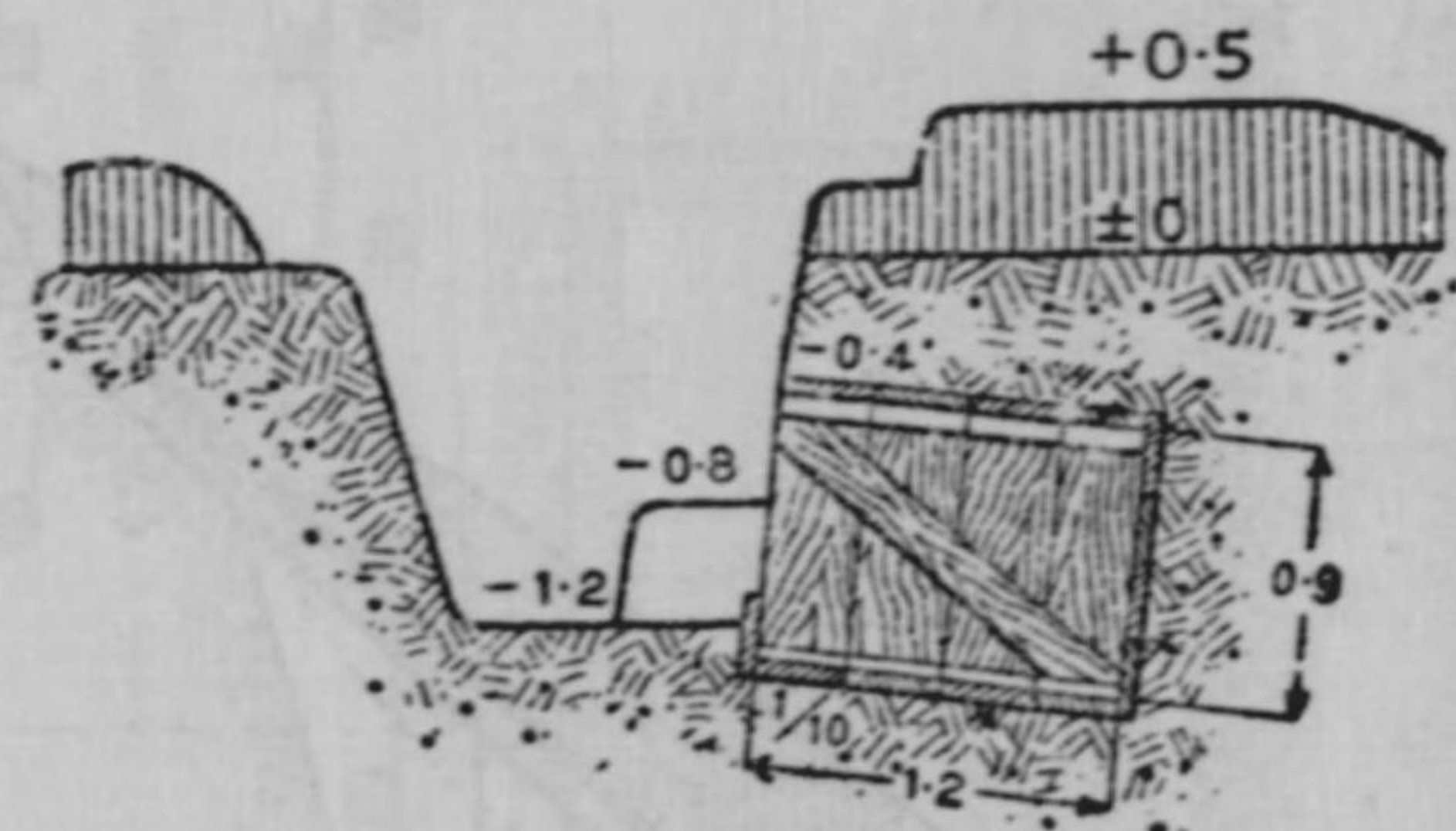
圖八十五第

層彈遮ルク設ニ口入ノ部蔽掩

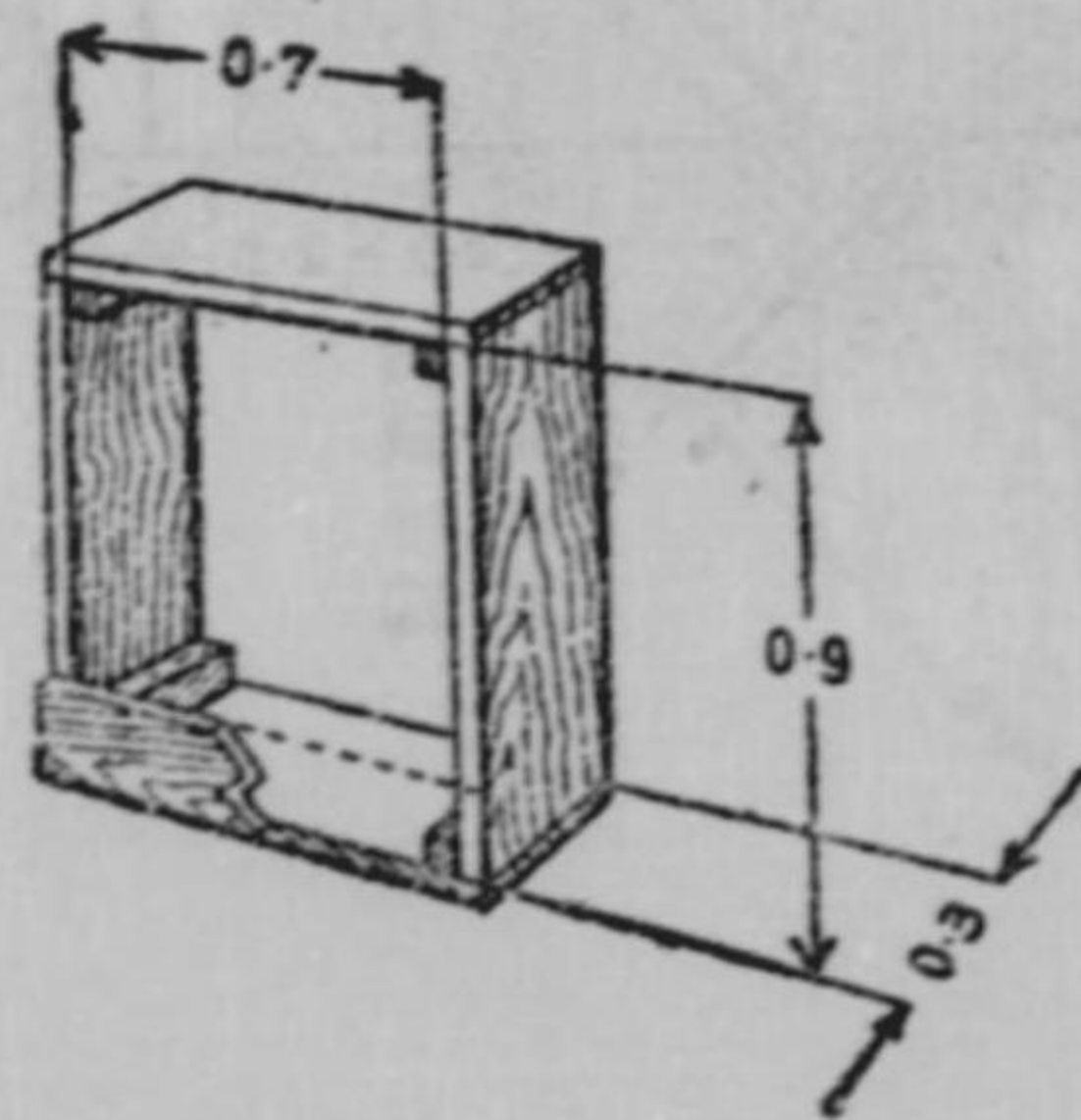


圖一十六第

部蔽掩輕用人三ルス抗=彈榴ルス有ヲ管信發瞬

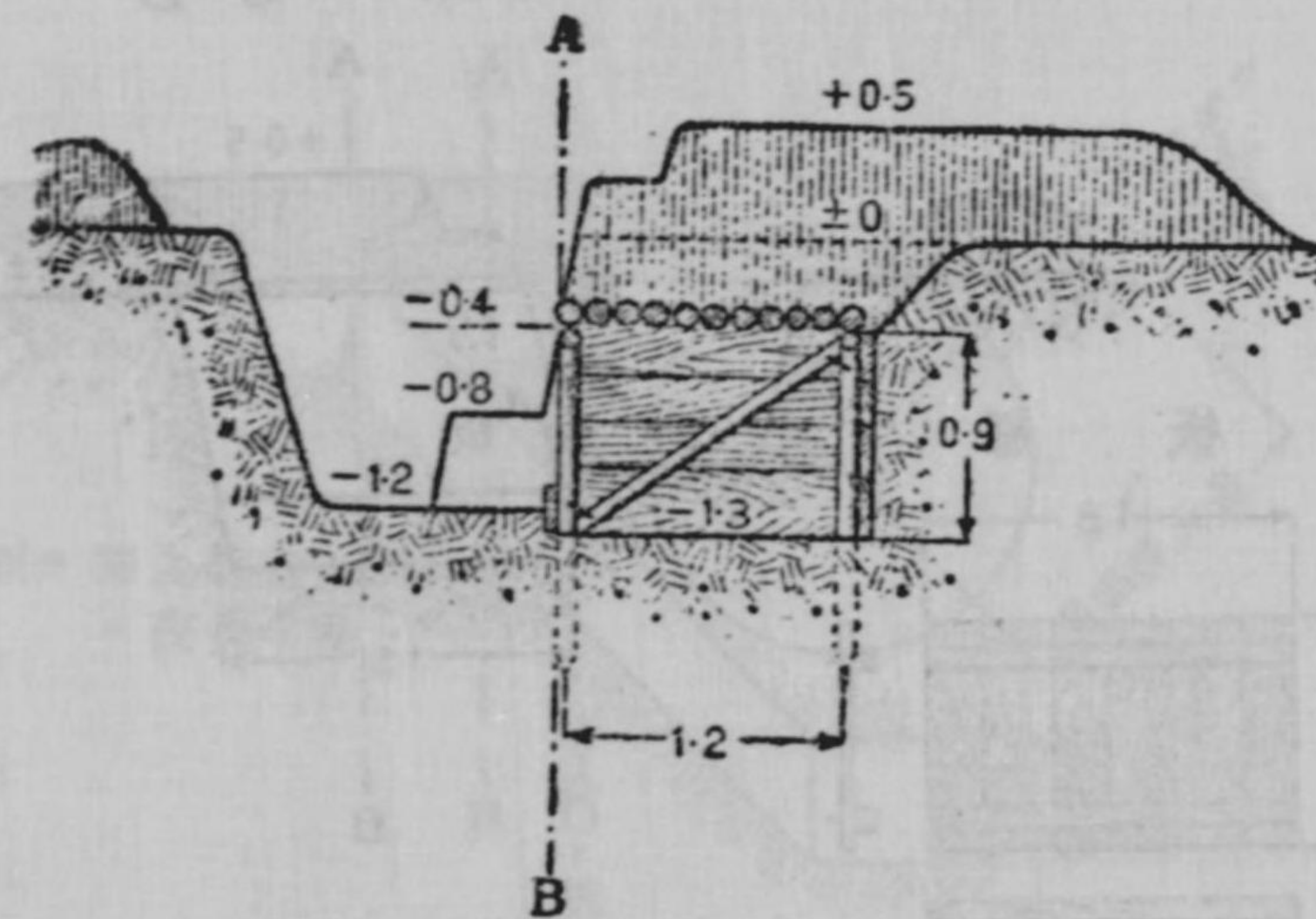


匡

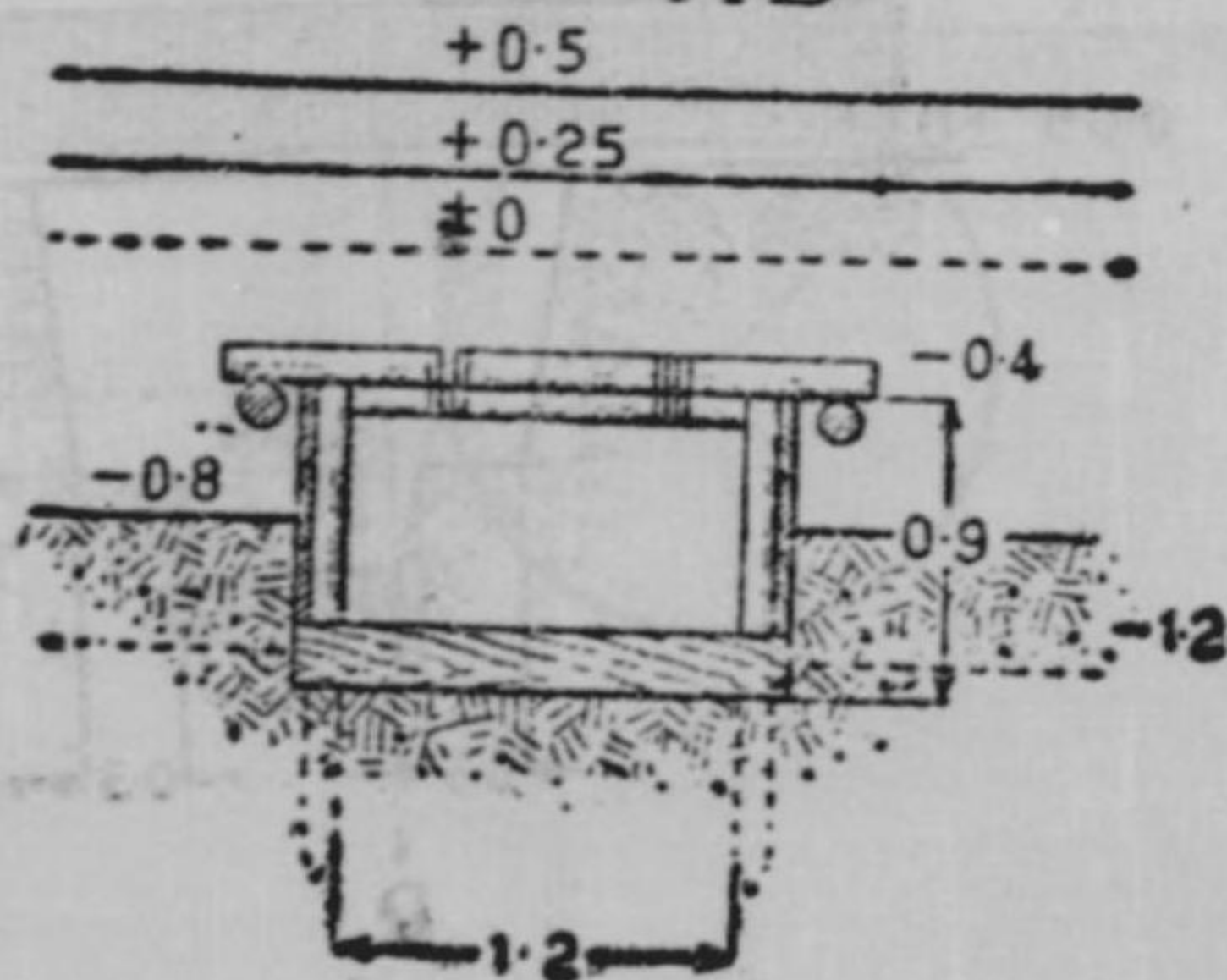


圖十六第

部蔽掩輕ルス抗=彈榴ルス有ヲ管信發瞬

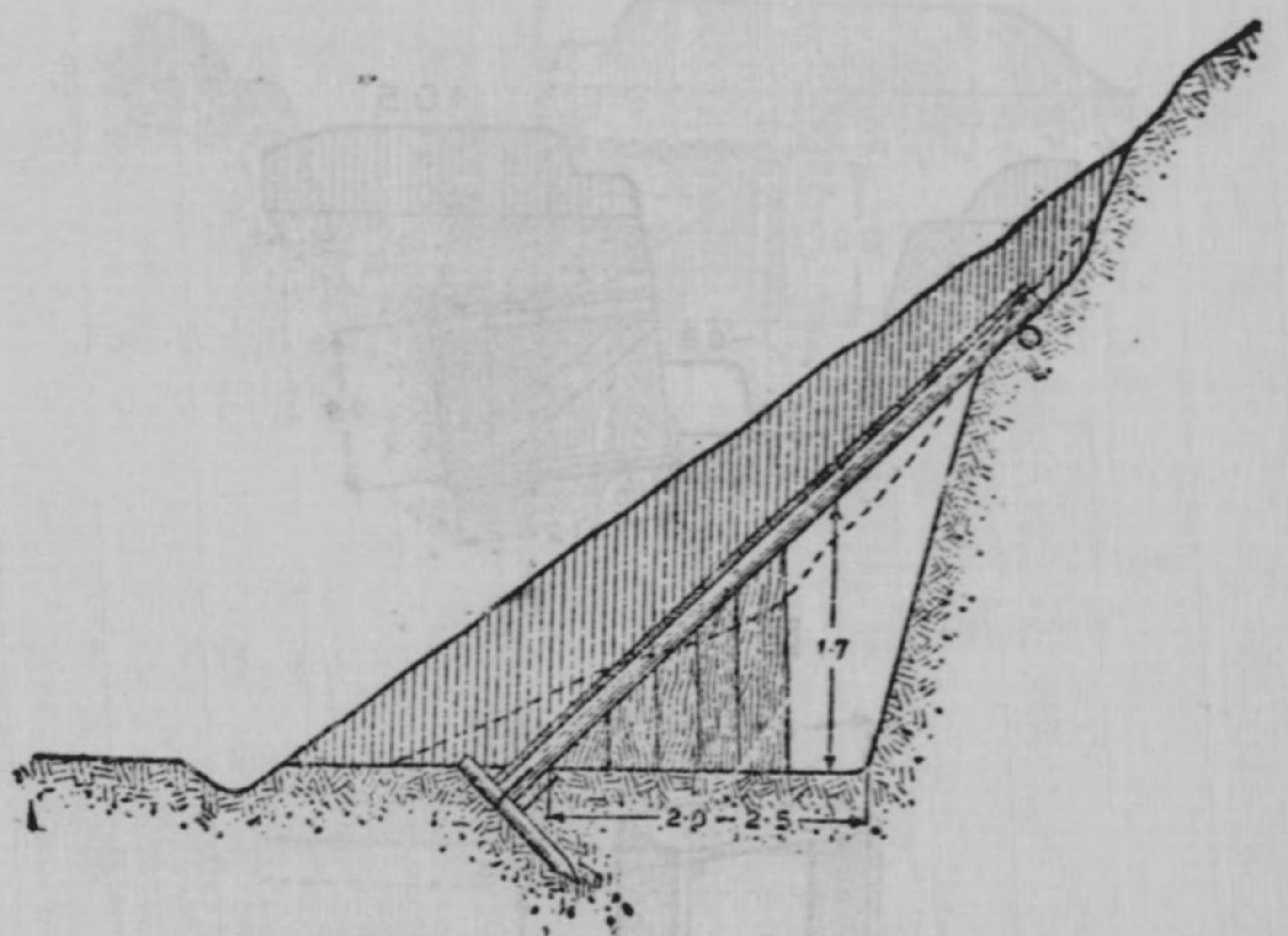


面斷ノAB

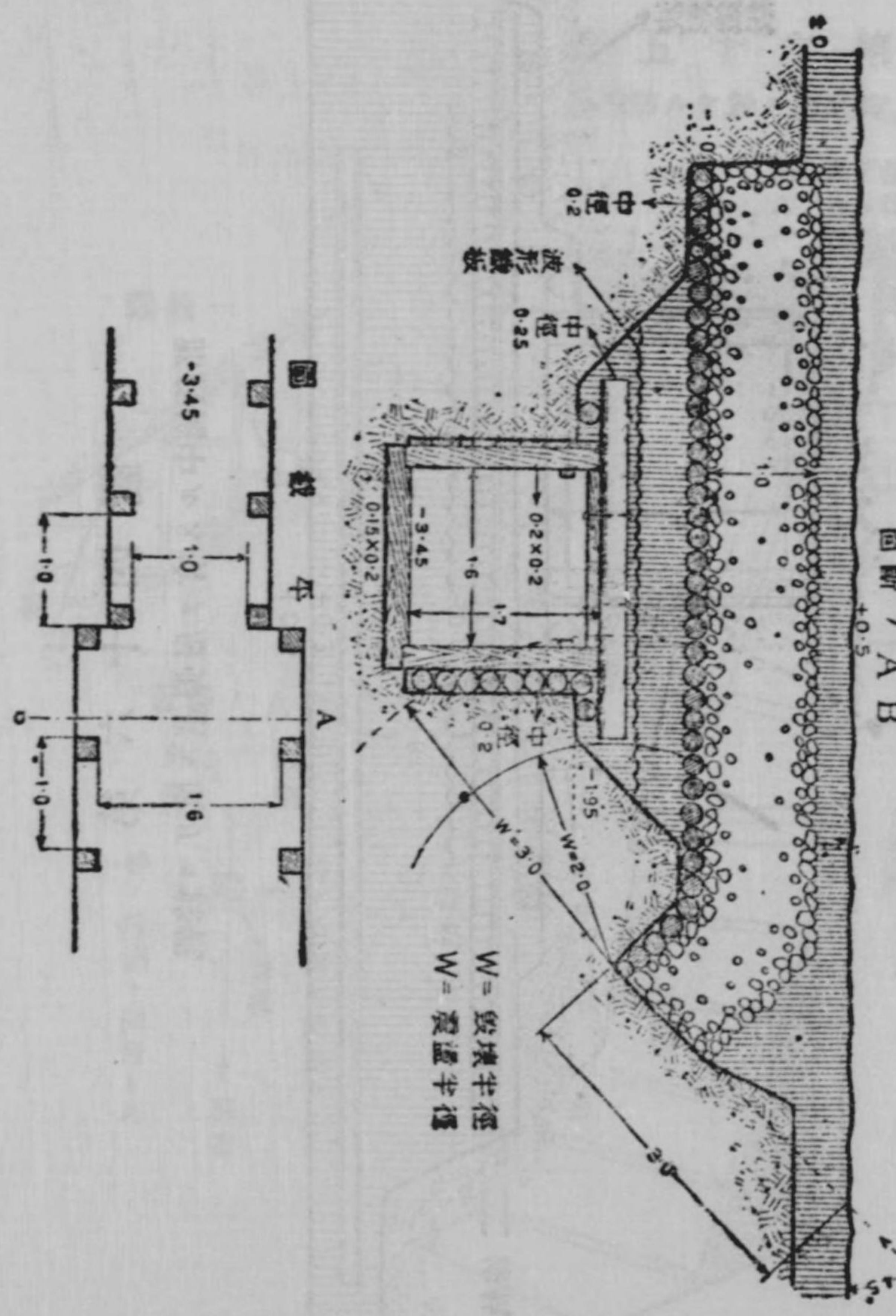


圖二十六第

形地ヲ利用シテ構築セラルル輕便橋

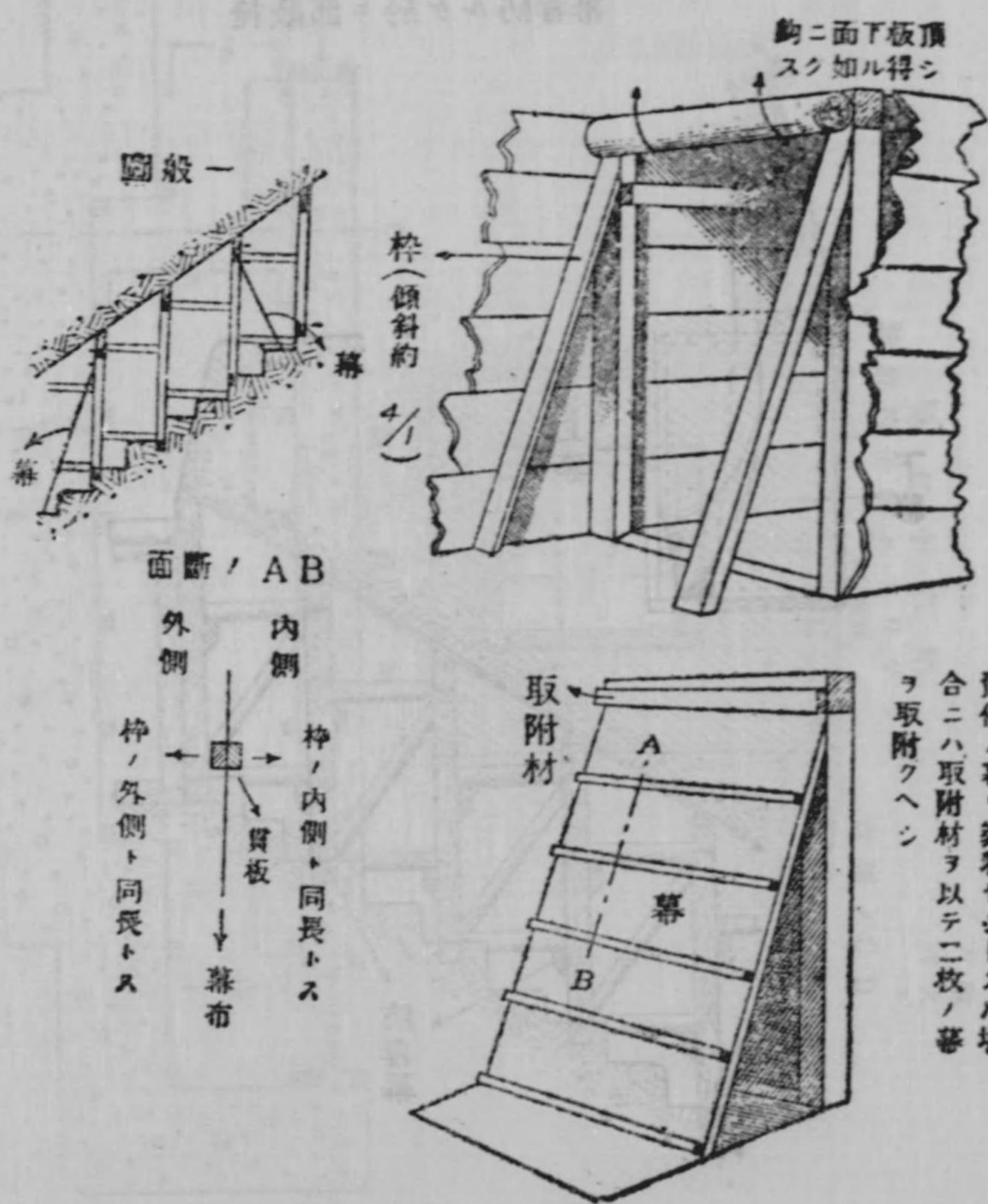


圖三十六第
木及材料石ノ成リテ遮る層ヲ有ル中樑橋



第五十六圖

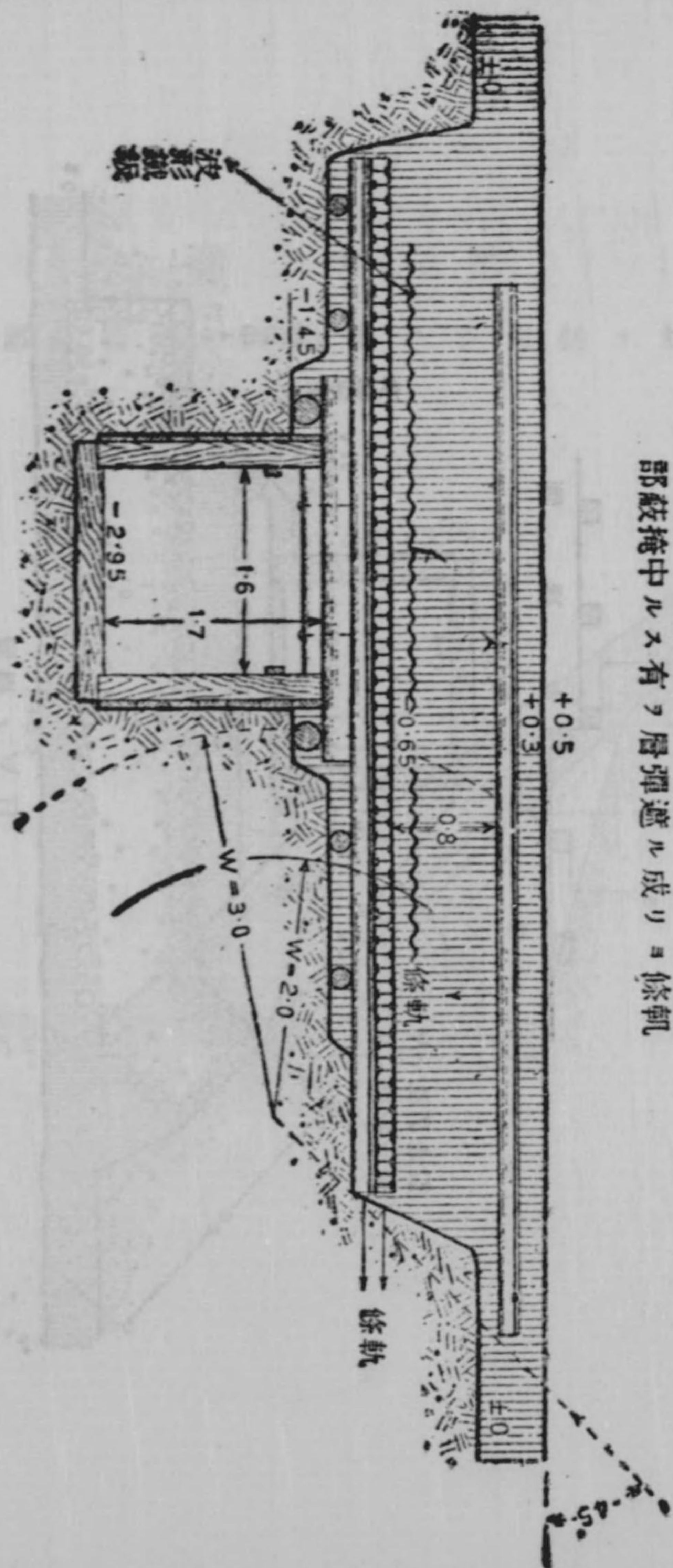
部蔽掩ルケ防幕

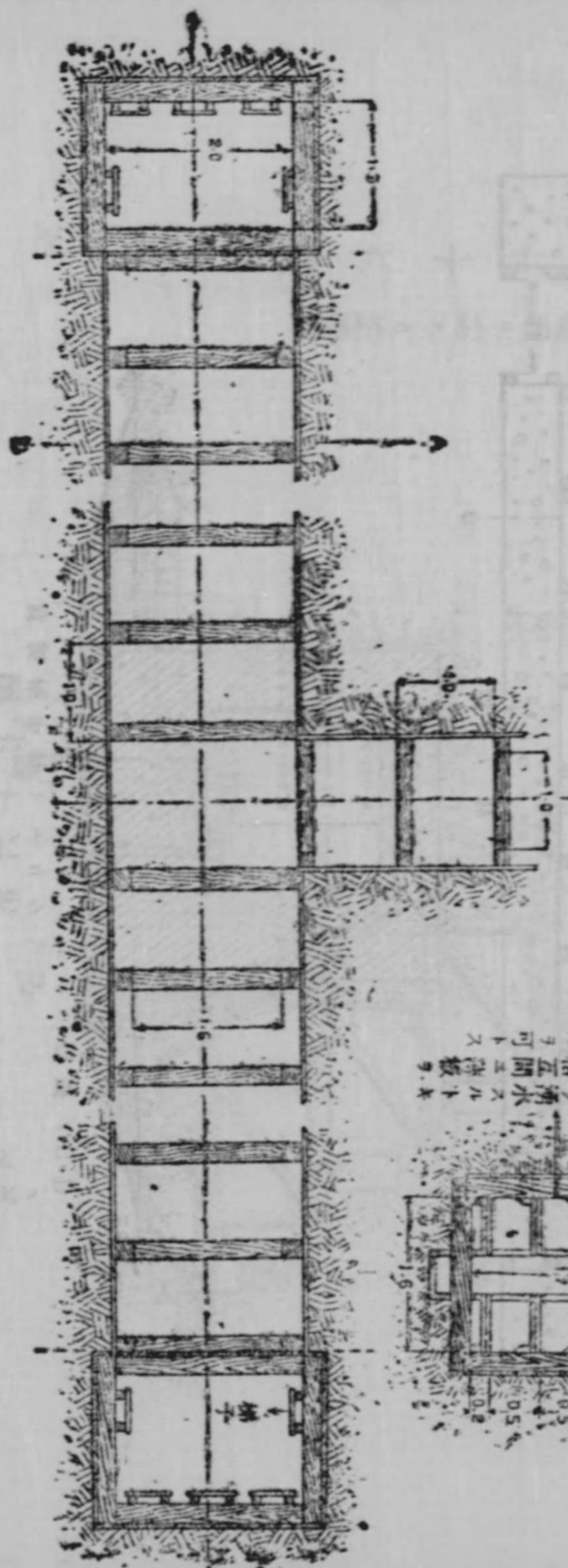


準備ノ幕ヲ装着セシトスル場
合ニハ取附材ヲ以テ二枚ノ幕
ヲ取附クヘシ

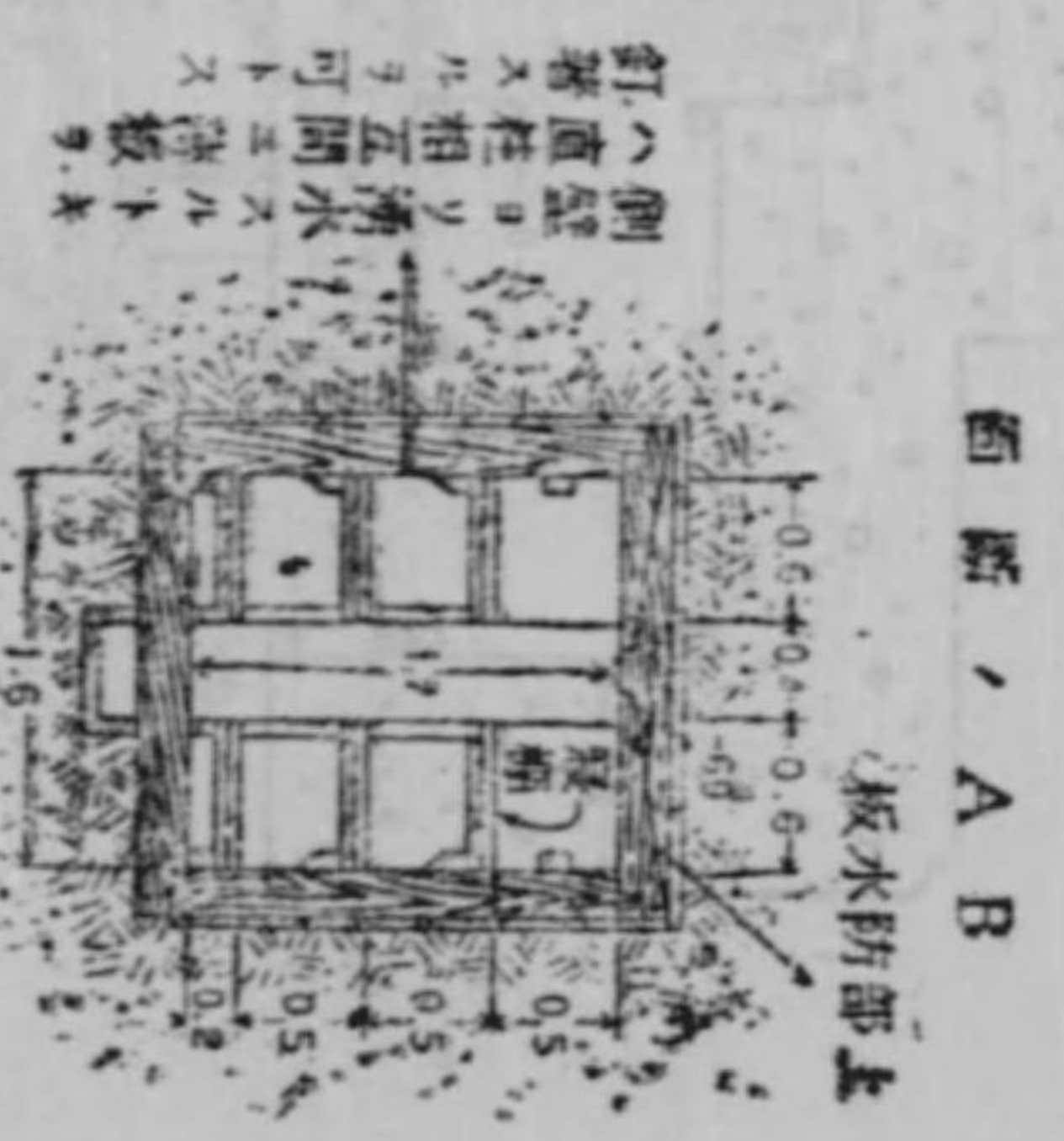
第四十六圖

部蔽掩中ルス有ヲ層彈遮ル成リニ條軌





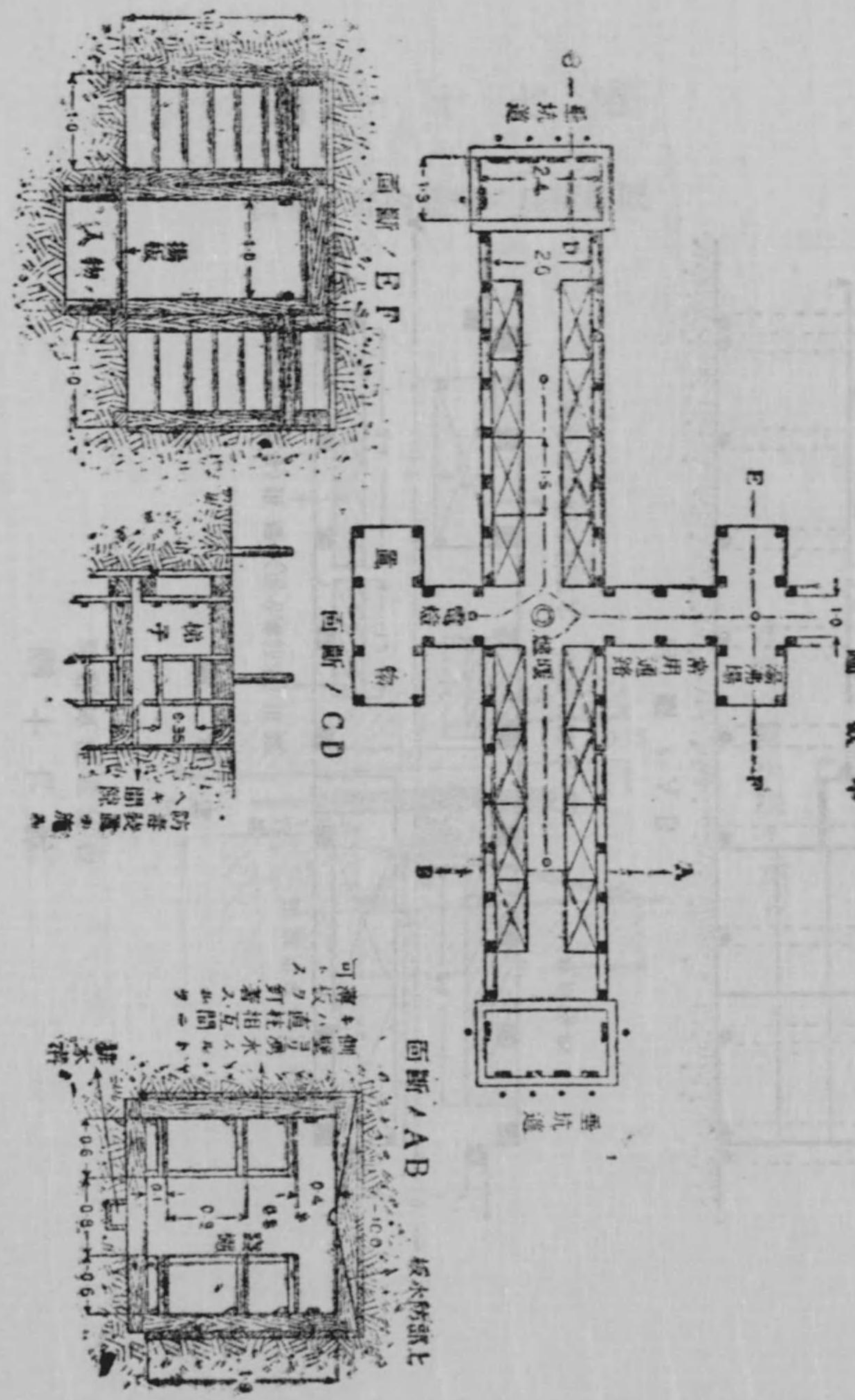
圖八十六 第
部 截 接 中 式 道 坑
平 截



面 斷 / A B
板水防部上

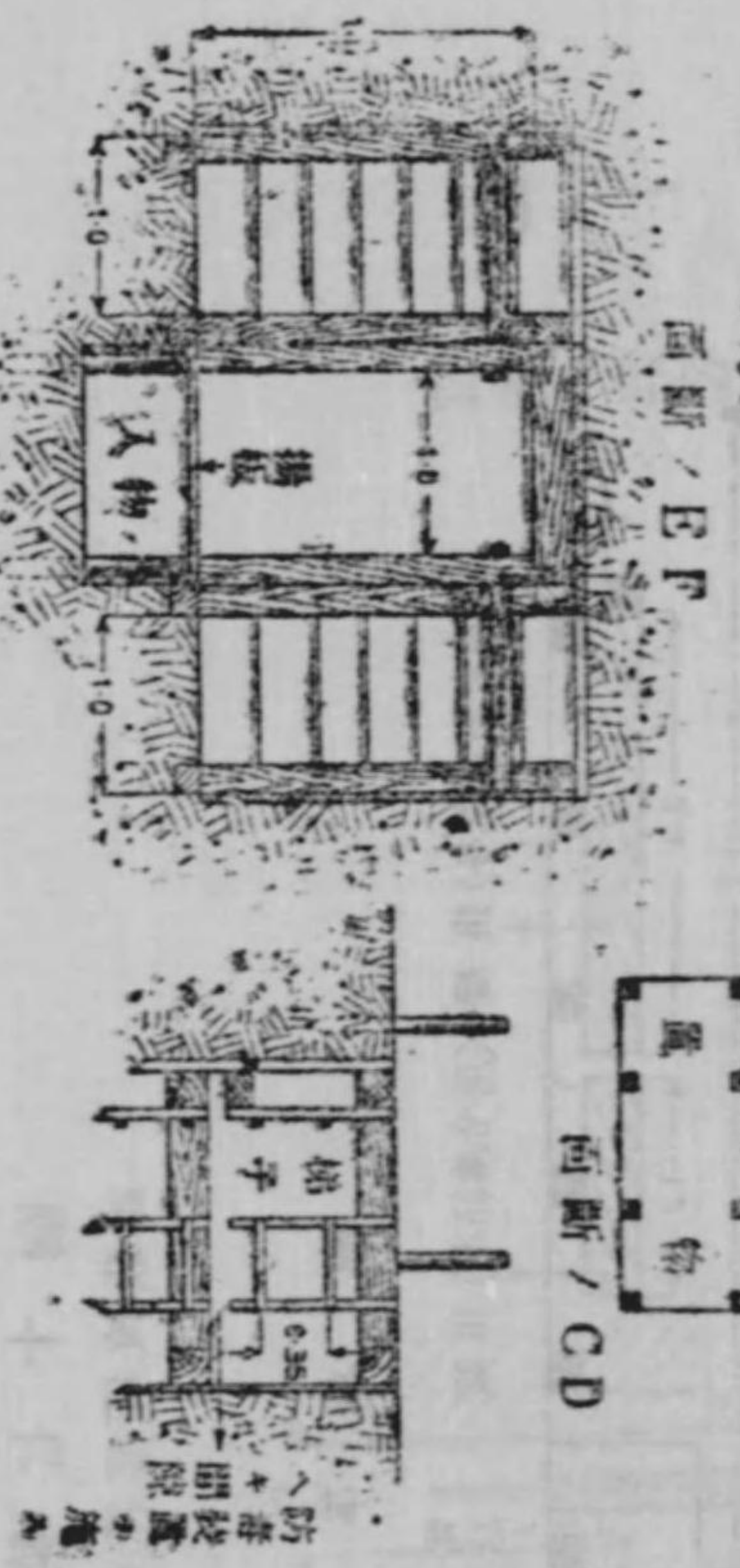
側壁のソリ清水スルトキ
側壁のソリ清水スルトキ
釘着スルトキ可トス

圖九十六 第
備 設 急 接 / 部 截 接 平
截



面 斷 / A B
板水防部上

側壁のソリ清水スルトキ
側壁のソリ清水スルトキ
釘着スルトキ可トス

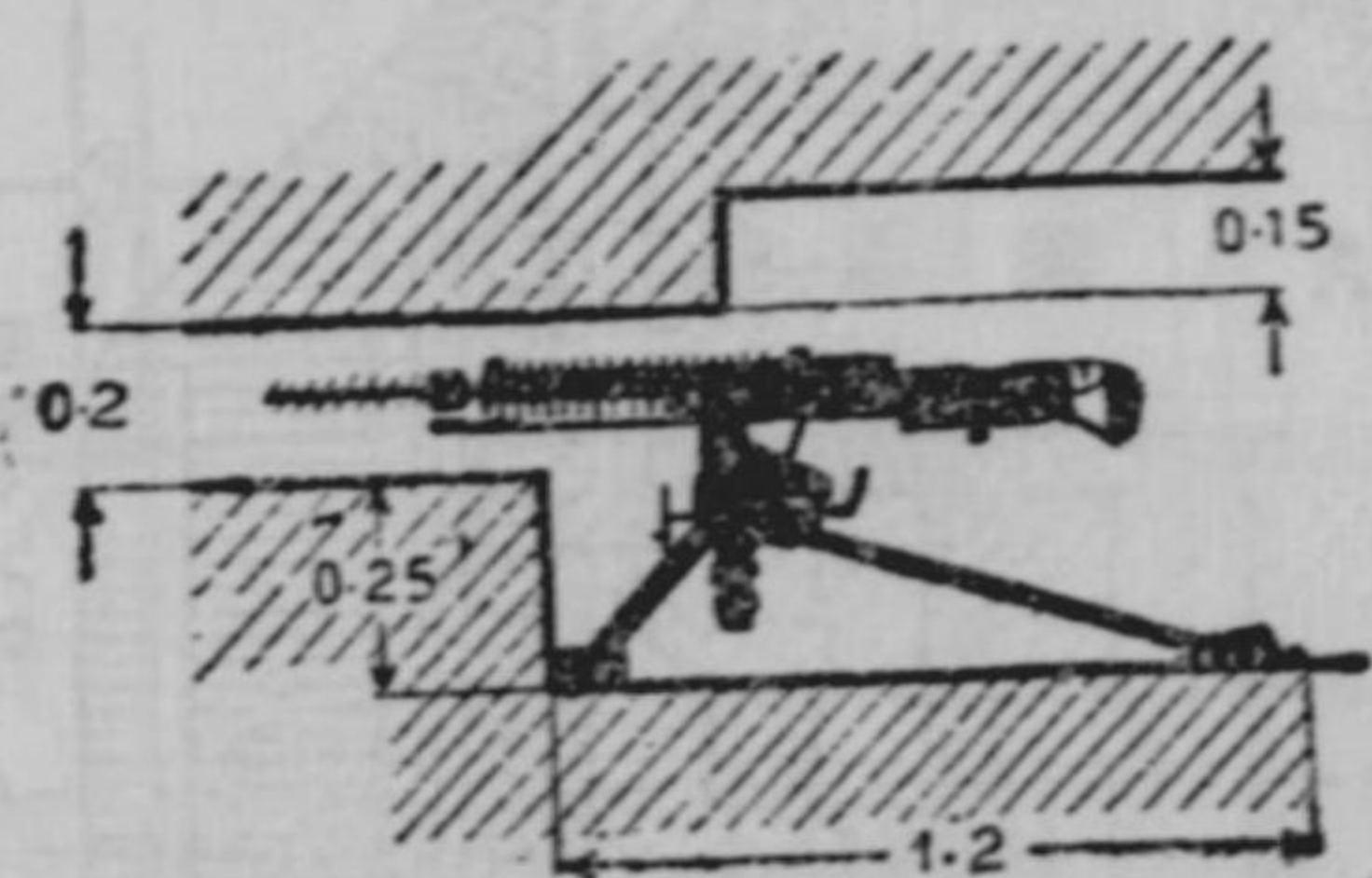


面 斷 / E F

面 斷 / C D

圖一十七第

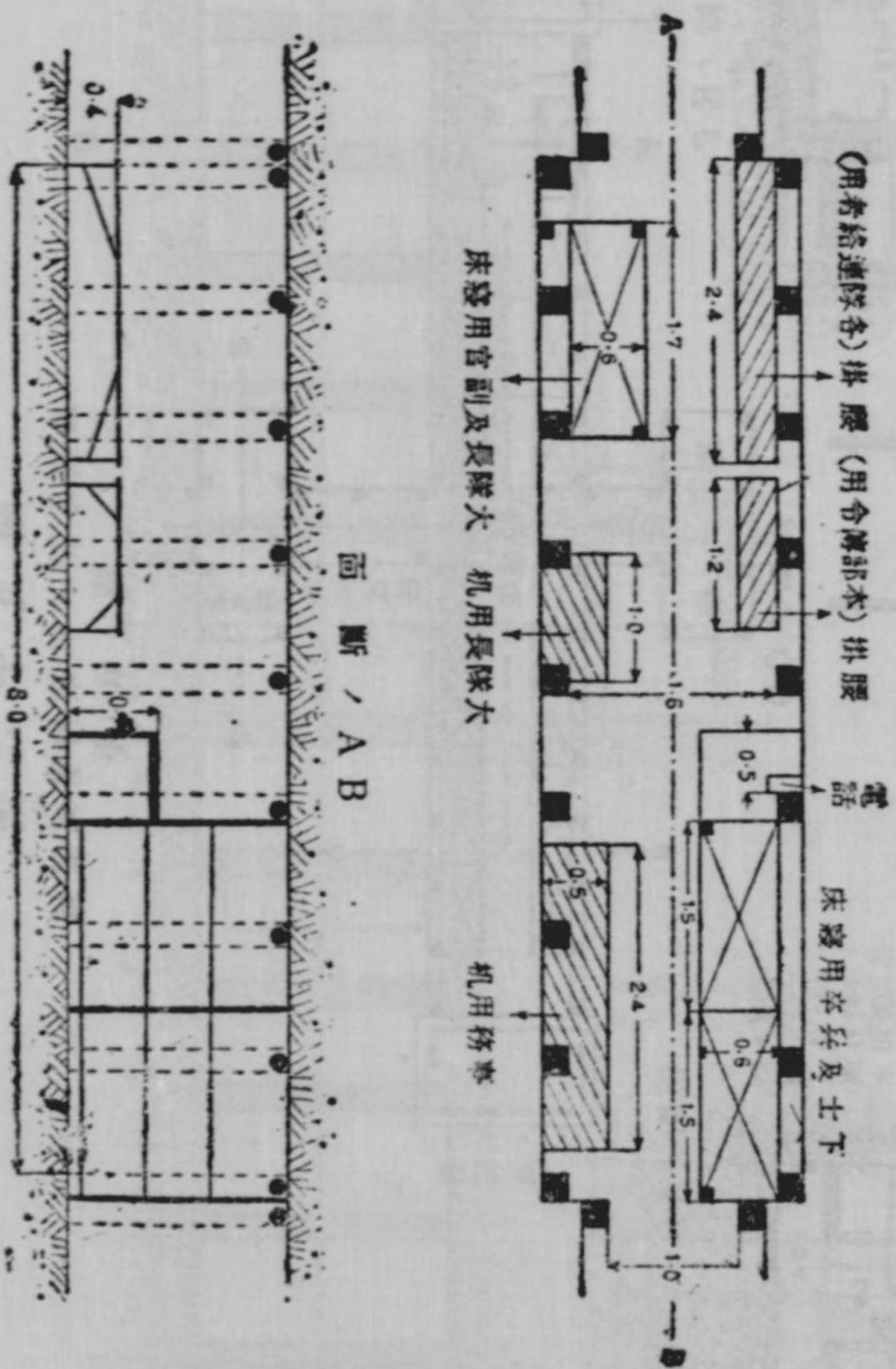
員幅ノ部内蓋掩ノ座統關機



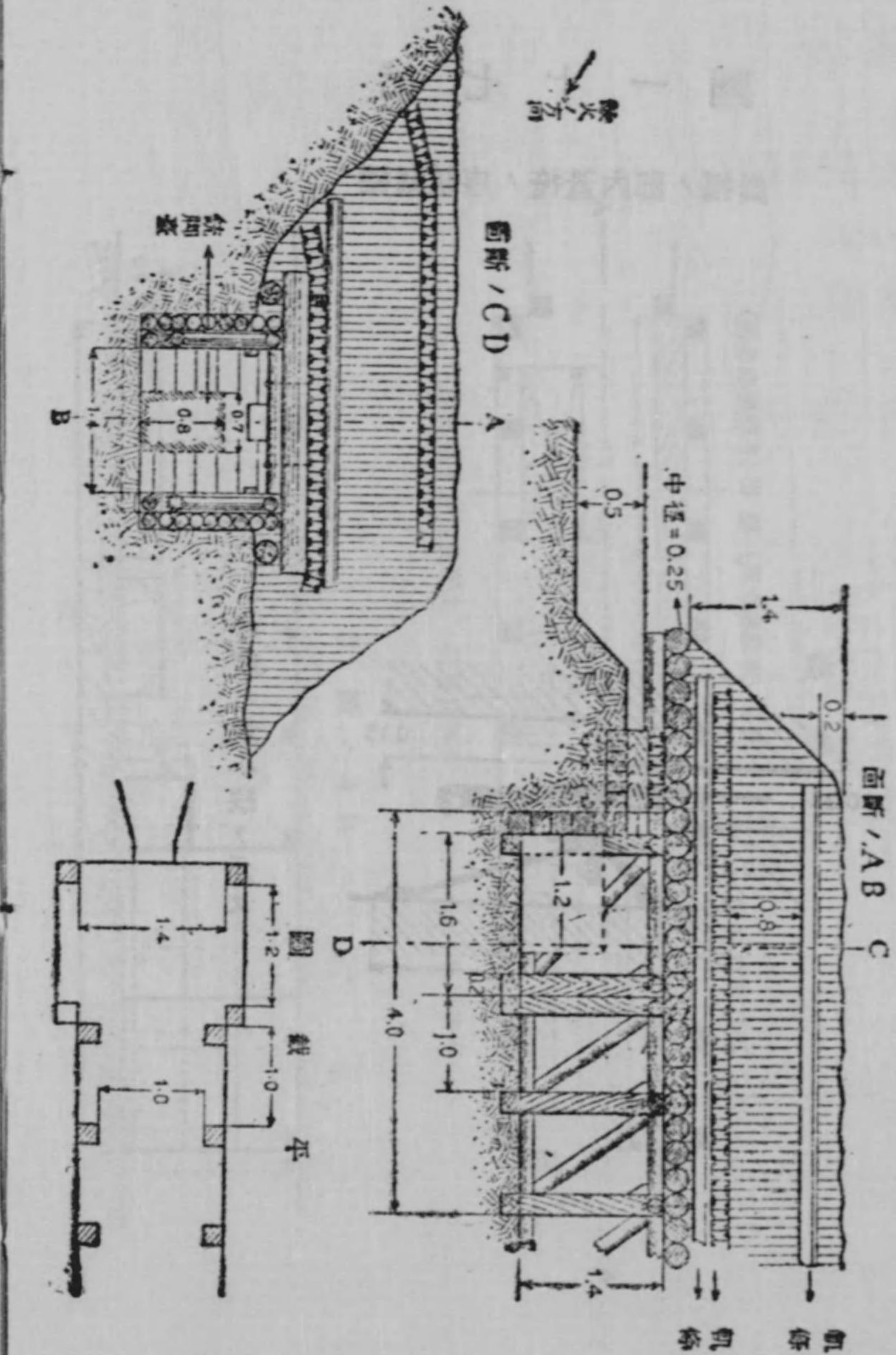
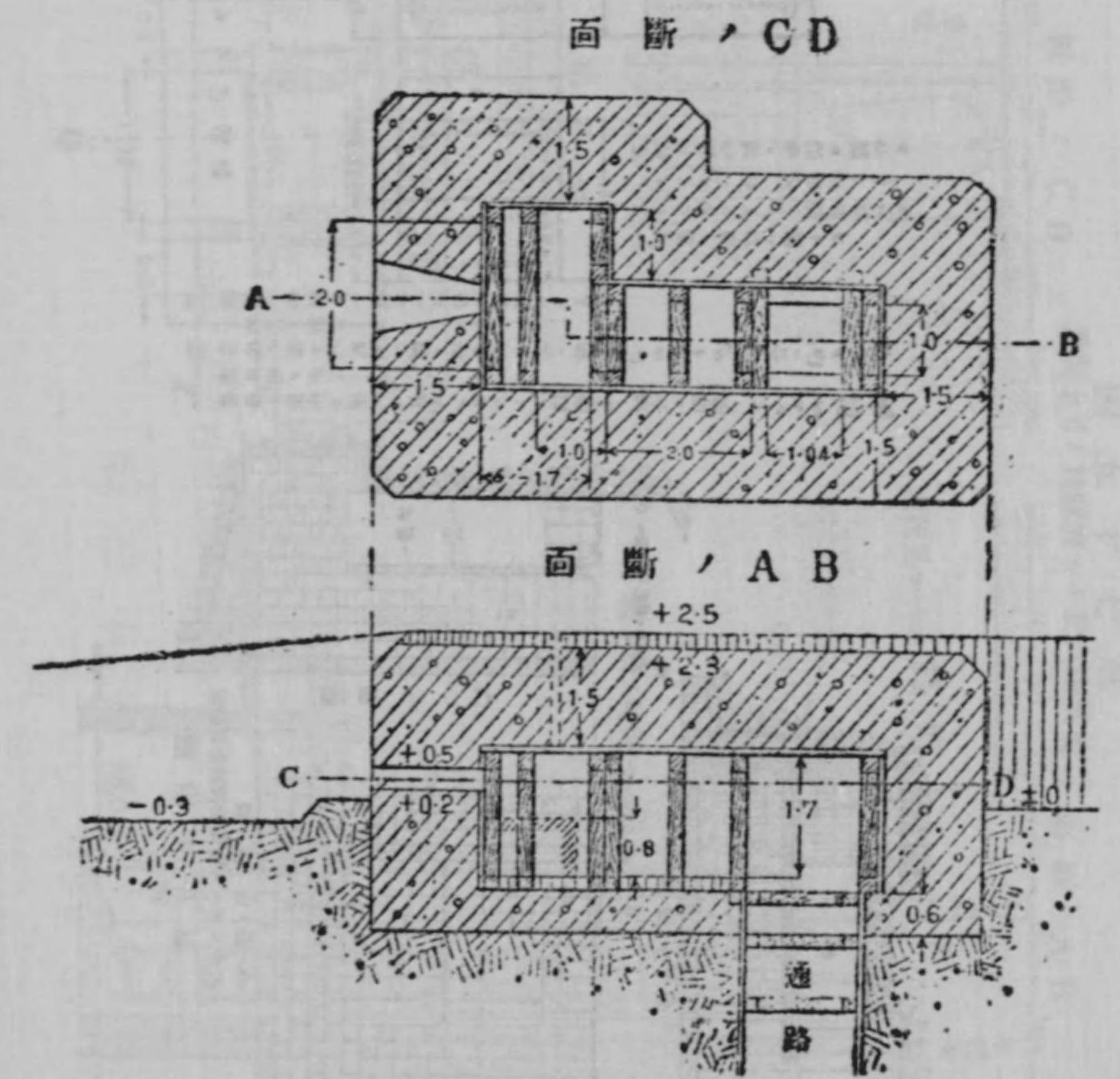
寸度ハ最小限ヲ示ス

圖十七第
部載掩用官揮指

圖 載 本



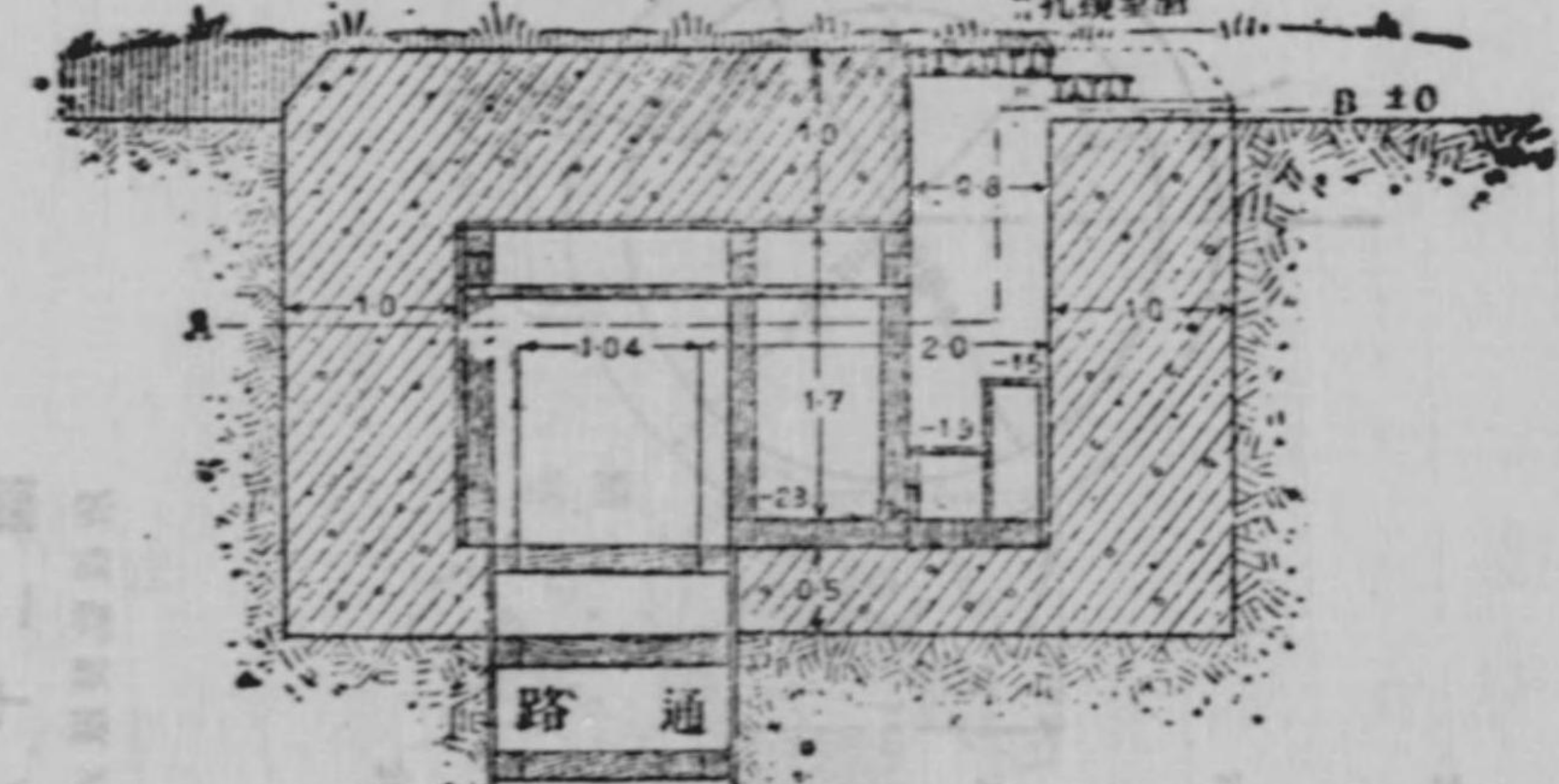
圖三十七第
座銃關機蓋掩製「-リクンゴ」
(度程部蔽掩重)



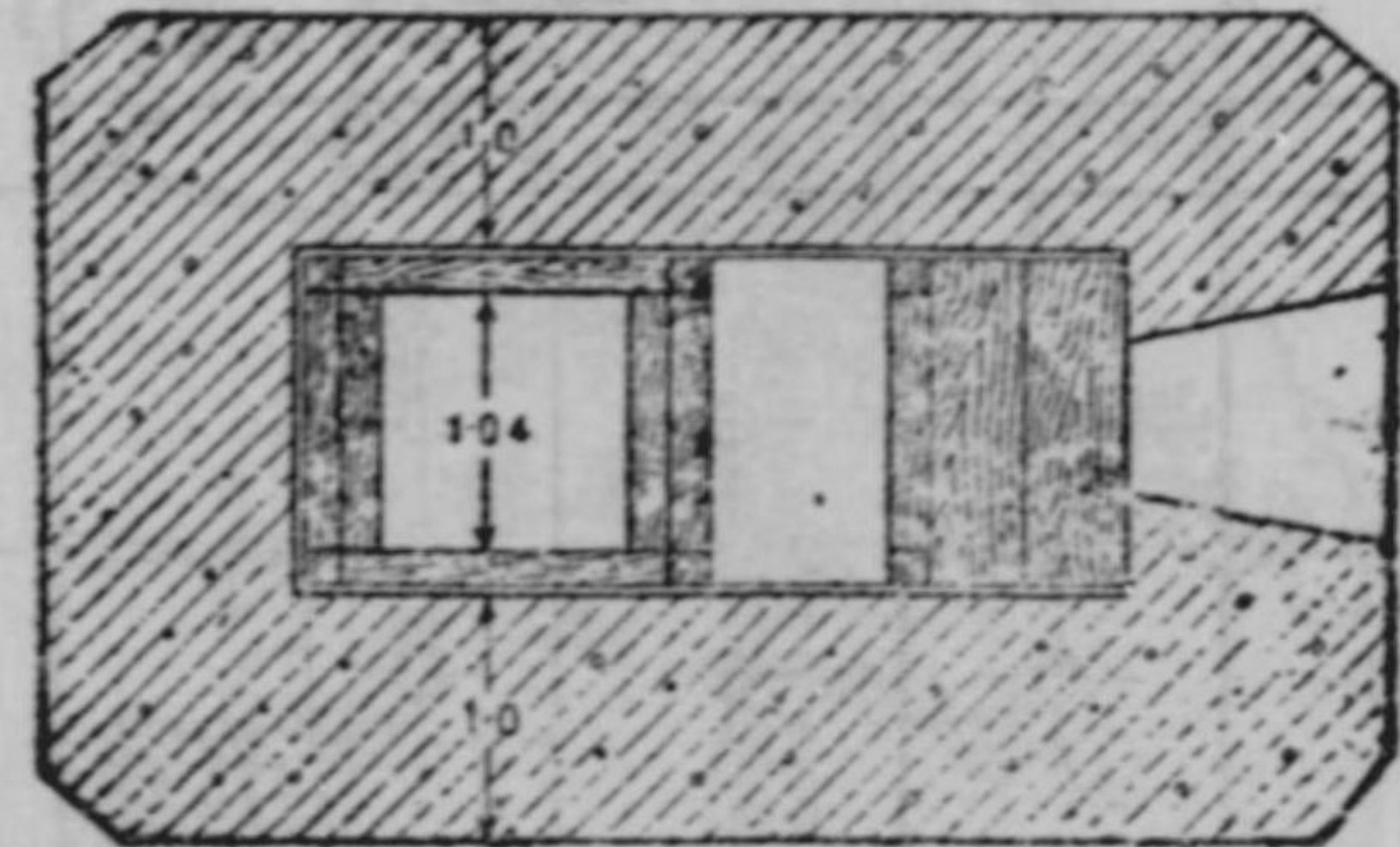
圖二十七第
座銃關機ル有ノ蓋掩ノ度程部蔽掩中

圖一十八第

板線監用揮指與ト一サクンゴ

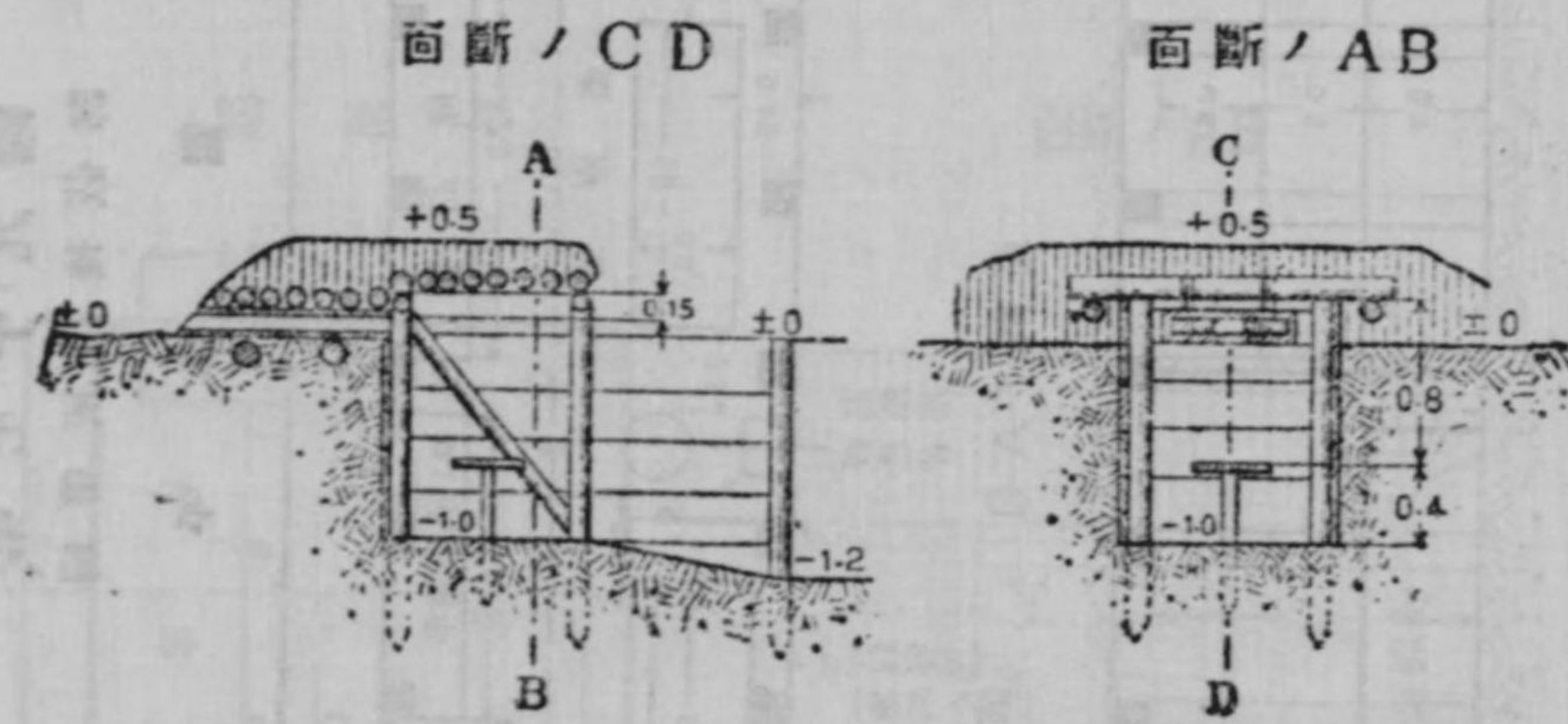


面斷ノAB

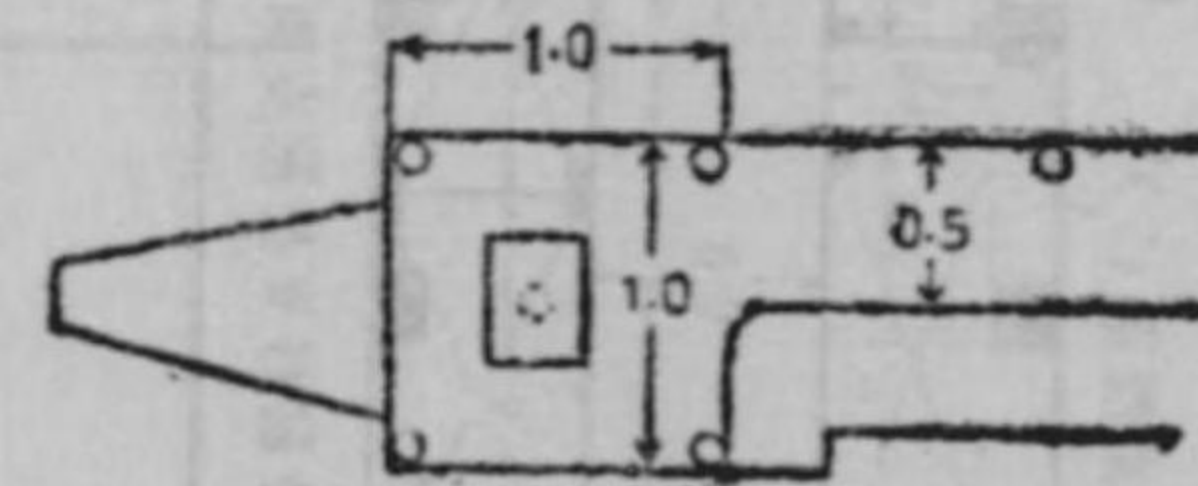


圖十八第

所視監ルス冠ヲ蓋掩輓



圖載平

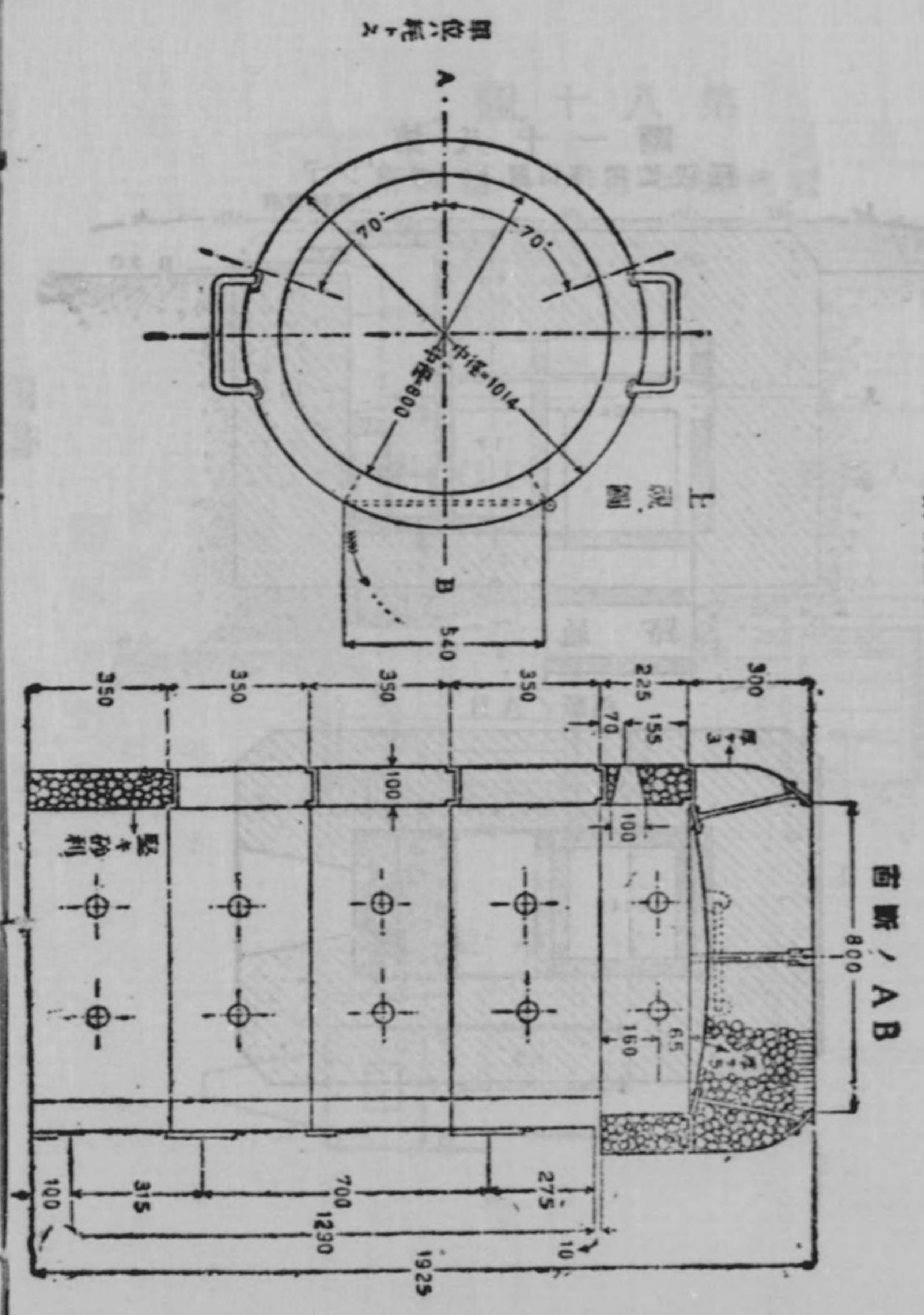
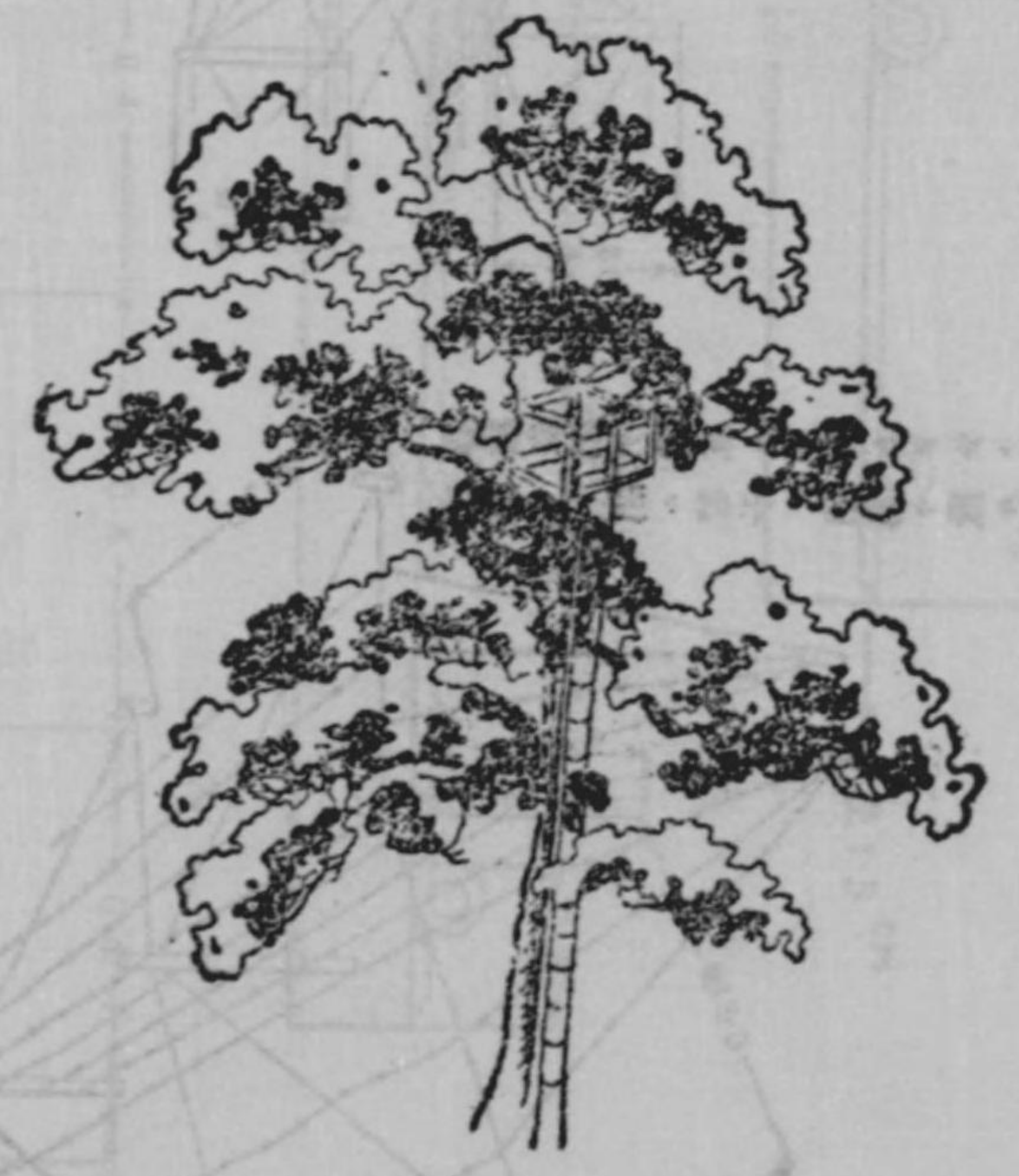


四書

七

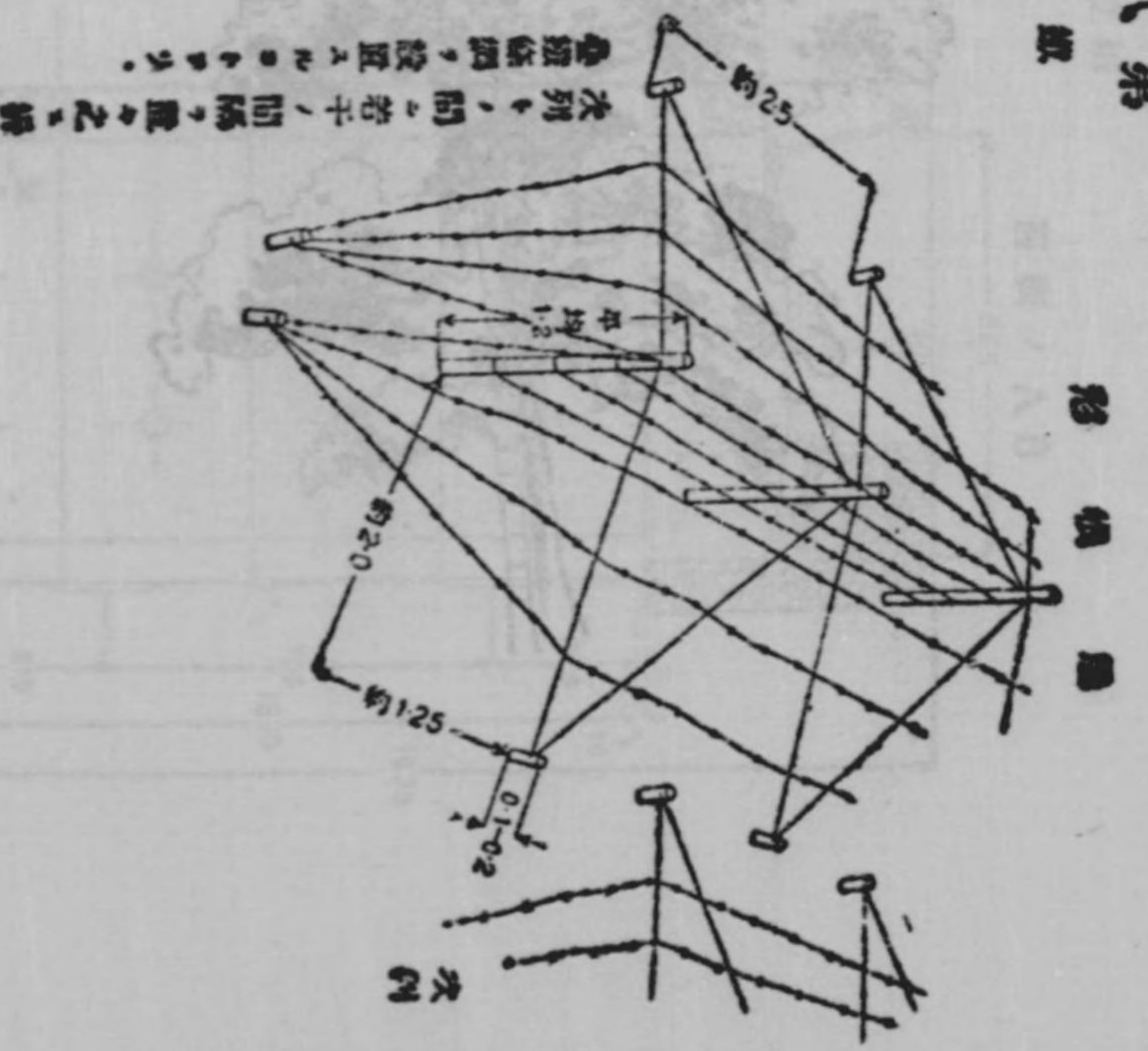
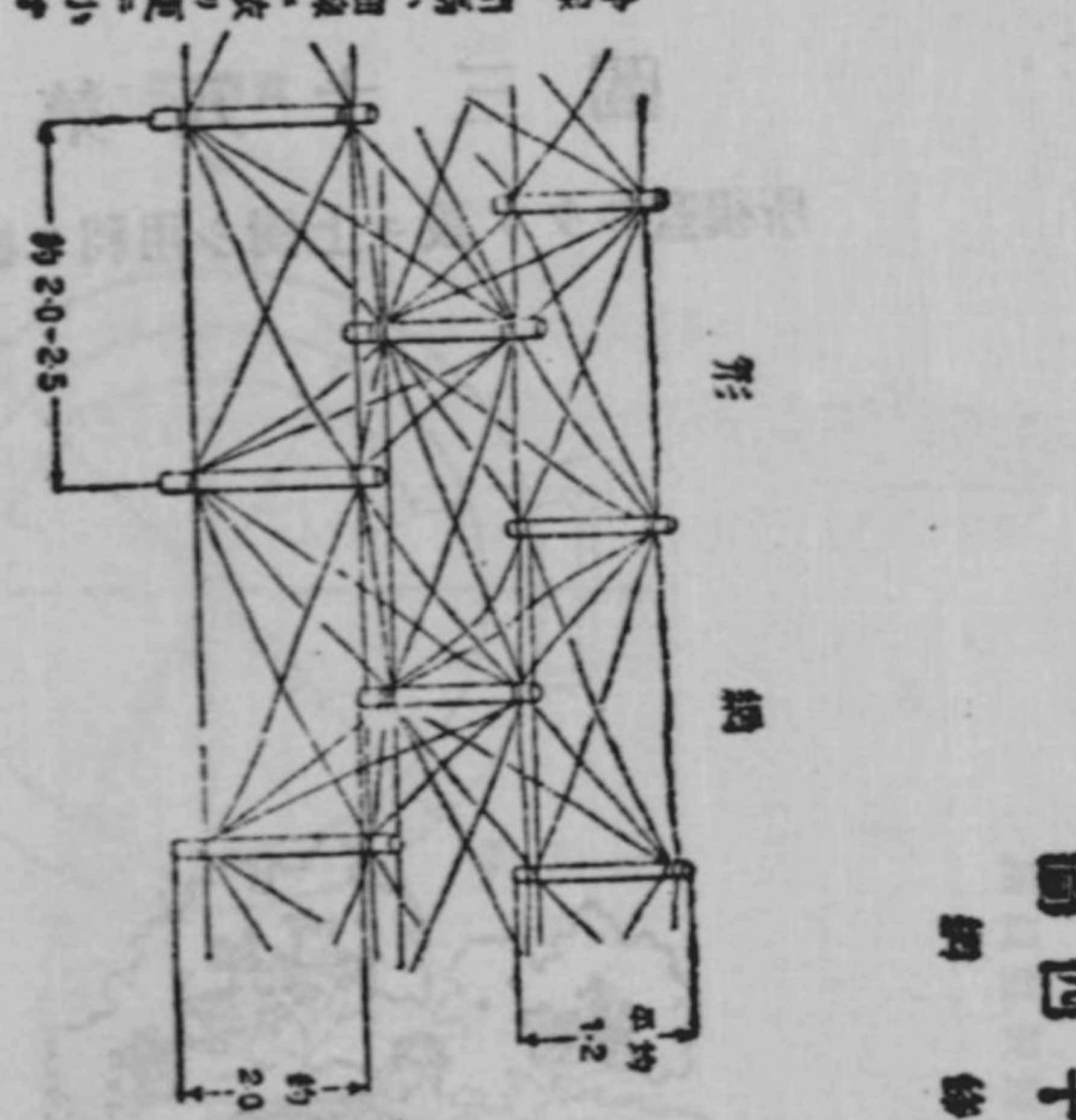
圖三十八第

所視監ルタケ設ニ上樹シ用利ヲ樹立



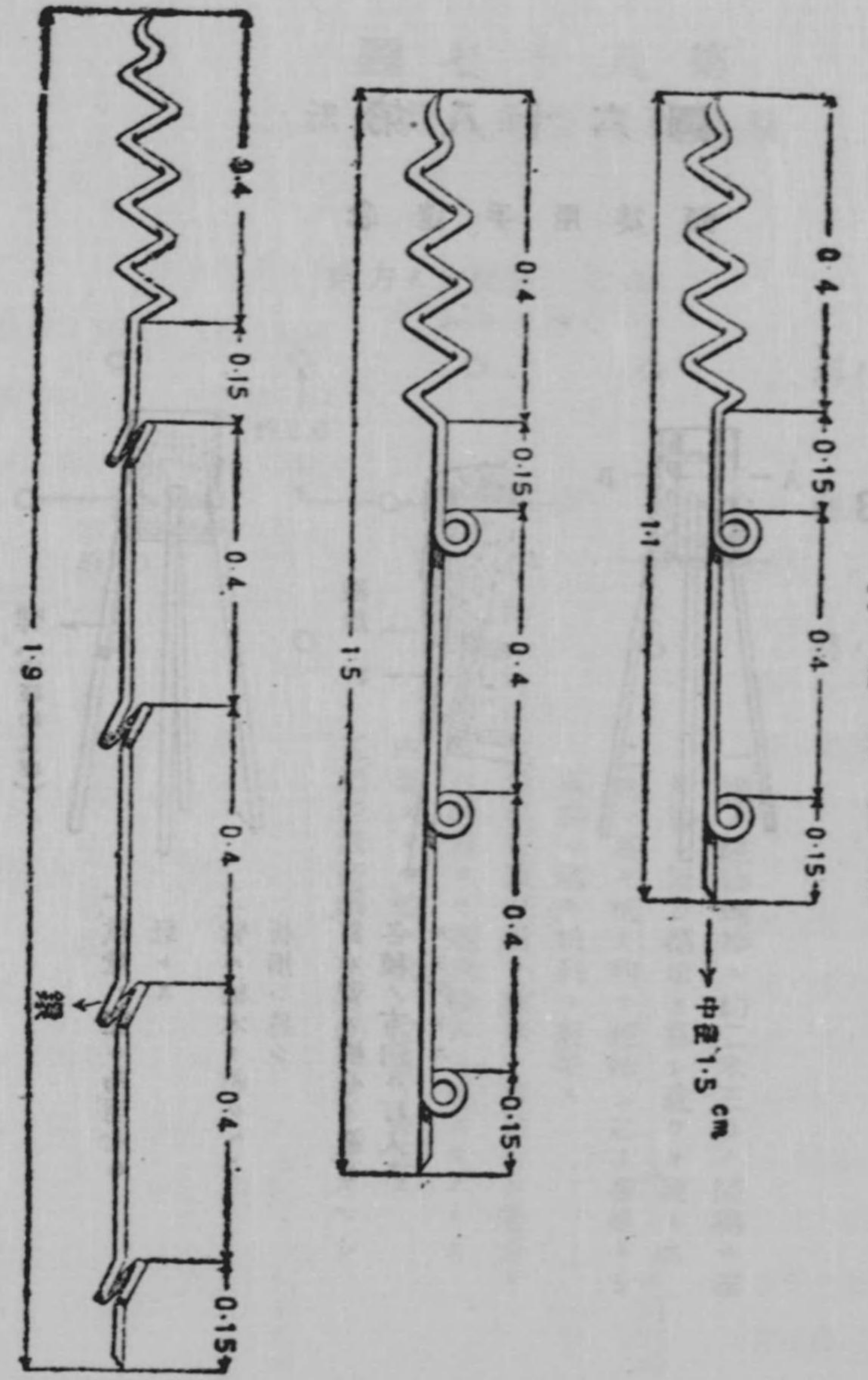
圖二十八第
所設監視機式立組

圖四十八第
鋼 紗 織

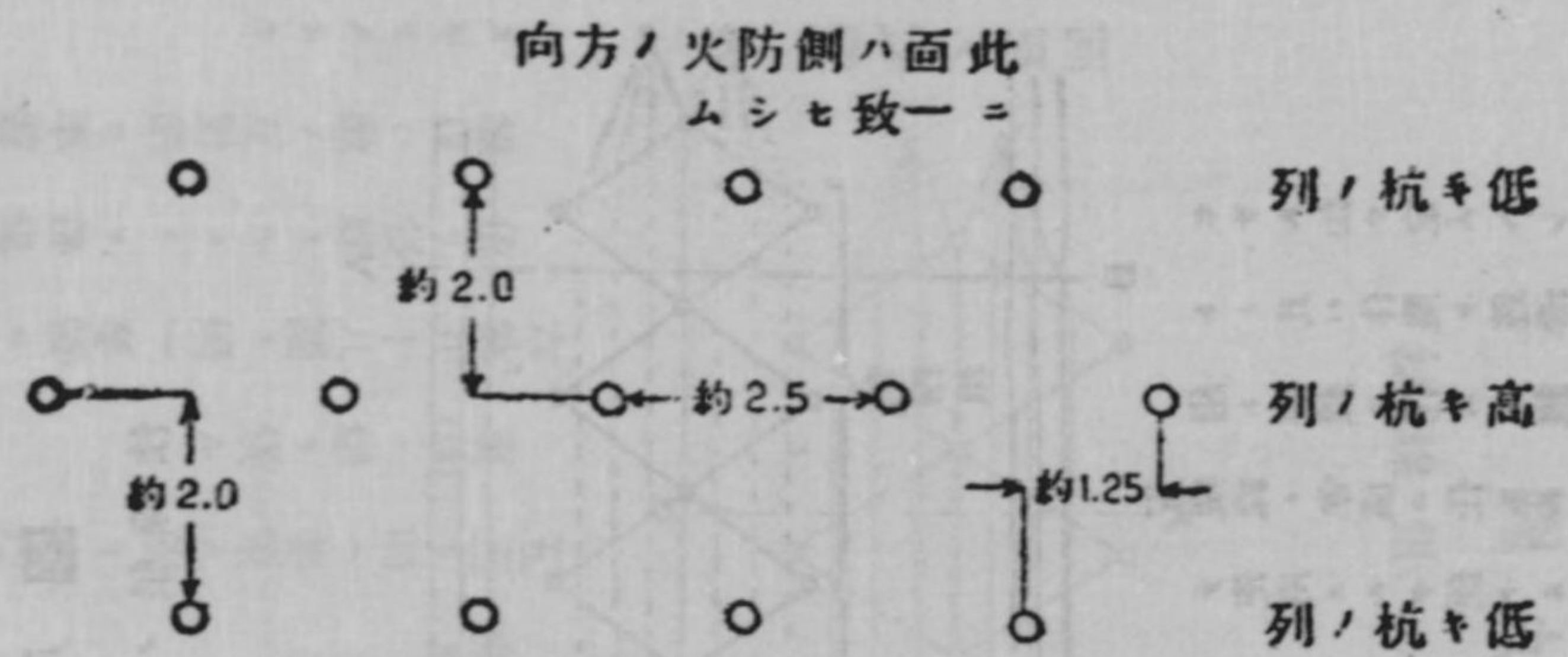


針線、間隔八細線、依り更ニ小
 の織状ヲ是ニ如クス
 低々織條鋼ト器トハ適宜針線
 數ヲ減シ又抗脚ヨリ抗頭ニ限ル織
 へ、ハ本器ニ強ク織リ以テス

圖五十八第
抗 旋 螺 製 鐵 織



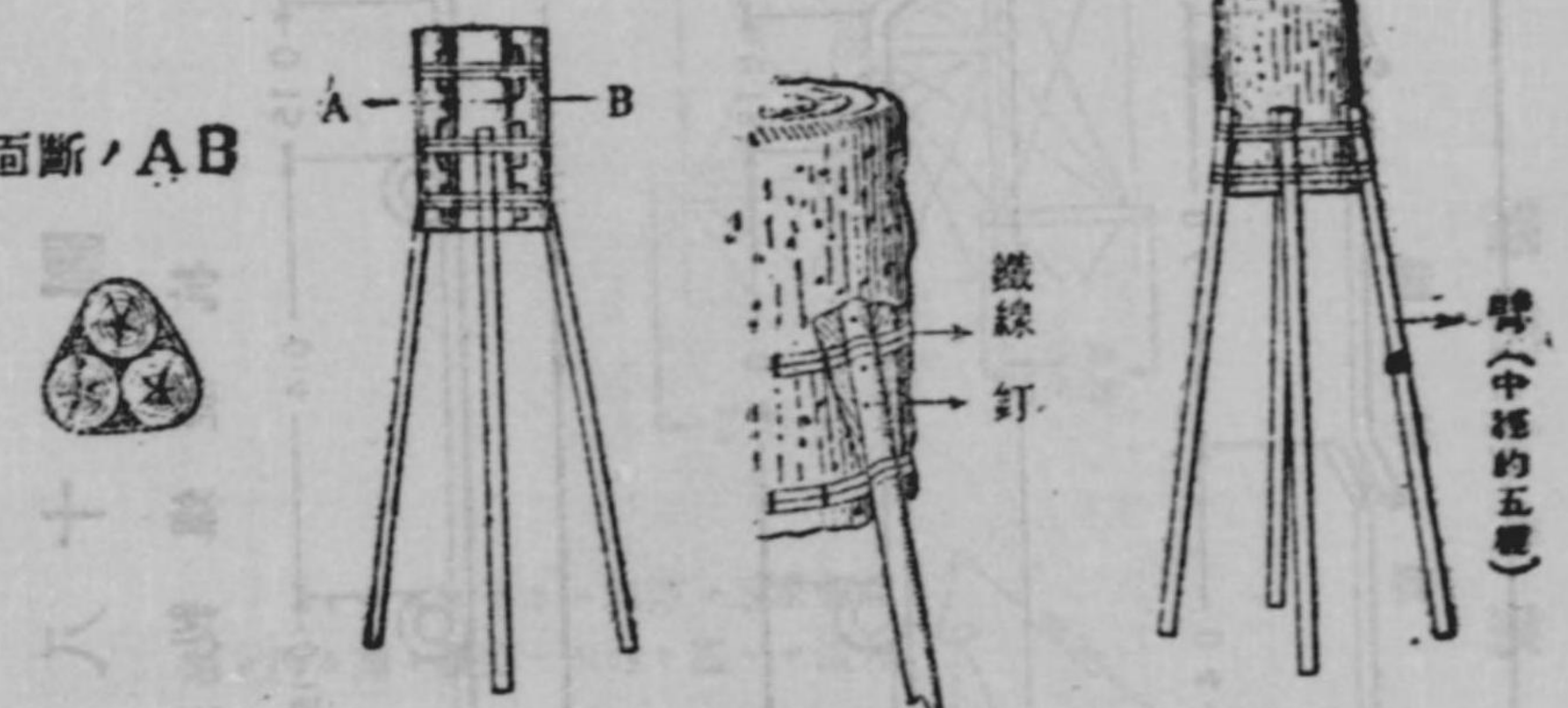
圖七十八第
法始經ノ網條鐵形根屋



- 一、豫メ經始繩等ニ約二米五〇ノ間隔ニ布片等ヲ附シ標示ヲ爲シ置クヲ便トス
- 二、先ツ高キ杭ノ列ヲ經始シ之ヲ基準トシ兩側ニ低キ杭列ヲ經始ス
- 三、屋根形鐵條網ヲ數列ニ構築スル場合ニハ前方ヨリ逐次後方ニ及スモノトス
- 四、要スレハ後ニ杭ノ位置ヲ修正ス
- 五、網形鐵條網モ亦此經始法ニ準スヘシ

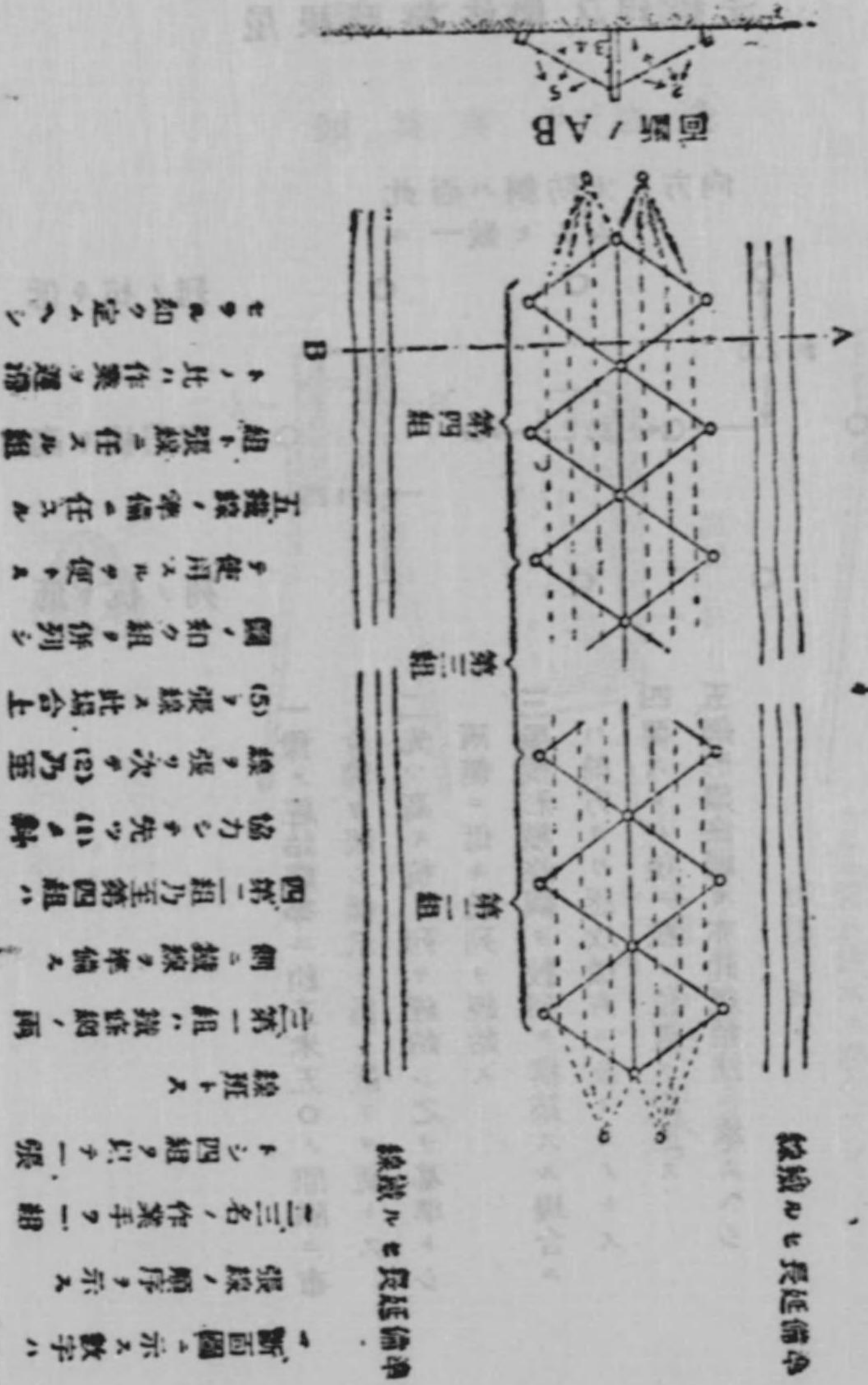
圖六十八第

頭築用手造急



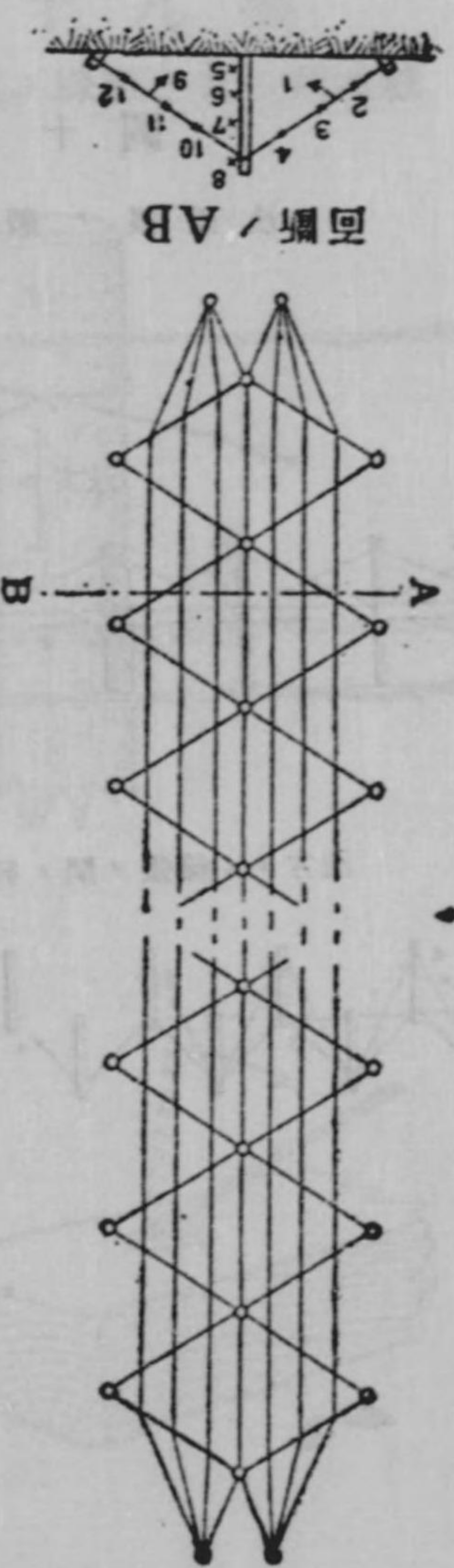
- 一、重量ハ五〇乃至七〇廷トス
- 二、臂ハ枯木ヲ避クヘシ折損シ易シ
- 三、釘ハ臂ノ樹心ヲ避ケ各種ノ方向ニ打入スルヲ可トス

第八十八圖
法線張ノ網條形根屋



第九十八圖

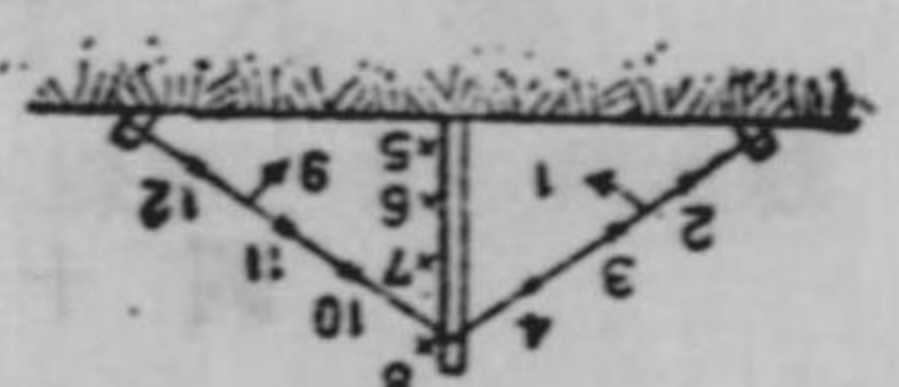
法線張ノ網條形根屋



一斷面ニ示ス數字ハ張線ノ張力ヲ示ス
 二三名ノ作業手ヲ一組トシ
 張線ノ順序ヲ示ス
 一斷面ニ示ス數字ハ張線ノ張力ヲ示ス

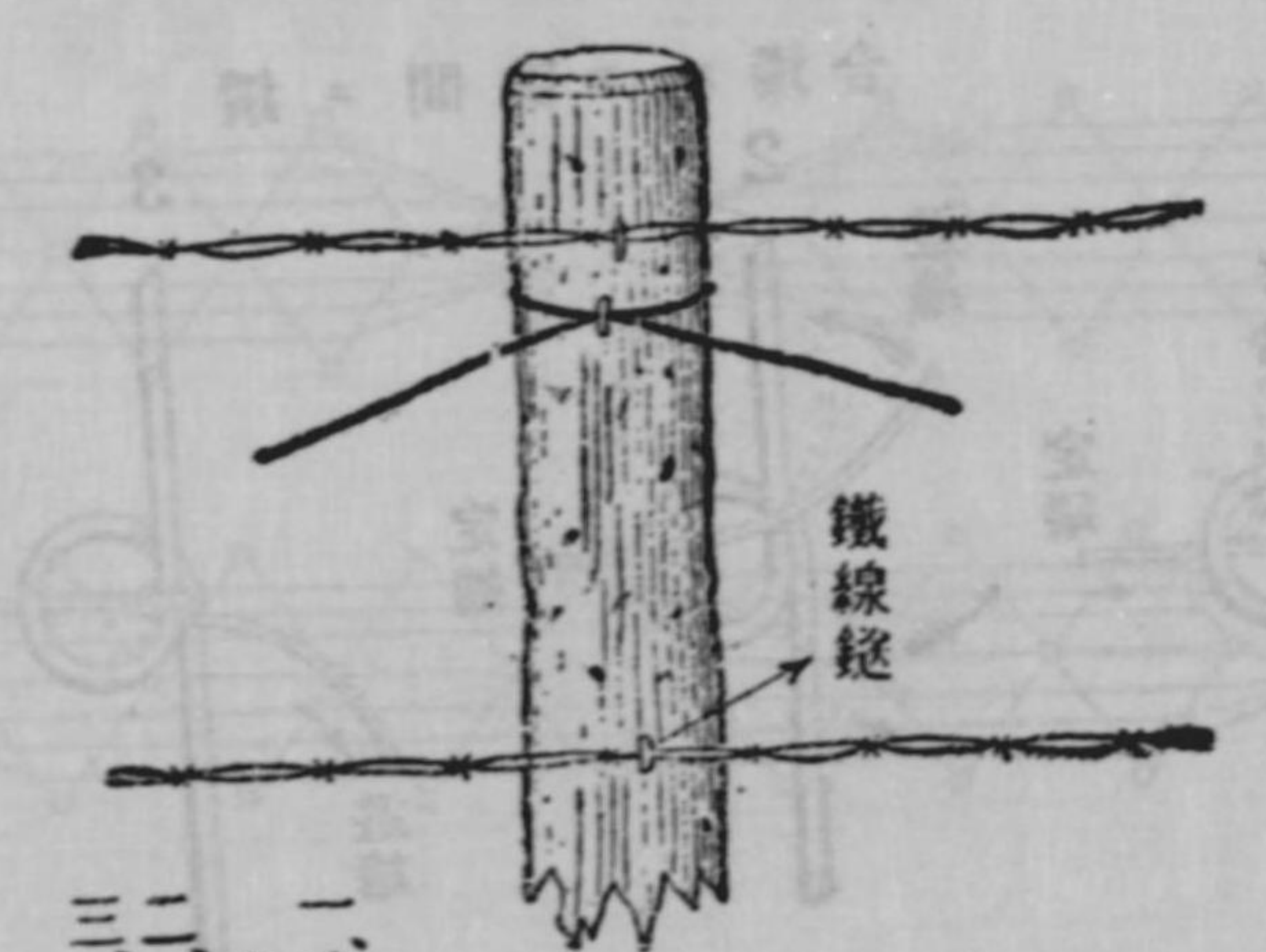
二第一組ハ張線四ノ兩
 組ニ張線ヲ準備ス
 四第二組乃至第四組ハ
 協力シテ先ツ(1)ノ斜
 線ヲ張リ次(2)乃至
 (5)ノ張線ハ此場合上
 部ノ和力ヲ併列シ
 使用スルヲ便トス
 五張線ノ準備ニ任スル
 組ト張線ニ任スル組
 ト比ハ作業ノ運轉
 セル如ク定ムル

回照ノAB

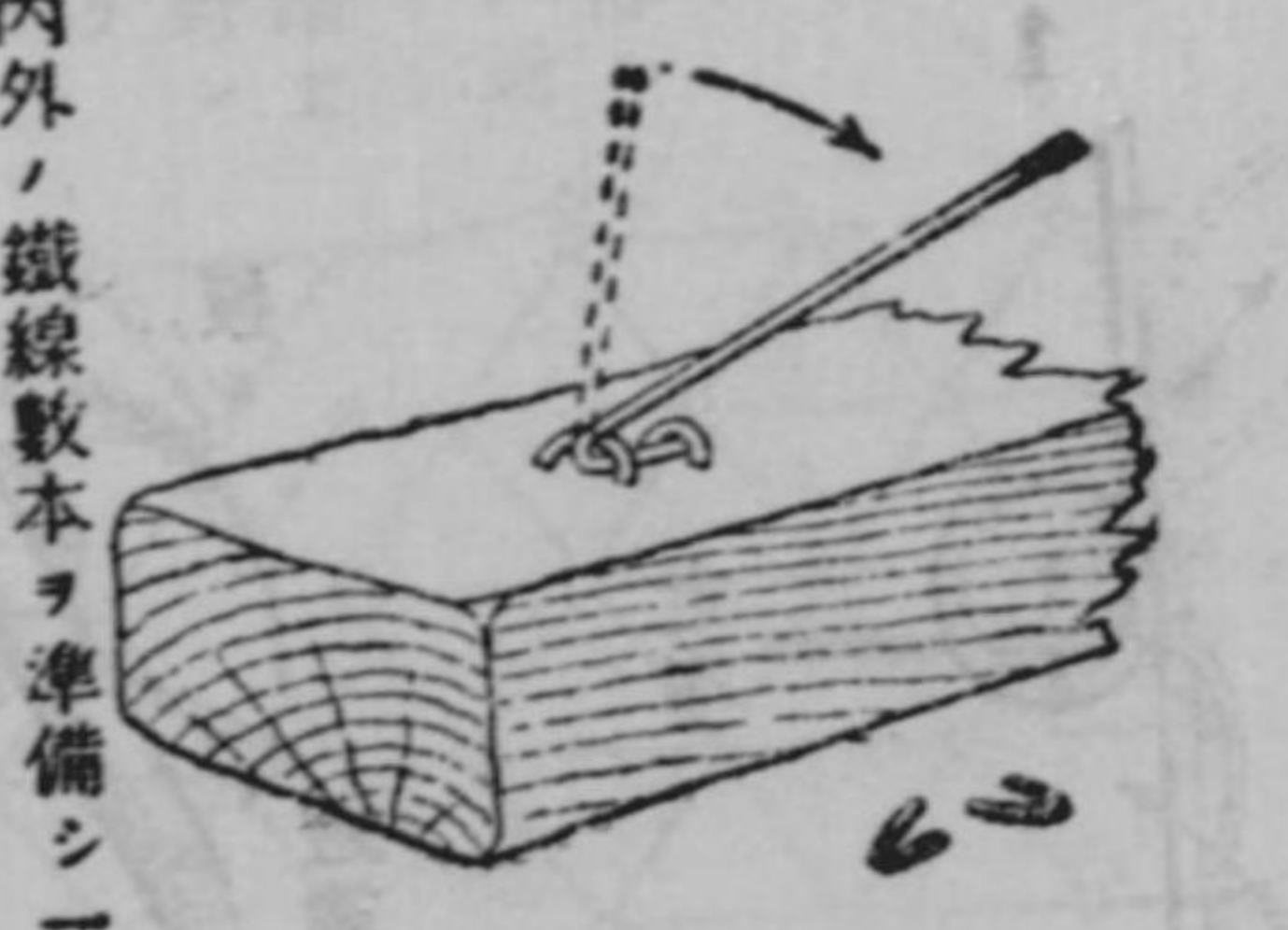


六第八十八圖ト同一要領
 依リ張線スルコトヲ得也
 張線ハ敵ノ反對側ニ準備
 スルモノトス

圖一十九第
法ルス定固ニ杭ヲ線織リ依ニ鏈線織

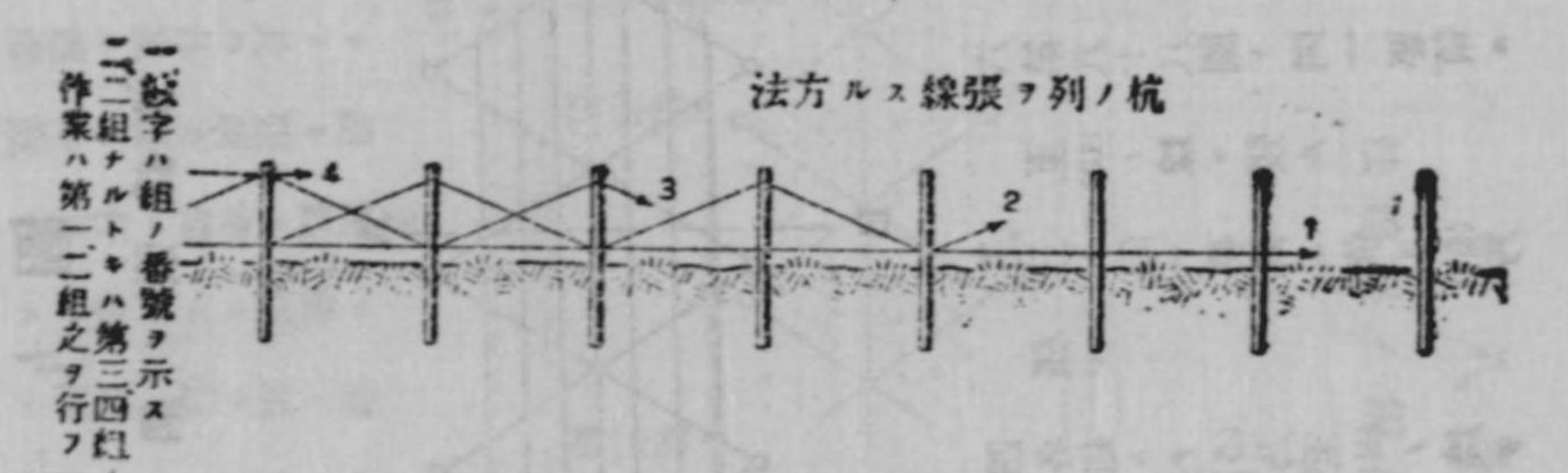


- 一、豫ノ一米内外ノ鐵線數本ヲ準備シ一名ハ此設
- 備ニ依リ鐵線ヲ曲ク
- 二、他ノ兵ハ鐵條鉄ニテ之ヲ截斷ス
- 三、角材ニ換フルニ丸太ヲ使用シ得此際ハ其轉動
- ヲ防クヘシ



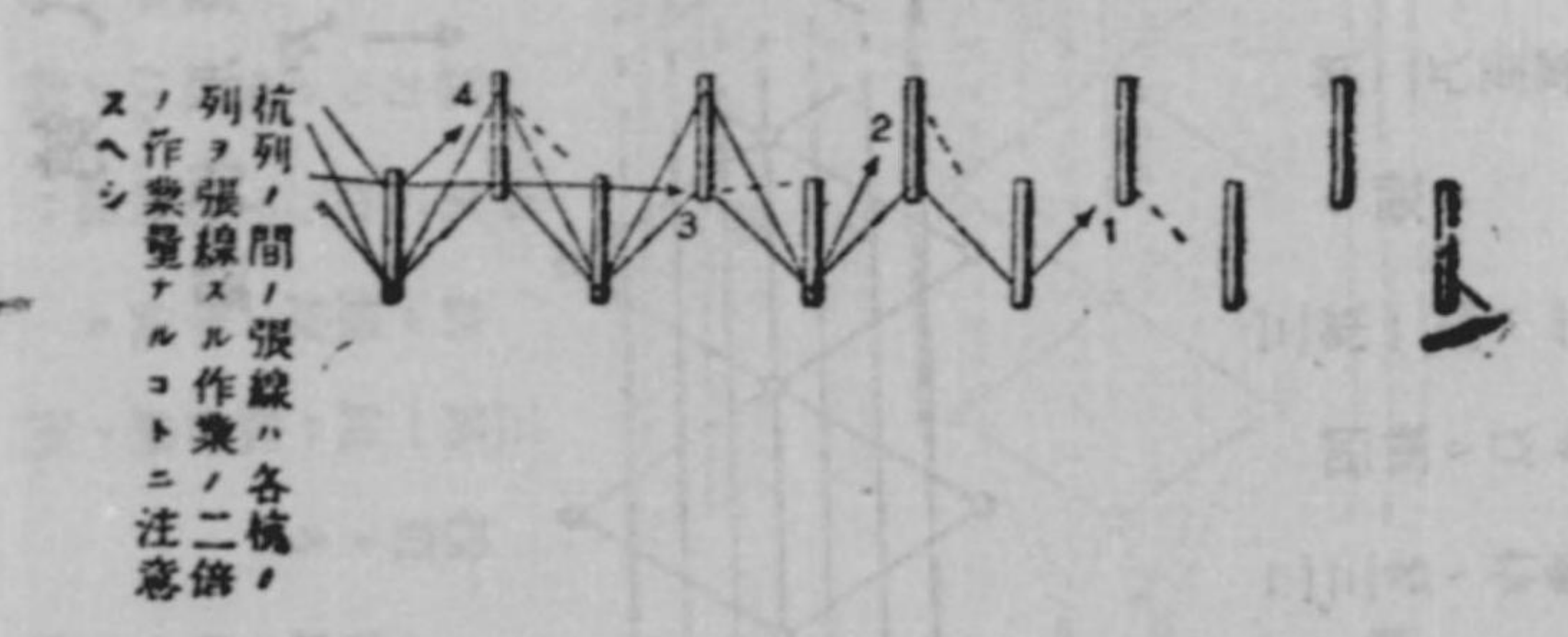
圖十九第

法線張ノ網條鐵形網



- 一、板字ハ組ノ番號ヲ示ス
- 二、組ナルトハ第三四組
- 件業ハ第一二組之ヲ行フ

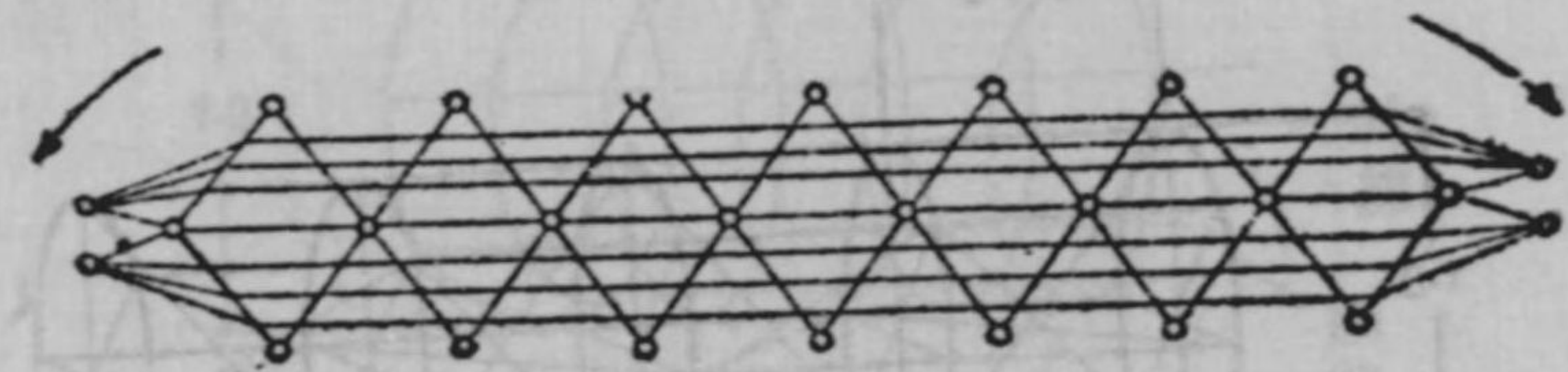
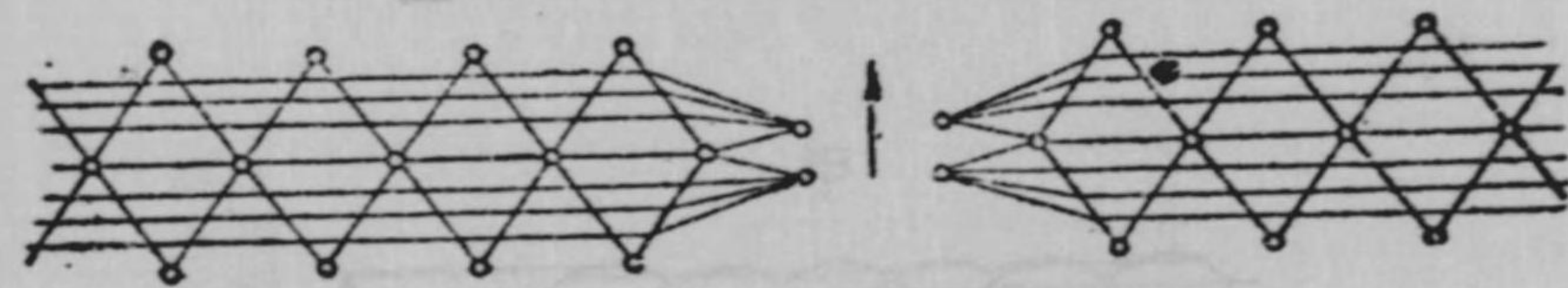
法方ルス線張ヲ間ノ列杭



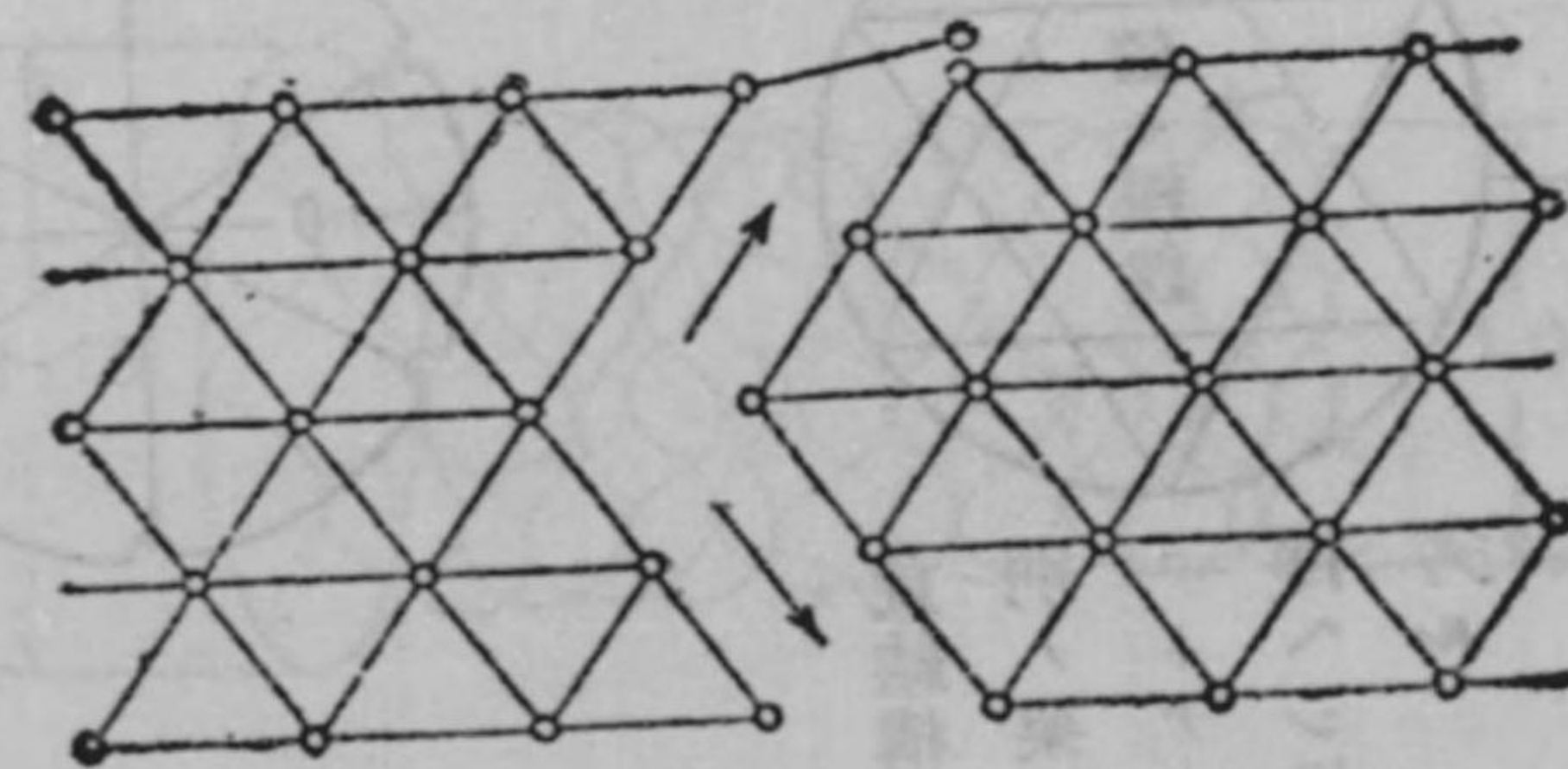
- 杭列ノ間ノ張線ハ各杭ノ
- 列ヲ張線スル作業ノ二倍
- ノ作業量ナルコトニ注意
- スヘシ

圖三十九第

路通ルタケ設ニ物碍障



開シ得ル
如クセハ近
距離ヨリス
ル敵ノ地上
視察ニ對シ
有利ナリ

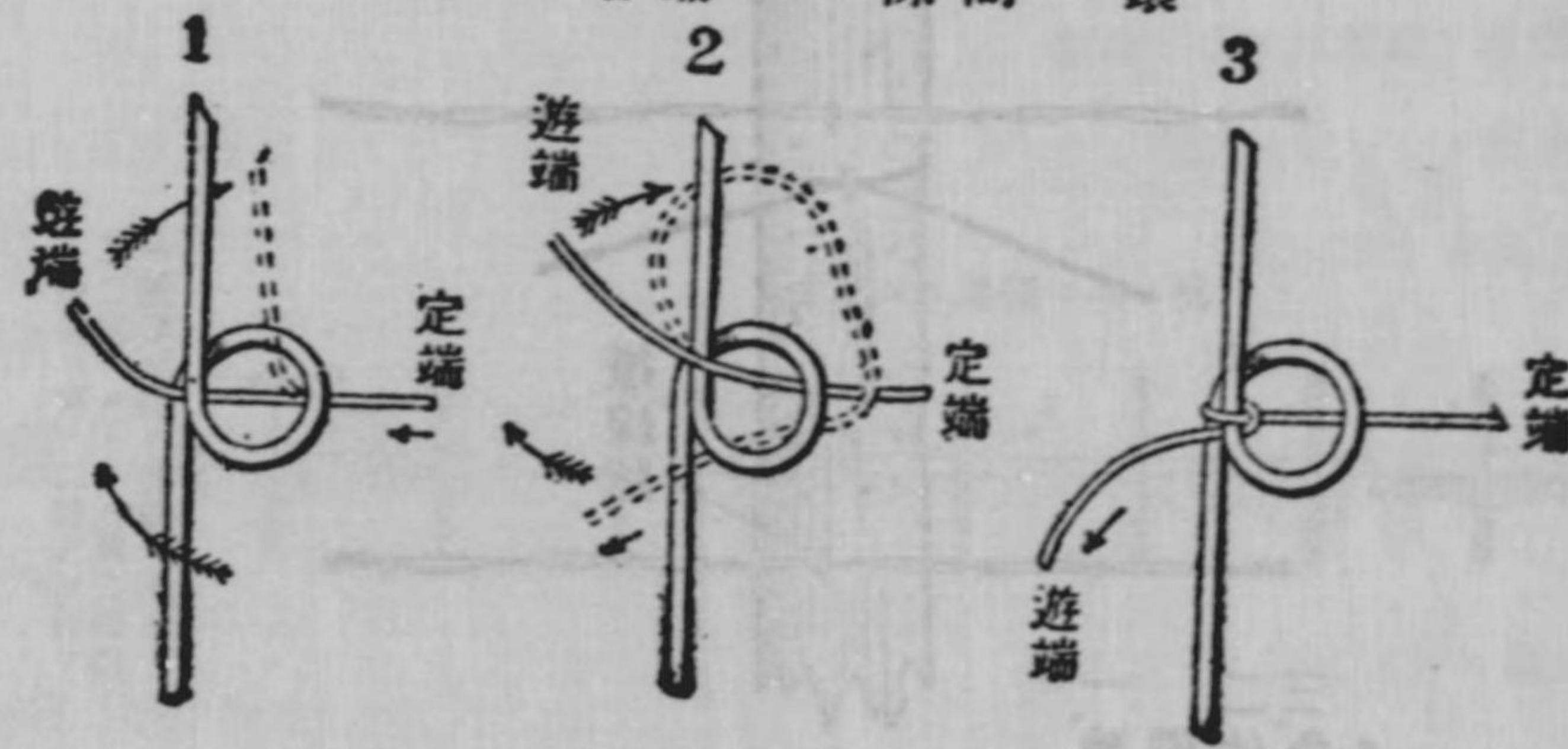


馬柜用塞閉

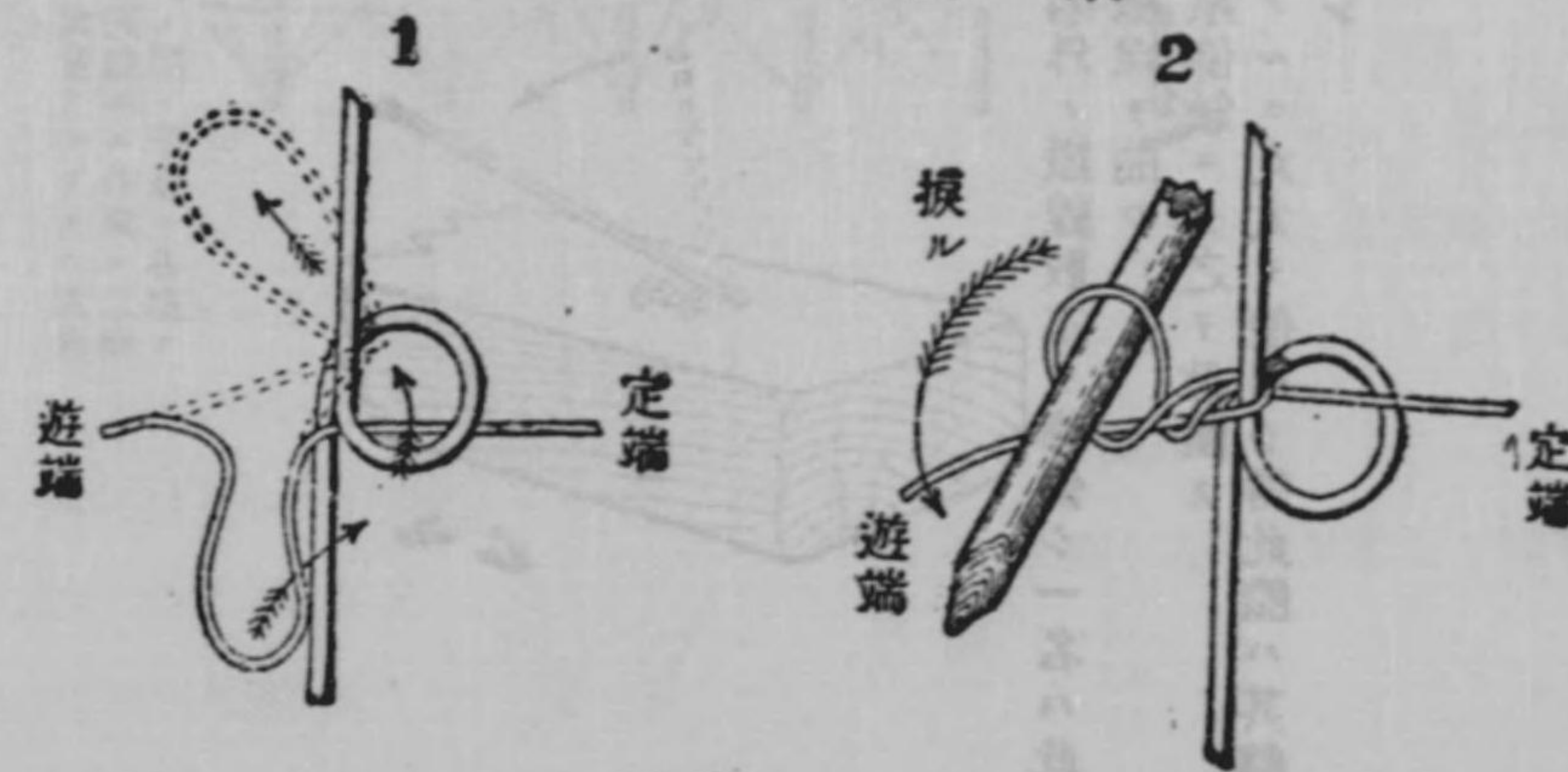
圖二十九第

法定固ノ線鐵ニ杭旋螺製鐵

合場ルア隙間ニ鐵

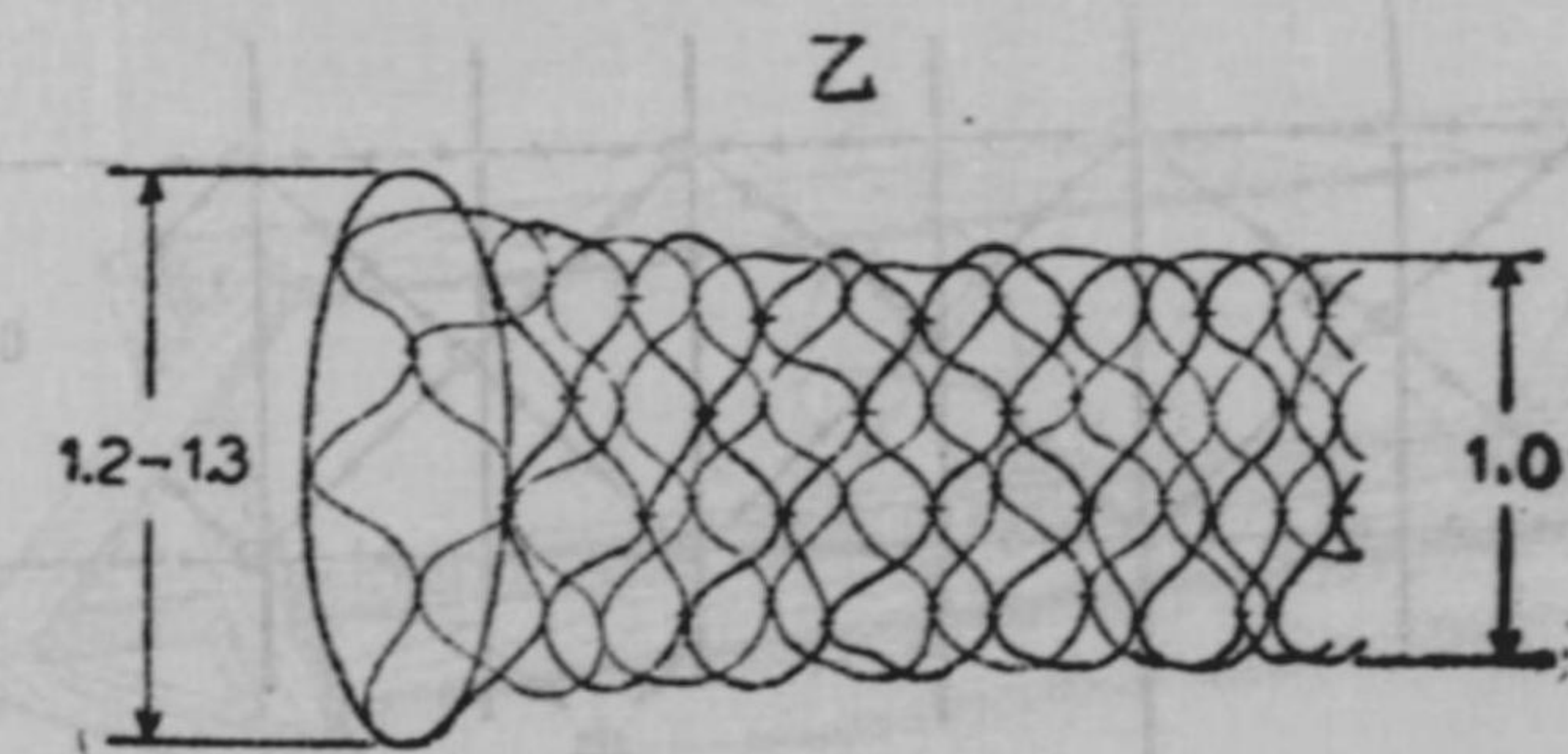
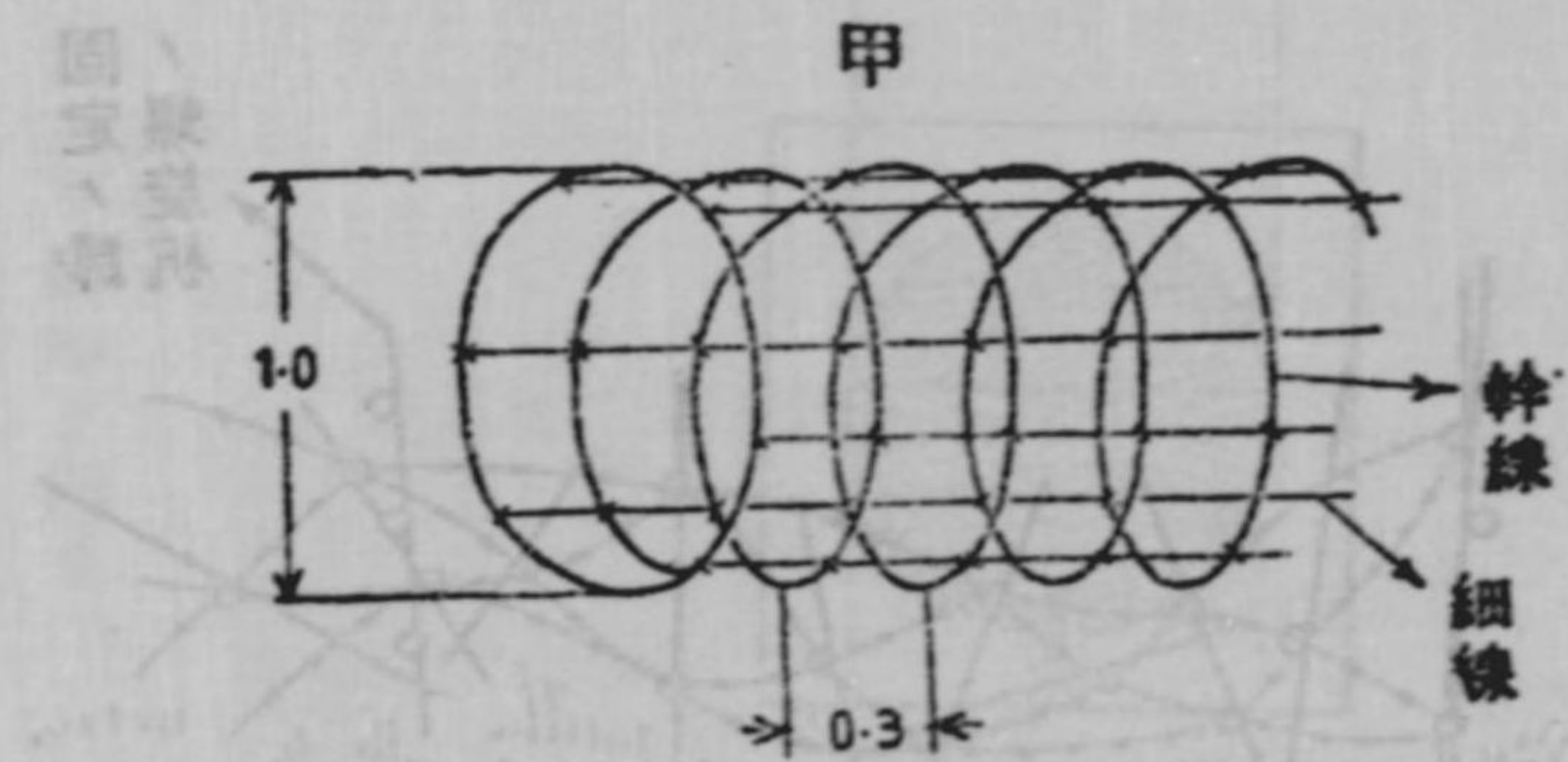


合場キナ隙間ニ鐵



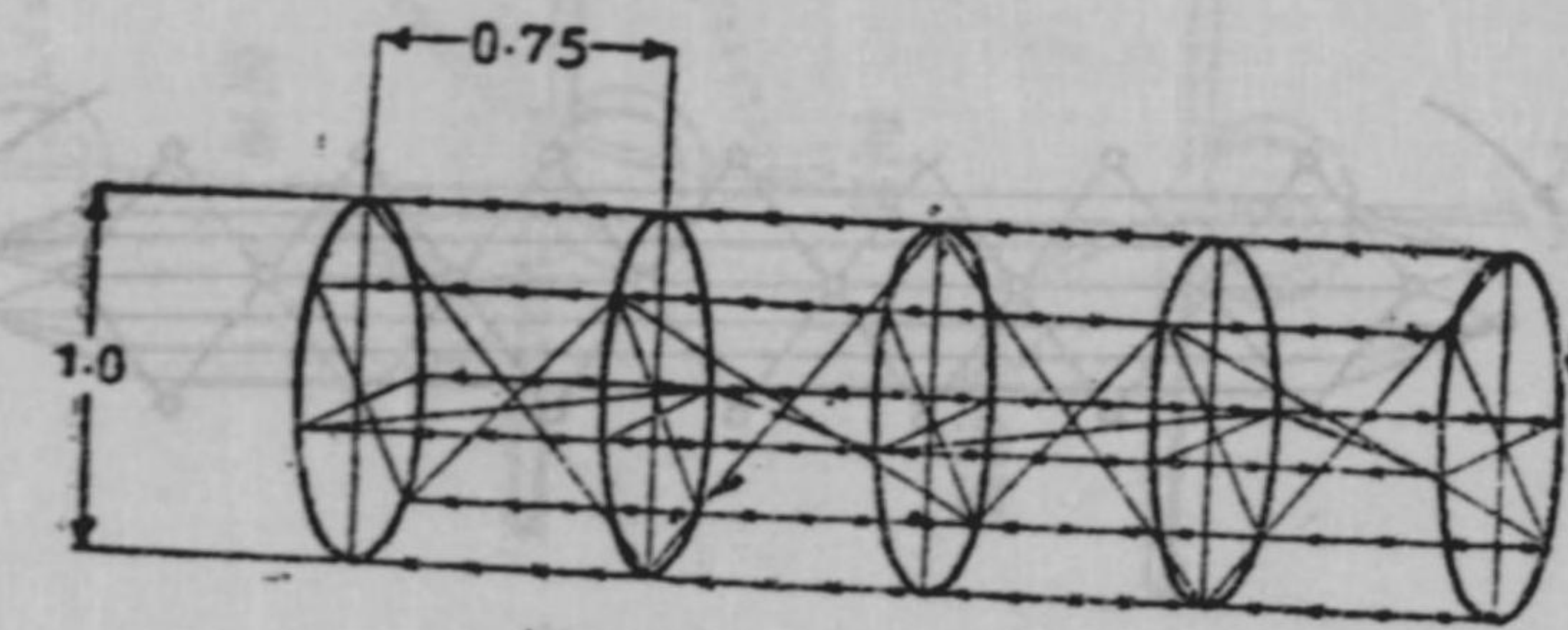
圖五十九第

網條鐵疊折形腹蛇



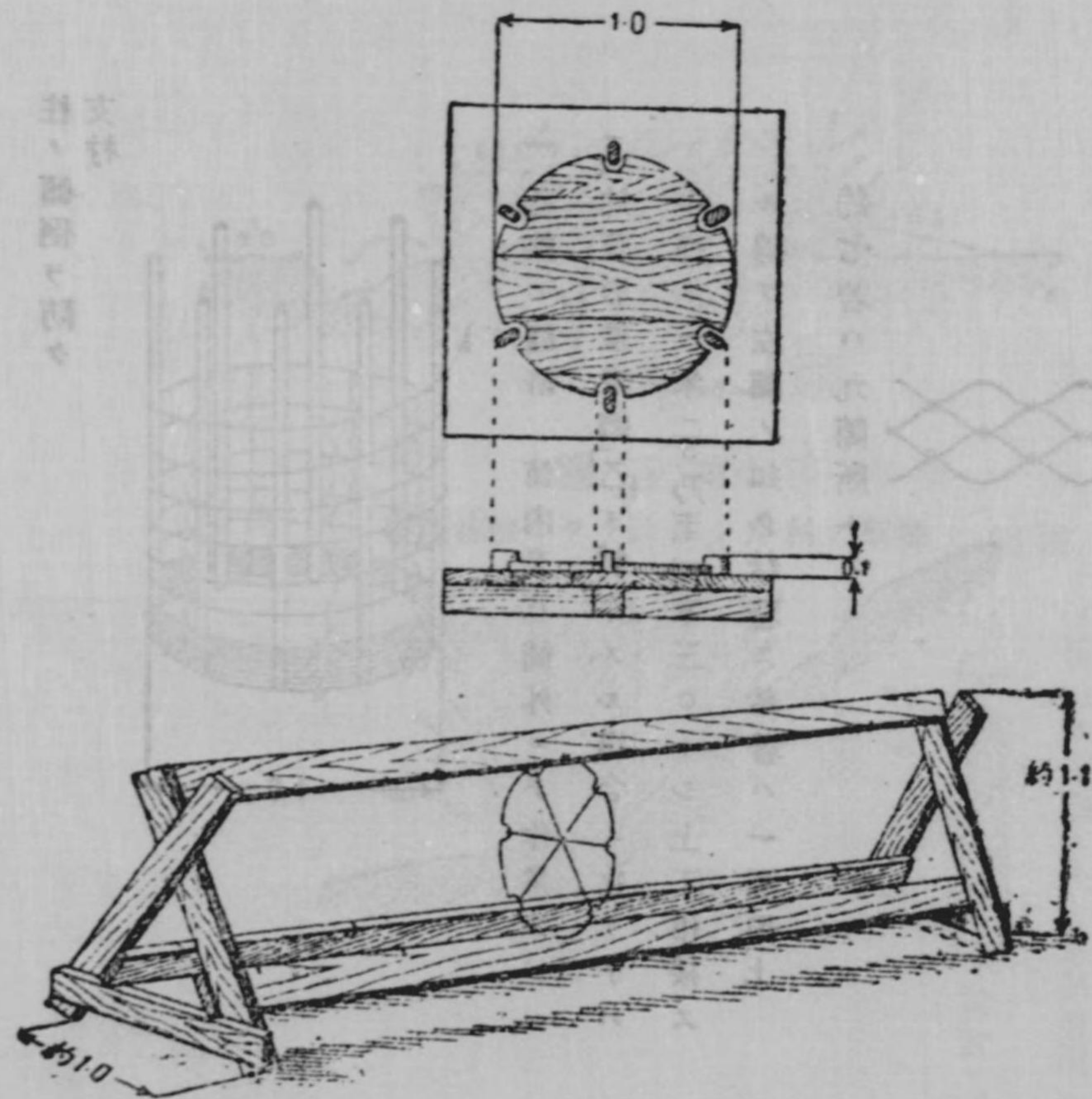
圖四十九第

網條鐵疊折形筒圖

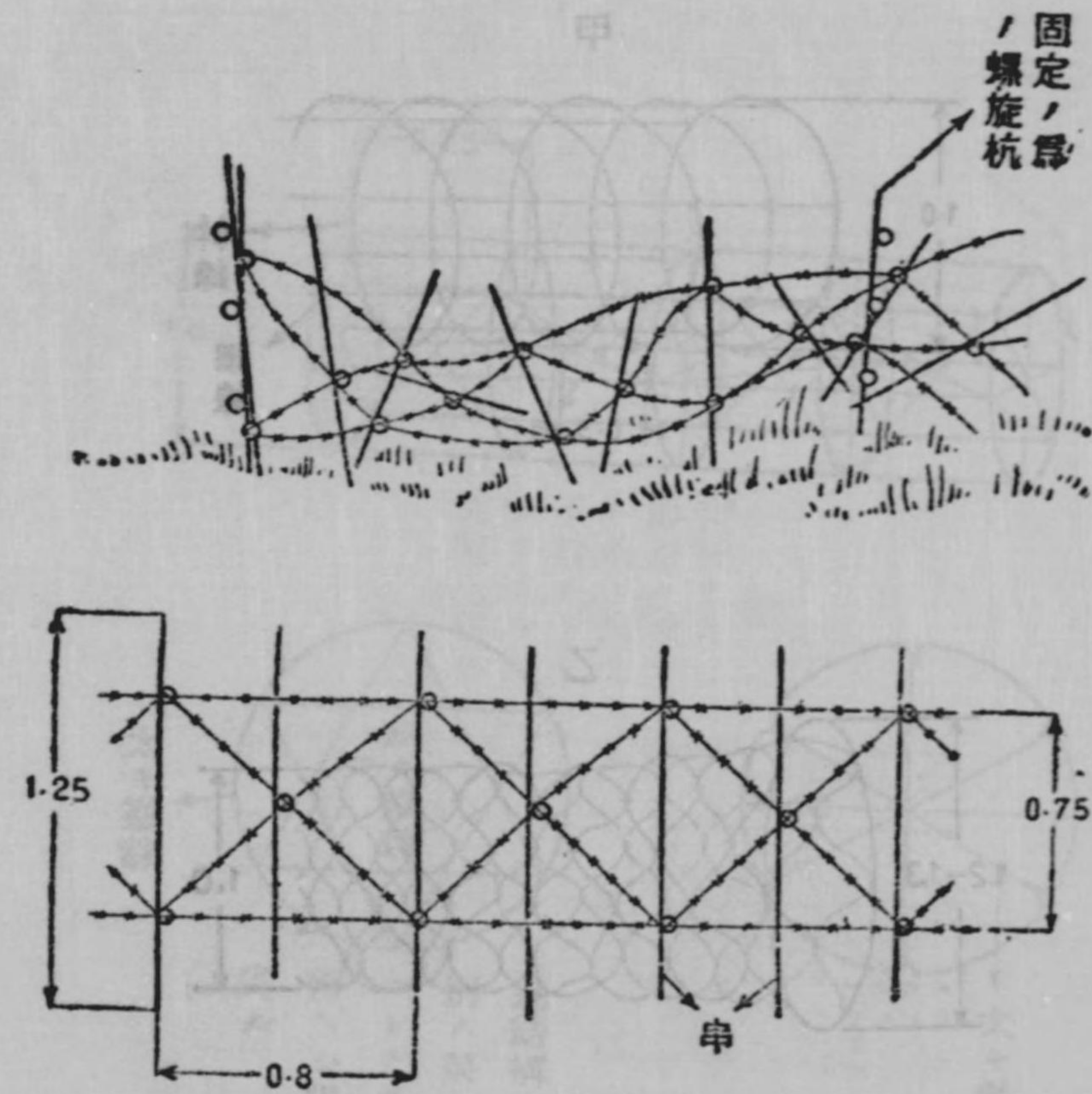


此結構ナレハ特
別ノ架ヲ設クル
コトナク製作シ
得ヘシ但抗力稍
劣ル

圖七十九第
架作製網絲鐵疊折形筒圓



圖六十九第
網條鐵疊折形刺



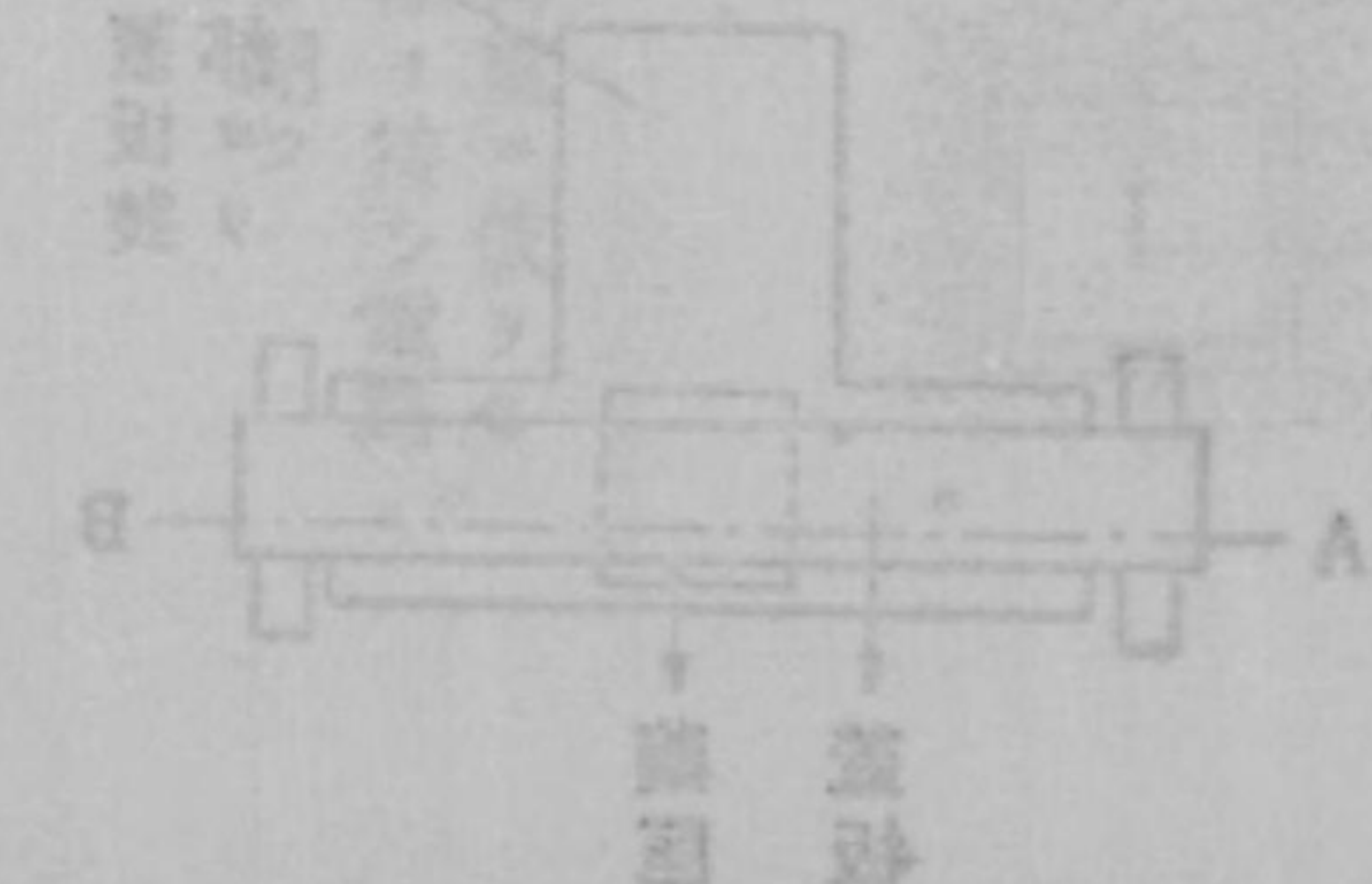
圖九十九第

● 藝鹿枝樹



圖百第

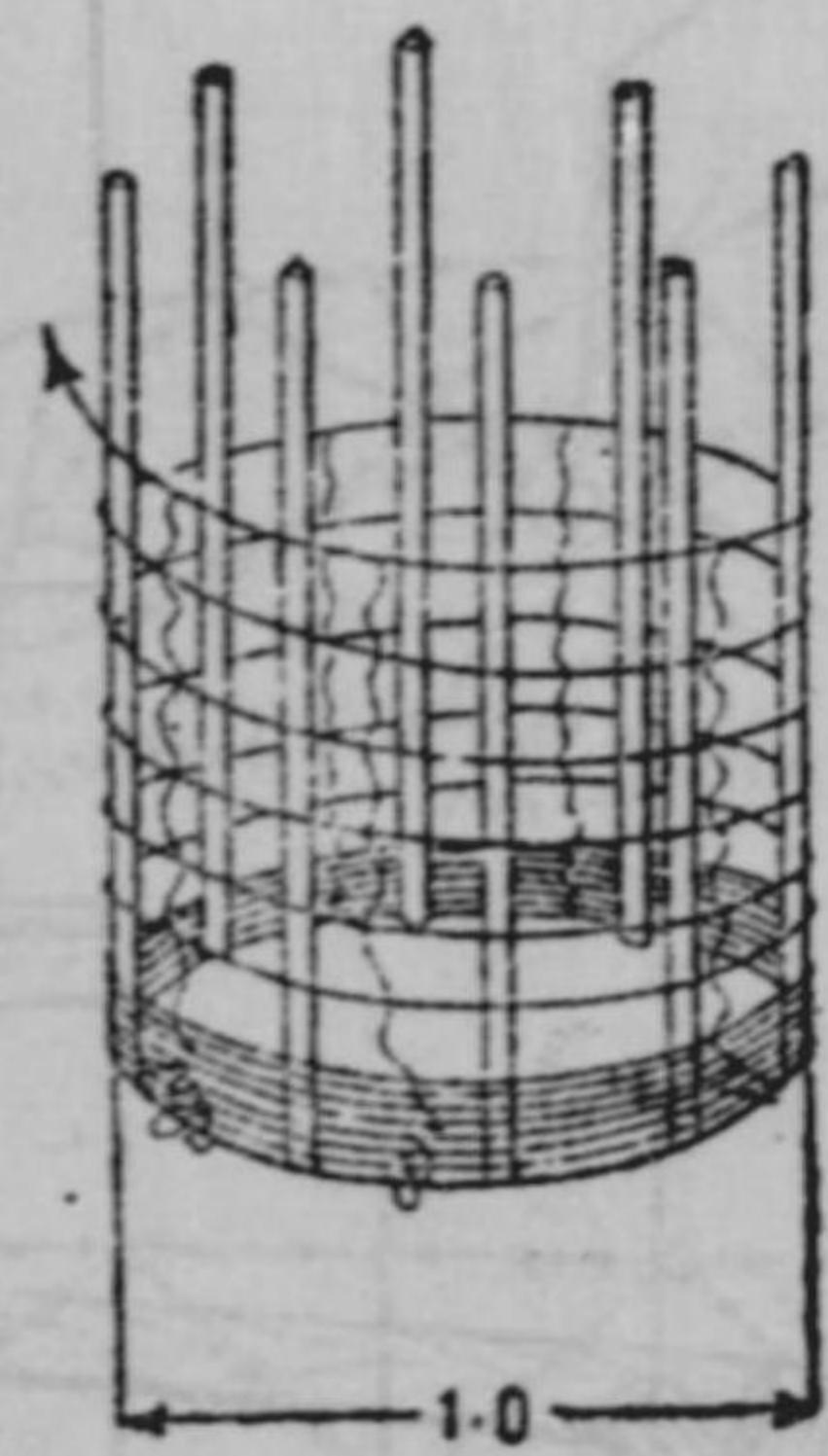
藝鹿枝樹ルタケ設テシ用利ヲ形地



圖八十九第

法作製網條鐵疊折形腹蛇

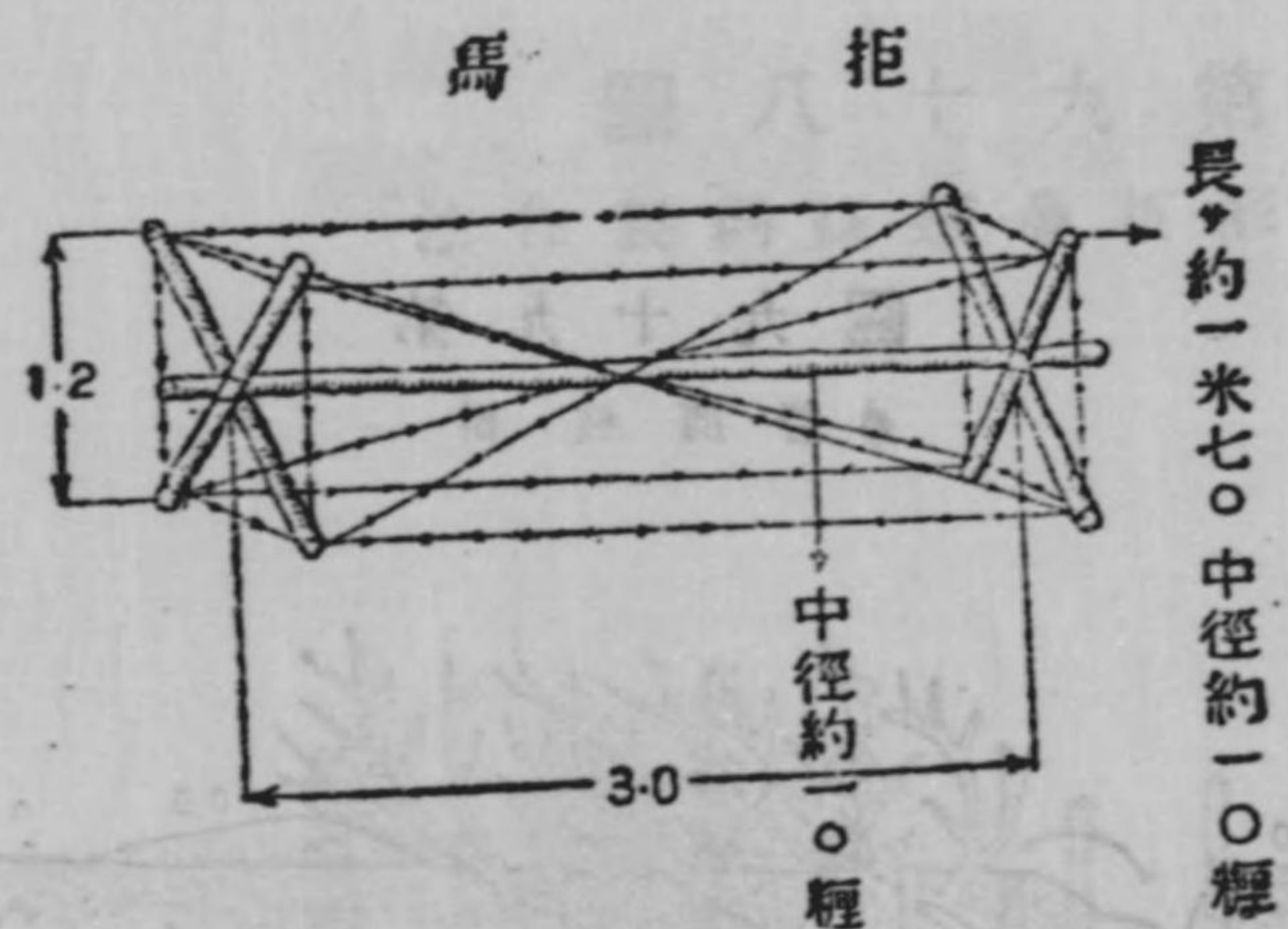
支柱ノ傾倒ヲ防ク



約七若八九箇所トス

- 一、各線ノ纏絡 筒内又ハ筒外ニテ作業ス
- 二、蛇腹形鐵條網「乙」ヲ製作スル場合ニ在リテハ
中徑ヲ一米ニ。乃至一米三〇トシ上下相接ス
ル線ヲ左圖ノ如ク結著ス結著ハ一團周上

圖一百第

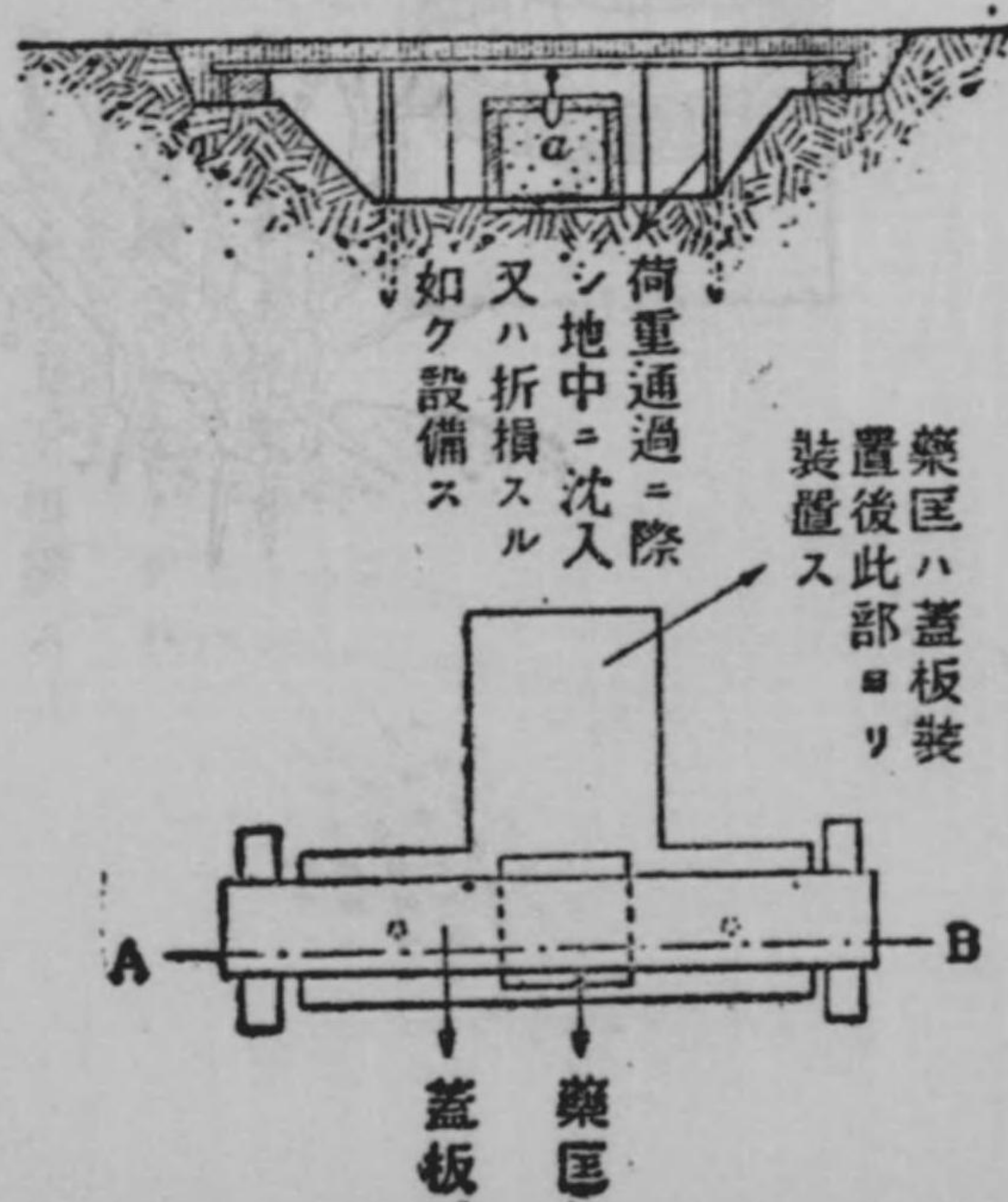
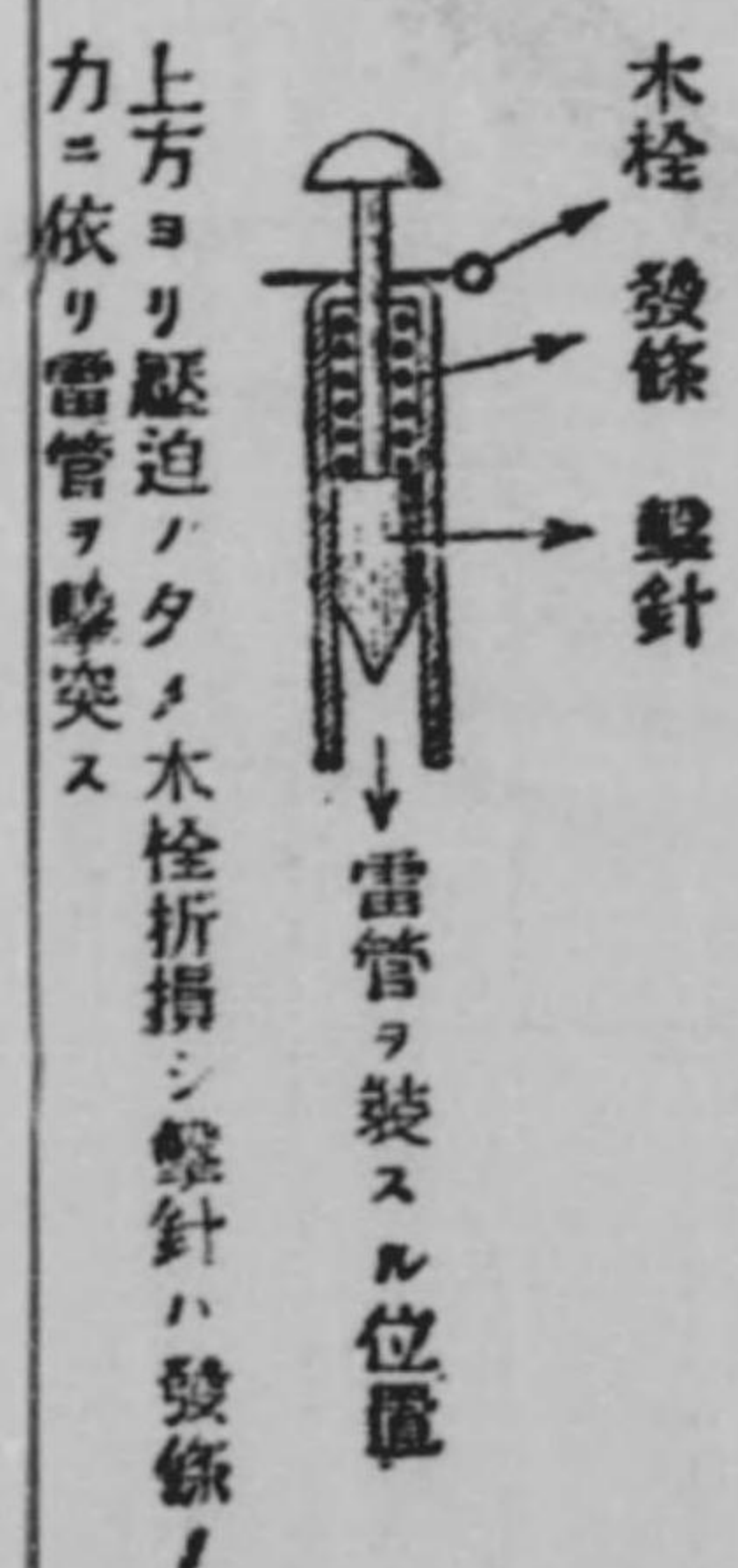


圖二百第

雷地發觸ル依ニ管雷

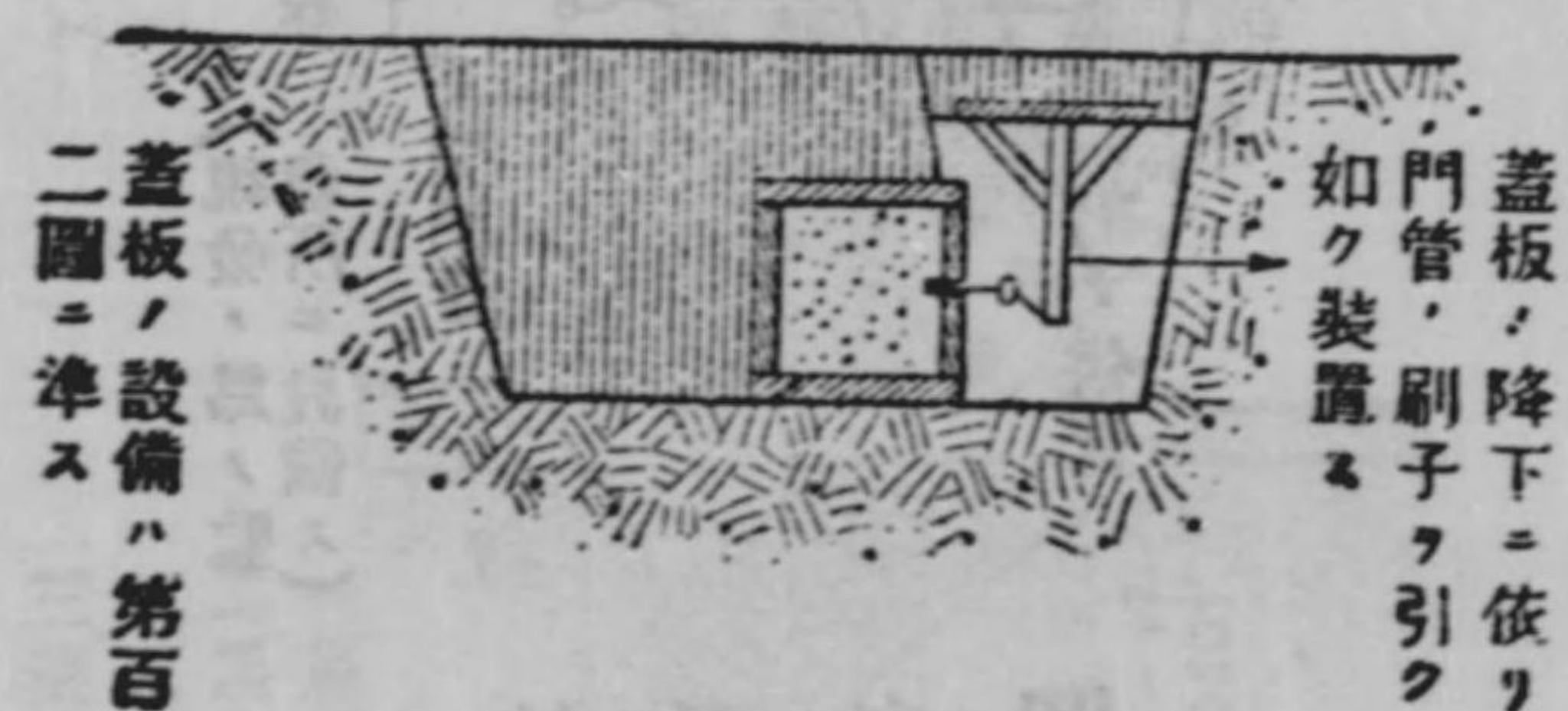
部細ノa

面斷ノA B



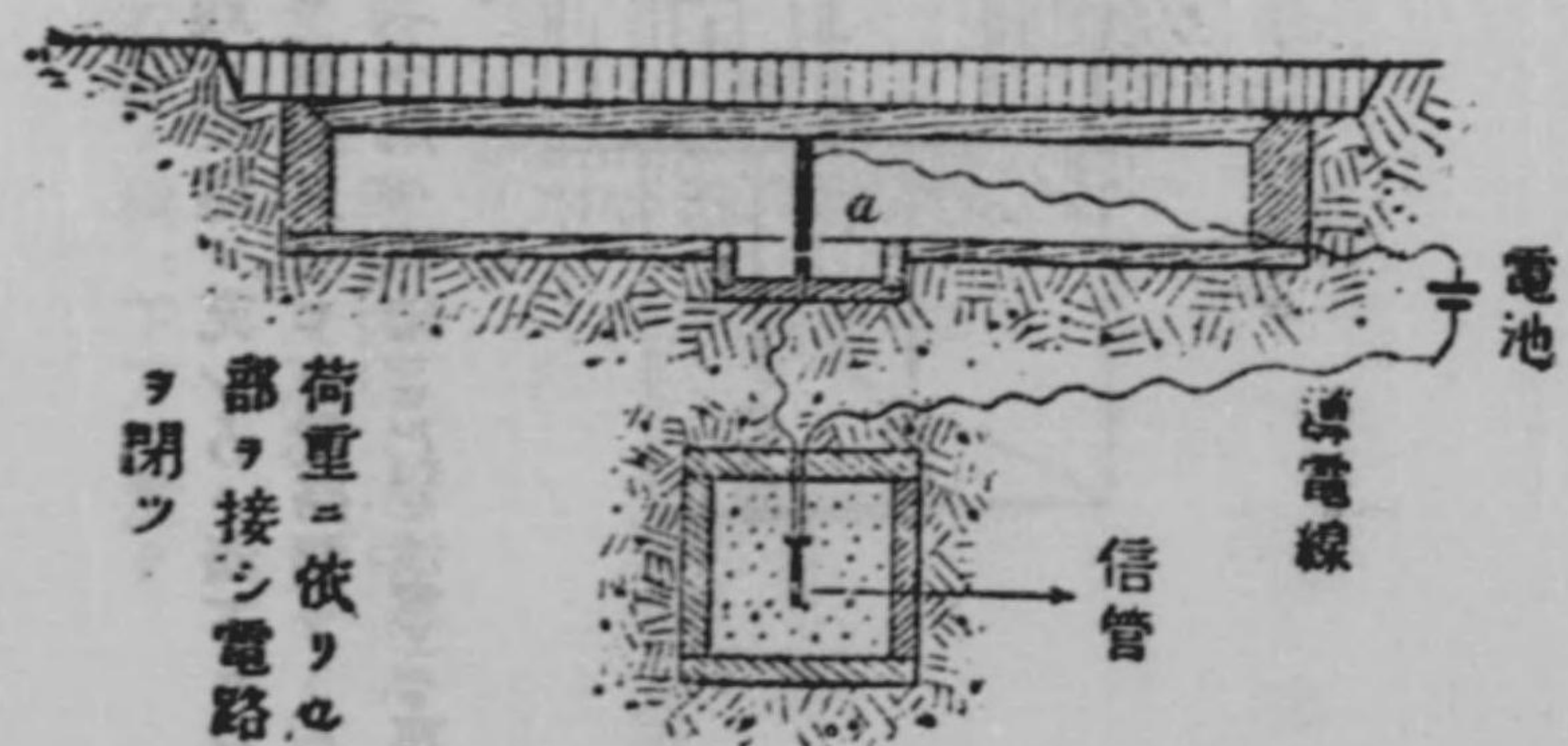
圖三百第

雷地發觸ル依ニ管門

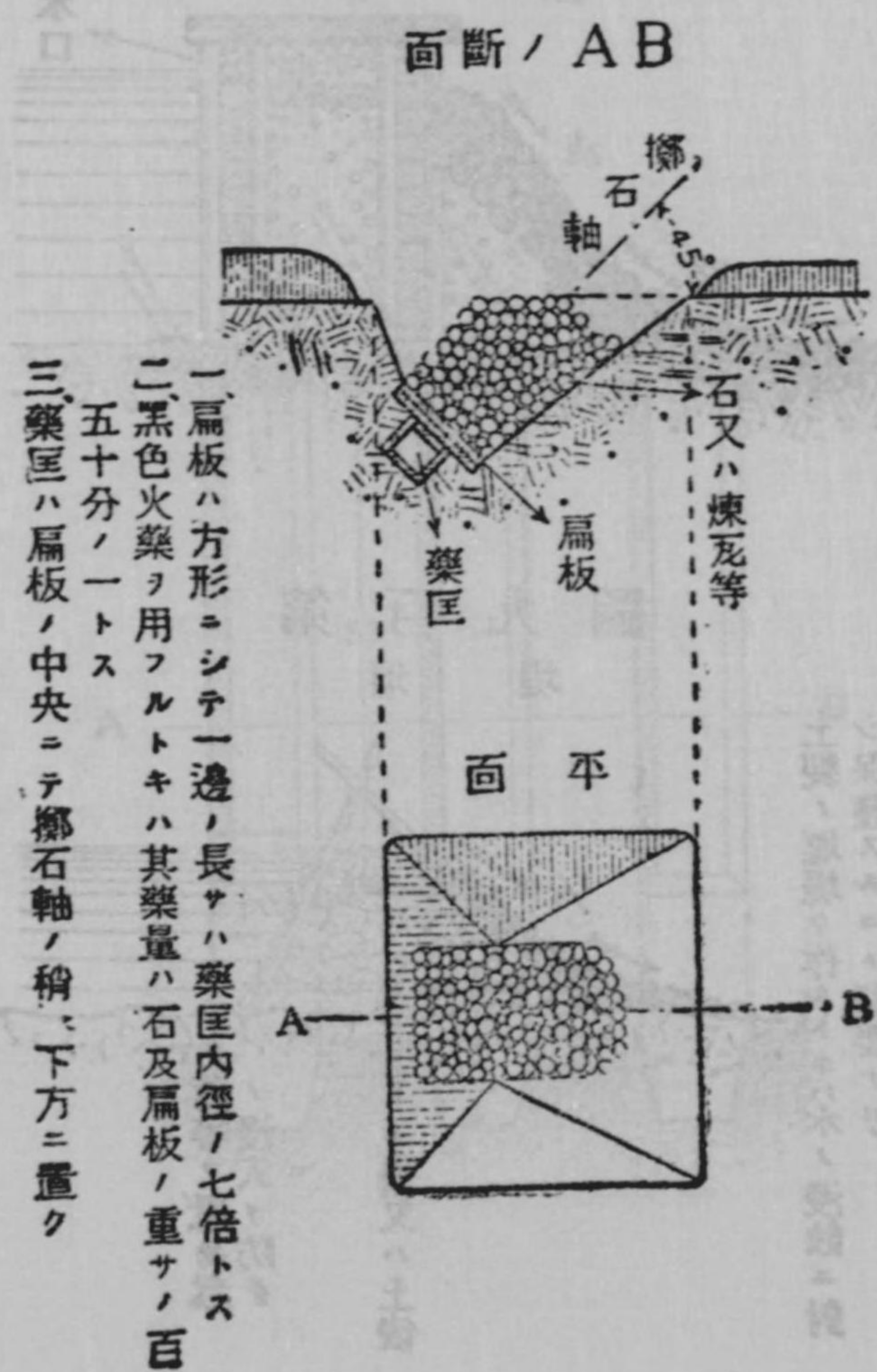


圖四百第

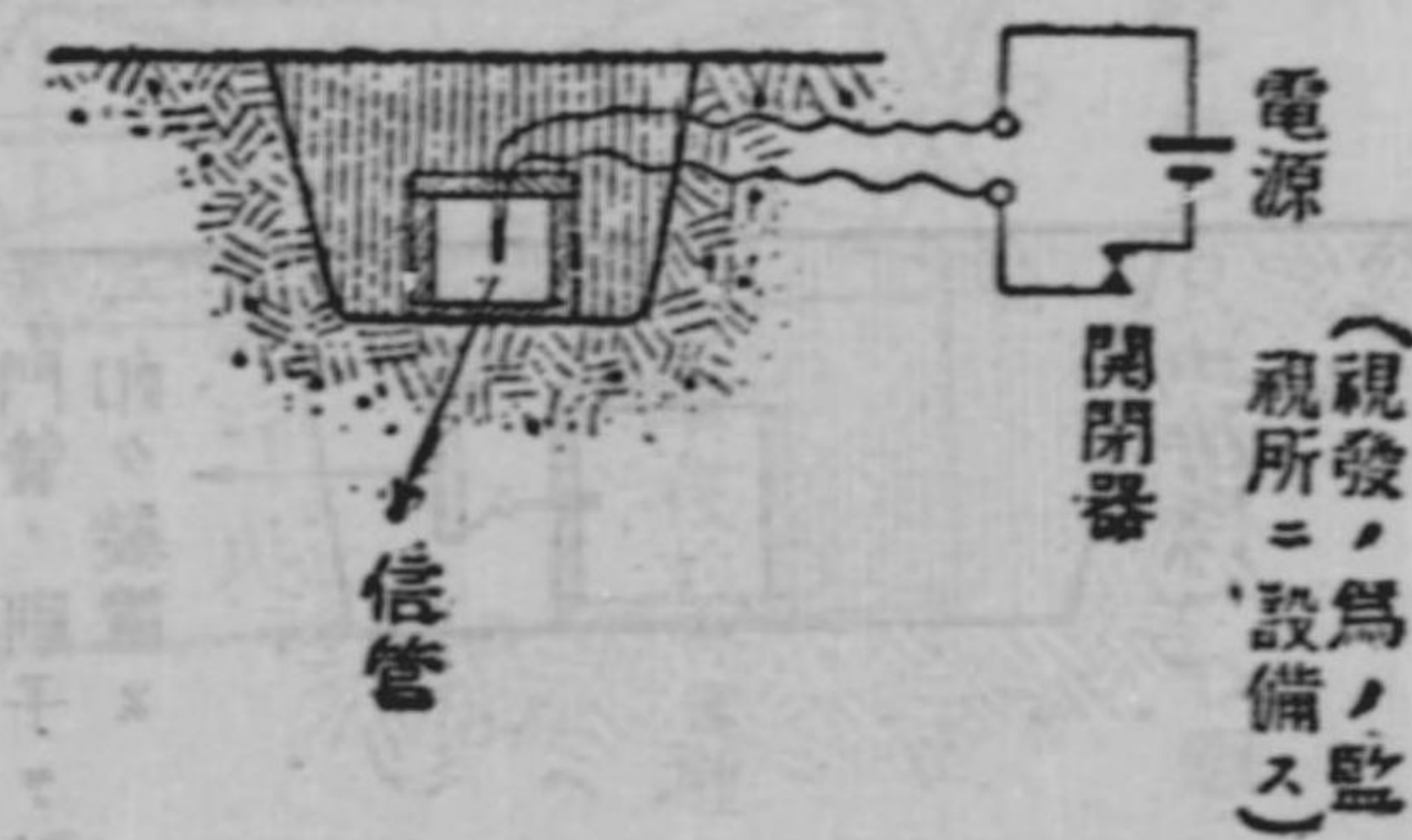
雷地發觸ル依ニ管信



圖七百第
雷地石擲



圖五百第
雷地發視



圖六百第
雷地發自

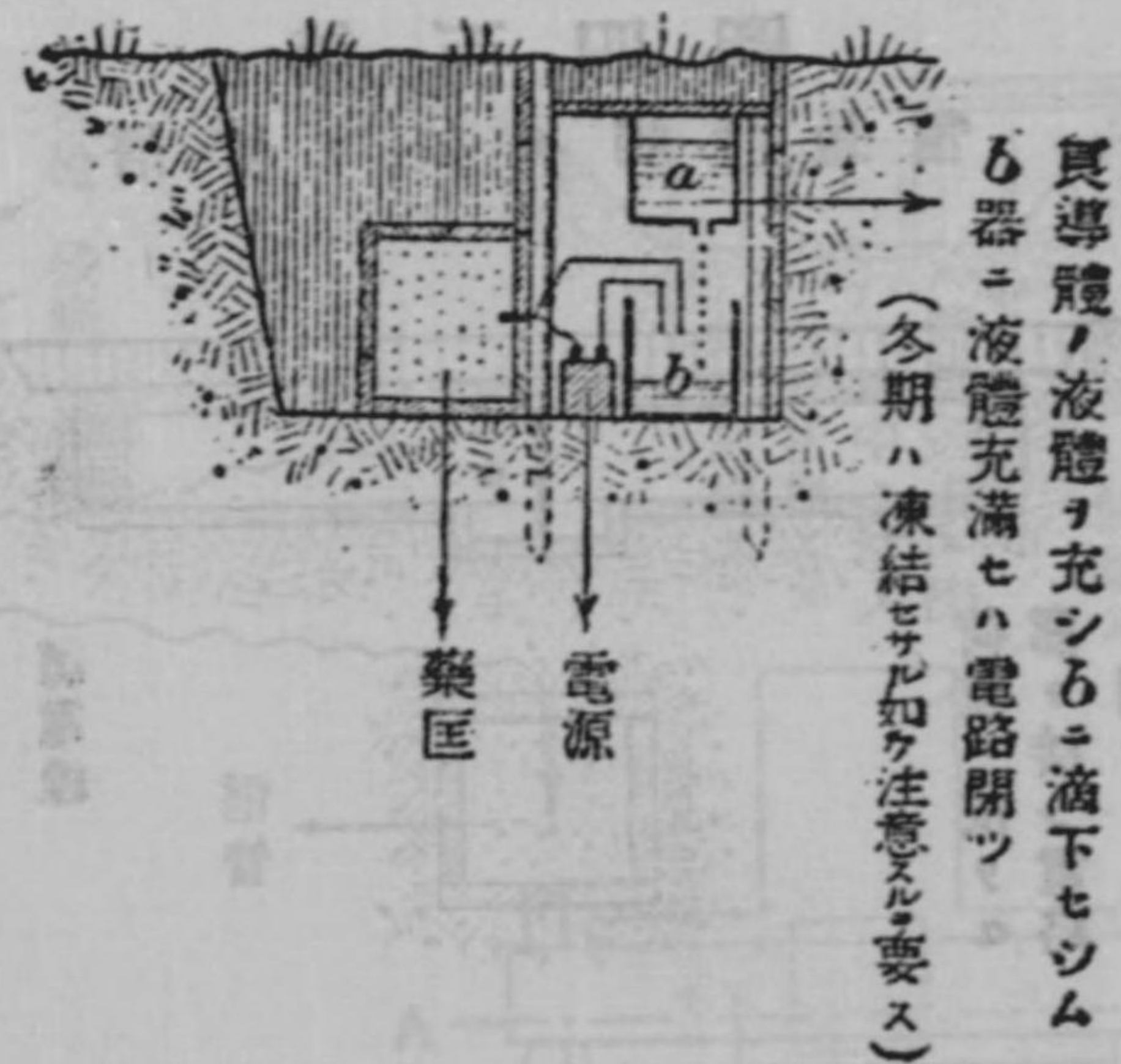


圖 十 百 第

穿 陷

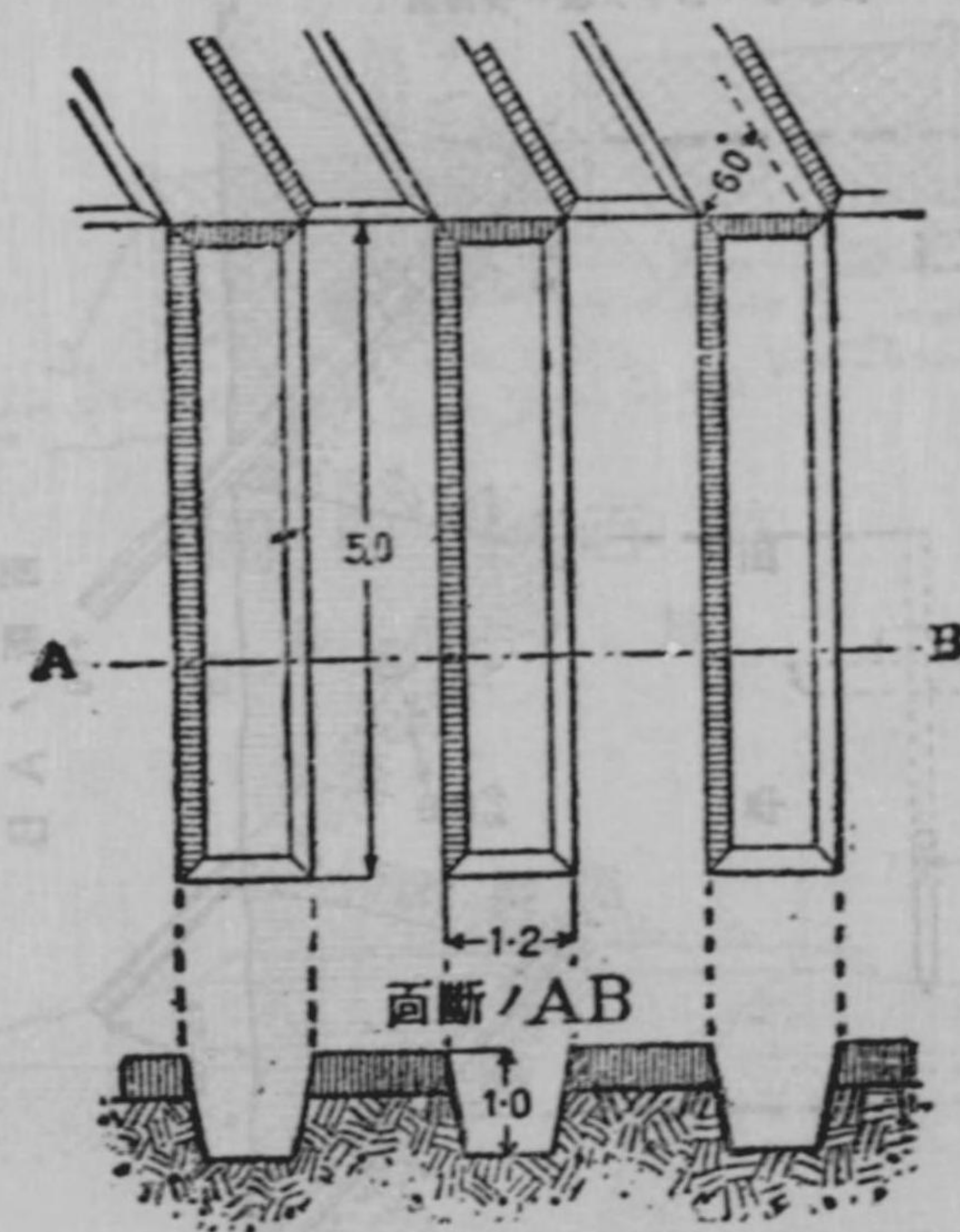


圖 八 百 第

堤 堰

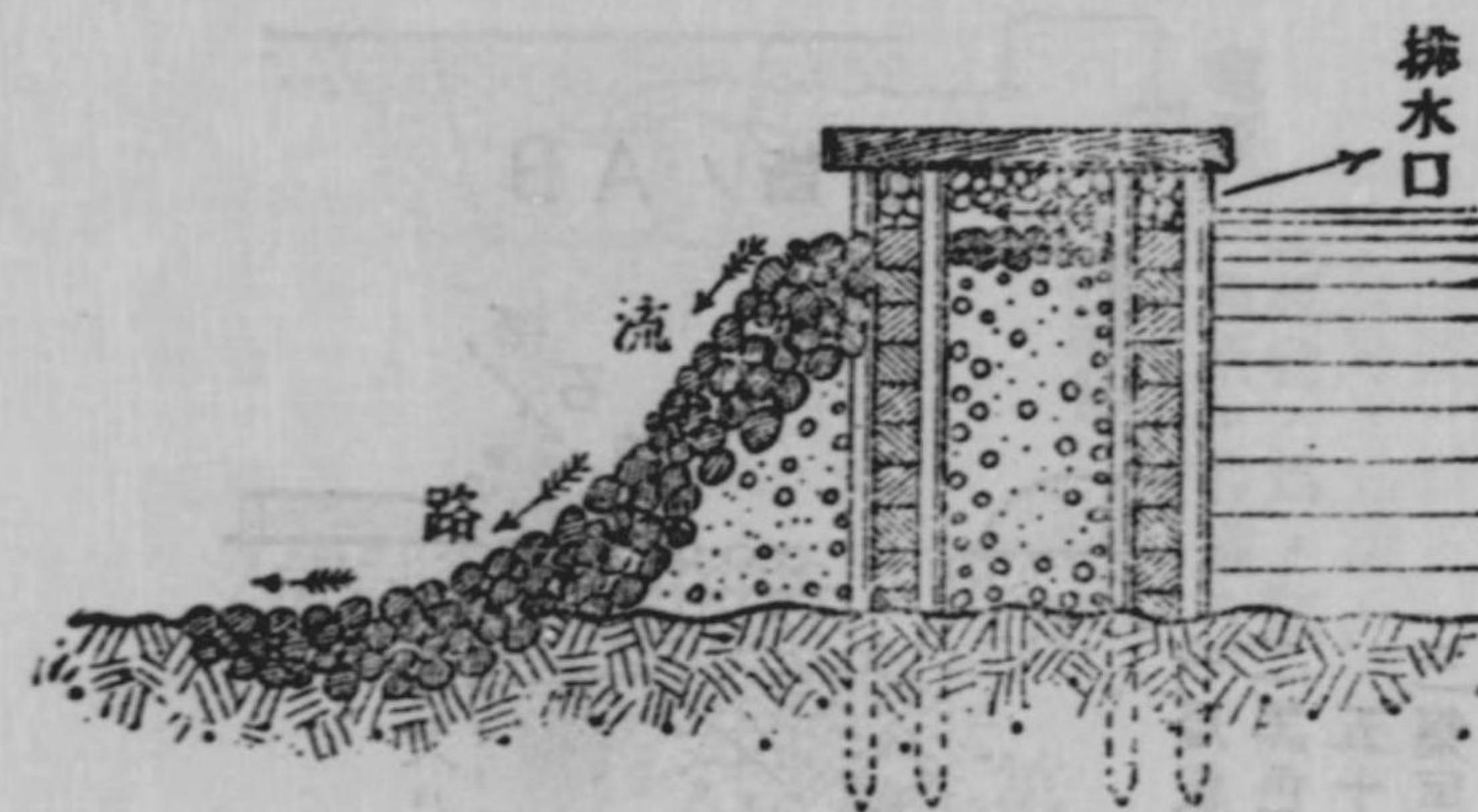
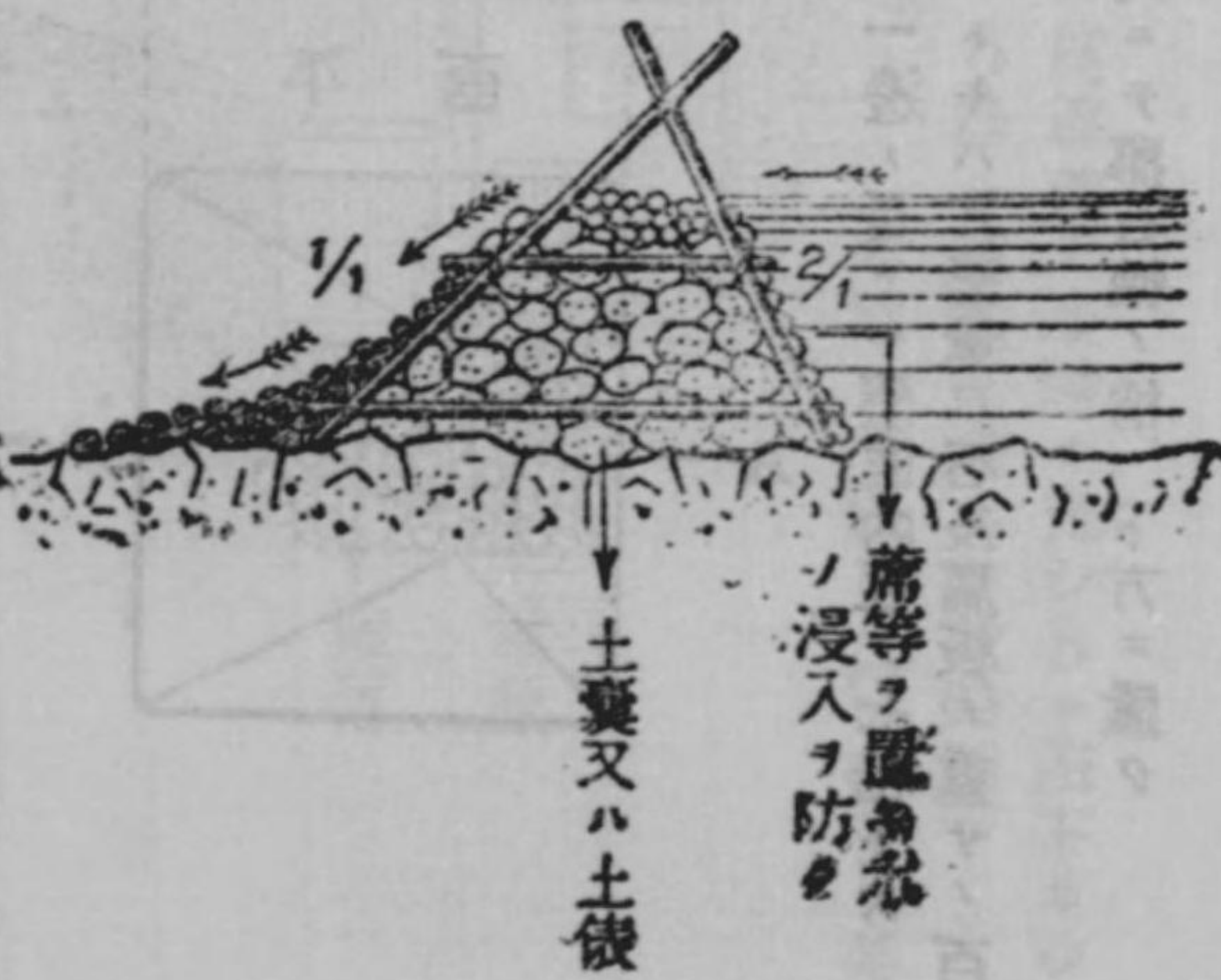


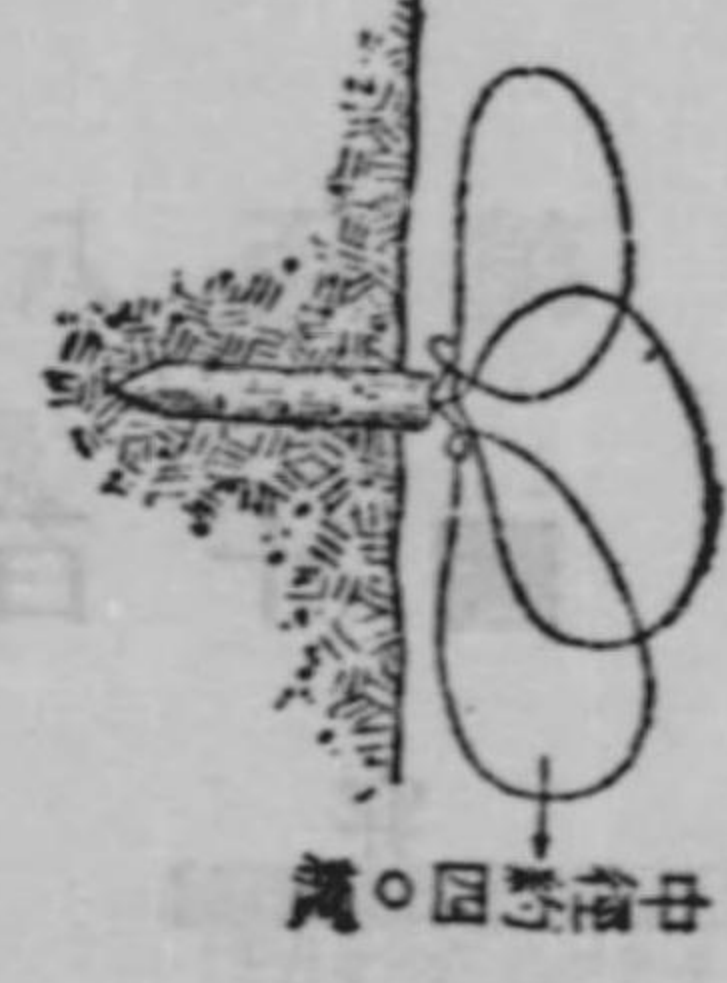
圖 九 百 第

堤 堰

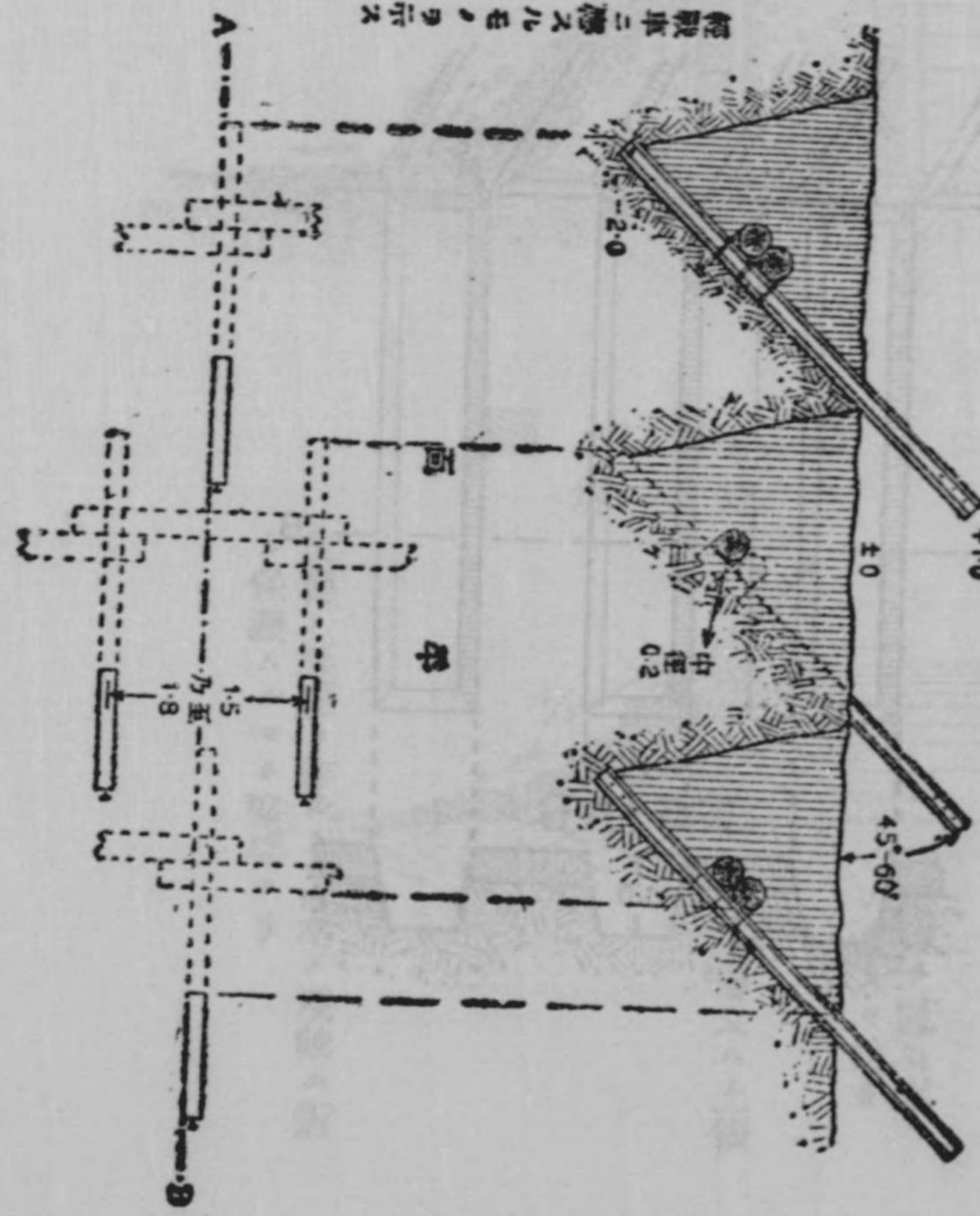
土製ノ堰堤ヲ作ルルニキハ水ノ浸蝕ニ對シ保護スルコト緊要ナリ



圖二十百第
第一

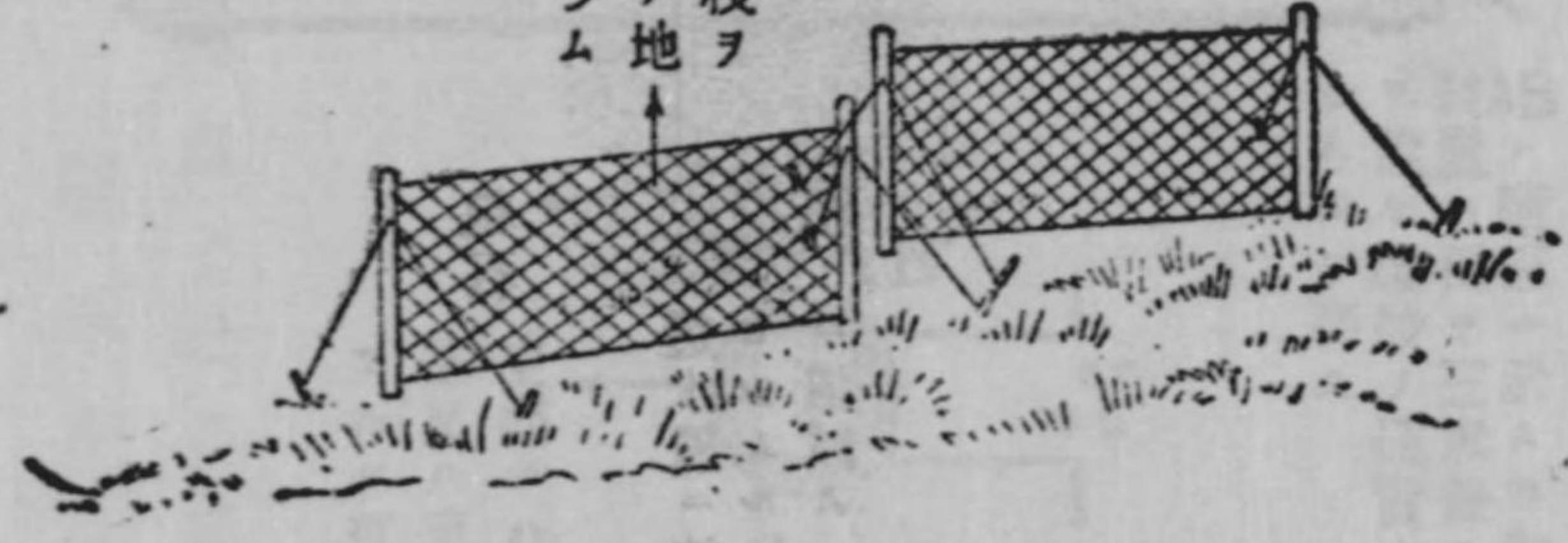


圖一十條百第
面斷ノA B

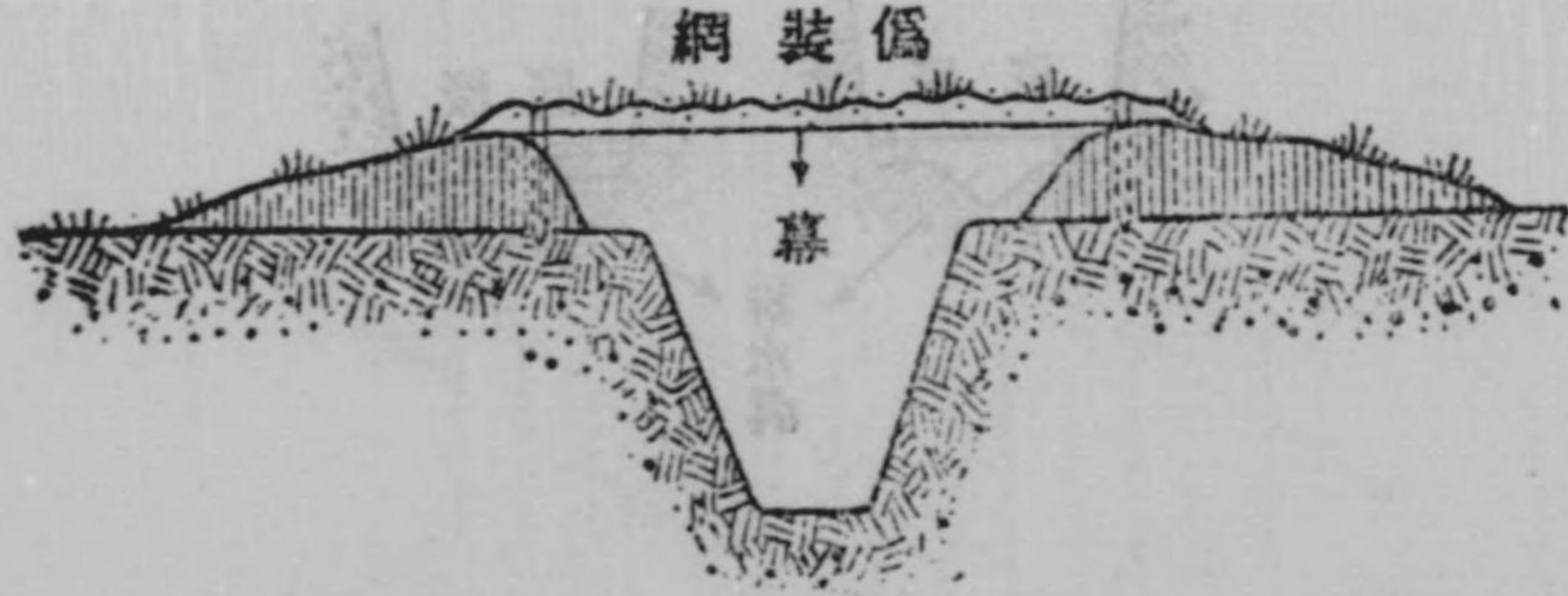


圖三十百第
障 遮

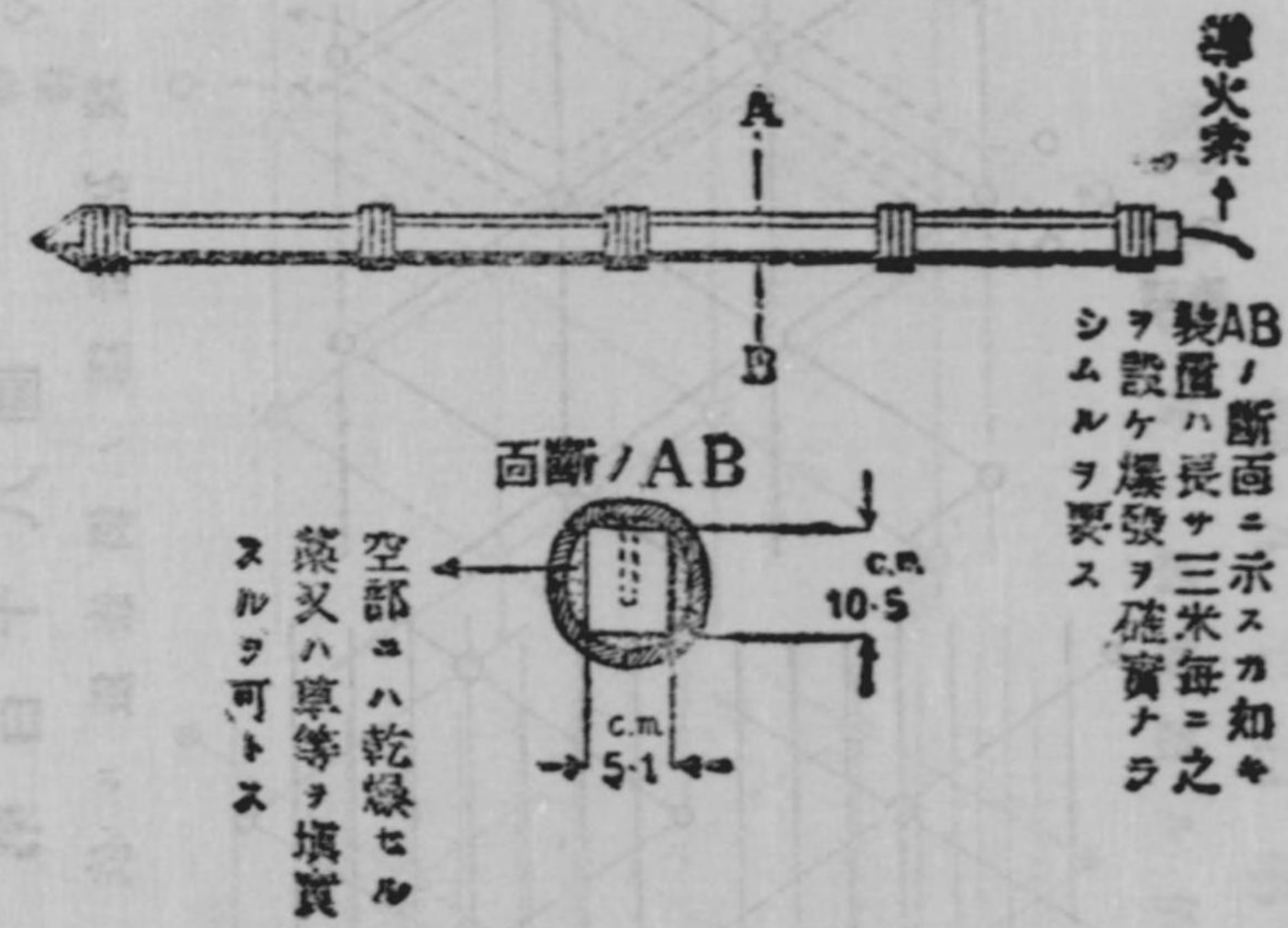
此網ニ草樹枝ヲ
懸吊シ附近ノ地
物ニ近似セシム



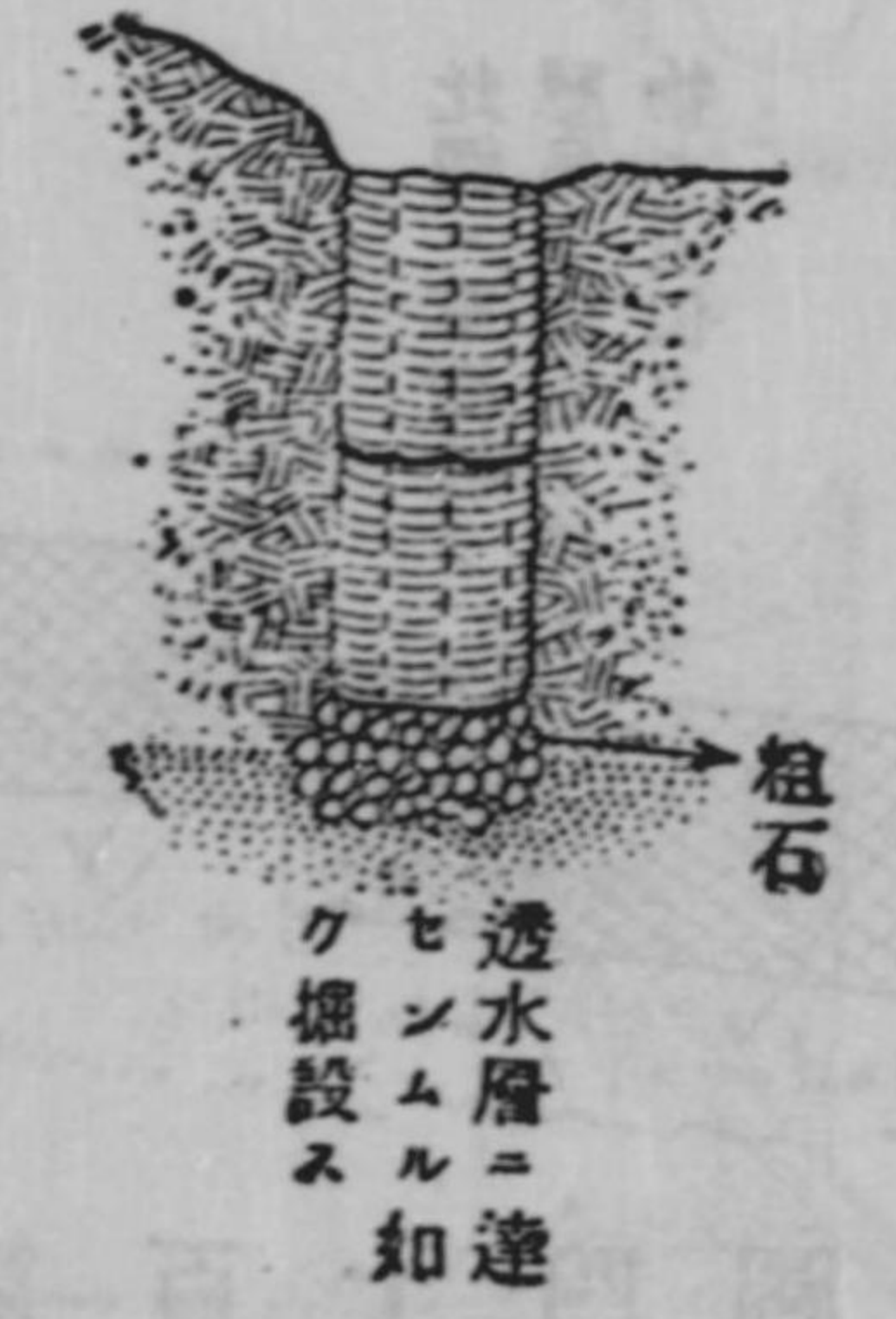
圖四十百第
裝 偽ノ 塚



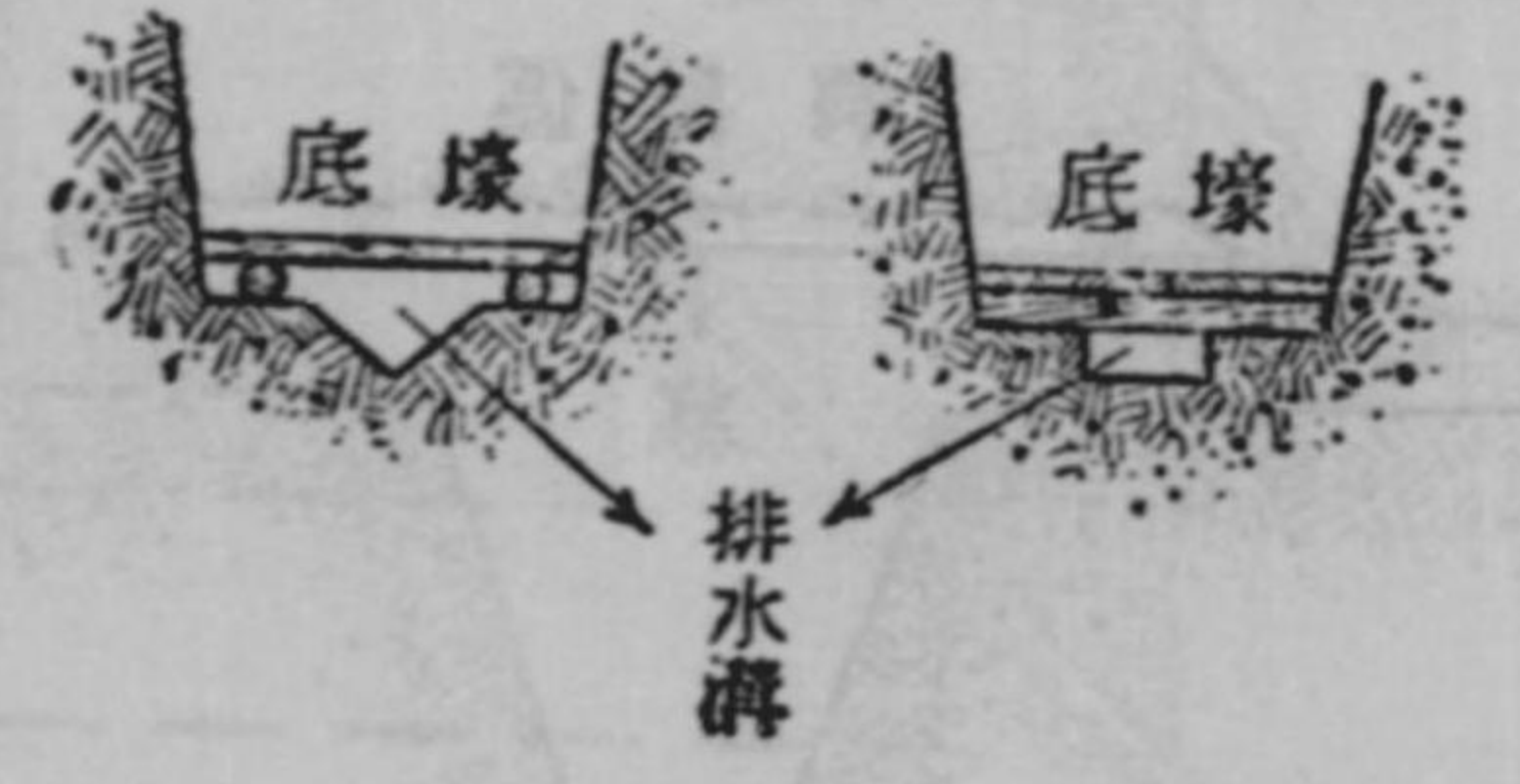
圖七十百第
筒壞破造急



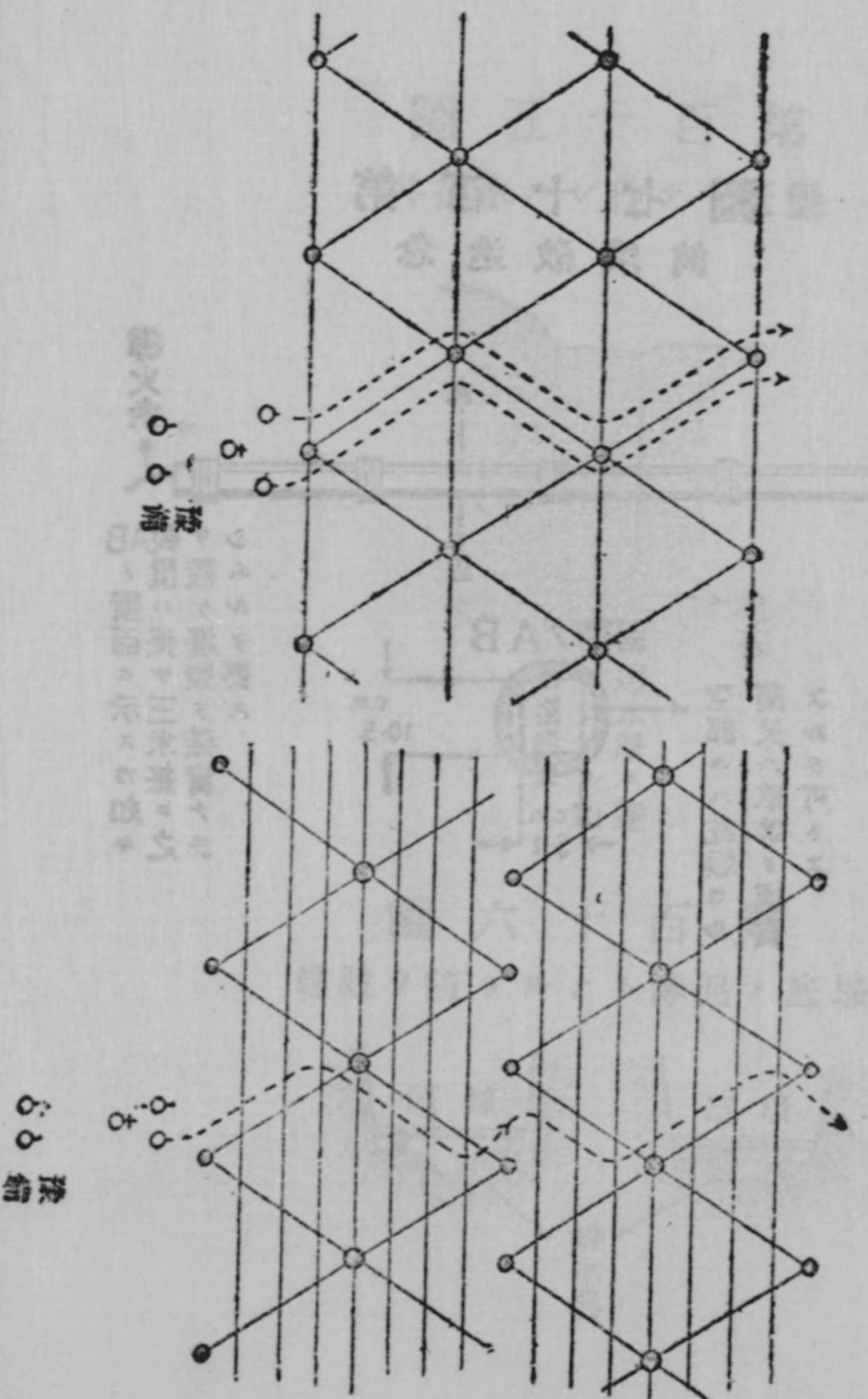
圖五十百第
井拔水ルレ作テ=籃堡



圖六十百第
備設ク防ヲルナト滓泥ノ底壕



圖八 第十百第 壞破密總ノ網條鐵ル依器具器



圖九 第十百第 壞破行彈網條鐵ル依器具器

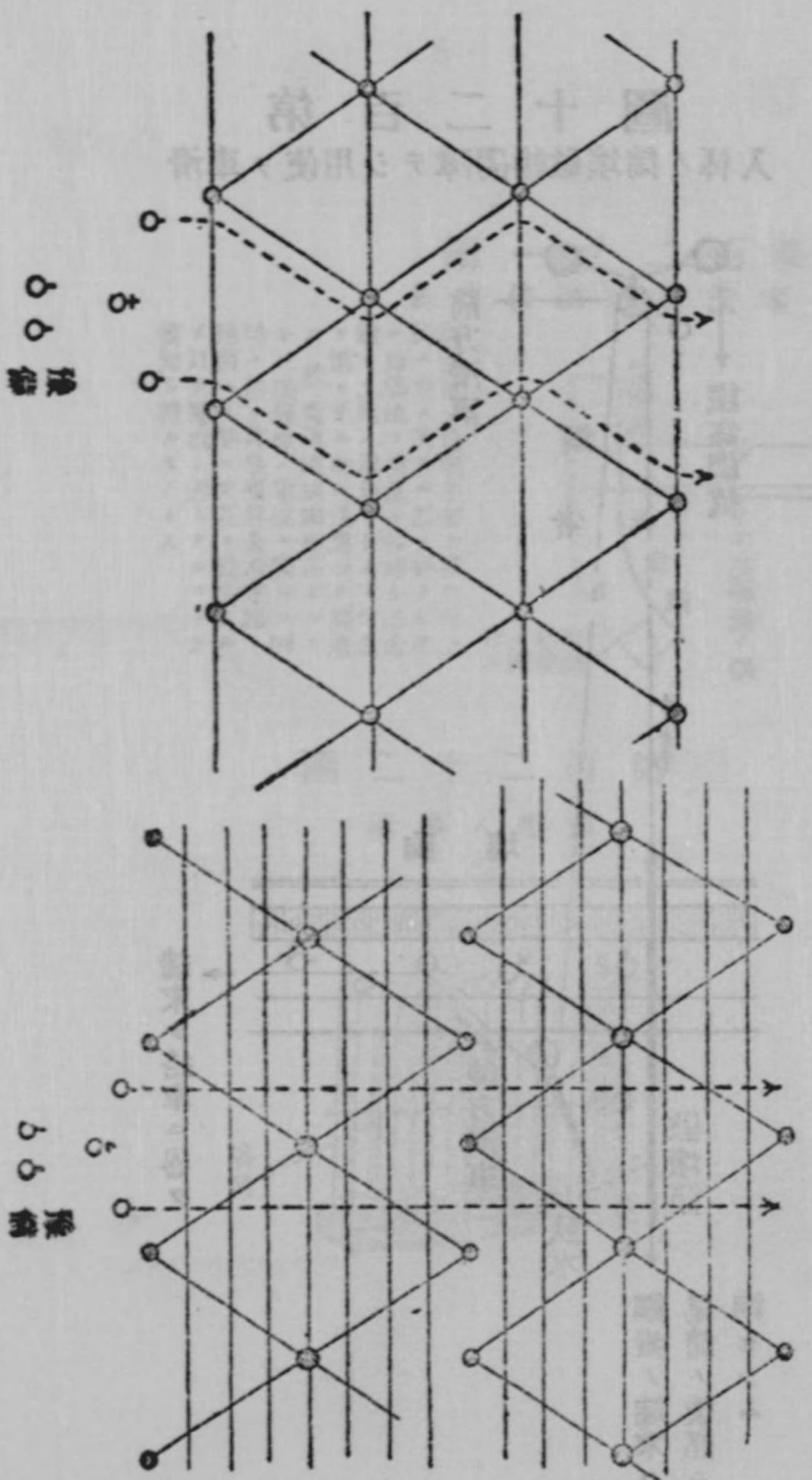


圖 三 第

心控ノ柴ハ又受



圖 四 第

柱 斜

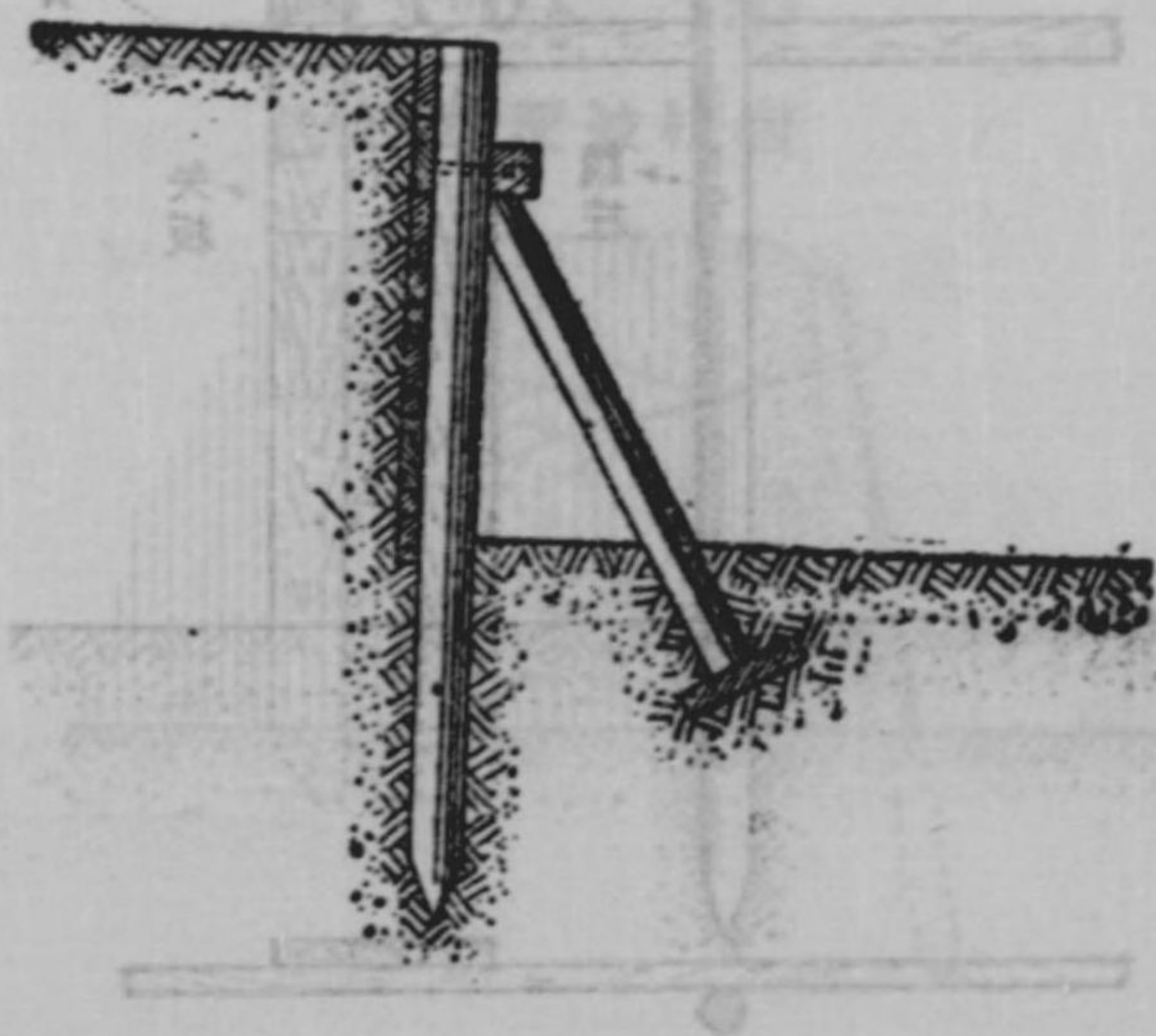


圖 一 十 第

覆 被 板

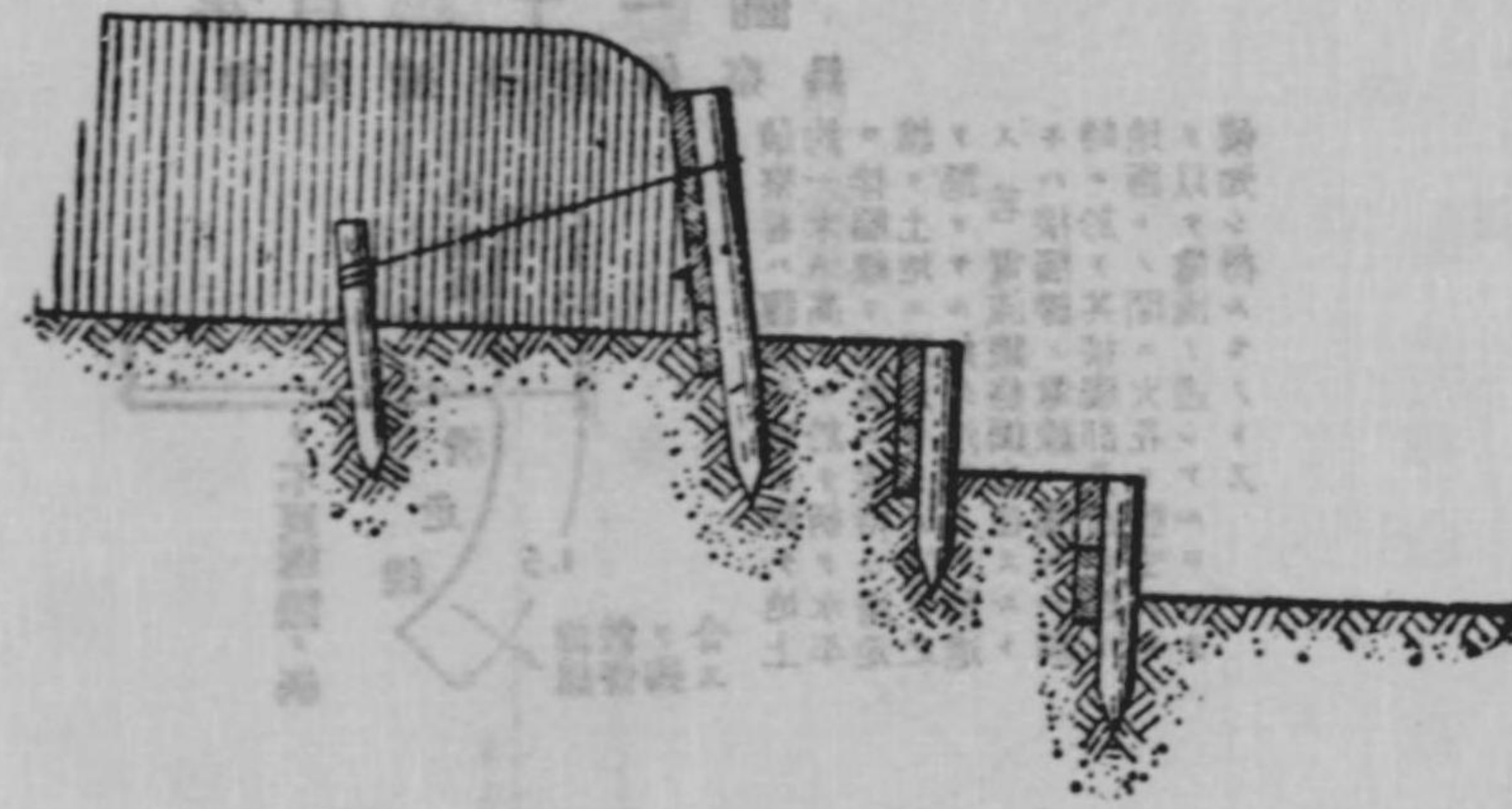


圖 二 第

覆 被 板

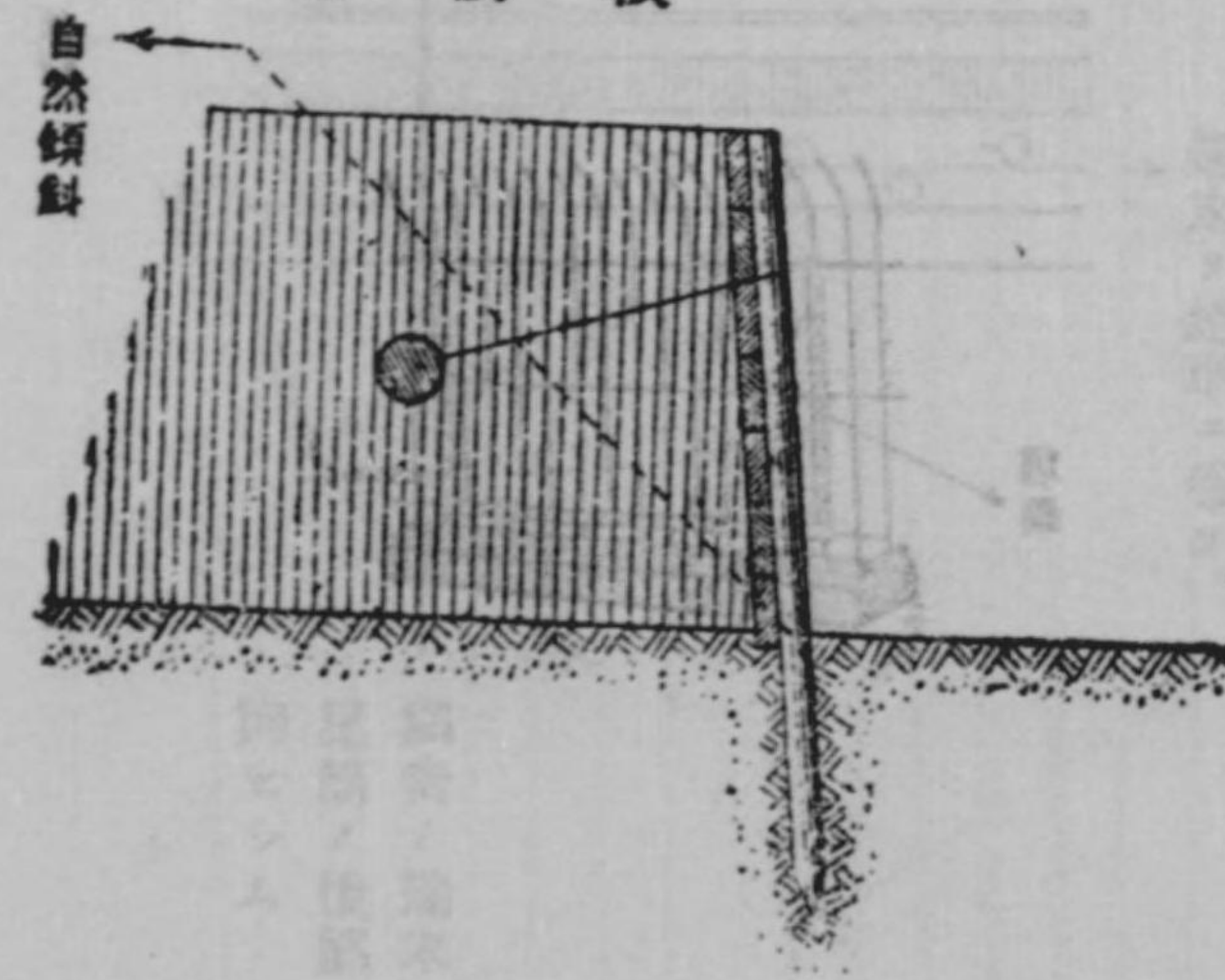


圖 七 第

覆被枝樹

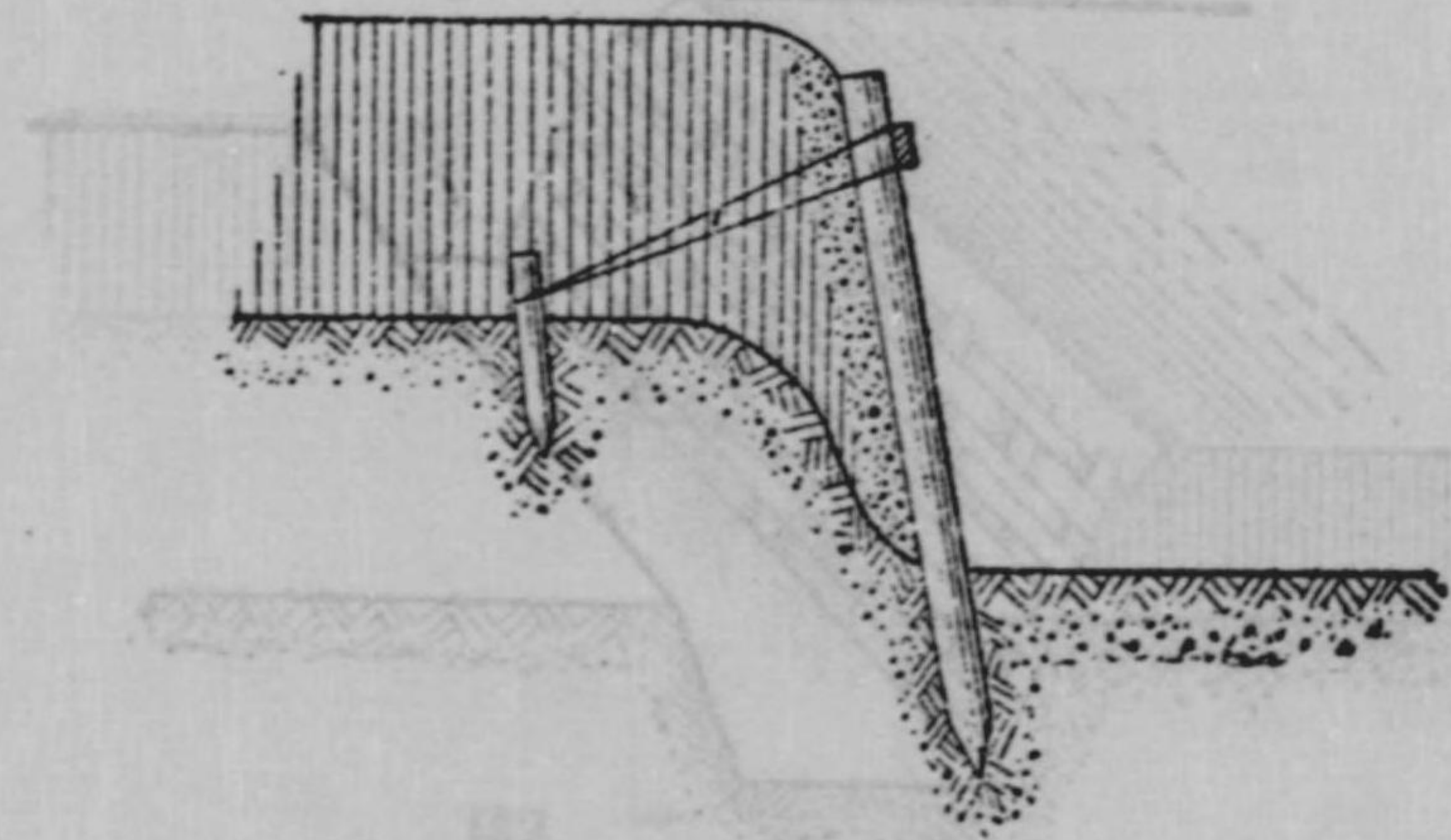


圖 八 第

控及覆被枝樹

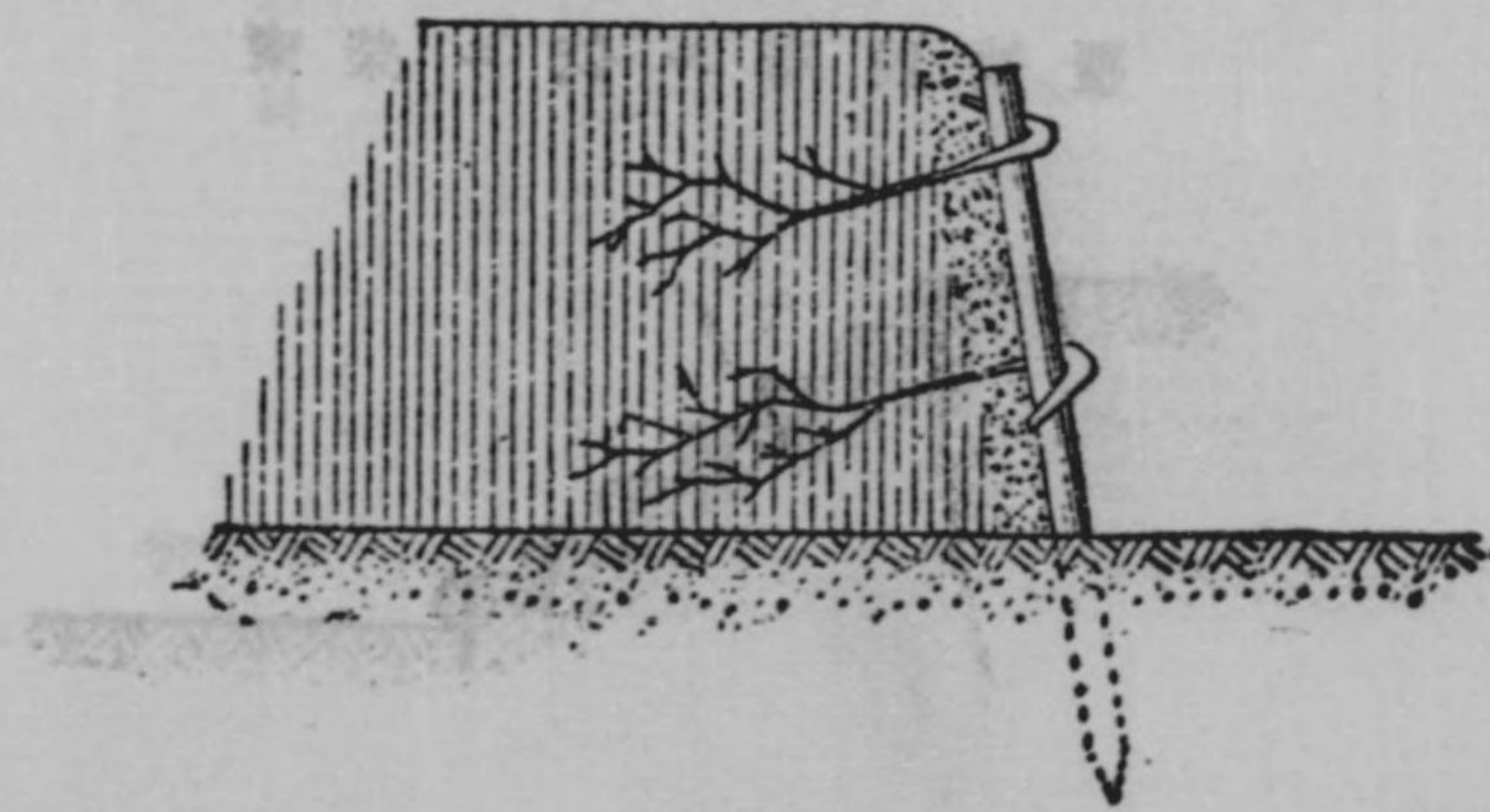


圖 五 第

材 橫

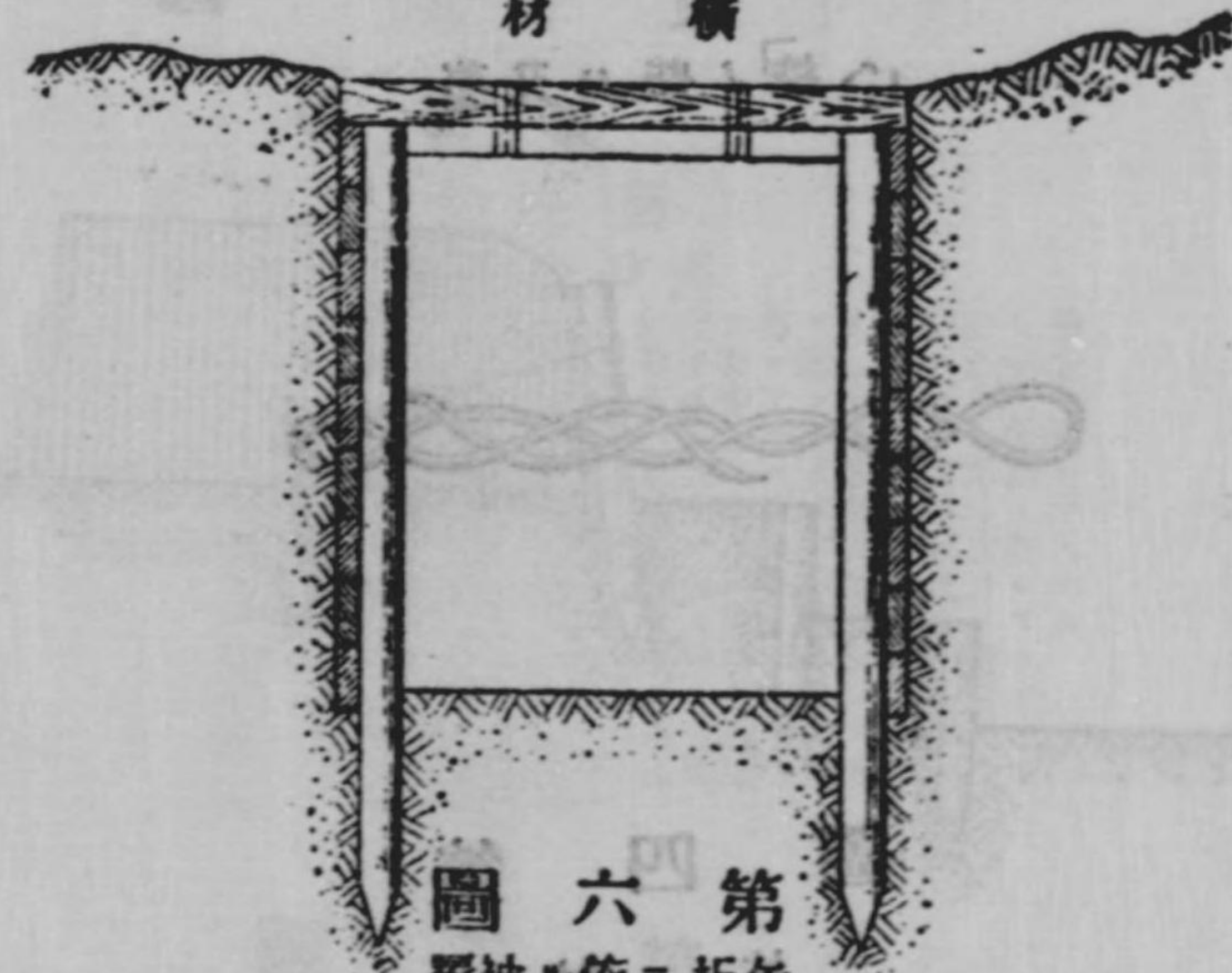
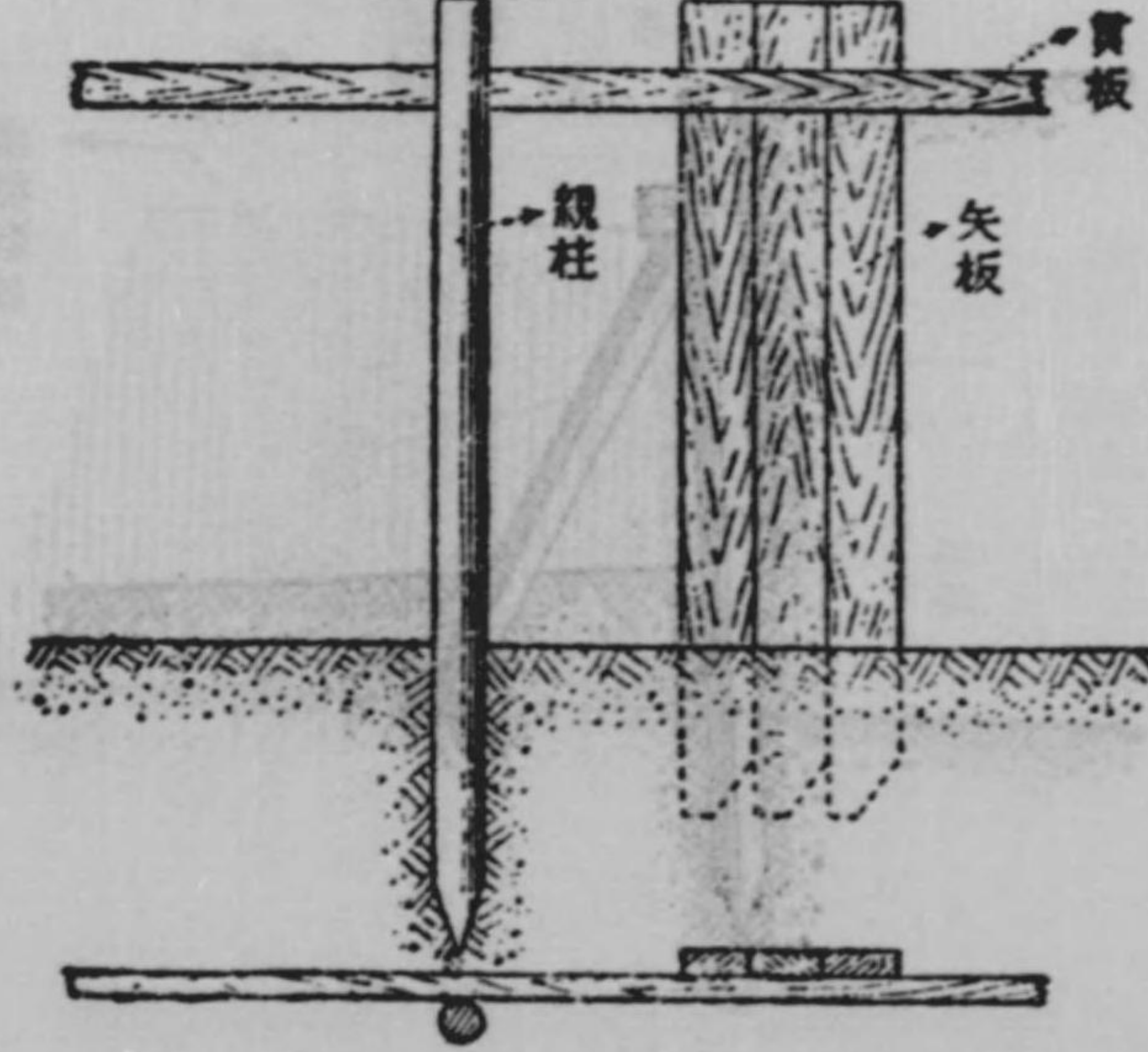
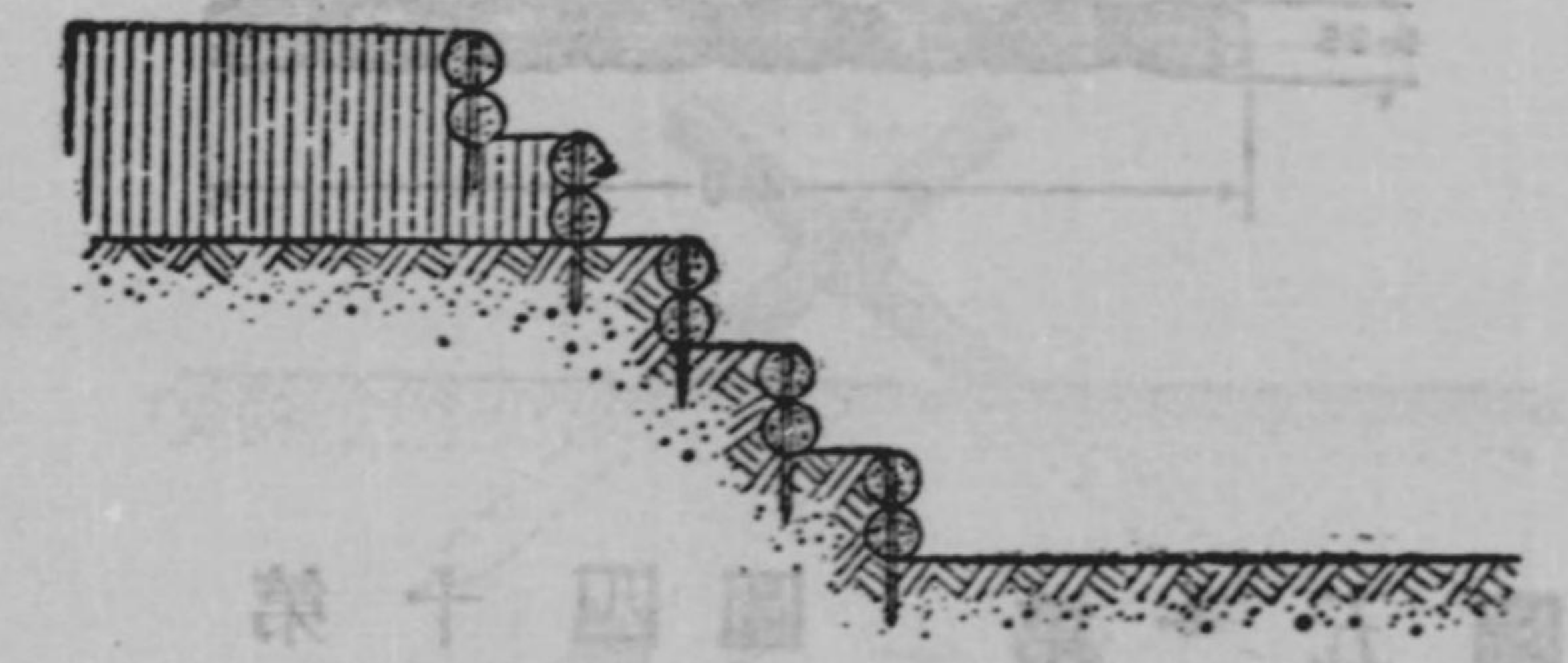


圖 六 第

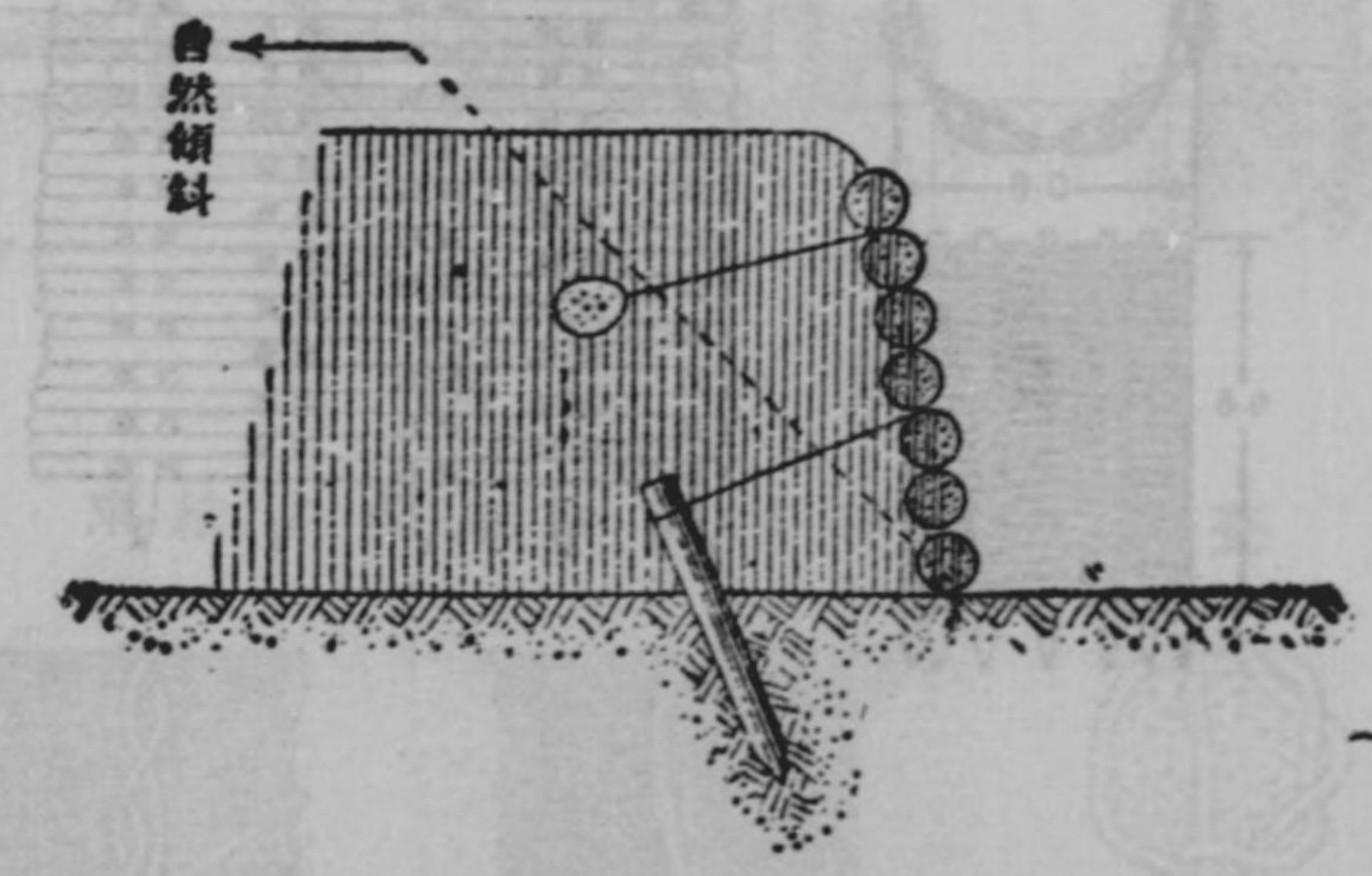
覆被 依 = 板 矢



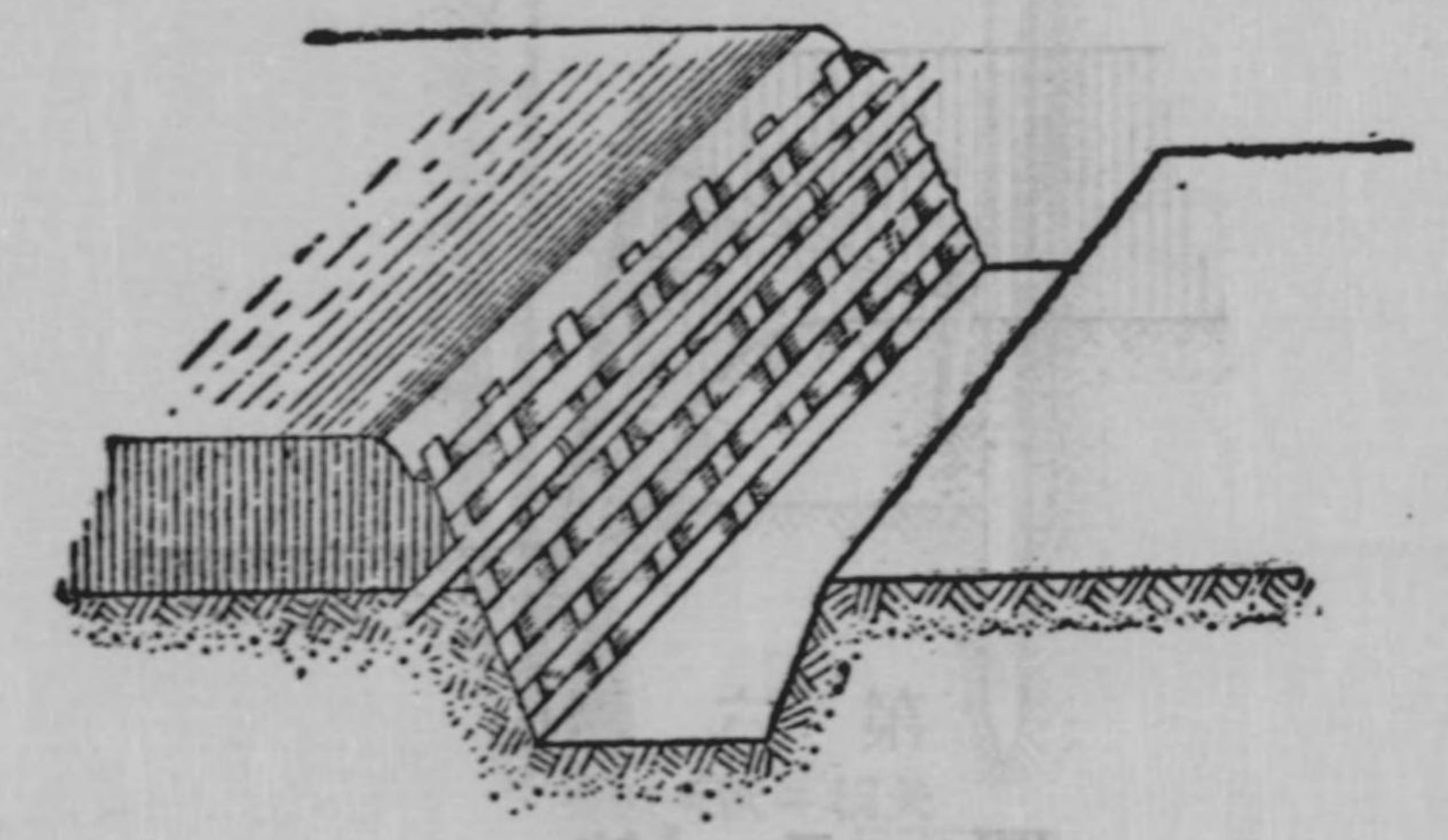
圖一十第
覆被段階ル依ニ柴束



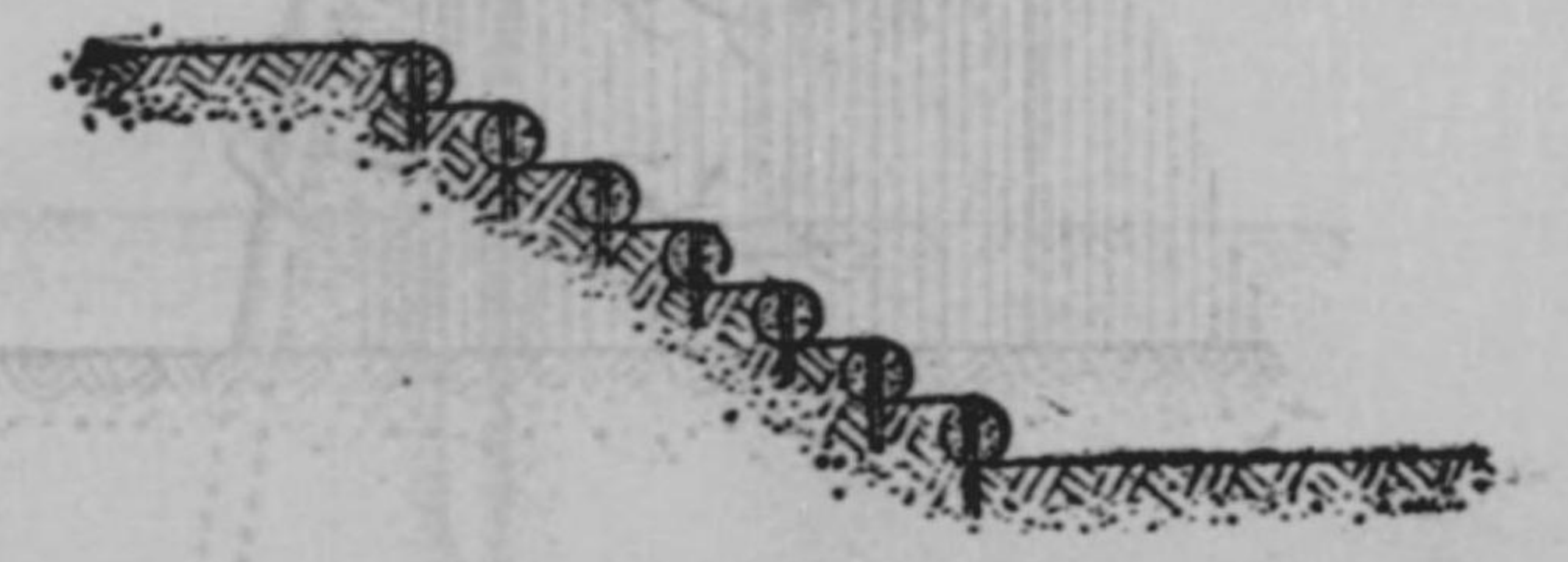
圖二十第
覆被柴束



圖九第
覆被條編

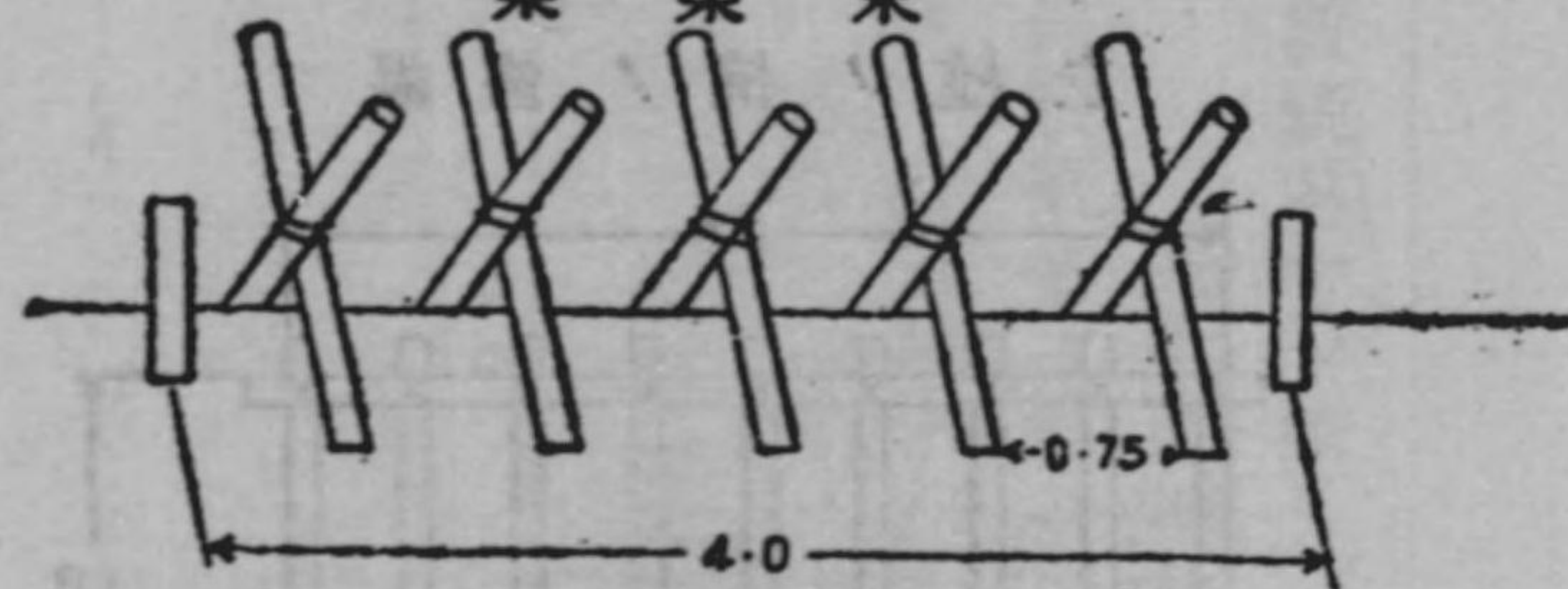


圖十第
覆被段階ル依ニ柴束



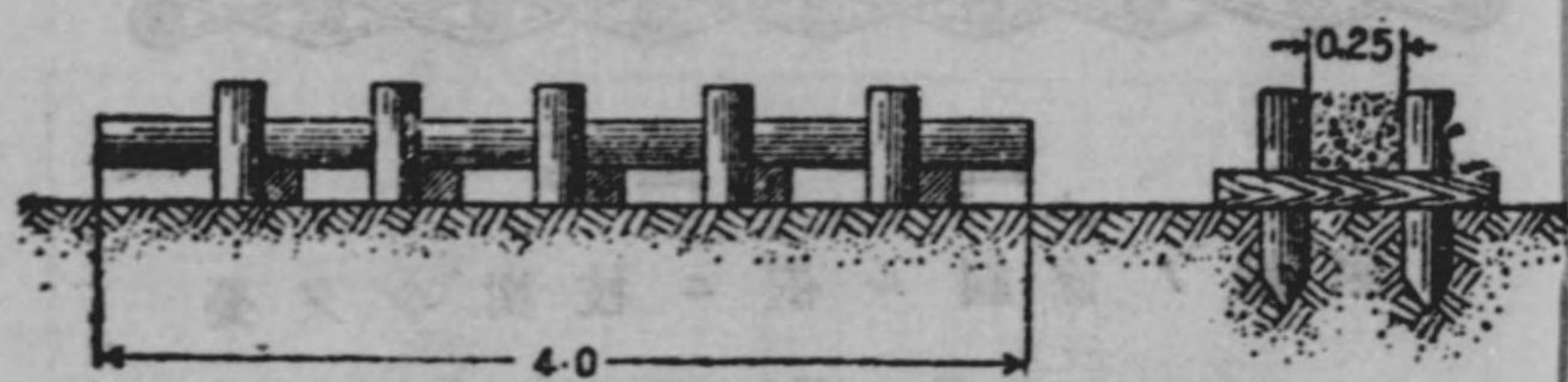
圖六十第

架柴束



圖七十第

架柴束造念



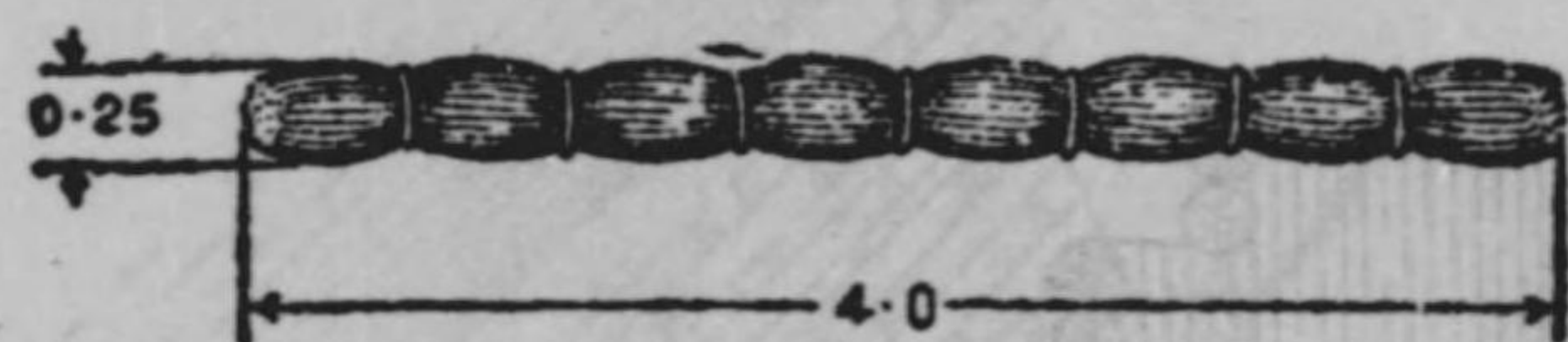
圖八十第

束結ノ柴束ル依ニ枝樹ハ又蔓



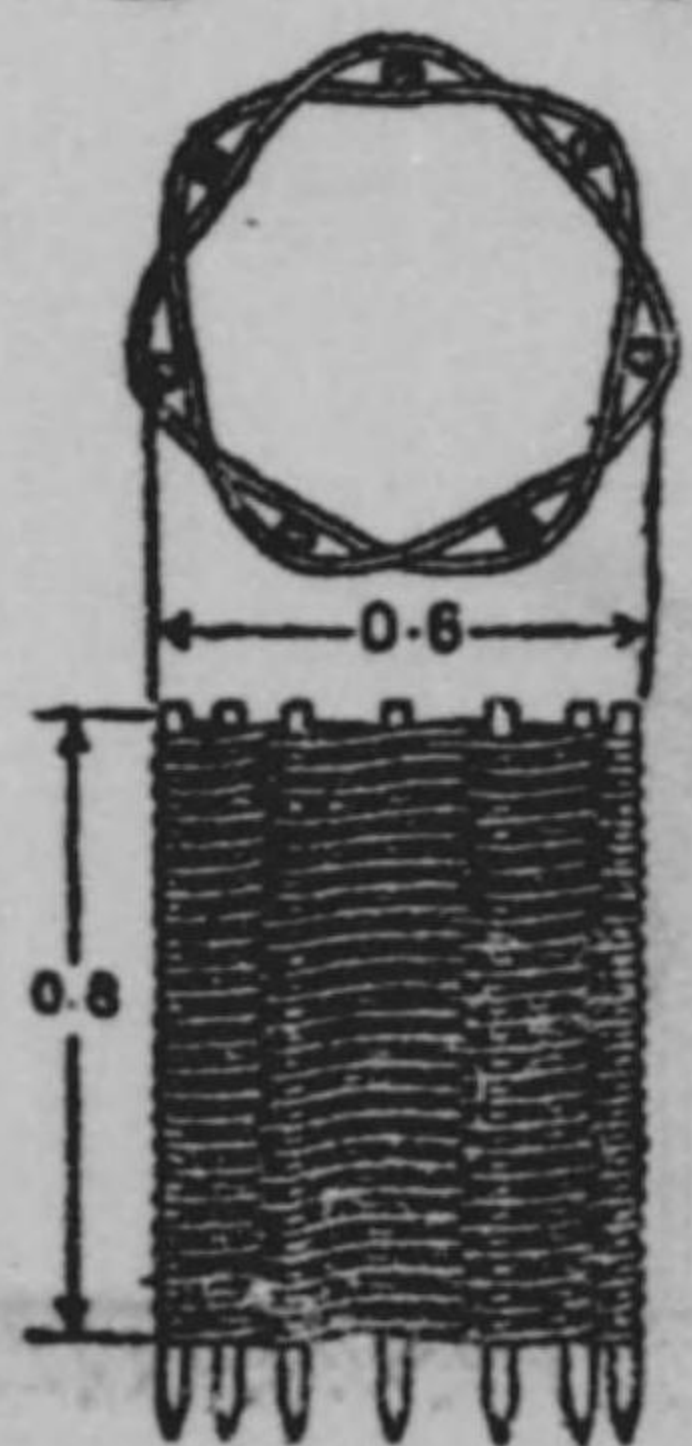
圖三十第

柴束



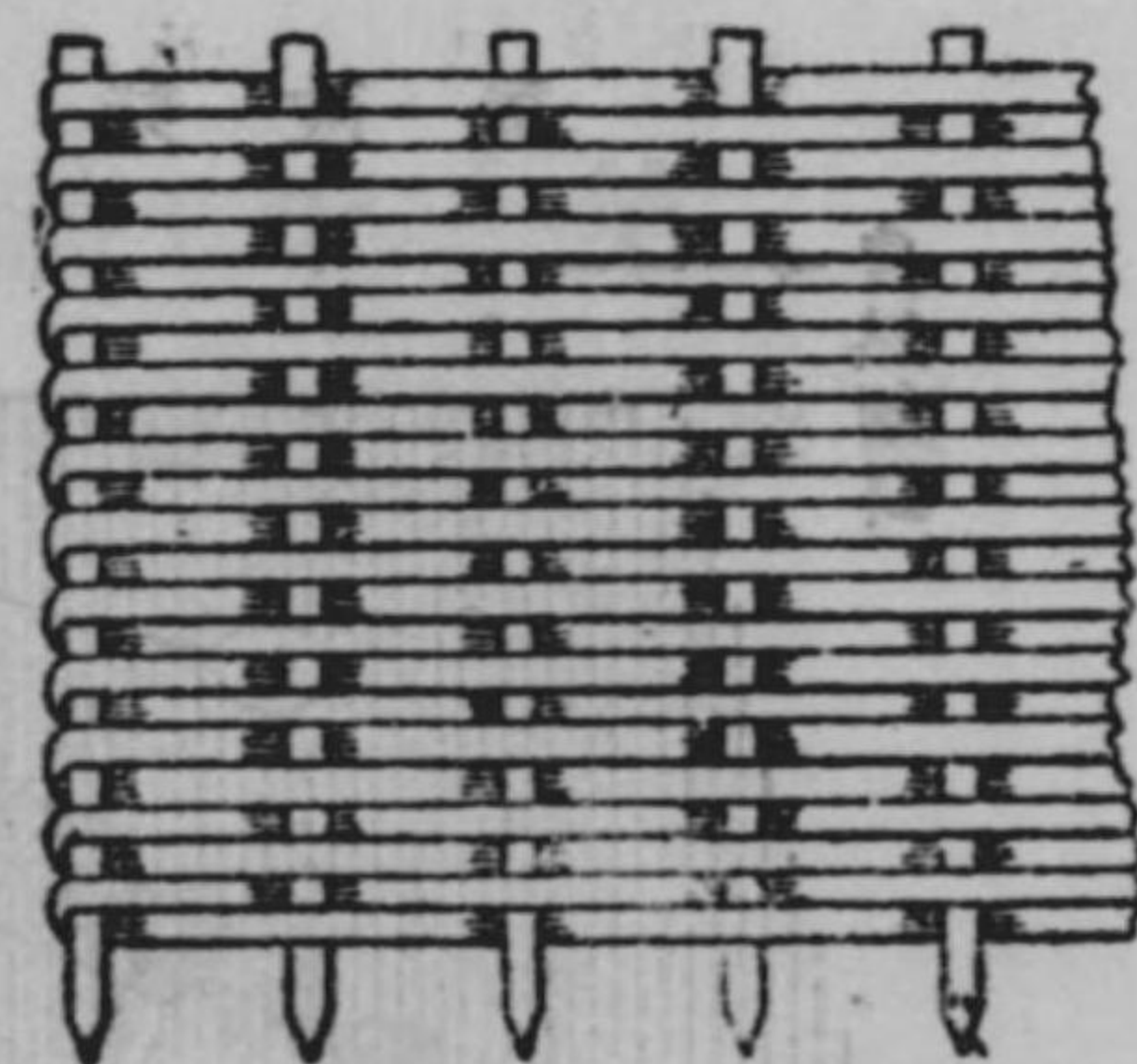
圖五十第

籃



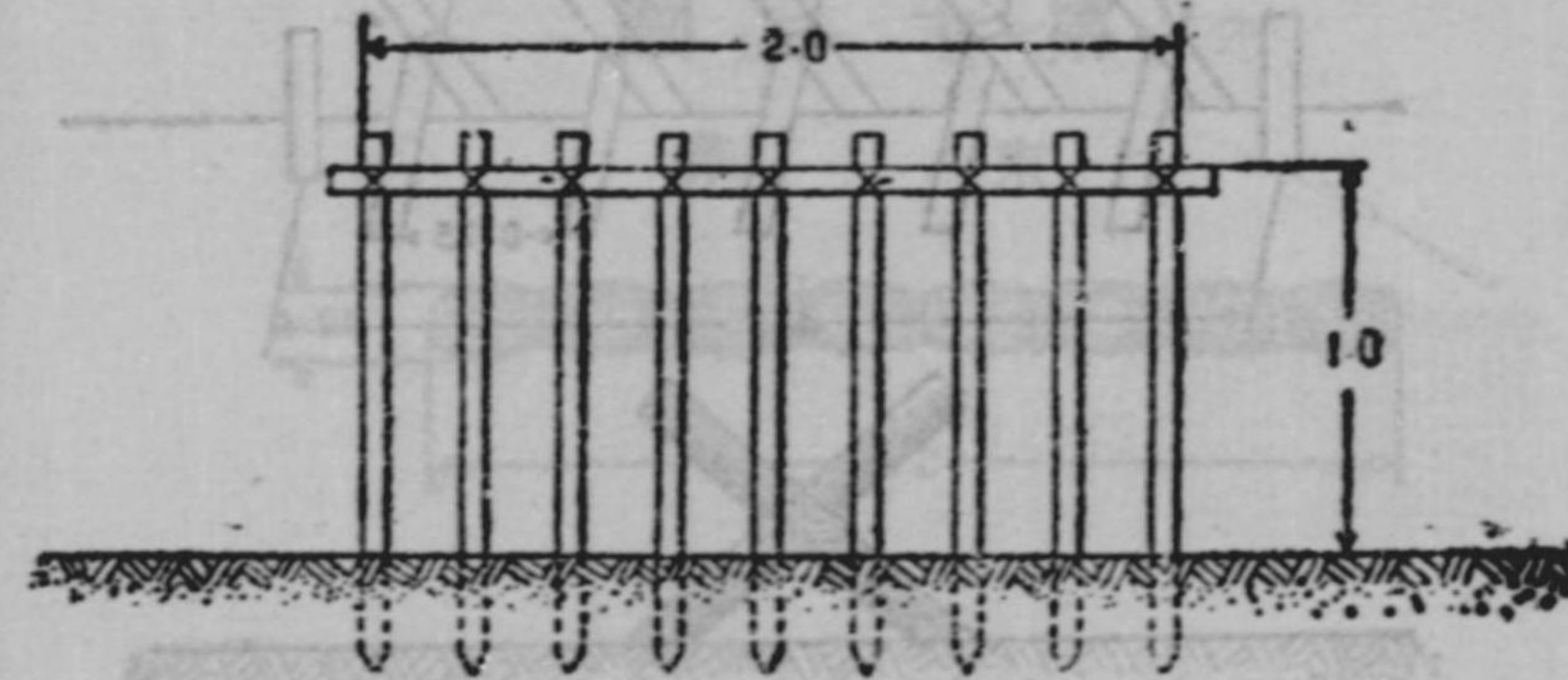
圖四十第

條編



圖九十第

立植ノ杭ノ條編



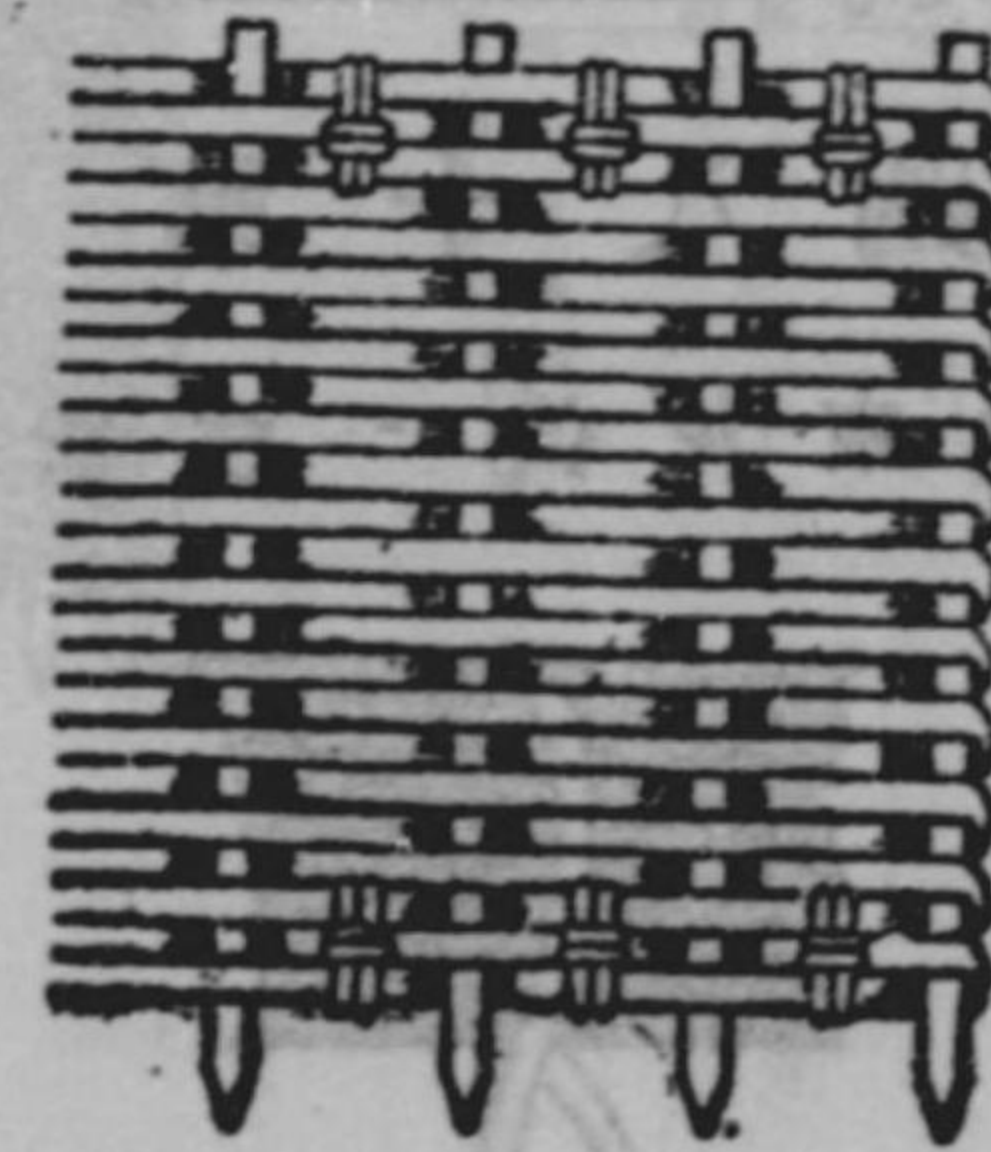
圖十二第

期初ノ組編條編



圖一十二第

束結ノ條編ル依ニ枝樹ハ又蔓



教訓第十七號

野戰築城教育ニ關スル訓令

野戰築城ニ關スル教育ハ野戰築城教範ニ據ルノ外當分ノ内本規定ニ依リ實施スベシ

昭和十三年四月十六日

教育總監代理 安藤 利吉

野戰築城教育規定

五

築規

1 次目 定規育教城築戰野

野戰築城教育規定 目次

第一	掩體	小銃ノ掩體	一
其ノ一	輕機關銃ノ掩體	三	
其ノ二	擲彈筒ノ掩體	四	
其ノ三	機關銃ノ掩體	四	
其ノ四	步兵砲ノ掩體	五	
其ノ五	障礙物	七	
第二	障礙物	七	
其ノ一	電化障礙物	七	
要則	結構	七	
偵察	破壞	九	
破壤	通過法	一	
其ノ一	地雷	四	
其ノ二	地雷	四	
要則	搜索	五	
其ノ一	對戰車障礙物	六	
其ノ二	對戰車障礙物	七	

頁

附 附

第一	圖	立射用小銃掩體	一
第二	圖	立射用小銃掩體	二
第三	圖	伏射用小銃掩體	三
第四	圖	伏射用小銃掩體	四
第五	圖	立射用小銃掩體	五
第六	圖	分隊陣地ノ一部	六
第七	圖	遮障	七
第八	圖	立射用掘擴輕機關銃掩體	八
第九	圖	立射用掘擴輕機關銃掩體	九
第十	圖	伏射用輕機關銃掩體	十
第十一	圖	伏射用輕機關銃掩體	十一
第十二	圖	立射用擲彈筒掩體	十二
第十三	圖	擲彈筒分隊陣地ノ一部	十三
第十四	圖	擲彈筒分隊陣地ノ一部	十四
第十五	圖	立射用機關銃掩體	十五

一七

第十六圖	第十五圖ニ示ス機關銃掩體ノ經始法
第十七圖	廣キ射界ヲ要スル場合ニ於ケル立射用機關銃掩體ノ經始法
第十八圖	第十七圖ニ示ス機關銃掩體ノ經始法
第十九圖	膝射用機關銃掩體
第二十圖	伏射用機關銃掩體
第二十一圖	機關銃陣地ノ偽裝
第二十二圖	機關銃銃口部閉閉設備
第二十三圖	平射用大隊砲（九二式歩兵砲）掩體
第二十四圖	第二十三圖ニ示ス大隊砲掩體ノ經始法
第二十五圖	曲射用大隊砲（九二式歩兵砲）掩體
第二十六圖	速射砲（九四式三十七耗砲）掩體
第二十七圖	第二十六圖ニ示ス速射砲掩體ノ經始法

第二十八圖	九三式砲隊鏡掩體
第二十九圖	九三式輕測遠機掩體
第三十圖	第二十九圖ニ示ス九三式輕測遠機掩體ノ經始法
第三十一圖	電測遠機掩體ノ經始法
第三十二圖	電壓檢知器要領圖
第三十三圖	導體網
第三十四圖	接軌
第三十五圖	接軌ニ依ル電流鐵條網ノ破壤
第三十六圖	地雷搜索器
第三十七圖	三角断面ノ壕
第三十八圖	圓形断面ノ壕
第三十九圖	交通壕ノ断面擴大
第四十圖	二列戰車防材
第四十一圖	一列戰車防材
第四十二圖	防材ヲ添加セル戰車斷崖
第四十三圖	降斜面ニ設ケル戰車斷崖
第四十四圖	第四十三圖ニ示ス戰車斷崖ノ偽裝要領

野戰築城教育規定 目次終

小銃掩體ノ經始	第一圖	第一 小銃ノ掩體ハ立射用ヲ箇々ニ構築シ之ニ交通設備ヲ施スヲ通則トス
小銃掩體ノ首線及	第二圖	第一、第二、第五圖 第二 狀況特ニ作業時間ニ依リテハ先ヅ伏射用（第三圖）、膝射用（第四圖）ノ掩體ヲ箇々ニ獨立シテ構築シ時間ノ餘裕ヲ得ルニ從ヒ逐次之ヲ立射用（第五圖）ニ掘擴シ交通設備ヲ施スモノトス
交通設備	第六圖	時トシテ地形、作業力ノ關係等ニ依リ二人用掩體（幅ハ最小限約一米五〇トス）又ハ教範ニ示ス散兵壕ヲ構築スルコトアリ
交通設備	第七圖	交通設備ニ關シテハ概ネ教範第六十六乃至第七十八ニ準ジ長時日守備スベキ陣地ニ在リテハ第二圖ニ示スモノヨリ一層交通容易且安全ナルモノヲ構築スルコトアリ
小銃掩體ノ首線	第八圖	第三 小銃掩體ノ首線ハ主要ナル射擊方向ニ一致セシムベキモノニシテ各掩體ノ間隔ハ狀況ニ依ルモ防禦ニ在リテハ地形、分隊陣地ノ正面、射手ノ掩護等ヲ顧慮シテ之ヲ定ムルモノトス
小銃掩體ノ分隊陣地	第九圖	第六圖ハ分隊陣地ノ一部ヲ示シタルモノナリ
小銃掩體ヲ標示シ交通設備ヲ施ス場合	第十圖	第四 小銃掩體ヲ標示スル爲其ノ位置ヲ經始スルニハ通常掩體ノ中心及首線ヲ標示シ交通設備ヲ施ス場合ニハ其ノ前線ヲ標示スルモノトス

野戰築城教育規定

第一 掩體

其ノ一 小銃ノ掩體

既設ノ交通壕ノ利用	掩體ノ構築	順序ノ構築	作業手ノ配置	作業著手	撤毒地域ノ作業
-----------	-------	-------	--------	------	---------

經始ニ方リテハ常ニ全般ノ配備ニ適應セシメ巧ニ地形、地物ヲ利用シ且勉メテ長キ直線部ヲ避ケ以テ射撃ノ便、掩護ノ確實、陣地ノ秘匿ヲ圖ルト共ニ作業量ヲ輕減スルヲ要ス

第五 既設ノ交通壕等ヲ利用スル場合ニ於テハ教範ニ準シ射撃設備ヲ施スカ或ハ概ネ第一圖ニ準ズル断面ヲ設クルモノトス

第六 小銃掩體ハ箇々ノ掩體ヲ構築シタル後交通設備ヲ施シ或ハ此等ヲ同時ニ構築スルモノトス

第七 作業手ヲ配置スルニハ箇々ノ掩體ノミヲ構築スルトキハ各掩體ノ位置ニ作業手ヲ配置ス又交通設備ニテ連接スル掩體ヲ構築スルトキハ各掩體ノ位置ニ作業手ヲ配置シテ該掩體及右隣接掩體ノ左端ニ到ル交通設備ヲ其ノ工區トスルカ或ハ各掩體ノ位置ニ一名、兩掩體間ノ交通設備ニ若干名ノ作業手ヲ配置シ前者ハ掩體及其ノ直後ノ交通設備ヲ、後者ハ兩掩體間ノ交通設備ヲ作業手ノ數ニ應ジテ區分シ夫々工區ト爲ス

第八 作業手ノ配置終レバ其ノ掩體ノ首線ヲ示シ且所要ノ指示ヲ與ヘタル後作業ニ著手セシム作業手ハ自己ノ工區ニ於テ掩體ノ周縁又ハ交通設備ノ前後縁ニ小溝ヲ劃シタル後前縁ヨリ掘開ニ著手シ鐵手ハ適時之ニ協力スルモノトス

第九 撤毒地域内ニ於テ作業スル場合ニ於テハ各個防護ヲ行ヒ通常消毒シタル後作業ヲ開始シ勉メテ汚毒セル土砂ノ飛散ヲ防ギ又時々身體ノ露出部、器具及被服等ノ應急消毒ヲ實施スルヲ要ス然レドモ敵火ノ下ニ於テ撤毒地域内

工事ノ秘匿	偽裝ノ要領	遮障ノ應用	輕機關銃ノ掩體
-------	-------	-------	---------

ノ作業ヲ行フ場合等ニ於テハ通常消毒スルコトナク作業スルモノトス

内項、臂座、内斜面等直接身體ノ接觸スル部分ハ汚毒セザル糾草、土砂等ヲ以テ構築シ又ハ各種ノ物料ニ依リ掩覆スルヲ可トス

作業間敵ノ瓦斯攻撃ヲ受ケタル場合ニ於テモ前項ニ準シ作業ヲ實施スルモノトス

工事完了後之ヲ占領スルニ方リ狀況之ヲ許セバ再ビ表面ノ消毒ヲ行フヲ可トス又撤毒地ヲ流過セル雨水ガ工事内ニ流入セザル如クスルコト緊要ナリ

第十 箇々ノ掩體ニ交通設備ヲ施シタルモノハ空中偵察ニ對シ配備ヲ暴露シ易キヲ以テ偽裝ヲ施スカ又ハ偽工事ヲ設クル等之ガ秘匿ニ留意スルコト特ニ緊要ナリ

第十一 獨立シタル箇々ノ掩體ヲ偽裝スルニハ偽裝網ヲ以テ之ヲ掩ヒ交通設備ヲ施シタル掩體ハ更ニ偽裝網等ヲ以テ出入口ヲ閉鎖シ單ナル壕ノ如ク裝フモノトス

狀況ニ依リ陣地ノ要部ニ在リテハ交通設備ヲ併セ偽裝スルコトアリ

第十二 遮障ハ簡易ナル設備ニテ地上ノ視察ニ對シ遮蔽シ得ルノ利アルヲ以テ屢々利用セララルモノトス夜間敵前至近ノ距離ニ在リテ作業ヲ實施スル場合等ニ於テ特ニ然リトス(第七圖)

其ノ二 輕機關銃ノ掩體

第十三 輕機關銃ノ掩體ハ交通設備ニテ他ノ掩體ト連接スルモノトス(第八圖)狀況ニ依リ第九圖)

輕機掩體 第十四 狀況特ニ作業時間ニ依リテハ先ヅ伏射用(第十圖)、膝射用(第九圖)ニ掘擴シ得ベキモノノ一例第十一圖)ノ掩體ヲ構築シ時間ノ餘裕ヲ得ルニ從ヒ逐次之ヲ掘擴シ立射用ニ至ラシムルモノトス

偽裝要領 第十五 輕機關銃掩體ノ偽裝ニ關シテハ小銃及機關銃ノ爲ニ示ス要領ニ準ズ

擲彈筒掩體 第十六 擲彈筒ノ掩體ハ略々輕機關銃ノ掩體ニ準シテ構築シ適宜ノ位置ニ彈藥置場ヲ設クルモノトス(第十二圖)但シ第十圖ニ準ズル場合ニ於テハ壕ノ幅員ヲ約一米五〇トスルヲ要ス

何レノ場合ニ於テモ駐板位置ハ勉メテ自然地上ニ在ラシメ要スレバ強固ニ設備シ或ハ駐板ニ緩衝物(束柴、束藁等)ヲ縛著シ以テ駐板位置ノ崩壞ヲ防止スルヲ要ス

擲彈筒標定設備 第十七 擲彈筒標定ノ設備ハ射角ノ保持、方向ノ規正ヲ容易ナラシムル如ク行フモノトス(第十三圖)

彈藥手ノ掩體 第十八 裝填ニ任ゼザル彈藥手等ノ爲ニハ適宜隣接筒トノ中間又ハ分隊陣地ノ末端ニ於テ小銃ノ掩體ヲ設ケ特ニ側方及後方ニ對シ射擊設備ヲ施スコト必要ナリ

機關銃ノ掩體 第十九 廣キ射界ヲ要セザル場合ニ設クル立射用掩體第十五圖ノ如ク其ノ經始法第十六圖ニ示スガ如シ

彈藥置場 第十九圖ハ膝射用掩體ニシテ第二十圖ハ狀況特ニ急ヲ要スル場合等應急ニ際シ構築スル伏射用掩體ナリ

偽裝要領 第二十 機關銃彈藥置場ハ銃座ニ近キ内斜面ニ設ケ幅五五種、奥行五五種、高さ三〇種ヲ與フルモノトス

機關銃陣地ノ偽裝 第二十一 機關銃陣地ノ偽裝ハ之ニ通ズル交通壕及要スレバ掩蔽部等ヲモ併セ偽裝スルコト緊要ナリ(第二十一圖甲)

狀況ニ依リ掩體ノミヲ偽裝シ偽交通壕ニ依リ掩體ニ到ル交通壕ヲ更ニ延長シテ他ノ壕又ハ森林内等ニ導キ以テ一般交通壕ノ外觀ヲ裝フヲ可トスルコトアリ(第二十一圖乙)

露天掩體ノ偽裝 第二十二 露天掩體ノ偽裝網ハ特ニ之ヲ低カラシムルヲ要ス之ガ爲網下ヨリ射擊スル場合ニ於テハ之ガ操作ヲ害セザルヲ度トシ成ルベク低カラシメ射擊ノ爲第二十圖ノ如ク銃口部ヲ閉閉シ得ル如ク設備スルモノトス

步兵砲ノ掩體 第二十三 大隊砲(九二式步兵砲)、速射砲(九四式三七耗砲)ノ掩體及之ガ經始法ハ第二十三乃至第二十七圖ノ如ク聯隊砲(四一式山砲)ノ掩體ハ教範第四十四圖ニ據ルモノトス但シ九二式步兵砲ニ在リテハ平射用ニ構築スルヲ通常

砲床構築
 第二十四 砲床ノ構築ニ關シテハ教範第六十二、第六十三ヲ準用スルモノトス
 砲口前ノ設備
 第二十五 砲口前ニハ土砂ノ飛揚ヲ防ク爲教範第五十三ニ準ズル設備ヲ施ス
 要ス但シ速射砲ニ在リテハ更ニ砲口前ニ壕ヲ設ケ其ノ後方斜面ハ勉メテ急峻ナラシムルヲ可トス
 觀測所
 第二十六 觀測所ノ掩體ハ第二十八、第二十九圖ニ示スガ如ク其ノ經始法ノ一例第三十圖ノ如シ
 彈藥置場及掩壕
 第二十七 陣地内ニ設クル彈藥置場及砲用掩壕ノ爲ニハ左ノ幅員ヲ與フルモノトス

砲種	幅員(米)		
	幅	奥行	高さ
四一式山砲	〇・八〇	〇・七〇	〇・七五
九二式步兵砲	〇・七五	〇・六〇	〇・七五
速射砲	〇・八〇	〇・六〇	〇・五〇
四一式山砲	二・〇〇	四・五〇	一・二〇

偽裝要領
 第二十八 步兵砲ノ陣地ハ上空ニ對シ暴露シ易ク特ニ觀測所ハ地上視察ニ對シテモ特異ノ狀態ヲ呈スルヲ以テ十分ニ偽裝スルヲ要ス
 電化障物ノ目的
 第二十九 觀測所ノ偽裝ハ小銃掩體ニ、砲位置ノ偽裝ハ機關銃掩體ニ準シ實施スルモノトス
 砲位置ヲ偽裝スルニ方リテハ特ニ轍痕ニ留意スルヲ要ス

第二障物
 其ノ一 電化障物
 要則
 第三十 電化障物ハ人馬殺傷ノ目的ヲ以テ障物ヲ電化セルモノニシテ障力及敵ニ及ス精神的效果共ニ大ナリ而シテ發送電準備ヲ整ヘ得ルトキハ運動戰ニ於テモ輕易ニ利用セララルモノトス
 第三十一 電化障物ハ陣地前又ハ陣地内ノ特ニ重要ナル地域ニ設クルモノニシテ其ノ效力ハ設備、天候氣象及地質等ニ依リ異ナルモノトス
 第三十二 電化障物ノ構築及破壞ハ主トシテ工兵之ニ任ズルモノトス
 第三十三 電化障物ハ高壓電路ノ一極ヲ障物ニ接続シ他極ハ之ヲ確實ニ

壕掩用	
九二式步兵砲	一・二〇
速射砲	二・〇〇
九二式步兵砲	二・二〇
速射砲	四・〇〇
九二式步兵砲	一・一〇
速射砲	一・二〇

電力
鐵條網、
拒馬ノ電
化

領送電ノ要

廣地域鐵
條網ノ送
電線ノ
設置

接地スルモノトス從ツテ此ノ種障礙物ニ接觸スルトキハ電氣的閉回路ヲ成形
シ鐵線、大地間ノ高電位差ニ依リテ殺傷セラレルモノトス
第三十四 電化障礙物ノ電流ハ人馬ノ殺傷、設備ノ便易等ヲ顧慮シ通常一、
〇〇乃至二、〇〇〇「ヴォルト」ノ交流ヲ使用ス
第三十五 鐵條網、拒馬等ハ之ヲ其ノ儘電化スルコトヲ得然レドモ折疊鐵條
網等ノ如ク多數ノ金屬接地点ヲ有スル障礙物ニ在リテハ支點ヲ大地ヨリ絕緣
スルノ處置ヲ講ズルコト必要ナリ
杭ハ勉メテ乾燥セルモノヲ使用スルコト必要ニシテ爲シ得レバ杭ノ樹皮ヲ剥
脱シ或ハ地中埋設部分ニ「アスファルト」、「コールタール」類ヲ塗布シ以テ之
ガ絕緣ヲ良好ナラシムルヲ可トス
第三十六 送電ハ障礙物ノ電化秘匿ノ爲通常攻者ノ偵察時期ニ在リテハ之ヲ
行フコトナク突撃ノ直前等緊急ナル時期ニ至リ奇襲的ニ之ヲ行フモノトス
時トシテ飲騙ノ目的ヲ以テ偵察ノ時期ニ送電シ突撃ニ際シテハ該障礙物ニ送
電スルコトナク他方面ニ送電スルコトアリ
第三十七 廣地域ニ互ル電化障礙物ニ對シテハ之ヲ數地區ニ區分シ所望ノ地
區ニ適時送電シ得ル如ク設備スルモノトス
第三十八 發電所ヨリ電化障礙物ニ對シ送電スルニハ敵眼ニ遮蔽セル地區ニ
在リテハ通常架空線ニ依リ、敵ノ視察ヲ受クル地區ニ在リテハ電纜又ハ絕緣
電線ノ懸架若クハ地上敷設ニ依リ又耐火ノ爲破壞セラレル虞アル地區及全ク
秘匿ヲ要スル地區ニ在リテハ埋設線ニ依リ之ヲ行フ

偵察要領

偵察方法

偵察事項

視察偵察
ノ著意

偵察

第三十九 障礙物ノ偵察ニ方リテハ常ニ電化企圖ノ有無ヲ併セ偵知スルコト
緊要ナリ

第四十 電化障礙物ノ偵察ハ視察若クハ器具ニ依リ或ハ兩者ヲ併用シ攻撃準
備間ヨリ突撃實施間ニ互リ絶エズ實施スルヲ要ス

第四十一 電化障礙物ノ偵察ニ方リ偵知スベキ事項左ノ如シ

一、障礙物ノ位置、種類、構造、幅員、強度、絕緣設備ノ有無

二、送配電組織、電化區域、電壓

三、電源ノ存否、位置、送電線ノ經路

第四十二 視察ニ依ル偵察ニ方リテハ左ノ如キ特質、徵候ニ著意スルヲ要ス

一、杭ノ全面又ハ下部ノ樹皮ヲ剥脱セルモノアリ

二、杭脚ノ地中埋設部ニ「アスファルト」若クハ「コールタール」ヲ塗布セル
モノアリ

三、杭ノ數或ハ張線數ヲ減シタルモノアリ

四、下部ノ鐵線ヲ接地セザル如ク高ク張線シ或ハ土地ノ小凸起ヲ削取セル
モノアリ

五、障礙物特ニ鐵條網内ニ亂レ線等ヲ添加セザルコト多シ

六、碍子等ヲ以テ鐵線ヲ杭ニ固定シアルモノアリ

七、杭脚ニ近ク鐵線ニ接續セル送電線ヲ發見スルコトアリ

八、壓、送電スルモノハ附近ノ雜草枯レテ變色セルモノアリ

間接偵察
電話器又ハ受話器
電流鐵條
急造電流
鐵條網探
各種破壊
突擊路ノ
鐵條網ノ

第四十八 間接ノ偵察法ハ電化障物ノ絶縁不良等ニ依リ生ズル地電流或ハ送電流ニ依ル電磁誘導作用ヲ利用シ其ノ存在ヲ探知スルモノトス
 第四十九 電話機又ハ受話機ニ依ル偵察ハ其ノ本、地線兩端ヲ接地シ障物ノ電化ニ因ル地電流ヲ聴取シ電化障物ノ存在ヲ偵知スルモノニシテ其ノ探知距離ハ狀況就中障物ノ結構、電力、地質、天候、接地要領等ニ依リ異ナルモ通常接地間隔二〇米ノトキ電話機ニ在リテハ約一〇〇米、受話機ニ在リテハ約五〇米ナリ
 第五十 電流鐵條網探知器ニ依ル偵察ハ送電流ノ電磁誘導作用ヲ利用シ電化障物ヲ探知スルモノトス
 探知距離ハ約一、五〇〇米ニシテ接地困難ナル場合ニ用フルニ適シ地電流ノ影響ヲ受クルコト小ナリ
 第五十一 急造電流鐵條網探知器ハ所在ノ無線用部品(受信、擴大裝置等)ヲ利用シ障物ノ電化ニ因ル地電流ヲ無線增幅器ノ方法ニ依リ擴大聴取スルモノニシテ其ノ探知距離ハ約五〇〇米ナリ

破壊

第五十二 電化障物ノ破壊ニハ爆破、鉄斷、戰車、射撃等各種ノ方法アリ又良好ナル地絡ニ依リ電源ニ損害ヲ與フルモ有利ナル一方法トス
 第五十三 突擊路ノ鐵條ハ突擊部隊ノ通過ニ際シ之ニ接觸セザル如ク完全ニ清掃シ又切斷線ノ端末ハ杭ニ纏結スルカ或ハ地中ニ挿入シテ接地セシメ置クコト緊要ナリ而シテ作業手障物ヲ通過セバ速力ニ送電線ヲ搜索切斷シ以テ

器具ニ依
直接偵察
電流鐵條
電壓檢知
金屬線ヲ
偵察スル

九、送電シアルトキハ地面ニ近接セル鐵線ハ多少火花及小爆聲ヲ發シ杭、雜草等ノ燃焼ニ伴フ煙、湯氣及焦グルガ如キ臭氣ヲ發生スルコトアリ
 十、送電シアルトキ機關銃等ヲ以テ障物ヲ射撃セバ鐵線切斷ニ方リ火花ヲ發スルコトアリ
 第四十三 器具ニ依ル偵察ニハ直接障物ニ接觸シ電流ノ有無ヲ檢知スル方法ト間接ニ電化障物ノ存在ヲ判知スル方法トアリ然レドモ間接ノ偵察法ハ單ニ電化障物ノ存在ヲ判知シ得ルニ過ギザルヲ以テ更ニ細部ノ偵察ヲ行フヲ通常トス
 第四十四 直接ノ偵察法ハ電流鐵條網偵察具又ハ電壓檢知器ヲ使用シ或ハ所在ノ應用材料ヲ利用シテ行フモノトス而シテ此ノ種偵察ニ方リテハ防電處置ヲ講シ危害ヲ豫防スルヲ要ス
 第四十五 電流鐵條網偵察具(第三十一圖)ニ依ル偵察ハ接觸線ガ電線ニ觸レタル時ニ於テ其ノ接觸部及滑走線ト地面トノ間ニ發生スル火花及若干時ノ後滑走線ニ接スル草ノ燃焼等ニ依リ電流ノ通否ヲ偵知スルモノトス
 第四十六 電壓檢知器(第三十二圖)ニ依ル偵察ハ電流ノ通否ヲ檢知スルト共ニ其ノ電壓ヲ測定スルモノニシテ接地棒ヲ以テ接地シタル後絶縁把子ヲ保持シ他端ニ在ル導體ヲ電線ニ接觸セシメ電壓計ニ依リ電壓ヲ檢知スルモノトス
 第四十七 金屬線ヲ利用シ偵察スルニハ一端ヲ接地シ他端ヲ障物ニ接觸セシメ電流鐵條網偵察具ニ準ジ電流ノ通否ヲ檢知ス此ノ際高壓檢電器ヲ併用シ得バ有利ナリ

ナルモノヲ使用セザルベカラズ

第六十四 電化障物通過ノ爲ニハ障物電化ノ現況特ニ電流ノ通否・電壓ノ高低ヲ知得スルコト特ニ緊要ナリ之ガ爲豫メ所要ノ人員、器材ヲ部署シ適時通過部隊ニ通報スルト共ニ所要ノ標識ヲ施スヲ要ス

第六十五 電化障物ニ開設セル突擊路ヲ通過スルニ方リテハ殘存セル鐵線ニ接觸シ電擊ヲ受ケザルコト特ニ緊要ナリ之ガ爲其ノ清掃不完全ナルモノニ對シテハ通過ニ先ダチ之ヲ完全ニ清掃スルカ若クハ通路上ニ導體網ヲ敷置スルヲ要ス

第六十六 導體網ヲ敷置シテ通過スル場合ニ於テハ嚴ニ兩足ノ同時ニ網ト大地トニ跨ガルコトナキヲ要ス其ノ他ノ場合ニ於テハ人體若クハ携帶兵器等ヲ突擊路兩側ノ鐵線、杭等ニ觸レシメザルコト緊要ナリ之ガ爲突擊路ノ幅員ハ通過部隊ノ正面幅ニ比シ勉メテ餘裕アラシムルヲ要ス

要則

第六十七 地雷ノ搜索、處理ハ其ノ特性ニ鑑ミ周到綿密ナル注意ヲ以テ實施スベキモノナリト雖モ狀況之ヲ要スレバ勇猛果敢身ヲ犠牲ニシテ機ヲ失セズ處置スルコト緊要ナリ

第六十八 地雷ノ搜索、處理ノ方法、手段ハ敵ノ地雷設置ノ慣用手段（附錄參照）及地雷ノ構造等ニ依リ異ナルモノトス

機能及慣用手段ノ觀察

第六十九 地雷ノ處理ハ通常搜索ニ引續キ實施スルモノトス此ノ際速力ニ其ノ機能並ニ慣用手段ヲ明カニシ爾後ニ於ケル搜索處理ノ準據タラシムルノ著意必要ナリ

第七十 地雷ノ處理ハ主トシテ工兵之ニ任ズルモ簡易ナルモノハ步兵其ノ他ノ兵種モ自ラ處理セザルベカラズ

搜索

第七十一 地雷ヲ搜索スルニ方リテハ指揮官ハ一般的判斷ヲ行ヒテ搜索ノ爲部下ヲ部署シ又直接搜索ニ任ズル者ハ局地的判斷ヲ行ヒツツ搜索ヲ實施スルモノトス

第七十二 一般的判斷ハ狀況、敵ノ慣用手段、諜報、各種徵候等ヲ基礎トシ敵地雷ノ設置區域ヲ判定スルニ在リ

第七十三 局地的判斷ハ敵ノ地雷設置ノ慣用手段ヲ基礎トシ死角、凹地、鞍部、隘路、森林、家屋、阻絶附近等ノ局地ニ於ケル地雷ノ種類及其ノ設置法ヲ判定スルニ在リ

第七十四 地雷ヲ搜索スルニ方リテハ各種ノ徵候ニ留意スルコト特ニ緊要ナリ之ガ爲著意スベキ主要ナル事項概ネ左ノ如シ

一、敵ノ故ヲニ避ケテ行動スル地域

二、監視兵ノ有無

三、俘虜、住民ノ言動

四、敵ノ地雷設置作業

五、土地ノ變色、小起伏、小龜裂
 六、地上ニ露出スル板、導電線或ハ此等埋設ノ痕跡
 七、地上特ニ道路、森林、叢樹間等ニ張ラレタル鐵線、網、紐、蔓類ノ存
 八、用途不明ナル小杭
 九、地雷設置用材料ノ殘骸
 十、地中ニ於ケル機械音(時計仕掛ノ點火裝置)
 十一、地上ニ於ケル藥品ノ臭氣(藥品ニ依ル點火裝置)
 十二、阻絶物ト地中トヲ連結スル鐵線、紐類
 十三、遺棄兵器ト地中トヲ連結スル鐵線、紐類
 十四、道路上ニ散亂スル阻絶用石塊ノ類
 十五、家屋ノ扉又ハ窓附近ニ存在スル鐵線、紐類
 第七十五 地雷ノ搜索ハ通常搜索器ニ依リ疑ハシキ地上ヲ輕ク引搔キテ手ニ
 傳ル觸感ニ依リ判定スルモノトス又搜索器(第三十六圖)ヲ有セザルトキハ十
 字鉤ヲ代用シ得ベシト雖モ其ノ觸感ハ鈍キヲ以テ特ニ細心ノ注意ヲ拂フコト
 必要ナリ

第七十六 地雷ノ處理ニ方リテハ之ヲ除去スルヲ本則トス然レドモ狀況ニ依
 リ其ノ場ニ於テ誘發シ或ハ其ノ位置ヲ標示スルモノトス
 第七十七 地雷ノ除去ニ方リテハ通常先ヅ導電線、網、紐又ハ鐵線等ヲ切斷

シテ點火裝置ヲ無効ナラシメ裝藥ハ爲シ得レバ之ヲ發掘シ分解又ハ誘發スル
 ヲ可トス

第七十八 地雷ヲ其ノ場ニ於テ誘發スルニ方リテハ特ニ設置スル裝藥ニ依ル
 モノトス而シテ電氣式視發地雷ニ在リテハ要スレバ電氣點火器等ニ依リ、係
 蹄式地雷ニ在リテハ其ノ張線ニ新ニ綱ヲ結著シ牽引ニ依リ之ヲ誘發セシム

第七十九 地雷ノ標示ニ方リテハ通常各地雷ノ位置ニ危險標示ヲ行フト共ニ
 地雷地域ノ周圍若クハ安全地域ヲ標示シ之ヲ確實ニ友軍ニ通報シ地雷地帯ノ
 通過ニ齟齬ナカラシムルモノトス

其ノ三 對戰車障物

第八十 三角斷面ノ壕(第三十七圖)ハ作業比較的簡單ニシテ戰車ノ前進ヲ阻
 止シ得ルモ戰車ノ後退離脫容易ナルノ不利アリ而シテ之ヲ斜面ニ設クルトキ
 ハ作業量ヲ著シク減少シ得ルモノトス

第三十七圖乙ハ掘開困難ナル土地ニ採用シ戰車ノ行動ヲ遲滯セシメ得ルモノ
 トス

第八十一 戰車ヲ落下セシムルヲ目的トスル陷窰ノ一例第三十八圖ノ如ク輕
 戰車ノ行動ヲ制限スルヲ目的トスル交通壕斷面擴大ノ一例第三十九圖ノ如ク
 第八十二 戰車防材ハ前進スル戰車ヲシテ第四十圖ノ如ク防材上ヲ空轉セシ
 メ其ノ前進ヲ阻止ス

二列ノ戰車防材(第四十圖)ハ緩傾斜地ニ、一列ノ戰車防材(第四十一圖)ハ

戰車斷崖

稍急傾斜地ニ設置スルヲ有利トス
一般ニ戰車防材ハ戰車壕等ニ比シ傾斜地ニ於テ短時間ニ構築シ得ルノ利アル
モ敵ニ發見セラレ且砲彈ニ依リ破壞セラレ易キヲ以テ偽裝ヲ完全ナラシムル
カ若クハ敵砲彈ニ遮蔽セル傾斜地ニ設置スルヲ有利トス
第八十三 戰車斷崖ハ地形ニ依リ輕易ニ構築シ得且效力比較的大ナリ急斜面
ノ利用及自然ノ崖ヲ加工スル場合ニ於テ特ニ然リトス
第四十二圖ハ戰車斷崖ト戰車防材ト併用シタルモノニシテ戰車斷崖ノ高サ
不十分ナル場合崖上ニ一防材ヲ設置シテ戰車ノ阻止效力ヲ増加シタルモノナ
リ
第四十三圖ハ降斜面ニ設クル戰車斷崖ニシテ不意ニ戰車ヲシテ斷崖下ニ墜落
セシメ其ノ行動ヲ不能ニ陥ラシムルモノナリ其ノ偽裝ノ要領第四十四圖ノ如
シ

排除

障碍排除
及戰車壕
埋填
軌條若
鹿岩排除
戰車防材

第八十四 戰車障碍物ハ之ヲ破壞、掩覆、埋填シテ通過スルヲ通常トス
第八十五 戰車斷崖及戰車壕ニ通路ヲ開設スルニハ其ノ崖上ニ集團裝藥ヲ裝
置シ若クハ土工作业ニ依リ其ノ斜面ヲ崩壊セシメ或ハ堡壘又ハ架臺ヲ設置シ
或ハ土囊其ノ他ノ物料ニ依リ之ヲ埋填スルモノトス
第八十六 軌條若又ハ鹿岩ハ集團裝藥ヲ其ノ脚部ニ裝置シ若クハ破壞筒ヲ使
用シテ之ヲ爆破スルカ或ハ器具ニ依リ之ヲ排除スルモノトス
第八十七 戰車防材ハ集團裝藥ヲ以テ之ヲ爆破シ又ハ鋸斷其ノ他ノ方法ニ依

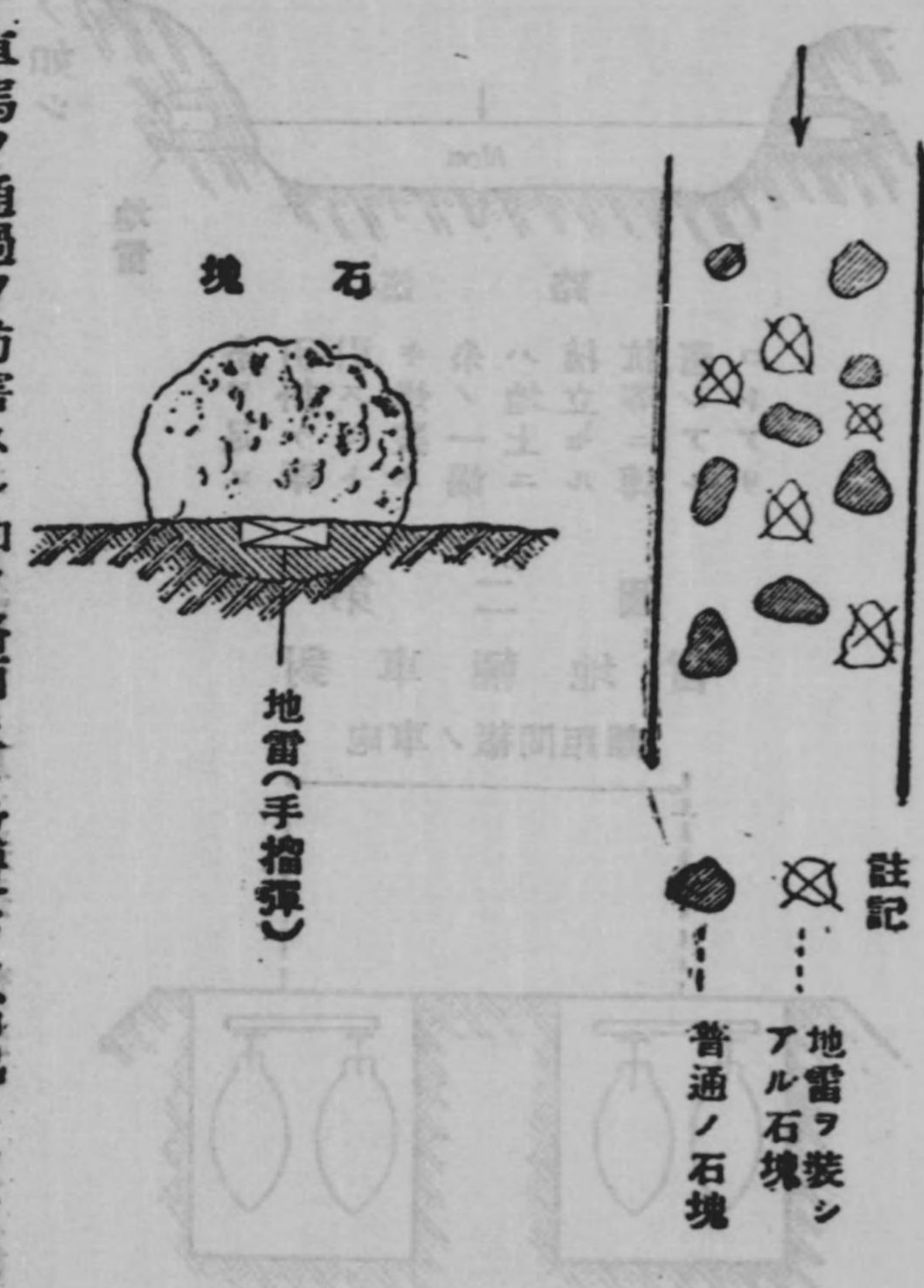
排除

陷穽ノ排

保籃ノ加
工架臺

リ之ヲ排除スルモノトス
狀況ニ依リ戰車斷崖ニ準ジ堡壘、架臺等ヲ使用シ通過セシムルコトアリ
第八十八 陷穽ニ對シテハ戰車斷崖及戰車壕ニ準ズルノ外戰車ノ前進方向ニ
對シ丸太ヲ直角ニ其ノ上部ニ敷置シ又ハ堡壘等ヲ内部ニ設置シテ其ノ上面ヲ
通過スルモノトス
丸太ヲ敷置スルニハ其ノ支點ヲ強度大ナル箇所ニ選定シ且其ノ滑走ヲ防止ス
ルト共ニ其ノ敷置間隔ハ戰車ノ種類ニ依リ異ナルモ中型戰車ノ爲ニハ約一米
五〇以下、輕裝甲車ノ爲ニハ約八〇厘以下ナルヲ要ス
堡壘ヲ内部ニ設置スルニハ戰車ノ重量ニ依リ沈降量ヲ顧慮スルヲ要ス若シ戰
車ノ兩側履帶ヲシテ夫々隣接陷穽ニ互リ通過セシムルヲ要スルトキハ戰車ノ
底板ヲシテ直接接地シ履帶ノ空轉ヲ來サザル如ク戰車ノ最低地上高(低板下
ノ地上高ヲ謂フ)ヲ顧慮シ堡壘ヲ過低ナラシメザルコト緊要ナリ
第八十九 堡壘ハ其ノ側面ニ加ル荷重ニ耐ヘ得ル如ク内部ニ縱横ニ鐵線ヲ緊
張スルコト緊要ナリ
第九十 架臺ハ鐵線ヲ以テ各部材ヲ堅固ニ連結スベシ鍍ヲ用フルトキハ戰車
ノ震動ニ依リ解體スルヲ以テ之ヲ避クルヲ要ス
架臺ハ小型ノモノ數箇ヲ携行シ障碍物ノ程度ニ應ジ所望ノ如ク簡易迅速ニ配
置シ得ル如ク準備シ得バ有利ナリ

第三圖
道路ノ上ノ石塊ト併用スル地雷



主トシテ車馬ノ通過ヲ妨害スル如ク路面上ニ敷置セル石塊ニシテ之ヲ不注意ニ除去セントスルヤ石ニ縛著シアル鐵線、網類ヲ牽引シテ爆發ス

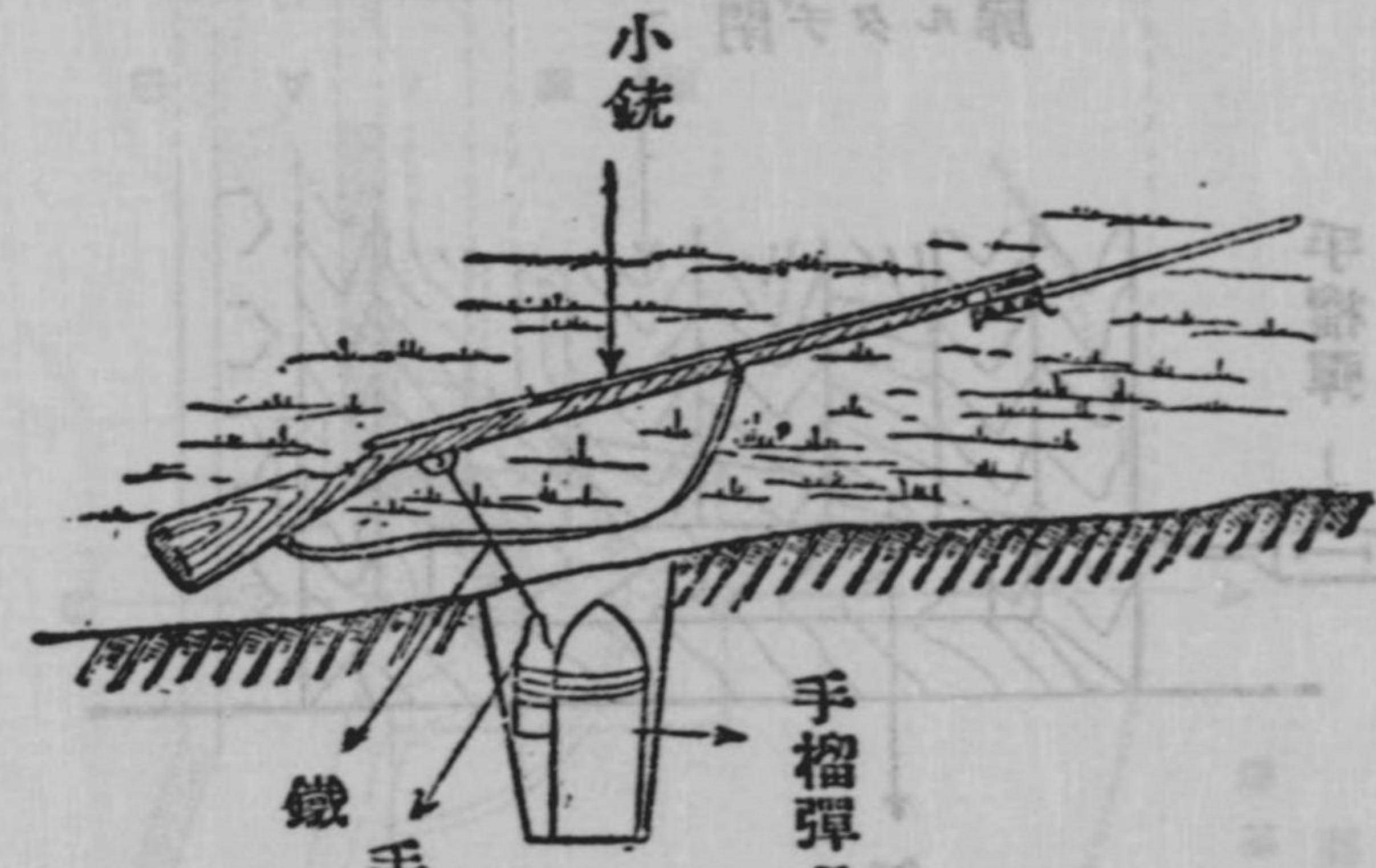
第四圖
阻絶物ト併用スル地雷



不注意ナル阻絶物除去ニ依リ鐵線、網類牽引セラレトキ爆發ス

主トシテ車馬ノ通過ヲ妨害スル如ク路面上ニ敷置セル石塊ニシテ之ヲ不注意ニ除去セントスルヤ石ニ縛著シアル鐵線、網類ヲ牽引シテ爆發ス

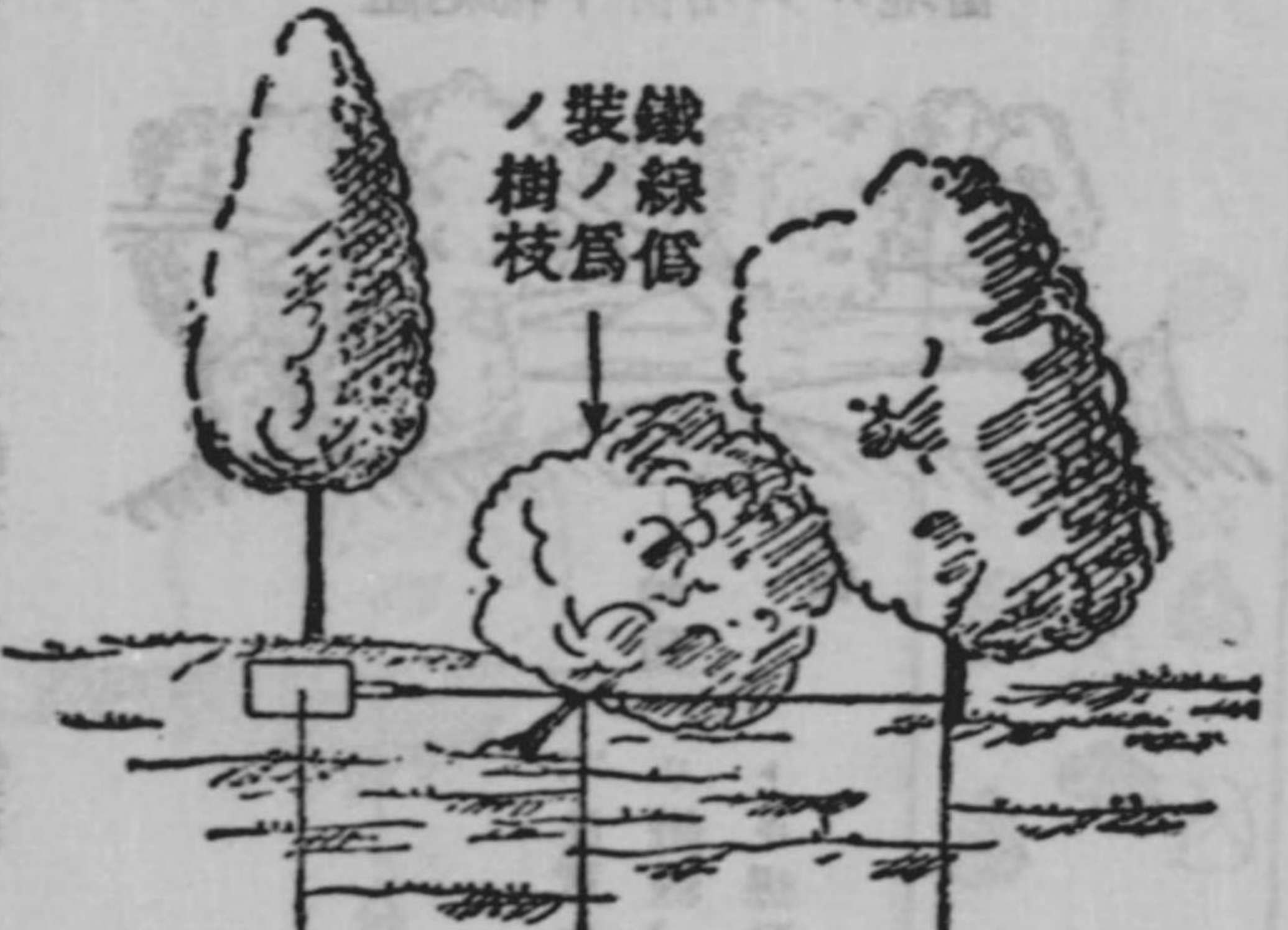
圖 六 第
雷地ルス用併ト器兵棄遺



手榴彈ヲ附セル不發彈
小銃等ヲ拾ヒ
取ル際地雷ヲ
爆發セシム

鐵線
手榴彈

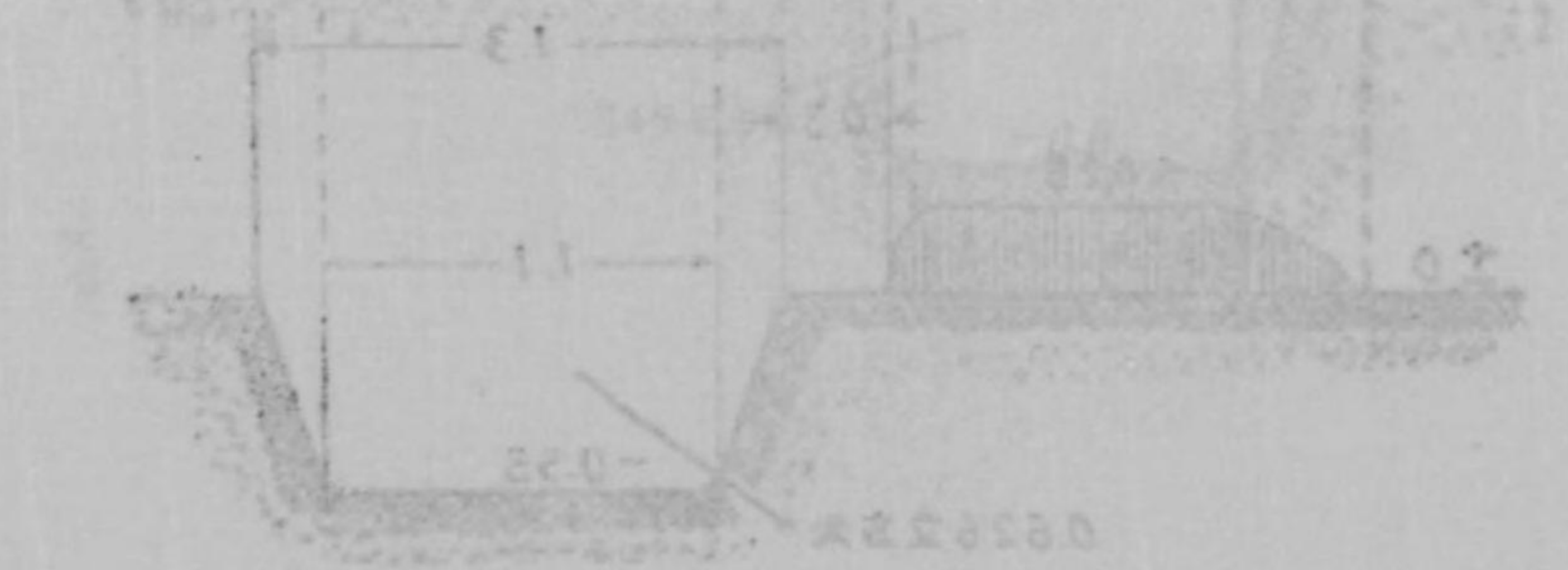
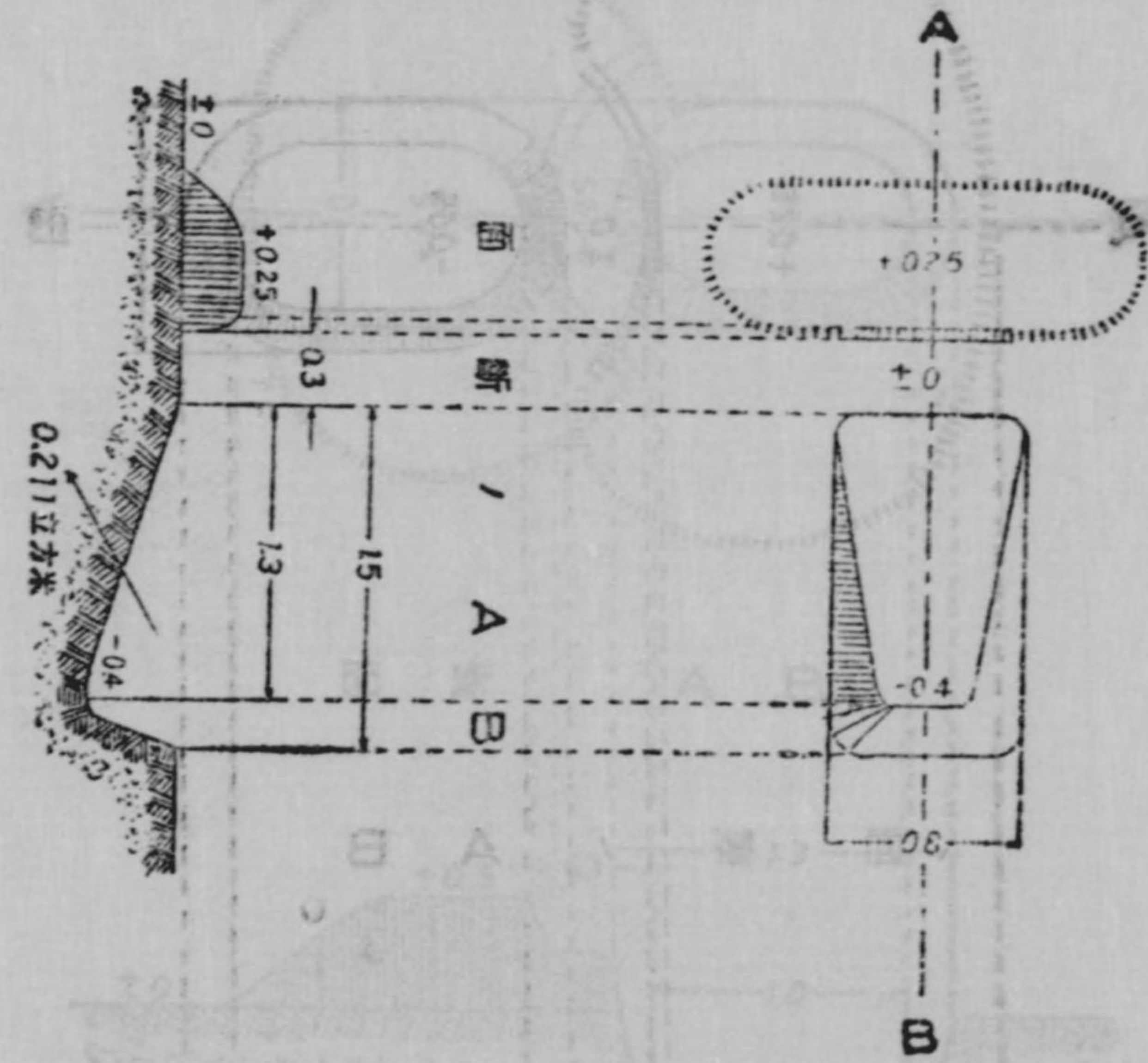
圖 五 第
雷地ルス置設ニ等内林森



草ニテ蔽ハレタル手榴彈
鐵線
灌木ニ結著シタル鐵線ノ端末

第一、第四圖ニ示ス地雷ト同一結構ノモノニシテ鐵線ノ牽引又ハ切斷ニ依リ爆發ス

圖三第
體掩銃小用射狀



圖二第
體掩銃小用射立

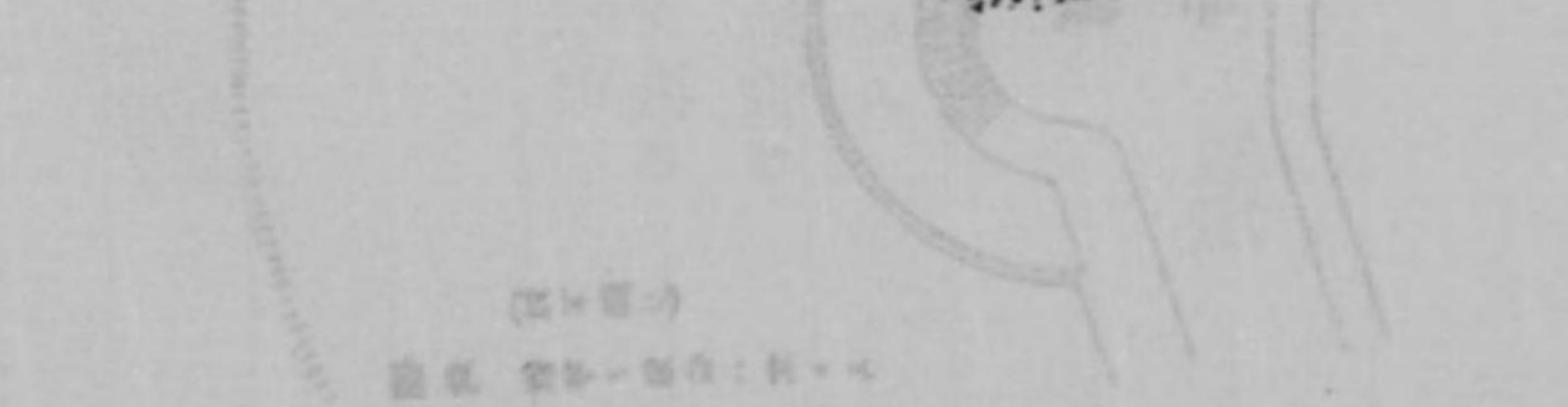
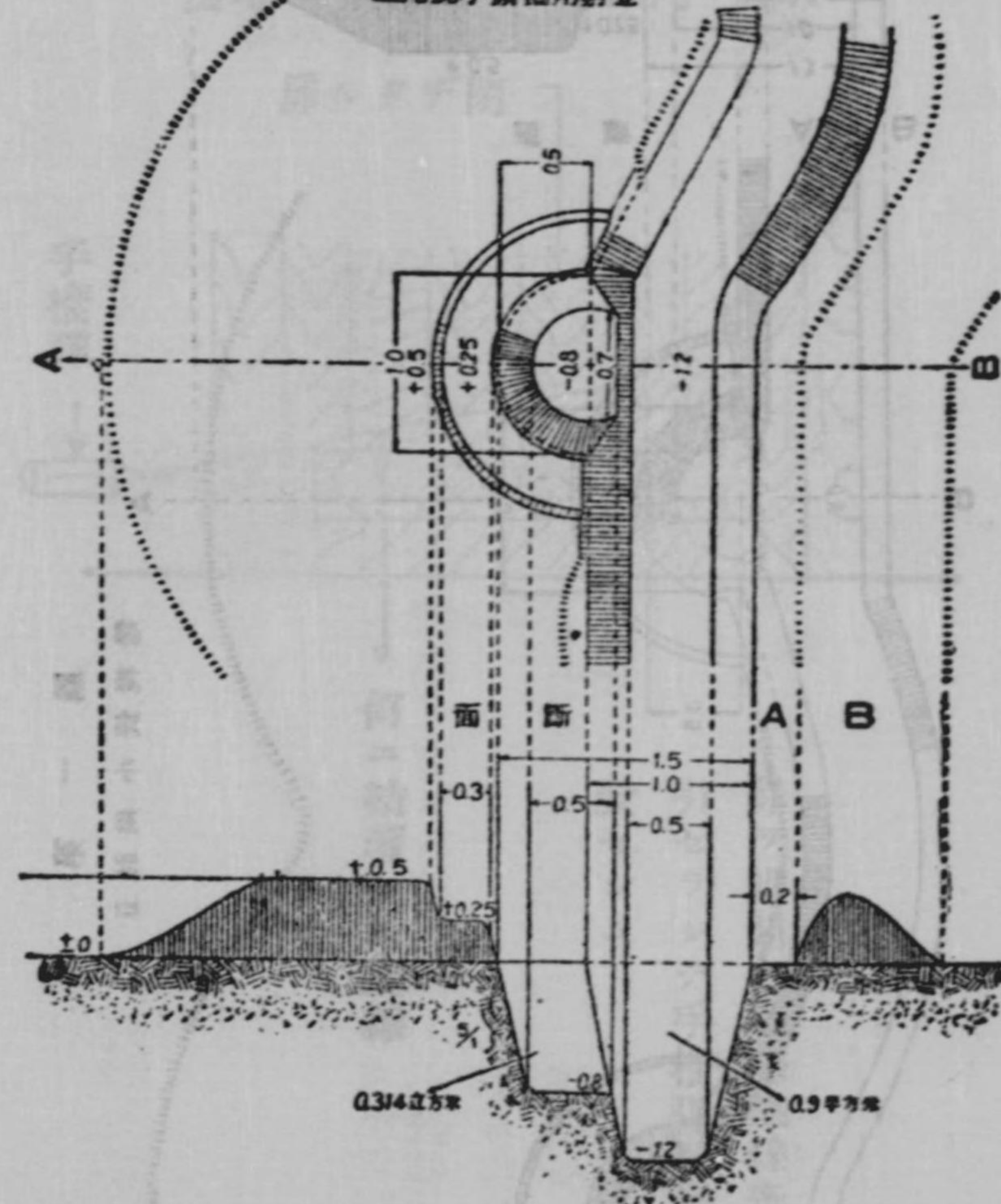


圖 五 第
體掩銃小用射立

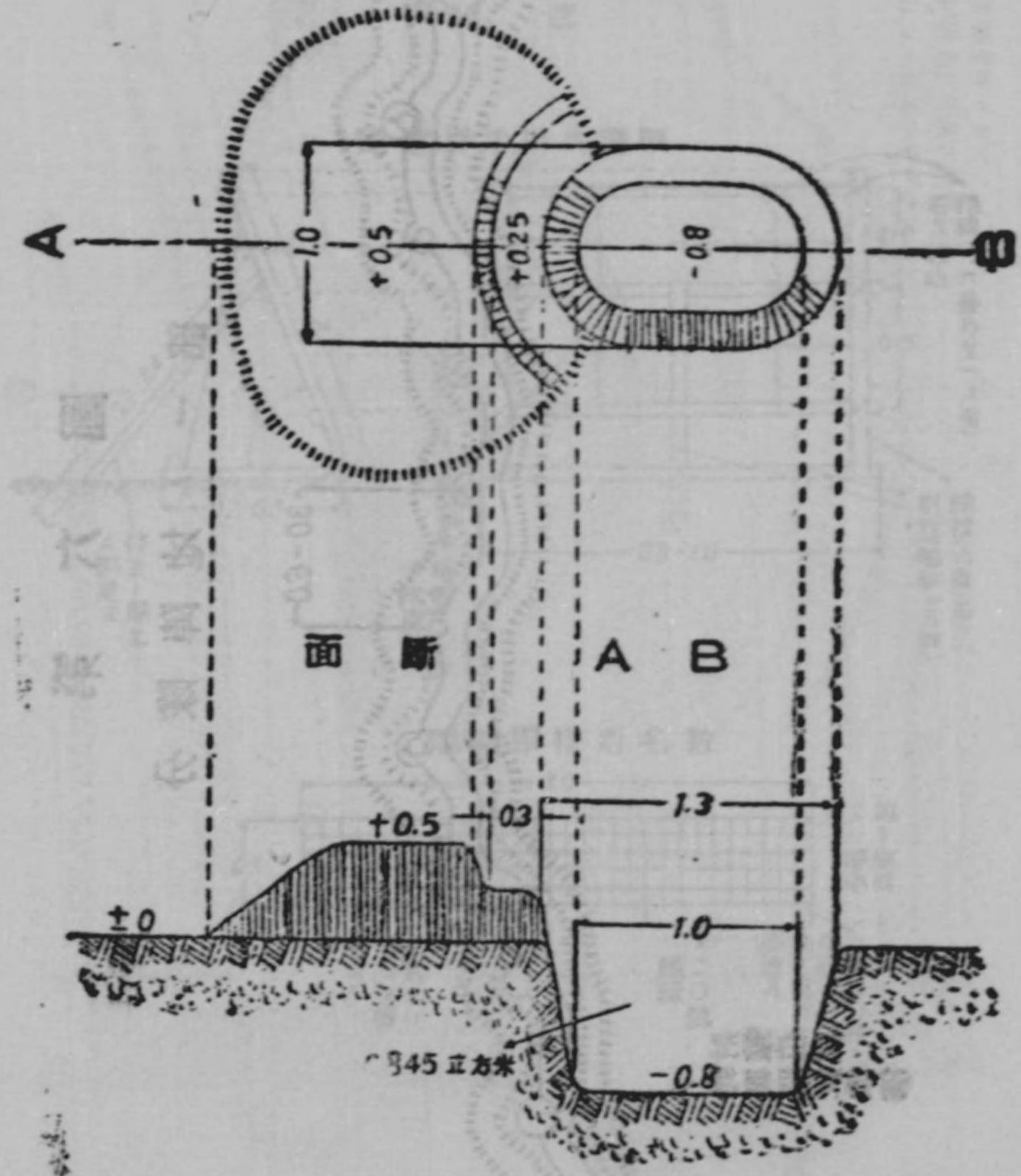
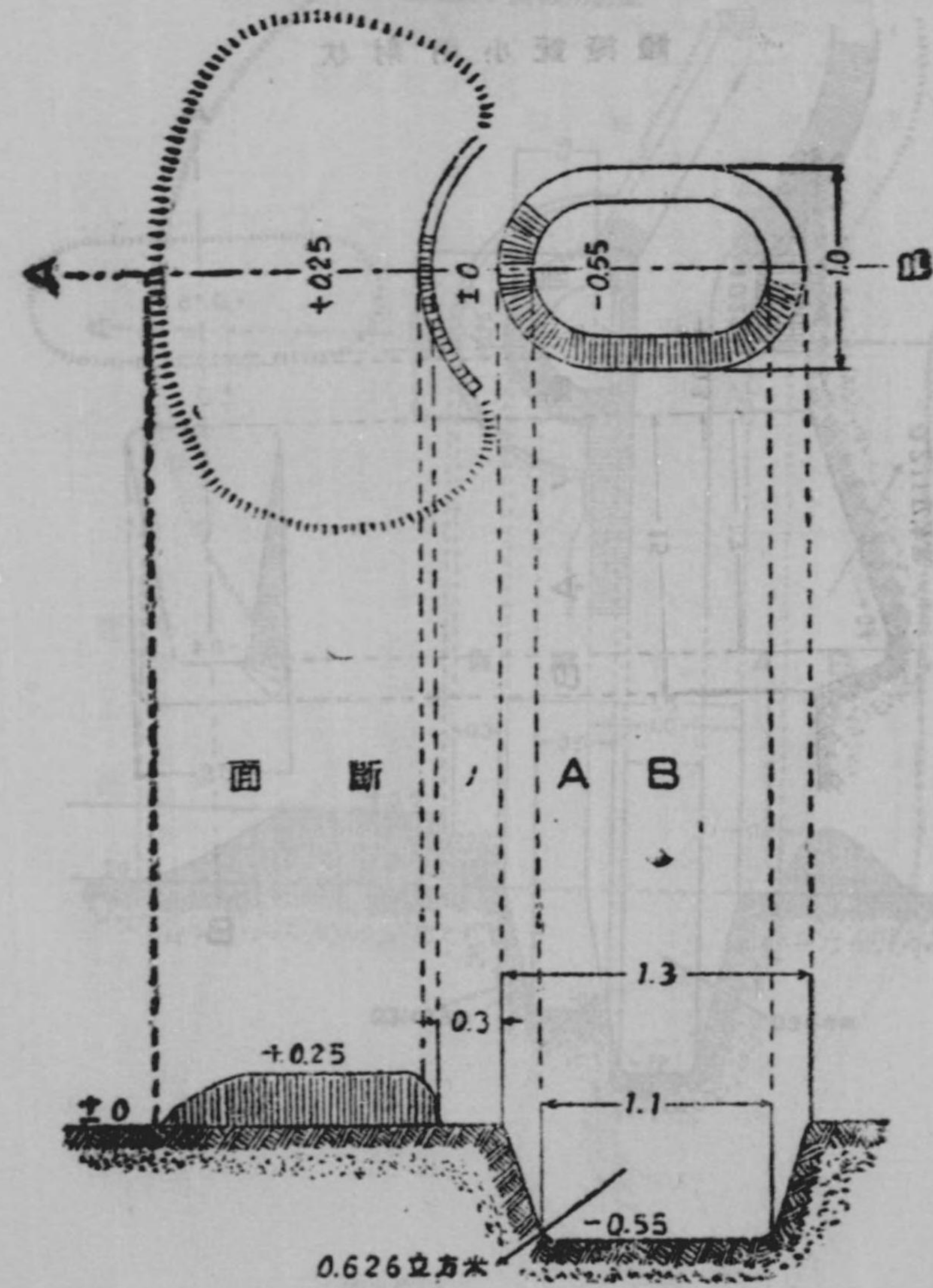
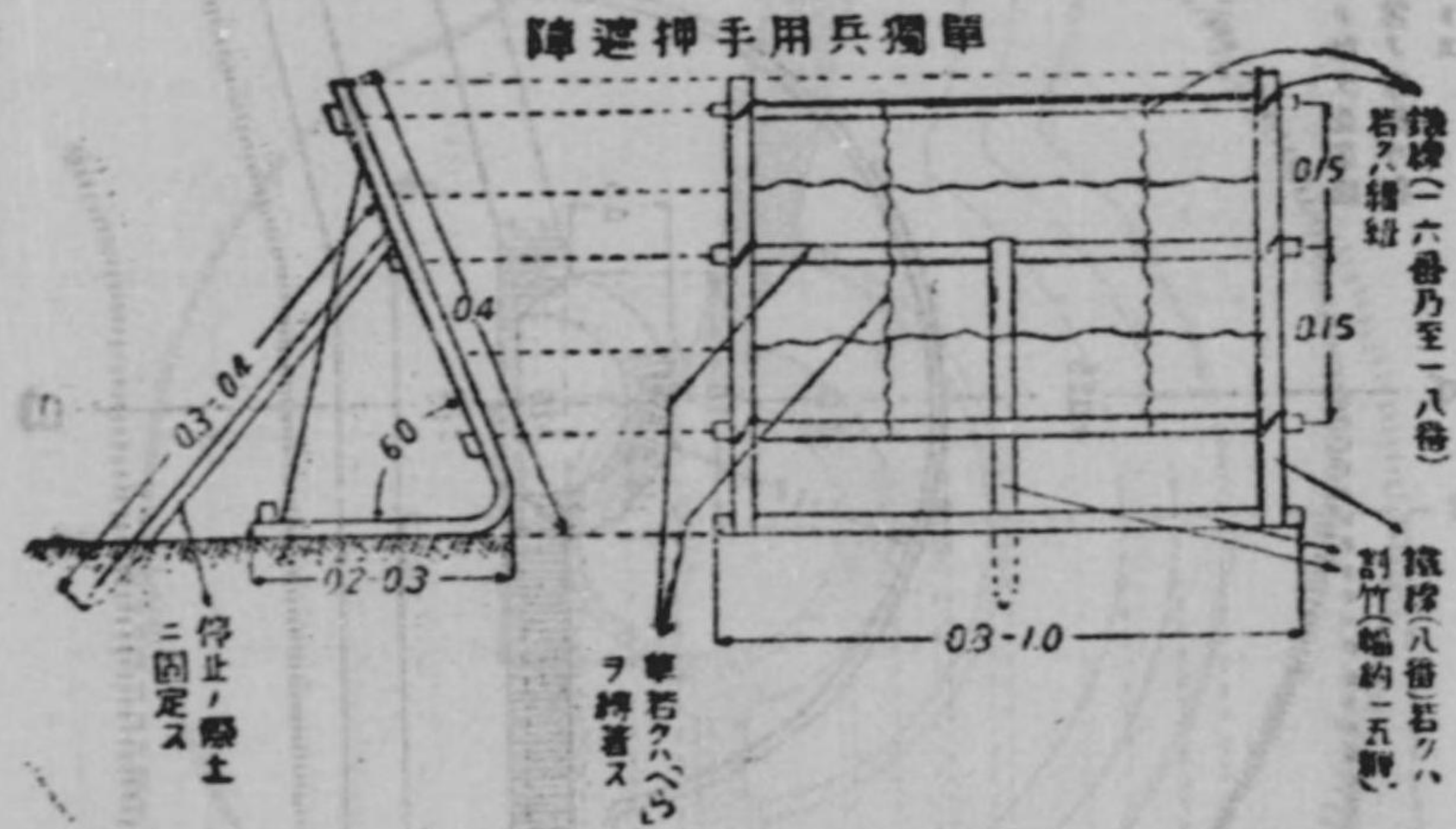


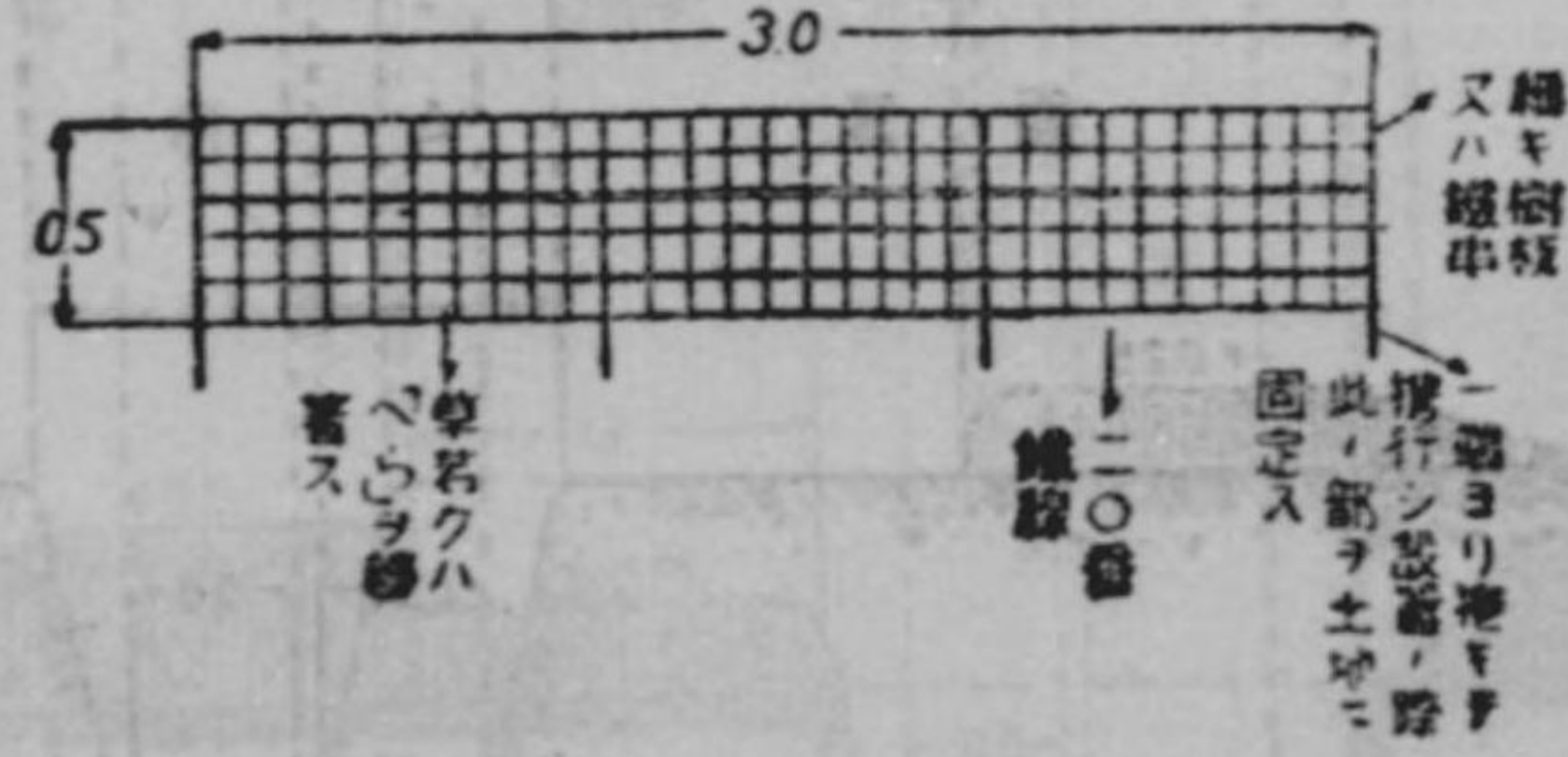
圖 四 第
體掩銃小用射膝



第八圖
第七圖
陣 遞



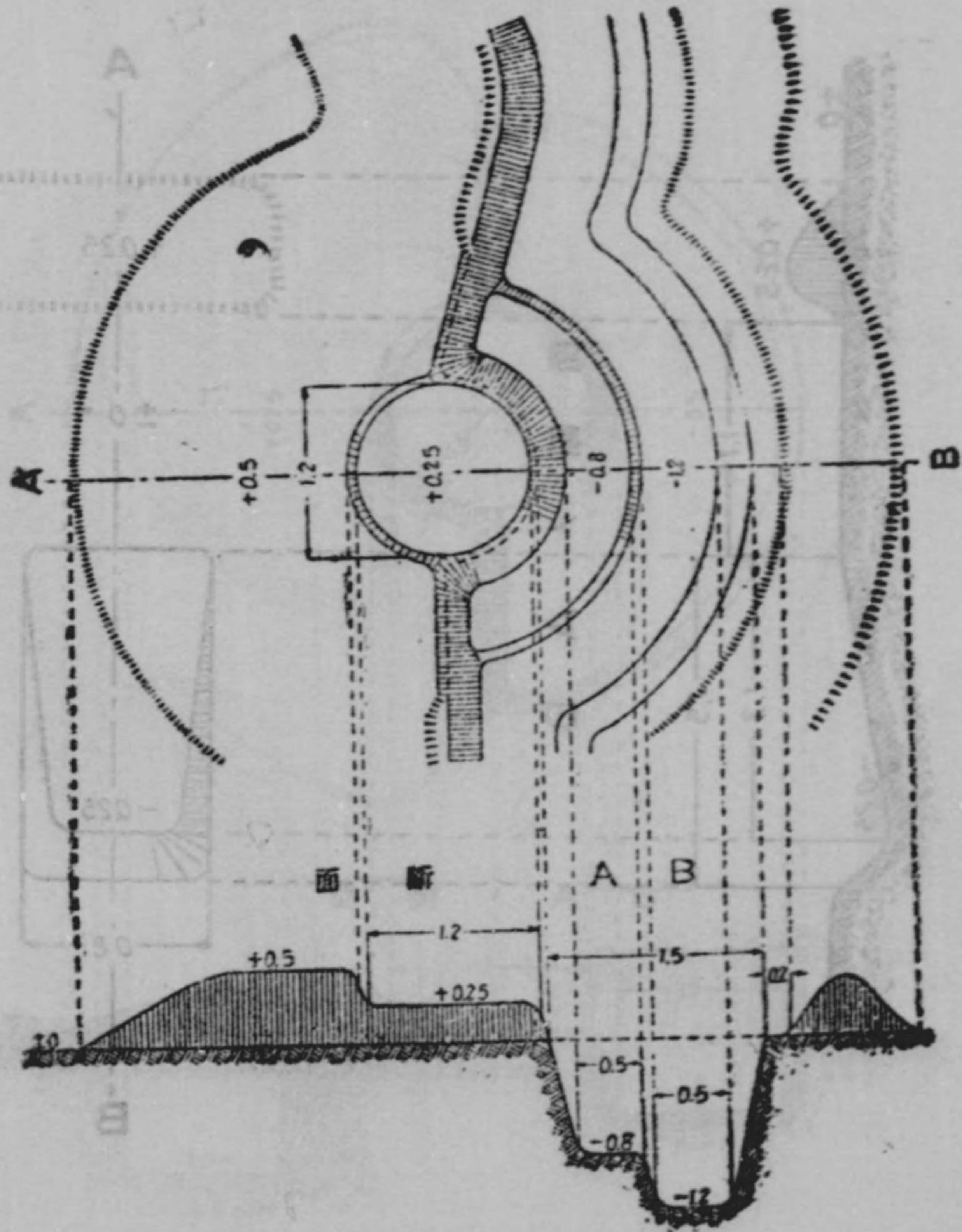
陣遞帶携用名數



第六圖
第一、地陣隊分

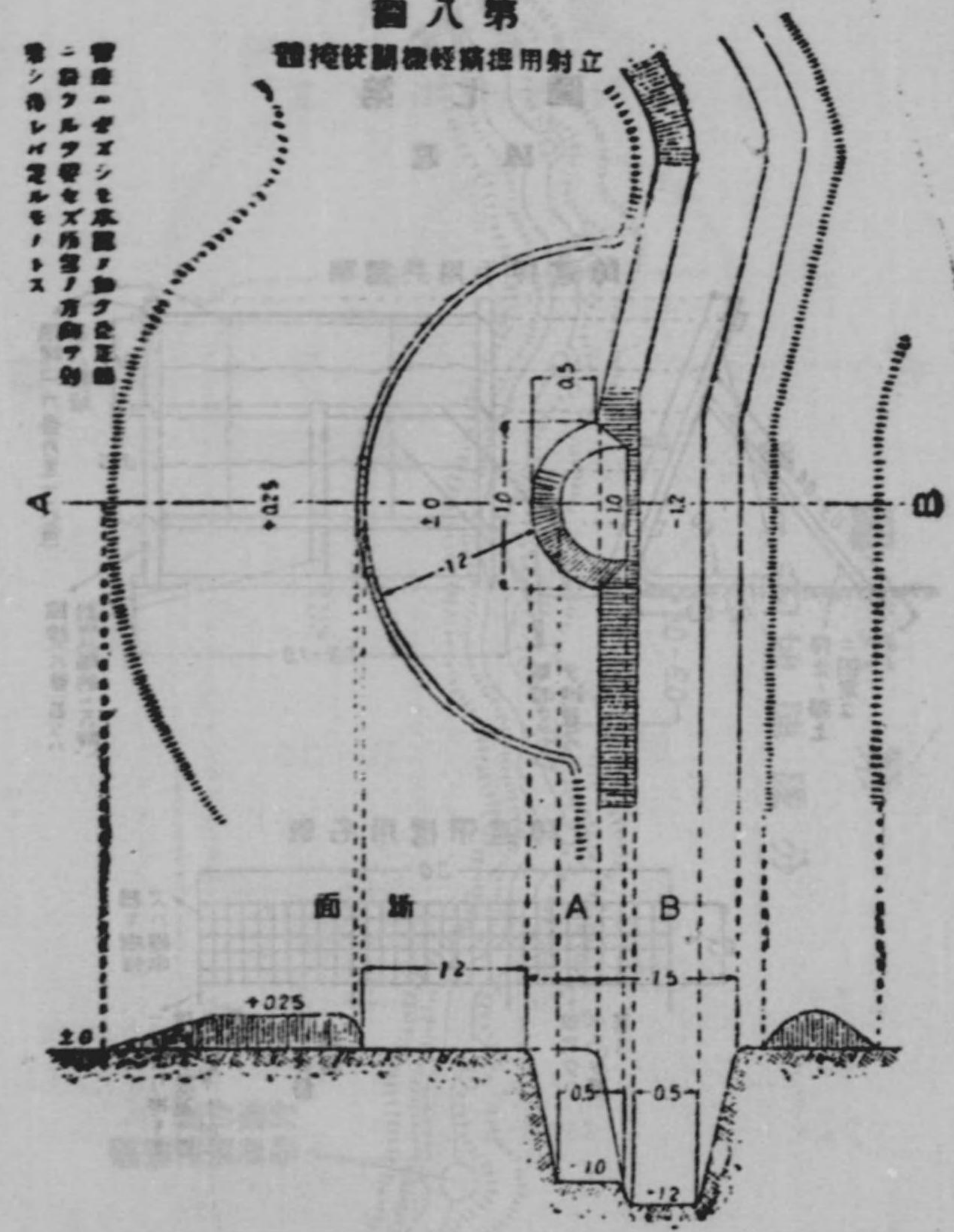


圖九第
體掩銃筒機輕機用射立

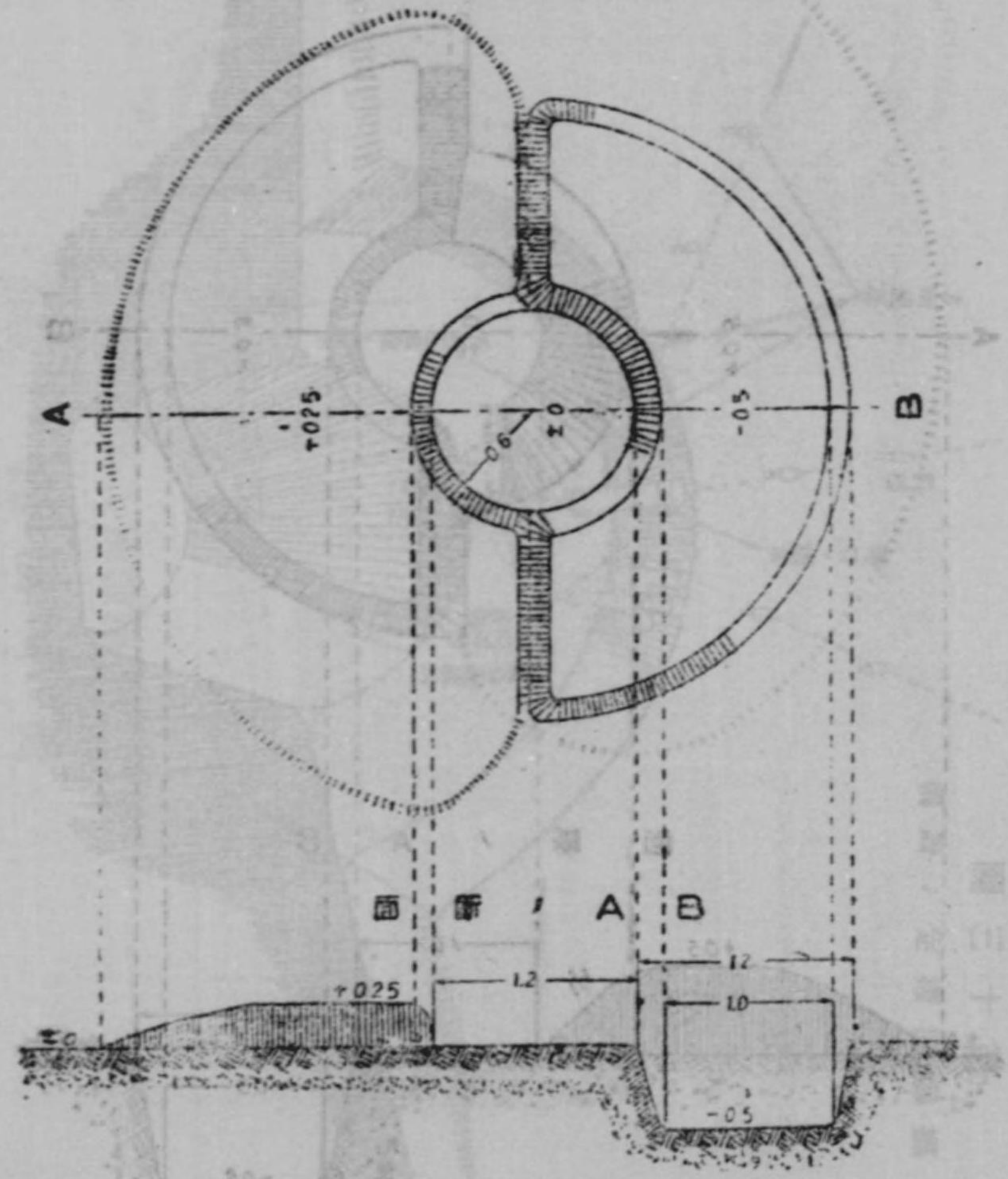


圖八第
體掩銃筒機輕機用射立

管ハゴエシキ本體ヲ加フニ正
ニシテフルツキセズ所管ノ方
管レハ定ルモノリス



第十二圖
 圖一十第
 陸掩銃關機輕用射擊



圖十第
 陸掩銃關機輕用射擊

